

有物ト認ムルコトヲ得ベキ乎、凡ソ私有物ニシテ、他人ノ抑制ヲ受クヘキノ道理ハ、決シテコレナキノ通義ナルニヨリ、我輩ハ禄券ヲ認メテ、紛レナキ華土族ノ私有物トハ看過シ能ハサリシ、是レ其ノ前日ニ於テ、叛党ノ禄券ハ、之ヲ没収スルヲ妨ケサルノ主義ヲ主張セシ所以ナリ、此ノ意見ニ於テハ、独リ我輩ノ速断タルニ非ス、叛党ノ中頃ニ帰順セシ者ヨリ其ノ家族ニ至ル迄モ、是程ノ大逆ヲ犯セシカラニハ、我カ禄券モ必定叛罪ト共ニ取上ケラル、ニ至リナン、良シナキコトヲシテケリト悔ミタルナラント思フ、豈計ランヤ、政府ハ已ニ禄券ヲ以テ、華土族カ純粹ノ私有物トセラル、ノ詮議ナリシナラントハ、

雖然、曩ニ九州臨時裁判所ニテ、福岡ノ賊久野一榮外四十六名ヲ処断セラレシヤ、五月七日ヲ以テ本県送付並ニ収録等ノ儀、可然御取計有之度旨ヲ、山口県ニ申シ入ラレタリ（第千九拾号ノ雜報ヲ見ヨ）、是ニ由テ之ヲ觀レバ、當時ニ在テハ、無論ニ旧貫ニ拠テ収録ノ処分ニ行ハレタルヲ知ルヘシ、而シテ今日、薩賊ノ漸ク將ニ平カントスルニ及ンテ、此ノ布告ヲ發セラレシヲ見テ、世人或ハ無稽ノ臆測ヲ下シ、薩賊ノ党類ハ彼カ如ク其レ多シ、

収録ヲ除族以上ノ者ニ施セハ、乱後ノ人心ヲ慰撫シ易カラサル者アルニ由リ、政府ハ遽ニ政略上ヨリ出テ、此ノ布告ヲ發セラレタルナリトスル者アランモ知ルヘカラサレトモ、斯ノ如キハ実ニ謂レナキノ妄測ニシテ、政府カ兼テ禄制ヲ廢セラレタルノ明文アルニ拠テ、禄券ノ私有物タルヲ確定セラレシハ、固ヨリ布告上ニ於テ瞭然タリ、且ツ夫レ明治十年一月以降ト明記セラレシカラハ、假令九州臨時裁判所ニ於テ、一旦収録ノ処分ヲ決行セラレシトテ、改メテ今回ノ布告ニ遵拠セラルヘキハ、言ハスシテ知ルヘキ所ナルヘシト信ス、

夫レ禄券ハ華土族ノ相違ナキ所有物タルハ、今回ノ布告ヲ以テ明カニ之ヲ確定セラレシ所ナリ、然ラハ則チ彼ノ書入質入売買等ノ制限ハ、最早之ヲ解除ヘキ乎、家禄ヲ身代限りノ処分ニ加ヘサルノ制規ハ、最早之ヲ廢セラルヘキ乎、前日ニ在テハ、禄券ヲ以テ華土族ノ明カナル私有物トハ認ムヘカラサリシカ故ニ、叛党ノ禄券ヲ没収スルヲ妨ケサルノ説ヲモ主唱シタレ、又タ其制限アルヲモ怪シマサリシナレ、今日ニ至リテ、其私有物タルニ紛レナキヲ確定セラレタルヨリハ、政府ト雖トモ、決シテ他人ノ私有物ニ抑束ヲ及ホスノ道理ナカルヘシ、且ツ夫レ

身代限りニ家祿ヲ加ヘサルノ制規ハ、我カ人民ノ宜ク遵奉スヘキ国法タルカ故ニ、債主ハ仮令何程ノ損害ヲ蒙ムルトモ、敢テ伸理ヲ法庭ニ訴フルノ門逕アルコトナシト雖トモ、華士族カ偏依ノ幸福ハ、実ニ一方ノ権利ヲ損害スルノ甚タシキヲ以テ、久シク巷街ノ間ニ其ノ苦情ヲ喋々セシ所ナリ、ソレモ華士族カ純粹ノ私有物タラサレハ、亦タ已ヲ得サル所ナキニ非サレトモ、今ヤ已ニ確乎タル私有物トナリシヨリハ、宜ク此ノ如キ偏頗アルノ理由ナルカルヘシ、我輩ハ謹ンテ政府カ後日ノ発令如何ヲ仰望シ、此ノ所見ノ無用タルカ無用タラサルカヲ、徴スル所アラント欲スルナリ、

### 五七 徵募巡查ノ解隊ニ当リテ 八月二十三日

臨時徵募巡查ノ解隊整列式ハ、昨廿二日ヲ以テ、吹上ノ禁苑ニ執行セラレ、我カ 天皇陛下ニモ、其処ニ臨幸ナリテ儀式ヲ天覽アラセ給フタリト聞ク、抑々今度ノ解隊ヲ行ハレシハ、徵募巡查ノ戦地ヨリ凱旋セシ者、並ニ新撰旅団ノ未タ戦地ニ出張セサリシ者等ニシテ、其ノ現員ハ凡ソ六千九百五十人ナリト云フ、此ノ兵員ノ今日ニ無

用ナルニ至リシハ、言フ迄モナク西南ノ賊乱漸ク鎮定期ニ際シ、復タ此ノ常備外ノ兵ヲ要セサルヨリ原由セシ者ニシテ、之ヲ如何ソ国家ノ多幸ナリト言ハサルヘケンヤ、其ノ解隊式ノ手続ノ如キハ、読者請フ、我輩カ昨日ノ雜報欄ニ登録セシ者ニ就テ之ヲ見ヨ、

抑々今回ノ戦争ヲ発シテヨリ、賊鋒ノ猶ホ未タ挫折セサリシニ当リテハ、政府カ兵員ヲ要スルニ急ナルノ甚タシキ、殆ント其ノ際涯スル所ヲ知ラサルカ如ク、首トシテ近衛六管ノ台兵ヲ驅リテ、之ヲ戦地ニ向ハシメ、又タ東京ノ巡查ヲ派遣シテ、其欠ヲ補ヒ、更ニ諸鎮台ノ後備軍ヲ集メテ、其役ニ赴カシメ、猶ホ其兵ノ足ラサルヲ以テ、(明治四年)辛未解隊ノ後備兵ヲ召シ、北海道ノ屯田兵ヲ発シ、大阪・山口諸府県ノ志願壯兵ヲ募リ、陸統トシテ戦地ニ臨マシムルコトヲ怠ラサリシト雖トモ、熊本連絡ノ後チ、賊カ薩日隅ノ士民ヲ脅迫シテ、恰モ三州一致ノ姿ヲ現シ、戦線ノ広遠ナル、出水ノ以南ヨリ起リテ佐伯ノ以北ニ至リ、延テ七十里ノ長キニ涉ラントスルニ及ンテヤ、流石ナル官軍ノ大兵モ、猶ホ其乏キヲ告ルノ憂アルヲ免カレサリシニヨリ、更ニ各種ノ方法ヲ以テ、志願ノ巡查ヲ各県ニ募ルコトハ、日モ亦タ足ラサルカ如クナルニ至レリ、此

時ニ当リテヤ、政府カ平生ノ目的ヲ問ハス、兵制ノ如何ニ拘ハラス、一途ニ兵員ヲ募集スルヲ急務トシ、援兵ニ欠乏ナカラシメンコトヲ緊要トセラレシモ、実ニ時機ノ已ヘカラサル所ナリシト雖トモ、情々我カ兵制ニ就テ之ヲ顧ミレハ、巡查ノ出兵スラ猶ホ如何アラント思ハル、者ナキニ非サリキ、何トナレハ、巡查ハ元來行政司法ノ警吏ニシテ、軍属ノ人ニ非ス、然ルヲ時勢ノ急ナルカ爲ニ、保護ノ棒ヲ擲チテ殺人ノ銃ヲ執ラシムルハ、我カ法制ニ抵触スル所ナキニ非ス、論者カ此ノ一事ヲ以テ、如何ナル影響ヲ將來ニ及ホスヘキヤヲ顧慮セシモ、敢テ謂ナキニ非サルヘシ、殊ニ彼ノ志願壯兵・徵募巡查ニ至リテハ、士族ヲノミ召集スルノ趣意ニハ非サリシカトモ、實際ニ於テハ、士族ノ徵募ニ応スル者最モ多ク、中ニハ其ノ旧藩士カ故国ニ就テ、説諭ヲ加フルノ關係ヨリ生スル者ナキニモ非サリシカ故ニ、識者ハ何レモ眉ヲ蹙メテ、將來ノ國勢ニ憂念ヲ放ツコト能ハサリシ也、況シテ當時ニ在リテハ、戡定ノ功モ未タ眼前ニ予定シ雖ク、志願兵ノ召集ハ、幾何ノ多キニ至ルモ測ラレサルノ景況ナリシヲ以テ、我輩モ亦タ切ニ將來ノ余響ヲ憂ヘサルヲ得ス、篇ヲ累ネテ専ラ此点ニ論及セシハ、論者モ或ハ記憶セラ

ル、所アルヘシ、  
 辛イニ官軍ノ將帥ハ其ノ軍略ヲ誤マラス、先ツ人吉ヲ陥レ、繼テ出水・大口ノ兩道ヨリ進ミ、間モナク鹿児島ノ官軍ト連絡ヲ通セシヲ以テ、戰勢ハ俄然トシテ一変シ、漸ク多兵ヲ要スルニ至ラサリシカ故ニ、新撰旅団ノ召集ハ復タ斯ニ中止セラレ、其ノ戦地ニ臨ミタル者モ、僅ニ一大隊ヨリ多カラサルカ如シ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、彼ノ全ク兵制外ノ兵員ニシテ、戦地ニ臨ミタル者ハ、巡查即チ警視隊ヲ除クノ外、大阪・山口等ノ志願壯兵ト一大隊ノ新撰旅団トニ過キササルカ如クナレハ、解隊ノ処分ヲ施スニ就テモ、亦タ頗ル手ヲ下スニ易キ者アリト言ハサルヲ得ス、想フニ、賊乱全ク平定ニ歸スルノ後チハ、其勞ヲ慰シ其功ニ酬ユルコト、各々其當ヲ誤マラス、一般ニ解隊ノ処分ヲ施コサルハ、則チ之ヲ昨日ニ解隊セラレタル者ト同一ナルヘシ、而シテ保護ノ巡查ヲ驅リテ、一時ナリトモ軍陣ニ使用セラレシハ、固ヨリ己ヲ得サルニ出シコトトハ言イ乍ラ、其ノ兵制ニ協ハサルノ所為タルヲ免カレサルハ、実ニ論者ノ喋々セシカ如キ者ナキニ非サルニ似タリト雖トモ、政府カ務メテ、其ノ余響ヲ戰後ニ負ハシメサランコトニ注意セラルハ、蓋シ隱然ト

シテ想像スヘキ者アルカ如シ、

前ニ陳スルカ如キヲ以テ、賊乱已ニ平ラクノ後チ、敢テ甚タシキ禍毒ヲ始スニハ至ラサルヘシト雖トモ、今度ノ戦争ニ就テ經驗スル所ニ抛レハ、我国ノ兵制ハ、今日ノ姿ニテ完全無欠ナリトナスコトヲ得ヘキ乎、抑々更ニ感覺シ得ル所ノ実証アリト言フヘキ乎、若シ此ノ兵制ヲ以テ完全無欠ナリトセハ、復々論議ヲ下スヲ要セサレトモ、更ニ感覺ヲ与フル所ナキニ非ストセハ、之ヲ如何シテ我邦ノ現時ニ適當ナル兵制ト言フヘキ乎、我輩ハ今徵募巡查ノ解隊ヲ見ルニ臨ンテ、此ノ論点ニ回首スルハ、蓋シ無用ノ問題ニ非サルヘシト信スル也、

#### 五八 戦後財政論ノ提起 八月二十五日

叛党已ニ敗レテ西海浪將ニ平フカナラントス、僅カニ首謀巨魁ノ徒、面縛輿櫬シテ降ルヲ欲セス、亦タ潔ク自刃シテ死ニ就クヲ好マス、天網ヲ脱シテ深山幽谷ノ間ニ出沒シ、数日ノ生命ヲ惜ムト雖トモ、総兵一万余業已ニ降ヲ官兵ノ軍門ニ乞フ、復々何事ヲカ為スヲ得ン、勢ヒ已ニ此ノ如キニ至ル、旭日ノ旌旗ハ翻翻トシテ昇平ノ風ニ

靡キ、凱旋ノ祝声ハ響応シテ都門ヲ庄スルノ日ハ、応ニ数日ノ内ニ出テサルベシ、若シコノ叛党ヲシテ久シク勢力ヲ有セシメバ、軍實漸ク増加シ、国库益々空虚ニ赴キ、全国終ニ疲弊ノ極点ニ陥リ、三千余万ノ人民ハ永ク倒懸ノ苦域ヲ脱スル能ハズ、国家ノ盛衰モ亦タ如何ナル交換ヲ生ズベキカヲ予知スルコトヲ得ベカラザリキ、而シテ今日ニ至リ、凱旋奏歌ノ將ニ近キニアラントスルヲ見レバ、若ゾ欣扑雀躍スルヲ得ザランヤ、

吾輩ハコノ盛時ニ逢ヒ將ニ祝声ヲ発セントスルニ当テ、心中窃カニ憂慮スル所ナキニ非ス、已ニ其ノ憂慮スル所アルヤ何ゾ、之ヲ言ハザルニ忍ヒン、且ツ夫レ祝声ハ一般世人ノ情ニ感シテ発スル所ナレハ、敢テ之ニ附和スルヲ要セス、欣喜ノ声ヲ後ニシテ憂慮ノ念ヲ先ニシ、言ハント欲スル所ヲ言ヒ、聞カント欲スル所ヲ聞クハ、蓋シ吾輩論者ノ職分ナルヘシト信スルヲ以テ、今將ニ之ヲ問ハントス、曰ク官軍凱旋ノ後、政府ハ戦後ノ會計ヲ如何シテ回復スルヲ得ベキ乎、政府ハ凱旋ヲ得意トシテ更ニ專政ノ治術ヲ施スベキ乎、將タ方向ヲ一転シテ断然議院ノ設立ニ着手セラレン乎、之ヲ言換レバ、凱歌ノ声ハ、人民ノ權利自由ヲ進縮スル岐路ノ訣語トモ言フヘケレ、

斯ノ如キヲ以テ、若シ其ノ方向ヲ開進ノ途ニ決セバ、此ノ凱歌コソ、実ニ万世無比ノ祝声ト言フヘケレトモ、或ハ之ヲ專政ノ途ニ決セバ、後世コノ凱声ヲ評シテ何トカ言ハン、今夫レ一刀兩斷シテ何レニモ偏倚セザルコトハ、是レ決シテ望ムベカラザル者ニシテ、若シ之ヲ望マバ、恰モ中天ニ投射セシ彈丸ノ空ニ懸ルヲ望ムガ如シ、誰カ亦タ其愚ヲ笑ハサラン、

雖然、明治政府ハ是レ開進ノ政府ナリ、西南ノ賊乱已ニ賊定ニ帰スルモ、凱歌ノ声ヲ以テ、豈ニ人民カ自由ノ声ヲ庄スルアラシヤ、吾輩ハ政府ヲ信ズルニ厚キヲ以テ、コノ畏懼ハ之ヲ斯ニ放擲シ、更ニ觀察ヲ理財ノ点ニ止メテ、仮令其ノ藹奥ヲ尽ス能ハザルモ、略々政府ガ如何ナル都合ヲ以テ、西南征討ノ軍費數千万円ヲ調度シ置キ、又タ如何ナル手段ヲ以テ、之ヲ他日ニ恢復セラレントスルヤニ注目スル所アラントス、若シコノ緊要ナル問題マデモ放擲シ去ツテ、連リニ征討ノ勝利ヲ祝シ、濫リニ政府ヲ賞譽スルニ急ナレハ、自ラ彼ノ凱歌ノ声ニ庄セラレテ、其ノ祝声ヲ助ケ、マタ他人ヲモ庄倒セントスルニ近シト言ハサルヲ得ス、此ノ如キハ実ニ誤マルノ甚ダシキ者ト云フヘシ、

世人ガ西南征討ノ費金ニ由テ、国库ノ空乏セシヲ慨嘆シ、又タ其ノ支度ノ如何ヲ喋々スルヤ、或ハ謂フ、何某ハ海外何國ニ在テ、外債何千万円ヲ募リシト、或ハ謂フ、紙幣幾千万円ヲ増製シテ、之ヲ通用セシメントスト、又ハ内債ヲ起スノ方法ヲ云々セリ、某ノ金円ハ已ニ空尽セリ杯ト、市街ノ間至ル所トシテ、種々ノ應刺ヲ逞フセザルナシ、人民カ政府ノ財政ヲ憂フルハ、畢竟愛國ノ至情ニ出ル者ナレバ、獨リ其ノ憂慮ヲ抹却スルヲ欲セサルノミナラス、吾輩モ亦タ其ノ憂慮ヲ抱ヒテ解了スル能ハザルヲ以テ、數月以前ニ在テ、已ニ之ヲ論弁スルコトヲ怠ラザリキ、然ルニ當時ニ於テハ、未タ其ノ凱旋ノ日ヲ期スベカラザリシカ故ニ、之ヲ論ズルモ、尚ホ其ノ収局スル所ヲ知ラサリシト雖トモ、当今ニ至テハ、業已ニ其ノ大局ヲ概算スルヲ得ベキ者アルニ由リ、今日ヲ以テ更ニ之ヲ論起シ、逐次其局ヲ了スルハ、実ニ至當ノ期ニ際セシト言フベシ、而シテ道路ノ風評ハ、未タ以テ信ヲ置クニ足ラサレトモ、其ノ取ルベキハ之ヲ取り、以テ推考ノ一部ニ供スルモ、何ノ不可ナル所カ之レアラン、若シ其ノ確實ナル精算ヲ得ントセハ、政府ノ公布ヲ待ツノ外ナシト雖トモ、政府モ亦タ遽カニ之ヲ表出スルニ至ラサルヘ

シ、故ニ仮令臆測ニ渉ル者アルヲ免カレサルモ、財政論ノ今日ニ急ナルヤ、恰モ夏葛冬裘ノ如キ者アルヲ以テ、吾輩ハ爰ニ戦後財政如何ノ動議ヲ起シテ、諸君ニ問フヤ此ノ如シ、諸君ハ果シテ吾輩ノ動議ニ応ズルニ意ナキ乎、

## 五九 高知県士族ノ動靜 八月二十八日

昨日ノ雜報ニ記載セシカ如ク、高知県立志社ノ領袖トモ称スヘキ片岡・谷・池田・岩崎・廣田・野崎・小笠原・前野・山田・水野・池添等ノ十一名ハ、去ル二十三日ヲ以テ、一同ニ東京ニ護送セラレタリ、抑々高知県ノ士族カ、隱然トシテ政府ニ乖離スルカ如キノ状況ヲ生セシハ、固ヨリ一朝一夕ノコトニ非ス、現ニ鹿児島ノ変乱ヲ発スルニ際シテ、高知県ノ挙動ハ世人ノ為ニ第二ノ注目スル所トナリ、護郷兵ノ團結ト言ヒ、建白書ノ上奏ト言ヒ、何レモ穩当ナル仕方トハ見做サレサリシ、此ノ如キノ勢アルニ臨テ、共行社ノ社員タル村松・藤ノ兩名ハ、薩賊ニ使スルノ蹤跡分明ナルヲ以テ、首トシテ西京ニ拘引セラレ、幾許モナク、片岡・岩崎ノ諸氏ニ至ル迄不審ノ拘留ヲ受ケテ、法庭<sup>(6)</sup>ノ糾問ヲ煩ハシ、近来ニ至リテ林勇造

氏モ亦タ、東京ニ於テ裁判所ニ拘引セラル、ノ事アリ、殊ニ近日ニ於テハ、更ニ護郷兵ノ團結論ヲ、該県下ニ再燃セシ等ノ風説ヲ巷街ニ傳ミスルノ時ニ際シテ、斯ク土佐ノ有名ナル人々カ、一時ニ東京ニ護送セラレタルヲ見レハ、世人カ尙ラ降ヲ疑シテ、是等ノ諸氏ノ、如何ナル因由ヲ以テ拘留セラレタルヤヲ知ラント欲シ、又土佐ハ如何ナル挙動ニ目的ヲ決スヘキヤヲ問ハント欲スルモ、実ニ情勢ノ然ラシムル所ナリト謂フヘシ、

世人カ此ノ如ク、上佐ニ注目スルコトヲ怠ラサルヲ見ルヤ、我輩記者ハ固ヨリ、其ノ聞ク所ヲ筆シ其ノ知ル所ヲ述ヘ、以テ世人ノ耳目タルヲ誤ラサラント欲セサルニ非サレトモ、林氏ヲ始メトシ片岡以下十一名ノ人々カ、政府ニ拘引セラレタルハ、事件ノ未発前ニ係ルヲ以テ、其ノ因由ニ於テハ、極メテ之ヲ探知スルニ難キ者アリト言ハサルヲ得ス、唯其レ是等諸氏ノ拘引ニ就キシ基源ハ、昨日ノ紙上ニモ記載セシカ如ク、村松・藤ノ申し立テヨリ発露セシ罪犯ノ連累ニハ相違ナカルヘシト雖トモ、抑々政府カ之ヲ拘引セラレシハ、現在土佐ニ於テ容易ナラサル事變ヲ企ツルノ証跡、已ニ明瞭ナル者アルニ由ルカ、或ハ未タ禍機ノ眼前ニ迫リタルニ非サルモ、到底危ブム

ベキノ勢アルニヨリ、予メ其ノ主宰タル人々ヲ拘引シ、以テ其ノ羽翼ヲ殺ガントスルノ政策ニ出テタルカ、又ハ今日ニ於テハ左ノミ憂フヘキノ状アルニ非サルモ、前日ノ隱謀ハ決シテ之ヲ不問ニ附スヘカラサルノ証跡アルヲ以テ、其罪ヲ治メントスルニ起リタルカ、是等ノ因由ハ我輩モ亦タ未タ之ヲ明カニシ能ハス、切ニ世人ト共ニ其ノ実因ヲ知ラント欲スル所ナリ、

顧ミテ土佐ノ本国ヲ望ムニ、該地ノ諸社ハ如何ナル目的ヲ今日ニ有スヘキカ、高知ノ近傍ニ在ル普通新聞ノ如キハ、土佐國幡多郡中村辺ノ頑固連カ此節何カ騒キ出シタリト記シ、又夕府下ニ於テモ一昨日頃ヨリ高知県ノ事ニ関スル電報ハ、往々ニ政府ニ達スルカ如シ扨ト伝道シ、又夕近日府下各方面ヨリ、巡查三百名ヲ警察ノ為メ該地ヘ差向ケラル、等ノ事アルヲ以テ、輿人ヲ挙テ其ノ動靜如何ニ注目スルハ、蓋シ勢ヒノ然ラシムル所ナリト雖トモ、高知県人ノ府下ニ在ル者ハ、県地ノ土族ヲ目シテ、究竟憤惋ヲ兵力ニ訴フルカ如キノ挙動アルニハ至ラサルヘシト想像スル者多キニ居ルカ如シ、実ニ此ノ想像ノ如ク、高知ニ在テハ、初メニ戦争ニ取リテ第一ノ資用ナル兵器彈藥ヲ政府ニ交附シ、又夕其ノ起ルヘキノ時機ニ起

ラサリシヲ見レハ、其ノ以テ憤惋ヲ兵力ニ訴フルコトナカルヘシトスルモ、自ラ其因ナキニ非サルカ如クナレトモ、我輩ハ更ニ一步ヲ進メテ、高知土族カ決シテ謂レナキ暴挙ヲ、今日ニ発動セサランコトヲ望マサルヲ得ス、何トナレハ若シ万一ニモ暴挙ニ破烈スルニ至レハ、其ノ國家ノ不幸タルハ固ヨリ論ナク、併セテ高知土族ニシテ、夏虫ノ火ニ入ルカ如キノ嘲リヲ受ルニ至ランコトヲ痛惜スレハ也、

雖然、土佐ノ獄ニシテ、愈々連累ヲ重ヌルノ多キニ至レハ、其ノ逼迫ノ極、如何ナル目的ニ出ンモ知ルヘカラスト雖トモ、土佐ノ人士モ能ク省視セヨ、殷鑑ノ遠キ猶ホ宜ク警戒ヲ託スヘキ所ニシテ、識者ハ敢テ之ヲ胸懷ニ放タサルニ非スヤ、況ンヤ鹿児島ノ覆轍ノ如キハ、実ニ土佐ノ為ニ眼前ノ警戒ト言ハサルヲ得ス、見ヨ、土ト薩ト兵力ヲ比較セハ、何レカ強大ナルヘキ乎、其ノ兵器彈藥ヲ對視セハ、何レカ果シテ多カルヘキ乎、高知人士モ亦タ其ノ薩ニ如カサルヲ知ルヘシ、此ノ二者ニシテ薩ニ如カサルモ亦タ、他ニ特ムヘキ者アリトセン乎、其ノ果シテ特ムニ足ル者ナキヲ知ルヘシ、此ノ如ク土佐ニ勝レルコト數等ナル薩賊ニシテ、猶ホ將ニ戡定ニ帰セントスル

ニ至リシヨリハ、高知ニシテ仮令爲ス所アラントスルモ、  
実ニ蟻螂ノ斧ニ向フニ異ナラサルヲ知ルヘシ、故ニ高知  
ノ人士ヲシテ、能クノ愚物タラシメサルヨリハ、決シテ  
笑フヘキノ挙動ヲナスニ及ハサルヘシト雖トモ、亦タ之  
ヲ速断ニ了スヘキニ非ス、我輩ハ猶ホ且ツ與人ト共ニ、  
政府カ土佐ノ獄ヲ所スルノ如何ト、高知ノ士族カ如何ナ  
ル目的ヲ今日ニ決スルカニ、望ム所アラント欲スル也、

## 六〇 兵制論 八月三十一日

西南ノ賊餒正ニ盛ンナルニ当リテヤ、政府ハ常備兵員ノ  
足ラサルカ爲ニ、先ツ東京ノ巡查ヲ驅リテ戦地ニ派遣シ、  
又タ臨時ノ巡查及ヒ壯兵ヲ招募シ、繼テ内務陸軍ニ両属  
シテ、一種特異ノ生質ヲ負ヘル新撰旅団ヲ編成シ、以テ  
其ノ不足ヲ補フノ挙アルニ至レリ、斯ノ如キハ実ニ時機  
ノ已ヲ得サルニ起リシコトトハ言イ乍ラ、我カ兵制ニ矛  
楯スル所ナシトモ称シ難キ者アルニ由リ、論者ハ眉ヲ蹙  
メテ之ヲ喋々シ、一旦此挙アリシカ爲ニ、後來ノ兵制ハ  
如何ナル変換ヲ生スヘキヤヲ注思セサルニモ非サリシト  
雖トモ、賊勢漸ク衰ヘテ、復タ多兵ヲ要セサルニ及ンテ

ヤ、政府ハ首トシテ警視隊ヲ戦地ヨリ繰リ上ケ、又タ府  
下ニ在ル新撰旅団ヲモ解隊セラレタリ、是ニ由テ之ヲ觀  
レハ、政府カ此挙ニ及ヒシハ固ヨリ、一時已ヲ得サルノ  
權宜ニ出テシ者ニシテ、其ノ平和ヲ回復スルノ日ハ、依  
然トシテ固有ノ兵制ヲ確守セラルヘキハ、言ハスシテ知  
ルヘキカ如クナリト雖トモ、今回ノ戦争ニ実試スル所ニ  
抛レハ、更ニ我邦ノ現時ニ適當ナル兵制ヲ發明シ得タル  
者アルヘキカ、將タ又タ旧来ノ兵制ニ於テ一モ遺憾アル  
所ナカルヘキカノ問題ハ、與人カ戦後ニ着目スル所ノ一  
部タルカ故ニ、之ヲ今日ニ論弁シ、以テ輿論ノ如何ヲト  
スルモ敢テ無益ノ業ニ非サルヘシ、

凡ソ兵名ヲ平素ニ負フ者ヲ挙レハ、常備兵・護国兵ノ二  
種ニシテ、憲兵モ亦タ其ノ一部ニ居ル者ナリ、而シテ我  
邦ノ如キハ、特ニ常備兵ノ設ケアルノミニシテ、護国兵  
ト憲兵ノ如キハ、未タ其ノ設置ニ係ラサル所タリ、然ル  
ニ今回ノ戦争ヲ発スルニ及ヒ、賊餒ノ極メテ盛ンナル、  
前ニ江藤ヲ討滅シ、後ニ前原等ヲ戡定セシカ如キノ容易  
ナルニ非サルヲ以テ、平素ニ在テハ、内乱ヲ撲滅スルニ  
難カラスト信認セシ、近衛・六管ノ兵力ヲ尽スモ、猶ホ  
兵員ニ乏シキノ患アルヲ免カレス、遂ニ巡查ヲ發シ壯兵



ヲ募ルノ挙行アルニ至リシヲ見レハ、我カ兵制ノ未タ完全タラサル者ナキニ非サリシヲ知ルヘシ、前者ノ欠失ハ後者ノ宜ク鑑スヘキ所ナリ、已ニ実際ニ経験シテ、其ノ完全タラサル者アルヲ悟ルヤ、寧ロ兵制改革ノ議ヲ一決シテ、護国兵或ハ憲兵ヲ兼用スルノ挙行アルニ如カストハ、是レ論者カ往々今日ニ唱道スル所ナリ、憲兵ノ事ハ暫ラク差置キ、護国兵ハ常備兵程ノ入費ヲ要セサルコトナレハ、若シ能ク其ノ功用ヲ失ハス、内ハ國中反側不逞ノ徒ヲ鎮圧シ、外ハ各国ニ対シテ、折衝禦侮ノ力ヲ致スニ足ル者アラシメハ、論者ノ見込通り、護国兵ヲ設置スルモ亦タ可ナルヘケレトモ、我輩ノ所見ニ抛レハ、今日ニ当リテ護国兵ヲ我邦ニ取り立ルヤ、其ノ外国ニ対スルノ功用ハ暫ラク扱置キ、内國ニ取りテハ、独り反側不逞ノ徒ヲ鎮圧スルノ用具タラサルノミナラス、却テ反側不逞ノ徒ヲ培養スルニ至ランコトヲ恐レサルヲ得ス、今若シ護国兵ヲ我邦ニ設置セントセハ、知ラス、何等ノ種類ヨリ之ヲ團結セント欲スル乎、護国兵トアレハ、必ラス志願ヲ以テ其ノ義務ヲ負ハンコトヲ望ム者ニ止マラサルヘカラス、若シ其ノ請願ニ出ル者ヲ求ムレハ、大抵士族ノ間ニ止マルニ相違ナカルヘシ、良シヤ其間或ハ平

民ヨリ請願スル者ナキニ非サルモ、一杯ノ水ハ以テ一車薪ノ火ニ当ルニ足ラス、士族ノ勢力ニ任セラル、ハ必然ナリ、果シテ然ラハ、護国兵ヲ我邦ニ團結スルノ日ハ、抑々何等ノ國勢ニ至ルヘキカ、從來士族カ不平ヲ当世ニ挾ンテ怨望ヲ政府ニ抱クハ、固ヨリ一朝一夕ノ事ナラス、苟モ變乱ヲ現スル毎ニ、或ハ奮然トシテ蹶起ノ念ヲ生シ、袂ヲ掲ケテ之ニ応セントスルカ如キノ妄想ヲ起セシハ、全國中靡々トシテ之レナキニ非ス、此ノ如キノ心情アルモ、猶ホ其ノ妄想ヲ逞フスルヲ得サリシハ、兵乱ヲ起ス文ケノ人数ヲ團結シ能ハスシテ、加フルニ兵器ノ其望ヲ充ル者ナキカ為メナリト言ハサルヲ得ス、然ルヲ今其兵ヲ團結シテ又タ兵器ヲ給与スルヨリハ、之ヲ如何ソ不測ノ變乱ヲ生スルコトナキヲ必スヘケンヤ、是ニ由テ之ヲ論スレハ、護国兵ヲ我邦ニ設置スルカ如キハ、由テ以テ反側不逞ノ徒ヲ鎮圧セント欲シテ、却テ反側不逞ノ徒ヲ培養スル者ニ属シ、之カ為ニ常備兵ノ多数ヲ要スルニ至ルモ知ルヘカラス、然ラハ則チ護国兵ハ、未タ我カ今日ニ適當スル者ニ非スシテ、其ノ之ヲ設置スルヲ可トスル者ノ如キハ、徒ニ英米等ノ義勇兵ニ眩惑シ、又タ西南ノ戰爭ニ兵員ノ不足ヲ生セシヲ見テ、一途ニ兵制ノ完全タ

ラサルヲ覺ユルニ偏依セシ者ト言フヘキ也、(未完)

## 六一 統兵制論 九月一日

雖然、若シ徵募兵ノ外ニ、護國兵ヲ設置スルノ主義ニ出テス、全ク我カ兵制ヲ今日ニ一変スルヲ以テ、實際ニ適當スル者ナリトセハ、志願兵ヲ以テ常備兵トシ、徵募兵ヲ以テ護國兵トスルノ變態ニ出ルノ外ナカルヘシ、此ノ兵制タルヤ、古代ニ在テハ、欧州中ニモ儘之レナキニ非スシテ、即チ日耳曼(ゲルマン)ノ如キハ、特ニ国内ノ防禦及ヒ國中ノ戰爭ニ從役スルヲ以テ、國民カ兵事ニ服スル当然ノ義務トシ、又タ非常ノ變亂ヲ生シ、或ハ敵國ヲ進撃スル等ノ事アルニ當リテモ、兵士トナリテ其軍ニ從行スル者ハ、何レモ自ラ望ンテ其役ニ就ンコトヲ請願スル者ニ止マリ、後來始メテ常備兵ヲ設置セシ時ニ於テモ、亦タ自ラ兵士タランコトヲ請願スル者ノミヲ使用スルノ法ナリシト聞ク、是ニ由テ之ヲ觀レハ、日耳曼古代ノ法タルヤ、其ノ常備軍ノ役ヲ服セシムルハ、必ラス自ラ兵士タランコトヲ請願スル者ニ止マリ、又タ護國軍ニ入ルハ國民当然ノ義務ニシテ、何レモ免カルヘカラサル所ナリシヲ知ルヘ

シ、今若シ我邦ノ兵制ヲ一變シテ、此法ニ拠ラシメントセハ、其勢必ラス士族ヲ以テ常備兵トシ、平民ヲ以テ護國兵トスルニ至ラサルヲ得ス、斯ノ如キノ兵制ヲ設立セハ、果シテ我邦ノ為ニ利アリトスヘキ乎、抑不利ナリト為スヘキ乎、是レ亦タ我輩カ切ニ輿論ノ如何ヲ徵セント欲スル所ナリ、

志願兵ヲ以テ常備軍トシ、一般人民ヲ以テ護國軍ノ義務ヲ負ハシムルヤ、最モ其制ノ宜キヲ失ハサル者ナリトスルハ、欧州近代ノ學士モ往々ニ之ヲ唱道スル所ニシテ、蓋シ其說ニ拠レハ、全國ノ人民ヨリ招募シ、強テ兵役ヲ服セシメントスレハ、必ラス各人ヲシテ其ノ從事スル所ノ職業ヲ打捨テ、己レカ好マサル所ノ務メニ服サシメサルヲ得ス、斯ノ如キハ全ク私人ノ自由權ヲ侵スノ所業ニシテ、正当ノ道理ニ合スル者ニ非ス、之ニ反シテ自ラ兵士タランコトヲ望ム者ヲ使役シテ、常備兵トナス時ハ、獨リ其ノ正理ヲ失ハサルノミナラス、併セテ實際ニ有益ナルノ精銳兵ヲ備フルコトヲ得ヘシト、此說タルヤ亦タ一理ナキニ非スシテ、即チ薩人カ曾テ真ニ兵用ニ堪ル者ヲ以テ、常備兵タラシメント首唱セシモ、暗ニ此理ニ合スル者ナリ、然レトモ我邦ノ今日ニ在テ志願兵ノミヲ以

テ常備軍トスルノ制ヲ布ク時ハ、其ノ兵士タラン者ハ必ラス士族ノ中ヨリ出テサルヲ得ス、此ノ如クナレハ精銳兵ヲ國家ニ備フルノ利ナキニ非サルカ如クナレトモ、一方ヨリ之ヲ觀レハ、独リ之ヲ御スルニ難クシテ、兵規ノ嚴肅ヲ失フノ恐レアルノミナラス、文武ノ常職ハ、何時迄モ士族ノ負担スル所ニ係ルカ如キノ勢ヲ、永存セシムルヲ以テ、政府ハ飽迄モ其ノ利害得失ノ在ル所ヲ詳カニシ、扱コソ徴兵ノ制ヲ設ケラレシコト明カナリ、而シテ今回ノ戰爭ヲ実試スルニ及ヒ、徴兵ノ用ユヘキヤ、士族兵ヨリ勝ルトモ劣ラサルノ功績ヲ顯ハセシハ、與人ノ尽ク信認スル所タリ、然ラハ則チ此ノ徴兵ノ制ニ於テハ、特ニ政府カ其ノ目的ヲ誤マラサリシニ止マラス、之ヲ我邦ニ永用スルモ亦タ不可ナカルヘシ、然ルヲ若シ徴兵ノ制ハ私人ノ自由ヲ侵スニ渉ルノ嫌ヒアルヲ恐レ、又タ其ノ精銳ノ兵ヲ得ルニ偏シテ、今日ノ兵制ヲ一變シ、單ニ志願兵ヲ以テ常備軍トスルノ制ヲ設ケントセハ、先ツ實際ニ試用シテ其ノ有益ヲ徴シ得タルノ兵制ヲ破壞シテ、未タ其ノ得失ヲ实地ニ驗セサルノ新制ヲ設ケサルヲ得ス、且ツ夫レ徴兵ノ制ヲ以テ自由ヲ犯スノ所業タリトスルハ、頗ル其理ナキニ非サルカ如クナレトモ、此制タルヤ、今

日ニ在テハ各國ノ大率之ヲ遵用スル所ニシテ、更ニ一層ノ文明ヲ異日ニ進ムルニ非サレハ、之ヲ廢スルニ至ラサルヘシ、況ンヤ我邦ノ如キ已ニ封建ノ制ヲ廢スルモ、士族ハ猶ホ文武ノ常職ヲ追憶シテ忘レサルノ時ニ於テヤ、彼ノ憲兵設置ノ得失ニ至リテハ、我輩カ已ニ之ヲ數日ノ紙上ニ論弁セシ所ナルニ由リ、今又タ之ヲ喋々スルコトヲ要セサレトモ、更ニ一言ヲ加ヘンニ、若シソレ憲兵ヲ設クレハ、如何ナル變乱ヲ現スルトモ、直チニ之ヲ使用スルヲ妨ケサル者タルカ故ニ、今回ノ戰爭ニ巡查ヲ使用シテ、論者ノ喋々ヲ招クカ如キノ煩ヒアルコトナシト雖トモ、憲兵ハ尋常ノ兵隊トハ異ニシテ、警察ノ職務迄兼有スル所ナリ、若シ其ノ本務ヲ誤リテ威權ヲ攬用スルニ至ラハ、其ノ禍毒タルヤ、直チニ人民ヲ武權ノ下ニ圧倒スルニ至ラントス、而シテ更ニ一方ヨリ之ヲ見ルニ、万一ニタモ、政府ノ目的ヲシテ、抑圧ノ政治ニ傾向スルノ變アルニ至ラシムレハ、此ノ憲兵ナル者ハ、軋々其ノ利用ヲ為サンコト必然ナリ、我輩安ソ遽ニ其利アルヲ許シテ其害ノ存スル所ヲ慮ラサルヲ得ンヤ、(未完)

## 六二 統々兵制論 九月三日

夫レ護国兵ト憲兵トハ、固ヨリ国ノ利用タラサルニ非スト雖トモ、以上開陳スルカ如ク、若シ護国兵ノ制ヲ設クルモ、其ノ兵員タラン者ハ大率士族ヨリ出テ、又タ憲兵ヲ今日ニ備フルモ、或ハ人民ヲ武權ノ下ニ庄シ、或ハ政府ノ威權ヲ助長スルノ具トナルカ如キノ弊害ヲ生スルニ至ラシメハ、決シテ国家ノ福祉トハ言フヘカラス、而シテ彼ノ志願ニ出ル者ノミヲ以テ常備兵トシ、其他ノ人民ニハ、国内ノ防禦及ヒ国中ノ戰爭ニ從役スルノ義務ヲ負ハシムルノ制度タルヤ、亦タ現今ノ國勢ニ適當ナラサルカ如キ者アルヲ見レハ、我カ兵制ニ於テハ、何ク迄モ徵兵ノ法ニ拠ルヲ以テ可トナスヘキニ似タリ、若シ夫レ徵兵法ヲ以テ實際ニ適當セル者トセハ、敢テ大變ヲ目今ノ兵制ニ生スルニモ及ハサレトモ、情々当今ノ國勢ヲ觀察スレハ、更ニ常備軍ノ兵員ヲ増加スルヲ以テ可トスヘキ乎、抑々今日ノ兵數ニ止マルヲ以テ可トセン乎、將タ又タ更ニ之ヲ減スルヲ以テ宜キヲ得タリトセン乎、是レ亦タ我輩カ其ノ得失ヲ輿論ニ聞カント欲スル所ナリ、今ヤ常備軍ノ増減多寡ヲ議セントセハ、宜ク先ツ其ノ増

減多寡ヲ生スル所以ノ原理ヲ問ハサルヘカラス、欧州ニ在テ中古ノ世ニハ、曾テ常備軍ヲ設置スルコトナカリシカ、其ノ設置アルニ至リシハ、蓋シ君權ノ極メテ盛ンナルニ始マレリ、輒近ニ及ンテハ、君權無限ノ政漸ク其跡ヲ絶ツニ至リシト雖トモ、常備軍ノ依然トシテ各国ニ存スルハ、其ノ國家ノ為ニ必要ナルヲ以テナリ、然ルニ其ノ員數ハ、必ラス國ノ位置及隣邦ト相関セル景況ニ随ツテ、増減多寡ヲ生セサルヘカラス、何トナレハ常備軍ノ兵數甚タ多キ時ハ、已ヨ得スシテ厚ク國民ニ収斂セサル可ラサルハ固ヨリ論ナク、其他動モスレハ、君主其ノ國憲ニ背ヒテ兵權ヲ弄シ、私政ヲ恣ニスルカ如キ弊害ヲ生スルヲ以テナリ（西人ノ立論ニ拠ル）、今ヤ我邦ノ位置及ヒ隣邦ト相関セル景況ヲ尋ヌレハ、國界ノ形勢ハ、欧州ノ大陸諸國ノ如ク、常ニ外寇ノ侵襲ヲ受ケ易キノ憂虞アルニ非サル也、亦タ同盟ノ交誼已ニ破レテ、敵國正ニ巨大ノ常備軍ヲ備フルノ恐レアルニモ非サル也、然ラハ則チ我カ政府ヲシテ、國勢ノ更ニ強大ニ至ルヲ、務メテ專ラ攻伐ヲ事トスルノ志アルカ、又タ下民ヲ制御スルニ、強盛ノ威權ヲ要スルノ目的アラシムルニ非サルヨリハ、決シテ常備兵ノ多キヲ要スルニ及ハサルヘシ、夫レ此ノ

二者ノ如キヤ、固ヨリ政府ノ今日ニ目的トスル所ニ非サルハ、與人ノ堅ク信シテ疑ハサル所ナリ、

若シ夫レ我邦ノ位置及ヒ隣邦ト相関セル景況ハ、深く憂慮スヘキノ恐レアルニモ非ス、又タ政府ニ於テモ、敢テ常備兵ヲ増加スルヲ必要トスルノ目的アルニ非サルモ、今後如何ナル叛党ノ起ランモ測リ難ク、又タ人民カ如何ナル一揆ヲ生スルモ知ルヘカラス、而シテ今回ノ變乱ニ就テハ、現ニ兵員乏ヲ告ルノ患アルヲ免カレサリシカ故ニ、予メ常備兵員ヲ益シ、以テ不虞ニ備フルヲ可トスヘシトセン乎、是レ亦タ時勢ヲ察セサルノ甚タシキ者タリト言ハサルヲ得ス、蓋シ今回ノ變動ハ、維新以後十年ノ久シキヲ経ルモ、治外ニ独立セシカ如キ鹿兒島ノ叛乱ナレハコソ、近衛隊并ニ六管ノ鎮台ヲ傾クルモ、猶ホ兵員ノ不足ヲ生シタレ、試ニ前日ニ溯リテ之ヲ徵スレハ、江藤・島ノ如キ、加陽・上野ノ如キ、前原・奥平ノ如キ、今村・藍田ノ如キ、其ノ前後ニ背叛セシ者ハ随分少ナキニ非サレトモ、曾テ兵員ノ不足ヲ生シタルコトナキニ非ズヤ、今若シ鹿兒島ノ叛党ニ戡定スレハ、向後ニ於テハ、江藤・前原ノ如キ者モ亦タ甚タ多カラサルヘシ、ソレモ政府カ政ヲ失ヒ治ヲ誤マルノ甚タシキニ至レハ、全国ヲ

挙テ敵トナランモ測ラレサレトモ、斯ノ如キハ予メ我カ明治政府ニ憂フヘキ所ナラス、且ツヤ此ニ至リテハ、幾万ノ常備兵アルモ亦タ敢テ恃ムニ足ラサル也、而シテ彼ノ人民ノ一揆ヲ平ラクルニ、兵力ヲ以テスルカ如キハ、論者ノ最モ之ヲ忌憚スル所ナラスヤ、然ルヲ政府ニ望ムニ、政体ヲ完全ニシ治道ヲ誤ラサルヲ以テセスシテ、徒ニ常備兵員ヲ益シ未然ノ憂慮ニ備ヘンコトヲ求メ、更ニ国家ノ費用ヲ重ヌルヲ顧ミサルカ如キハ、我輩争テカ之ヲ可トシ肯ンスルヲ得ンヤ、

然ラハ則チ今日ノ兵制ニシテ、復タ何等ノ遺憾アル所ナカルヘキ乎、是レ亦タ我輩カ容易ニ首肯シ能ハサル所ナリ、蓋シ曾テ之ヲ聞ク、日耳曼ノ全国兵ハ実ニ第一世拿破侖<sup>(ナポ)</sup>破命帝カ其ノ常備兵ヲ抑束シテ四万ト減制セシ時ニ胚胎セリト、其故如何トナレハ、日耳曼ニ在テハ固ヨリ此ノ寡兵ニ満足シ能ハサルモ、亦タ其ノ制限ヲ破ルコトヲ得ス、是ニ於テ兵制ヲ變革シテ服役ノ年期ヲ短縮シ、國民ヲシテ代ルノ兵籍ニ入ラシムルノ法トナセシカバ、扨コソ後年ニ至リテハ、國民トシテ兵ヲ知ラサル者ナキ程ニ至レリト、今若シ此法ヲ以テ我邦ニ実行シ、常備服役ノ年限ヲ短フシテ交代ノ期ヲ速カニセハ、幾許カ自由ヲ人

民ニ与フルノミナラス、大イニ全国兵ノ実用ヲ具フルノ期ヲ迅速ナラシムルコトヲ得ヘシ、而シテ又タ後備軍ノ制ニ就テ斟酌ヲ加フル所アラハ、其ノ之ヲ行フノ久シキニ及ンテヤ、外患トナク、内訌トナク、苟モ国家ノ変乱ヲ生スルアレハ、直チニ兵事ニ熟スルノ兵ヲ徵集スルコトヲ得ヘシ、果シテ然ラハ、假令常備軍ノ兵員ヲ今日ヨリ減少スルモ、其ノ実用ニ堪ル者ハ、更ニ多キヲ加フルニ至ルヘシト信スル也、

### 六三 残賊再ビ鹿兒島ニ入ル 九月五日

昨日ニ在テ我輩カ耳聞ニ達スル所ニ拠レハ、曰ク、西郷・桐野以下数百人ノ残賊ハ、突然鹿兒島ニ迫リテ、県庁及ヒ市街ニ放火シタリト、又タ曰ク、鹿兒島県再ヒ穩カナラス、県庁并ニ各營所共焼失ナシタルニ付、県官ヲ始メトシテ、第四旅団ノ中同管下出張ノ分ハ、一時長崎へ転シ、綿貫少警視モ部下ヲ引率シテ、無事ニ長崎へ移転セラレタリト（此ノ一事ハ虚伝ニ係ル）、抑々賊燄漸ク衰フト雖トモ、猶ホ未タ戡定ニ至ラス、其ノ戦況ニ於テハ、我輩記者ノ寸間モ注目ヲ怠ラサル所ナリト雖トモ、去月

廿九日延岡本營ヨリ、賊死ヲ極メ豊後口梓嶺ヲ越へ、重岡へ突出ノ景況アリトノ電報アリシヨリ後ハ、未タ確實ノ報ヲ得ルニ及ハス、且ツ同文ノ電報ニ、諸道トモ嚴ニ守備配布等整ヘタリ、一時ニ攻撃ノ見込ナリトアリシニ拠レハ、如何ニ西郷・桐野等カ憚悍敢死ノ精兵ヲ率ユルニモセヨ、十二一ダモ足ラサルノ残賊ヲ以テ、又モヤ線外ニ突出センコトハ、殆ント意想ノ外ニ在ルヲ以テ、彼ノ再ヒ鹿兒島ヲ蹂躪セシ一報ノ如キハ、遽ニ信ヲ置クコトヲ得ス、且ツ充分ニ虚実ヲ質スルノ暇ヲモ有セサリシヲ以テ、暫ク半信半疑ノ間ニ躊躇セシト雖トモ、現ニ一等大警部中川祐順・三等大警部加藤清明ノ両君カ高知縣へノ出張ヲ中止シ、遽ニ巡查千二百名ヲ率ヘテ、鹿兒島県下へ出張セラル、コトトナリシヲ見レハ、果シテ該地ノ異状ナキニ非ザルカ如クナルニ由リ、先ツ之ヲ昨日ノ雜報欄内ニ登録セシ所ナリ、

今日トナリテハ、西郷・桐野等ノ残賊カ兵ヲ回シテ再ヒ鹿兒島ヲ襲ヒ、県庁及ヒ市街ニ放火シ、県官一同一先長崎へ退去セシコトハ、漸ク一般ノ伝道ニ係ルニ至レリ、此ノ形勢ニ至ルヨリハ、今日ニ在テ賊情ノ果シテ如何ナルベキ乎、彼レ復ビ鹿兒島ヲ回復スルヤ、如何ナル策略

ヲ決シテ、後日ノ戦鬪ヲ試ントスル乎ノ兩点ハ、世人ガ  
 コノ一報ヲ聞知スルニ際シテ、先ツ脳裏ニ発起スル所ノ  
 思想タリ、彼レ曾テ鹿児島ヲ回復センガ為メニ、其ノ全  
 力ヲ尽シ必死ノ勇ヲ極ムルモ志終ニ成ラズ、連戦連敗シ  
 テ延岡ノ一隅ニ容縮スルニ至レリ、此ノ容縮ヲ極ムルニ  
 及ンテヤ、花々敷ク最期ノ一戦ヲ試ミ、賊魁ノ屍ヲ日州  
 北部ノ郊原ニ曝シ、以テ明治十年薩賊征討ノ局ヲ終ルニ  
 至ルベシトハ、我輩モ亦タ世人ト共ニ臆定スル所ナリキ、  
 豈ニ凶ランヤ、今日ニ及ンデ卒然コノ変アラントハ、是  
 レ豈ニ官兵ガ賊勢已ニ衰頽シテ、復タ為スベカラザル者  
 ト輕視スルノ怠リニ出デシニ非ザランヤ、若シ其ノ怠リ  
 ニ出デズシテ、彼レ其ノ実力ヲ以テ之ヲ回復セシトスレ  
 バ、何ソ其ノ曾テ大兵ヲ擁シテ魔城ヲ囲ミ、薩日隅ニ勢  
 力ヲ逞フセシトキニ為シ得ザリシヤ、是ニ由テ之ヲ觀レ  
 バ、昔日ノ戦争ハ、官兵ノ沈重ニシテ実力ヲ励マスニ怠  
 タラザルニ由ル者ニシテ、今日ノ變ハ其ノ輕視怠慢ノ余  
 ニ生セシ者ト臆定スルハ非乎、苟モ然リトスレハ、復ビ  
 其ノ実力ヲ振ヒ、以テ此ノ殘賊ニ当ルアラバ、之ヲ尽ス  
 ニ於テ何ノ難キコトカ之レアルベケン、然リト雖トモ、  
 已ニ鹿児島ヲ略セシ後チ、数万金ヲ擲チテ人民救助ノ方

法ニ着手シ、漸クニ其ノ実功ヲ奏セントスルノ際ニ当テ、  
 復ビコノ變ヲ生ズ、大勢上ヨリ之ヲ觀レバ敢テ願スル  
 所ナキモ、人民撫恤ノ点ヨリ觀レバ、実ニ容易ナラザル  
 一大事變ヲバ生ゼシト言ハザルヲ得ス、

西郷ヲ信スルノ不平徒カコノ異變ヲ聞知スルヤ、恰モ那  
 勃烈翁（パリス）ガイルバ島ヲ脱シテ、巴里斯ニ進行セシ景況ヲ写

シ出シテ、喋々路傍ニ立談スル者アルガ如シ、然ラハ則  
 チ此ノ異變ニ於テモ、亦タ多少人心ヲ畏懼セシムル所ナ  
 キニ非ルベシト雖トモ、此ノ如キハ抑々謂レナキ畏懼ト  
 言ハサルヘカラス、何トナレハ、若シ其ノ兵數ヲ以テ之  
 ヲ前日ニ比スレバ、蓋シ十分ノ一ニモ足ラザルハ必然ノ  
 コトニシテ、且ツ其ノ兵器彈藥ハ已ニ之ヲ製造スベキノ  
 所ナシ、仮令櫻島ノ製造所ハ其ノ近傍ニ在リトスルモ、  
 已ニ軍艦ノ港内ニ停泊シテ警備ヲ嚴ニスルアリ、彼レ豈  
 ニ其志ヲ逞フスルヲ得ンヤ、若シ將タ懸軍長驅、進ンテ  
 出水ニ出テ阿久根ニ航シ、兩肥ノ間ニ彷徨セント欲スル  
 モ、已ニ谷少將カ阿久根ヨリ鹿児島ニ向ツテ進行スルア  
 リ、將タ又タ退ヒテ復ビ日隅ノ間險要ノ地ニ抛リ、以テ  
 數日ノ戦争ヲ試ミントスルモ、官軍ハ早クモ之ヲ追撃シ  
 テ正ニ之ヲ困ムニ急ナリ、然ラバ則チ賊ハ到底鹿児島ノ

一隅ニ囲繞セラレ、海陸兩軍ノ挾撃ヲ受ケンコト必然ナリ、此時ニ當リテ、再ヒ其ノ哨兵ヲ突破セントスルモ、官軍ハ已ニ前轍ニ鑑ス、豈ニ其ノ守備ヲ忽セシテ、再度ノ過チヲ生スルカ如キコトアルヘケンヤ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、西郷・桐野等ハ一タヒ熊田ニ逃ル、モ、応ニ遠カラスシテ鹿兒島ニ終焉ヲ遂ルニ至ルヘシ、然リト雖トモ、其屍ヲ異郷ニ曝サスシテ數重ノ囲ヲ脱シ、祖先墳墓ノ地ニ來リテ最期ヲ遂ントスルヲ見レハ、其罪ハ実ニ惡ムヘキモ、其ノ慄悍銳武ハ抑々亦タ絶倫ト言フヘキ也、

#### 六四 悪疫予防論 九月七日

炎帝ノ逆威漸ク衰ヘテ、三伏ノ苦熱將ニ散セントスルノ候ヲ告ケ、夜陰ノ微風ハ薄衣ヲ透シテ冷氣ノ皮膚ニ感スルヲ覺ヘ、吾人初メテ一身ノ輕快ヲ知り、起居ノ安逸ヲ得ルト雖トモ、顧ルニ府下ノ患者ハ漸ク多キヲ加フルニ至レリ、蓋シ時氣ノ變換之ヲシテ然ラシムル也、況ンヤ戦地近傍ノ人民ガ東奔西走シテ其処ニ安ンセス、數月ノ間身体ノ健康ヲ顧ルニ遠ナカリシ者ニ於テヨヤ、又タ況ンヤ山野ニ起伏シテ雨ニ浴シ風ニ梳リ、或ハ粗食污水ダ

モ之ヲ得ルニ難ク、辛フシテ草露ノ生命ヲ朝夕ニ全フセシ者ニ於テヨヤ、勢ヒ必ズ病患ニ罹ル者ノ多カラザルヲ得ズ、聞ク、近来支那ノ海岸地方ニ在テハ、虎列刺症ノ時疫流行シテ其勢特ニ甚タシト、又タ聞ク、吾邦ニ於テモ戦地近傍ニ在テハ、其ノ病症ニ罹ル者ナキニ非ルヲ以テ、政府ハ予メ其ノ手當ヲ為スニ怠タラズ、専ラ伝染ヲ防禦スルニ急ナリト、誰カ其レ之レヲ感謝セザランヤ、其ノ公布ニ徵スヘキ者ヲ見ルモ、内務省ニ於テハ、已ニ乙第七十九号ヲ以テ虎列刺病予防心得ヲ達セラレ、又タ衛生局ニ於テモ、其ノ養生法ヲ報告セラレタリ、夫レ政府カ其ノ予防ニ注意スルニ怠ラサルコト此ノ如キヲ見レハ、実ニ遺憾アル所ナキカ如クナレトモ、如何セン一タビ此症ノ病ヲ一隅ニ発スルヤ、時アリテ其ノ伝染ノ迅速ナル、置郵シテ命ヲ伝フルモ管ナラザルガ如キ者アルヲ以テ、如何ニ政府ガ之ヲ予防スルニ親切ナルモ、病勢已ニ甚タシキヲ加フルニ至レバ、復タ如何ントモスルコト能ハザルベシ、最モ戦地ノ報道ヲ聞知スルニ、派出ノ医員ハ東西ニ奔走シテ負傷者ヲ療養シ、旁ラ人民ノ病難ニ罹ル者ヲ診察スルニ怠ラズト、医員ノ尽力モ亦タ大ナル哉、然リト雖トモ有限ノ医員ヲ以テ無限ノ患者ヲ療セン



トス、仮令孳々トシテ其務メニ怠ラザルモ、其ノ遺憾アルヲ免カレサルヤ、是レ自然ノ勢ヒナリ、幸ヒニ嘗テ佐野常民・大給恒ノ両君ガ、官賊ノ負傷者ヲ療養センガ為メニ、自費ヲ以テ医員ヲ募リ、又タ金ヲ有志ニ集メ博愛ノ名称ヲ以テ一社ヲ設ケ、略々其ノ順序ノ備ハルヲ以テ、官ニ請願シテ、其ノ許可ヲ得、己ニ戦地ニ臨ムニ及ンデハ、総督府ノ命ヲ受ケ、軍医ノ一部ニ属シテ某ノ病院ヲ預リ、専ラ施術ニ尽力スルアリト云フ、

博愛社ノ設ケアルヤ、誰カ之ヲ称賛セザランヤ、然ルニ其ノ設備ニ至リテハ、尚ホ世人ヲシテ、幼稚未熟ノ慨嘆ヲ生セシムルナキニ非サレトモ、凡ソ完全ヲ創業ニ求ムルハ抑々亦タ難キ者アルニヨリ、特ニ其設ケアルヲ喜フニ足レリトシテ可ナラン、若シ其ノ設備ヲシテ充分ノ完全ヲ極メルニ至ラシメバ、官賊ノ負傷者ハ言フマデモナク、一般人民ガ干戈ノ災害倒懸ノ苦域ニ在ルモ、病ヲ医スルニ所ナク、患部ヲ撫シテ路傍ニ彷徨スルカ如キノ愁観ナキニ至ルベシ、吾輩曾テ之ヲ聞ク、李仏戦争ノ時ニ当テ、英国ノ万民救済医学会ハ、兩國ノ許可ヲ得テ医員ヲ戦地ニ派出シ、両軍ノ間ヲ自在ニ往来シテ、其ノ兵士ガ負傷病患ニ罹ル者アルヲ見レバ、其ノ軽キハ施術配剤ヲ

与へ、其ノ重キハ之ヲ病院ニ送致シ看護至ラザル所ナカリシト、又米國ニモ同様ナル社会アリテ、数百人ノ医員ヲ派遣シ、均シク患者ヲ療養スルノ大功ヲ奏セリト云フ、抑々此ノ社中カ両軍ノ間ヲ往来スルヤ、該社特別ノ法則アリテ、相方戦地ノ景況ヲ通知談話スルヲ嚴禁トシ、一途ニ医術ヲ施スノミヲ以テ要務トスルニ在リ、而シテ各自ニ十字記章ノ外ニ其ノ社旗ヲ掲グルヲ以テ、両軍共ニ攻伐ノ間ニ独立視シテ、更ニ妨害セザルノミナラズ、之ヲ視之ヲ扱フコト恰モ救世主ノ如クナルハ、蓋シ自然ノ情ナルベシ、

斯ノ如キノ仁術ハ、对敵ノ兩國共ニ開明ノ名ニ負カザル者ニ非レバ、終ニ其ノ徳功ヲ充全ナラシムルヲ得ザル者アルカ故ニ、他人或ハ謂フアラン、東洋半開國ノ内乱ニ在テハ、仮令其設ケアルモ、能ク其ノ功績ヲ戦地ニ奏スルコトヲ得ベカラズト、其レ然リ、然レトモ吾ガ日本國モ亦漸ク開明ニ進歩シテ、欧米各國ト対等ノ權利ヲ冀望スルノ一國タルニ由リ、敢テ半開視スルヲ以テ嫌シトシ能ハスト雖トモ、之ヲ論弁スルハコノ問題ノ主意ニ非ザルヲ以テ、暫ク之ヲ論ズルヲ要セズシテ可ナリ、唯其レ博愛社ノ設ケタルヤ、今回ノ戦争ニ就テ最モ開明ニ裨益

アル者タルカ故ニ、吾輩ノ特ニ冀望スルハ、博愛社医ガ能ク勤勉怠タラズシテ、負傷ノ兵員ヲ治療シ、軍医ニ与フルニ余暇ヲ以テシ、広ク人民ガ弾丸ノ間ニ呻吟シテ、不養生ヨリ醸生スル所ノ疾病ヲ、未タ大患ナラザルニ療養シ、以テ悪症ノ病源ヲ未発ニ予防スルニ在リ、何トナレハ、其ノ病源ヲ今日ニ予防セザレバ、或ハ一般人民ニ、如何ナル不幸ヲ生ゼシメンモ知ルベカラサル者アレハ也、吾輩ハ悪病ヲ畏懼スルノ甚タシキ、之ガ予防ヲ医官ニ望ムノ切ナルヨリ、凶ラズ博愛社ノ論議ニ渉ルヤ斯ノ如シ、看者請フ、論理ノ支離ニ渉ル者アルヨ咎ムル勿レ、

## 六五 今回薩賊ノ製造セル紙幣ハ、政府ノ通貨

ヲ以テ之ヲ交換セザル可ラザルヲ論ズ

加藤政之助郵送 九月八日

今ヤ賊魁カ再ヒ鹿兒島ニ拠有スルノ変態ヲ現ハセシモ、大勢上ヨリ之ヲ觀ルニ、其ノ鎮定ノ期ハ將ニ近キニアラントス、然ラハ則チ、薩賊カ濫造セル紙幣ノ御処分モ最早遠キニアラザル可シ、近頃民間ニ説ク所ヲ聞クニ、今回薩賊ノ製造セル紙幣モ、彼ノ奸猾兇匪ノ徒カ是迄民間

ニ偽造セル尋常ノ質札ト同一視シ、賊徒割拠ノ地ニ於テ此紙幣ヲ領取シタル人民ニ向テ、政府カ之ヲ通貨ト引換ヘ渡ス可キノ理由ナシト謂フモノアリ、余輩ハ稍此説ノ誤レルモノアルヲ覺ユルカ故ニ、政府ガ紙幣ノ御処分ニ着手セラル、ニ先チ、予メ其ノ意見ヲ吐露シ、以テ輿論ニ質スルモ敢テ贅議ニ渉ラサルヘシト信ス、

奸猾兇匪ノ徒カ、民間ニ於テ紙幣ヲ質造スルヤ、其ノ所為固ヨリ隱密ニ涉リ、之ヲ使用スルニ際スルモ、専ラ其跡ヲ掩蔽シ、勤メテ露顯セサランコトヲ要スルヲ以テ、仮令之ヲ疑ツテ領取スルヲ肯セザレハトテ、敢テ之ニ強迫スルコトヲ得サルノミナラス、其怪シマル、ヲ悟ルヤ、却テ己カ悪事ノ露顯センコトヲ恐レ、其場ヲ遁逃スル等ノ輩ニシテ、特ニ人目ヲ一時ニ掠ムルニ過キサレハ、活眼者流ハ、決シテ是等ノ徒ニ欺騙セラル、コトナシ、去レハ其害ノ及フ所モ亦、從テ僅少ノ部分ニ止マルヲ知ル可シ、

今回薩賊ノ濫造セシ紙幣ノ如キハ、尋常民間ニ行ハル、質札トハ大ニ性質ヲ異ニシ、彼ノ人目ヲ掠メテ一時ノ僥倖ヲ謀ルカ如キノ類ニ非サル也、見ヨ、彼等カ正ニ其ノ勢欲ヲ振フニ当リテヤ、其ノ拠有スル所ハ、薩日隅肥ノ

四ヶ国ニ跨リテ、恰モ割拠ノ勢ヲナシ、時ノ長短コソハアレ、一時ハ西南四州ニ独立セシカ如キ状態ニテ、大政府ト雖トモ、其ノ内部ヲ如何トモシ能ハサルノ時ニ際セシナラスヤ、此時ニ当リテ、彼等カ貨幣ノ乏ヲ告ルヲ憂ヒ、紙幣ヲ濫造シテ民間ニ流通セシメ、若シ其ノ流通ヲ拒絶スルモノアレハ、之ニ迫ルニ頭足所ヲ異ニスルノ恐喝ヲ以テス、之ヲ如何ソノ人民ハ、止ヲ得スシテ之ヲ流通セサルコトヲ得ヘケンヤ、

前ニ陳スル所ニ拠レハ、尋常民間ノ贖札ト、今回薩賊ガ使用セシ紙幣トハ、大ニ性質ヲ異ニスル者アルヲ知ルヘシ、既ニ其性質ヲ異ニスレハ、從テ其処分ヲモ異ニセザル可ラザルハ、固ヨリ見易キノ理由タリ、然ルヲ猶ホ尋常ノ贖札ト同等視シテ、政府ガ之ヲ通貨ト引換ヘ、紙幣ヲ携帶スルノ人民ニ、下附ス可キノ理由ナシトスルカ如キハ、争テカ之ヲ目シテ、誤見ト謂ハザルヘケンヤ、如何トナレハ、今回薩賊カ彼ノ紙幣ヲ使用スルニ当リテヤ、其ノ割拠スル地方各所ニ出張所等ヲ置キ、以テ百事ヲ担任セシメ、租税運上ヲモ人民ニ賦課シ、区戸長ト雖トモ、彼等カ意ノ儘ニ使役シ、賊ト人民トノ關係ハ、其寛酷ノ度ヲコソ異ニスレ、恰モ政府ト人民ノ關係ニ異ナラサル

ノ勢ヲ有セシ所ナリ、此ノ時ニ際シテハ、政府モ亦タ此人民ヲ擁護スルコト能ハス、良民カ拠ナク其ノ紙幣ヲ領取セシモ、実ニ最モ至極ノコトニシテ、其ノ情実ニ於テハ、維新ノ革命ニ先チ、旧藩々ガ各々自藩ノ札ヲ濫造シテ、之ヲ民間ニ流用セシト同一視スルモ、敢テ甚シキ誤認ナカル可シ、若シ之ヲシテ甚シキ誤認ナカラシメンカ、政府ハ已ニ旧藩紙幣ヲ交換シテ、紙幣ヲ携帶スルノ人民ニ通貨ヲ下附セラレタルナラスヤ、然ラハ則チ今日ニ在テモ亦タ、均ク之ニ換ユルニ其通貨ヲ以テシテ、良民ヲ疾苦ノ中ニ救済セラル可キハ、素ヨリ当然ノ事ナリト言フ可シ、然ルヲ民間ノ説ノ如ク、之ヲ尋常ノ贖札ト同一視シ、之ヲ没取シテ一片ノ空紙ニ属サシムルガ如キハ、人民ノ実況ニ徴スレハ、寔ニ惘然ノ至リニシテ、余輩ハ決シテ之ヲ正理ト見認ルコトヲ得サル也、

斯ノ如キノ理由ナルカ故ニ、擾乱戡定ノ期ニ至ラハ、政府ハ必ラス此ノ紙幣ノ処分ニ着手シ、通貨ト交換シテ下附セラル可キハ、余輩ノ確ク信シテ疑ハザル所ナリト雖トモ、此ノ疑問タルヤ、今日民間ニ喋々スル者ノ頗ル夥多ナルカ故ニ、先ツ余輩ノ見解ヲ爰ニ開陳シ、以テ江湖ノ博識者ニ質スルヤ如斯、

六六 薩賊平定ヲ疑ハズ 九月十日

脱賊ノ鹿兒島ニ入りテ戰報ノ數々達セサリシヨリ、世人ノ畏懼ハ忽然トシテ之ト与ニ發生シ、頻リニ各種ノ風説ヲ道路ノ間ニ伝播スルニ至レリ、曰ク、日向地方モ再ヒ蜂起シタリ、曰ク、都ノ城ハ賊ノ手ニ陥没セリ、曰ク、鹿兒島ノ官軍ハ大敗ヲ取り、賊ハ入來ト別府ノ方面ニ突出セントスルノ景況アリ、曰ク、何、曰、何ト、漸ク世間ニ絶ヘ果テタル戰爭話ヲ再ヒ担キ出シ、専ラ戰況ノ如何ヲ佇望スルニ及ヘリ、是レ我輩カ確實ナル電報ヲ得ルヤ、定例ノ休暇ニモ拘ハラズ、速ニ号外ノ一紙ヲ昨日ニ発行シテ、世人ニ報道スルヲ怠ラサリシ所以ナリ、  
仮令何等ノ風説アリシニモセヨ、識者ハ遽ニ胆ヲ挙ケ神ヲ冷シ、巷談ノ為ニ、迷離ニ陥ルカ如キコトナカリシト雖トモ、未タ其ノ果シテ訛言タルヲ断定シテ、畏懼ノ人心ヲ安カラシムル程ノ憑拠ヲ有シ能ハサリシ也、何トナレハ、戰報ノ詳細ナル者ハ、未タ該地ヨリ達スルニ暇ナキカ故ニ、其ノ信ヲ託スヘキ者ハ、特ニ電報ニ拠ルノ一路アルノミ、而シテ電報モ亦タ暫ク其ノ手ニ入ラサリシヨリハ、唯々其ノ事情ヲ推測シテ、斯ル異變ハ決シテ有

ル間敷キコトナリト臆定スルニ過キス、其ノ臆定ニ過キサル者ヲ以テ、畏懼ノ人心ヲ靜定セント欲スルハ、蓋シ及ハサル所ナルヲ以テ、我輩モ亦タ遺憾ナカラ此ニ從事スルニ由ナカリキ、

今ヤ確信スヘキ電報ノ記スル所ニ拠レハ、賊ハ初メ鹿兒島ニ入りテ拠有セシ所ト其ノ地位ヲ異ニセス、同ク城山及ヒ私学校辺ニテ防戦スルコト明カナリ、已ニ此ノ信拠スヘキ電報ヲ得ルヤ、世人カ巷街ノ風説ニ就テモ、輒スク畏懼ヲ生スルヲ免カレサル所以ヲ尋ネ、隨テ今日戰地ノ情況ヲ推測シ、以テ聊カ胸算ニ臆定スル所ヲ説クモ、敢テ甚タシキ空想ニ涉ラサルヘシ、今夫レ世人ト雖トモ、若シ毫モ畏懼ヲ生スヘキ原由ナカラシメハ、仮令何等ノ訛言浮説アルモ、豈ニ容易ニ迷境ニ陥ルヘケンヤ、而シテ賊魁ノ再ヒ鹿兒島ニ拠リシヨリ、漸ク畏懼ノ心情ヲ生スルニ至リシハ、蓋シ<sup>(シラカ)</sup>シテ然ラシムル者ナキニ非ス、彼ノ薩日隅ノ三州ヲ見ヨ、只今ニテハ、鹿兒島ヲ除クノ外、尽ク官兵ノ占有スル所トハナリタレトモ、昨今迄ハ尽ク賊ノ拠有スル所トナリ、脅迫ニ出テシトハ言イ乍ラ、殆ント三州一致ノ姿ヲ顯ハセシ所ナリ、而シテ其ノ戦ヒ敗ル、ニ及ヒ、陸續トシテ降ヲ官兵ニ告ルニ至リシモ、

敢テ心服ヨリ出ルニ非ス、力ノ敵セサルニ起リシコト明カナリ、已ニ其地ヲ平定スルヤ、県官ハ専ラ撫恤ニ務メ、警察官ハ偏ニ説諭ニ怠ラサレトモ、其日タル猶ホ未タ深カラス、諸郷士族等カ政府ヲ思フハ、必ラス西郷ヲ思フニ如カサルヘシ、苟モ其ノ情況ニシテ此ノ如クナレハ、西郷ノ再ヒ鹿兒島ヲ侵略シテ、官兵モ充分ニ志ヲ得サルコトアルニ及ンテハ、仮令兵器彈藥ノ待ムヘキナキモ、薩人ノ略ヲ思ハスシテ力ヲ待ミ、勇ニ富テ智ニ乏シキ、或ハ如何ナル變ヲ生センモ知ルヘカラストハ、是レ豈ニ世人カ各種ノ風説ヲ聞テ、或ハ畏懼ヲ生スルヲ免カレサリシ所以ナラスヤ、

然リト雖トモ、我輩情々戦後ノ人心ヲ觀察スルニ、其ノ勝ツ者ハ愈々飛揚跋扈ノ念ヲ発シ、其ノ負クル者ハ益々萎靡沮喪ノ情ヲ生スルハ、蓋シ古今ノ通態ナリ、試ニ戊辰以後ノ情勢ニ徴スルモ、其ノ国安ヲ攪乱スルノ暴動ヲ発シ、未タ暴動ヲ発セサルモ、扼腕彈劍シテ不平ヲ干戈ニ訴ヘント欲スルカ如キ者ハ、常ニ戊辰ニ戰歟ヲ奏シタル西南ノ雄藩ニ在テ、東北ノ士族ハ特ニ其ノ暴挙ヲ発セサルノミナラス、又タ斯ル志念ヲモ抱カサルカ如シ、是レ豈ニ東北ノ士族ハ尽ク政府ニ心服シテ、西南ノ士族ノ

ミ不平ヲ抱ク者ナランヤ、蓋シ戦争ノ勝敗ハ、其ノ氣力ヲシテ屈伸セシムル所アルニ由ルナリ、今ヤ薩摩ノ士族ハ戊辰ノ戦捷ニ慣レテ、輒スク大事ヲ成スヘシト妄想シ、三州ヲ挙テ此役ニ從ヒシモ、連戦連敗此極ニ至リシヨリハ、最早萎靡沮喪ノ念ヲ生ズルハ必然ノ事ナリト思ハサルヲ得ス、果シテ然ルカ、良シヤ殘賊カ、一時鹿兒島ニ跋扈スルモ、官軍カ能クニ軍機ヲ誤ルニ非サレハ、再ヒ諸郷士族ノ之ニ応スルカ如キハ、情勢ニ取テ有ル間敷キコトナリトハ、我輩ノ予メ之ヲ臆定セシ所ナリキ、而シテ昨日ニ報道セシ電報ニ拠レハ、今日ニ在テハ其ノ果シテ臆定ニ負カサルヲ知ルヘシ、

其レ然リ、然ラハ則チ今日ノ戦況ハ、先ニ我輩ノ推測セシカ如ク、賊ハ鹿兒島ノ一隅ニ殘喘ヲ保ツニ過キスシテ、官軍ハ正ニ海陸四面ヨリ攻撃ヲ逞フスル也、而シテ官軍モ曾テ不測ノ違算ヲ生セシヨリハ、想フニ必ラス將軍生クルノ心ナク、士卒死スルノ氣アルノ警戒ヲ奨励スルニ相違ナカルヘシ、苟モ此ノ警戒ヲ失ハサラシメハ、如何ニ賊魁ノ倔強ナルモ、士卒ノ慄悍ナルモ、豈窘窮ノ極ニ迫リタル者ト言ハサルヘケンヤ、我輩ハ將ニ他日ノ通信ヲ以テ、更ニ其ノ戦況ヲ読者ニ報道スルコトヲ怠ラサラ

ントス、

六七 私学校党背叛ノ原因 九月二十六日

前陸軍大將正三位西郷隆盛・前陸軍少將正五位桐野利秋以下数名ハ、尽ク鹿兒島ニ燹レ、全ク明治十年戦争ノ大局ヲ終ルニ至レリ、此ノ一報ヲ得ルヤ、吾輩ハ速ニ附録ノ一紙ヲ刷出シテ、之ヲ読者ニ報道シ、更ニ一言ヲ昨日ノ紙上ニ陳述セシト雖トモ、再思スレハ、創業ノ功臣、希世ノ豪傑トシテ、維新以後久シク人口ニ膾炙シ、衆心ニ銘徹セシ者ニシテ、空シク賊名ヲ負ヒ城山ノ露ト共ニ消ヘ、颯城ノ煙ト共ニ散セシハ、抑々憎ムベキカ將タ惜ムベキカ、思フテ此ニ至レハ、慨然トシテ洪嘆ヲ発セサルヲ得サル也、

彼レ豈ニ何ノ惜ム所アラシヤ、濫リニ干戈ヲ弄シ吾ガ王師ニ抗ス、將士之ガ為メニ死シ、国庫之ガ為メニ傾カントシ、人民之ガ為メニ生ヲ聊セザリシコト久シ、然ト雖トモ西郷已ニ死ス、復タ何ゾ其ノ罪跡ヲ喋々シテ、益々死者ヲ黄泉ノ下ニマテ譴責スルヲ欲センヤ、且ツ其ノ罪状ハ数回ノ論弁ヲ以テ、略ホ蘊輿ヲ尽セシ者アリト信ス

ルニヨリ、吾輩ハ復タ論弁ヲ其点ニ費スヲ要セス、爰ニ西郷以下私学校党等ガ、政府ニ背叛シテ今日ニ及ビタル原因ヲ推考センニ、彼等モ亦タ敢テ事ヲ好ミ濫リニ政府ヲ軋変シテ、自己ノ榮華ヲ欲スルニ汲々タル者ニハ非ルベシ、独リ榮華ニ汲々タル者ナラサルノミナラス、其ノ国家ヲ憂慮スルノ点ニ至リテハ、反テ当路ノ人ヨリモ一層切ナル所ナキトモ言フベカラズ、然レトモ其ノ着眼タルヤ、当世ニ暗ク時務ニ疎キヨリ、政府ノ施行ハ常ニ其ノ思想ト相齟齬シ、憂慮ノ極ハ疑惑トナリ、疑惑ノ極ハ憎悪トナリ、疑惑憎悪ノ甚タシキヤ流言モ入り易ク、浮説モ生シ易キハ自然ノ勢ナリ、已ニ浮説流言ノ盛ニ行ハル、ニ当テハ、事ヲ好ム者名利ヲ釣ラントスル者、当世ニ不平ヲ懷ク者交々其間ニ相投シ、遂ニ百惡千魔ノ襲フ所トナル、勢ヒ已ニ此ニ至レハ、假令眼光ヲ実着ノ点ニ注キ、心志ヲ実務ノ間ニ止ムル者ト雖トモ、亦タ之ガ為メニ誤ラル、ヲ免カレス、其党ヲ挙テ恟々タル心情ヲ発スルニ至ルハ、敢テ怪シムニ足ラザル所ナリ、

勢ヒ已ニ此ノ如キニ迫ルヤ、如何ニ名望ノ士、遊弁ノ人タリトモ、其ノ未タ破裂ニ及バザルニ先タチテ、能ク鎮<sup>座</sup>座ノ功ヲ奏スルヲ得ベカラズ、世人ハ私学校党ガ、中原

氏以下卅余名ヲ縛シテ、始メテ其ノ名義ヲ求メ反旗ヲ挙ルヲ嗤笑スルト雖トモ、彼レ假令中原氏等ヲ縛シ、因テ口実ヲ求メザルモ、浮説流言ヨリ生ジ来レル政府ノ失躄、官吏ノ驕奢、国家ノ危急ハ今日ニ在リト、自ラ信ズル所ノ者ハ、凝然トシテ心中ニ固結ス、豈能ク無事ニシテ終ルヘケンヤ、若シ其レ然ルニ非サレハ、必ラズ区々ノ口実ヲ中原等ノ事ニ求メ、奮ツテ王師ニ抵抗シ、生命ヲ塵埃ニ附スルニ至ルヘカラス、故ニ其ノ実因ヲ求ムレハ、遠ク平生ニ胚胎スル者ニシテ、遽ニ中原等ノ事ニ発スルニ非サルナリ、去レハトテ、薩賊中徒ニ名利ヲ釣リ榮華ヲ求ムルニ汲々トシテ、濫リニ生命ヲ砲烟ノ中ニ失ヒシ者モ亦タ多カルベシト雖トモ、彼ノ当世ニ暗ク時務ニ疎ク、浮説流言ノ為メニ誤ラレシ者ノ如キハ、実ニ愍然ノ至リナリトコソ言フベケレ、

世人ハ今回ノ戦争ヲ以テ、封建世襲ノ本営ヲ斃シ、其ノ殘夢ヲ全国ニ覚醒シ、其ノ余毒ヲ消尽セシトシテ、欣喜スル者多キヲ知ル、吾輩モ亦タ其ノ然ルヲ信スト雖トモ、世人ガ只管ニ薩隅ヲ以テ、封建世襲ノ本営ト直指スルニ至リテハ、之ヲ誤謬ト言ハザルヲ得ズ、如何ニモ大山綱良ノ如キ県令アリテ、旧例ヲ改メズ、士権ヲ存シ平民ヲ

退ゾケ、且ツ君臣ノ礼ヲ守ラシメントシ、結髪ヲ以テ得意トスルガ如キ人アリト雖トモ、彼ノ西郷・桐野等ノ一派ナル、奇抜ヲ喜ヒ、卓落ヲ快トスルノ党類タルヤ、恰モ一種激烈ノ改革党ニ屬スル者ナリ、看ヨ、維新革命ノ後ニ在テ、藩制ノ改正ニ於ル、廢藩ノ処分ニ於ル、何レモ、守旧ノ眼光ヲ奪フニ足ルベキコトナラズヤ、然ルヲ世人ハ、一途ニ薩摩トサヘ言ヘバ、守旧ノ本営頑固ノ巢窟ト思ヒ信スレトモ、是レ亦タ偏見ト言フベキナリ、

其ノ党類タルヤ則チ此ノ如シト雖トモ、彼等カ当世ニ暗ク時務ニ疎ク、其ノ見ル所口偏頗ニ渉ル者ナキニ非サルカ故ニ、首トシテ宜ク起ルヘキノ因由ヲ失ヒ、又タ功ヲ恃ミ勝々狂ル、ノ癖アリテ、其ノ戦ヲ交ユルニ及ヒ、大ヒニ規画ノ外ノ戦況トナリ、初メニ熊本ニ敗レ人吉ニ退キ、繼テ鹿児島ニ屈シ延岡ヲ失ヒ、其極鍋田豆大ノ地ニ囲マル、ニ至レリ、然レトモ其ノ慄慄ノ名空シカラズ、幾重ノ囲ヲ叱咤一声ノ下ニ脱シ、骨ヲ他郷ノ青山ニ埋メズシテ、祖先墳墓ノ地ニ来リ、汝ガ常ニ愛玩セシ魔灣ノ浪、霧島ノ月ニ俯仰シ、我事斯ニ終ルト、砲烟ノ中ニ奮闘シテ戦死セシハ、寔ニ去ル廿四日朝陽ノ雲ヲ離ル、時ニゾアル、英雄ノ末路実ニ憐レナリト謂フベキ也、

六八 西征ノ費額用途ヲ明示セヨ 九月二十九日

賊乱已ニ平ラグ、将来ノ国是如何ヲ望ムハ極メテ緊要ノコトナルガ故ニ、吾輩ハ已ニ其ノ大綱ヲ一昨日ノ紙上ニ開陳セリ、今ヤ更ニ此ノ問題ニ向テ、逐次論究セント欲セザルニ非レトモ、會計ノ如何ヲ論議スルモ亦タ今日ニ緊要ナリト思惟スルヲ以テ、先ヅ其ノ論点ニ向テ聊カ質議スル所アラントス、

夫レ本年ノ一大戦役タルヤ、之ヲ維新革命ノ戦争ニ比スルニ、其ノ慘虐ヲ極メ其ノ人民ヲ苦マシムルノ厚薄、果シテ何レニ在ルヲ知ルベカラズ、而シテ會計失費ノ多寡ニ至リテモ亦タ其ノ如何ヲ知ラザルナリ、然ト雖トモ、維新革命ノ際ニ当テハ、百事草創ニ係ルヲ以テ、費途自ラ紛乱シ、其ノ之ヲ計算明瞭ナラシムルニハ固ヨリ容易ノ業ニ非ズ、矧ヤ封建ノ時ニ在テ、二百六十有余ノ大小藩屏ガ、汎ク兵士ヲ出サマルハナク、或ハ朝ニ幕府ヲ援ケタニ錦旗ヲ擁スルガ如キ、表裏転変ノ時ニ際スルニ於テヲヤ、然ルニ西役一劇ノ本年ニ於ルヤ、星霜未ダ久シキト言フニ非ズ、裘褐僅ニ十変ニ過キザレトモ、政令開進シテ百緒其途ヲ得ザルハナシ、已ニ今日ニ及ンデ尚未

ダ費途錯乱シテ容易ニ計算ヲ得ル能ハズ、精細ニ之ヲ分記スル能ハズト言フベキカ、吾輩決シテ其ノ然ラザルヲ信ズルナリ、

内訌紛乱ノ際ナリト雖トモ、敏捷熟達ノ官吏ガ簿ヲ開キ算ヲ取ル會計調度ノ精確ナル、誰カ復タ疑フ者アラシヤ、然ルガ故ニ、吾輩ガ専ラ政府ニ企望スル所ハ、今回戦役ノ前後惣計何程ノ金額ヲ払ヒ出シ、其ノ幾許ハ何等ノ項ニ費用セシカヲ明瞭ニ記載シテ、之ヲ汎ク人民ニ普知セシメンコトニゾアル、而シテ政府カ方ニ八ヶ月ニ垂々タル此ノ一大戦役ニ当テ、之ヲ調度シ置キタル所ノ金額ハ、果シテ那所ヨリ融通シ来テ焦眉ノ急ニ充テタルヤハ、一般世人ノ疑問スル所ニシテ、或ハ謂フ、政府ハ何種ノ準備金ヲ尽ク流用シ、又タ旧太政官・民部省ノ廢札ヲ通用シ、且ツ華族銀行ノ紙幣全額ヲ借入費用シ、且又タ新紙幣若干ヲ増発スルニ到レリ、而ルモ尚ホ此上ニ内債ヲ募ラントスルノ廟議アリト、吾輩固ヨリ其ノ確証ヲ得ル能ハザレバ、敢テ其ノ伝聞ヲ以テ尽ク信ヲ置クニハ非レトモ、旧太政官・民部省札及ビ華族銀行紙幣ノ外ニ、近来復タ一種其色ヲ殊ニセシ引替無年限ノ、所謂ペラ札ノ流通スル者アリ、世人之ヲ視テ、政府ガ新ニ増発セシ新紙



幣ナリト云フ、是レ亦タ自ラ陰蔽スベカラサル所アルガ如シ、

賊徒陸梁ヲ逞フシテ、之ガ征討ニ、全国ノ力ヲ尽スモ尚ホ其ノ戡定ヲ容易ニ期セザルガ如キ、焦眉ノ時ニ臨ンデハ、政府ガ如何ニ会計ヲ遣リ繰リシテナリトモ、其ノ平定ノ一日モ迅速ナルヲ欲スルハ言フヲ俟タザル所ナレトモ、己ニ其ノ平定ニ及ブヤ、速カニ之ガ費用ヲ精細ニ人民ニ知ラシムル、固ヨリ至当ノ事ナルヘシ、去レバトテ、吾輩ハ敢テ欧米ノ例ヲ引テ、之ガ公布ヲ政府ニ望マントスルニハ非ズ、何トナレバ、明詔ハ赫々トシテ人民ノ眼中ヲ離ル、ナク、勅語ハ歴然トシテ吾輩ガ胸裏ニ銘スルモ、未タ吾国ニ憲法立タズ、政体改マルナク、依然タル專治政体ノ国ナレバナリ、然レトモ蟻々タル進歩ハ、日ニ月ニ其ノ体面ヲ新ニスルノ今日ニ於テ、西征ノ費用ヲ全国ノ人民ニ知ラシム、是レ亦タ今日ニ為ササルベカラザル事項ニシテ、則チ立憲政体ノ一步ト思惟スルハ非平、

吾輩ガ、<sup>(征西)</sup>西征ノ費額用度ヲ人民ニ明知セラレンコトヲ企望スルハ、<sup>(役カ)</sup>則チ此ノ如シ、更ニ一步ヲ進メテ之ヲ論スレハ、今回ノ戦没ニ際シテ、将校・兵卒・馬丁・人夫ノ戦

没、或ハ病死等ノ員數ヲ明示スルハ言マデモナク、戦地近傍ノ人民ガ、一般ニ兵燹ヲ畏レ砲声ニ危ミテ四方ニ流離顛沛シ、溝壑ニ軋シ飢餓ニ斃レテ死去セシ者ヲ総計シ、且ツ家屋ノ兵火ニ罹リ私財ヲ失ヒ、家産ヲ耗シ田園ヲ蹂躪セラレテ、其ノ損亡ヲ生セシ者ハ、抑々幾許ノ多キニ至ルベキカ、之ヲ概算統計シ、以テ均シク人民ニ知ラシムルアラバ、一ハ以テ人民ガ内訌ノ畏避スベキヲ察知シ、一ハ以テ識者ガ世界各国ノ内外戦役ノ大小ヲ比較シ、他日ノ参考ニ備ヘ、統計ノ一助ト為シ、以テ内外ノ史上ニ明治第十年ノ西役ニ当テ、幾許ノ国財ヲ消亡セシカヲ、汎ク後世ニ知ラシムルニ足ルヲ以テ、是亦タ均シク政府ニ望ム所ナリ、然レトモコノ一条ノ如キハ、政務多端ニシテ顧視スルニ遑マアラズト言フニ至リテハ、吾輩モ亦タ強テ之ヲ欲スルニ非レトモ、前条ノ如キハ、敢テ之ヲ政府ニ企望セサルヲ得ス、此事タルヤ開進政府力至当ノ務メニ属スレハ也、

六九 叛徒処分論 桂忠昉 十月四日

今ヤ叛徒全ク殄滅シテ、追々俘虜降伏人ノ処分ニ着手セ

ラレタリ、謹テ其処分ノ形跡ヲ窺ヒ、是迄ノ国事犯罪人ノ処分ト比較スレハ、稍寛厚ニ出ルモノ、如シ、吾人焉ノ国家ノ為ニ敬祝セザルヲ得ンヤ、何ントナレハ、正ニ是レ人文漸ク煥發シテ息マス、人民ノ自由權利モ將ニ伸長セントスルヲトスルニ足レバ也(此ノ事項ハ余輩已ニ嘗テ論シタリ)、故ニ其処分ノ厚薄寛刻ノ点ニ至テハ、敢テ黄喙ヲ容ルノ隙アルヲ見サレトモ、情々此処分ナルモノハ何等ノ元素ヨリ成立シヤヲ回念スレハ、聊カ一言ヲ陳シテ、以テ参考ニ供セサルヘカラザル者アルヲ覺フ、雖然、此ノ裁判タルヤ、多年該県ノ内情ニ洞達シ、各自ノ意趣ヲ目撃シタル老練ノ法官ニ非ルヨリハ、精覈ノ事情ヲ探鑿シ秋毫モ不公平ノ処分ナキヲ得ザルハ、実ニ難キ者アルノミナラス、法律ノ人ヲ罪責スルヤ、固ヨリ形以下ノ事ニシテ、一々事情ヲ探鑿スルト云テ、微ヲ發キ隠ヲ摘シ苛刻ノ巧術ヲ逞フスルハ、天地ヲ含容スル仁政ノ最モ惡ム所ナルニヨリ、余輩ハ敢テ此ノ如キ所為ニ及フヲ望ムニ非スト雖トモ、罪科ノ權衡ヲ失ハサルハ、宜ク法理ノ貴重スヘキ所ナリトスレハ、如何ソ、之ヲ今日ノ所分ニ希ハサルヲ得ンヤ、且ツ見ヨ、此暴發ヲ未然ニ畜積シ、或ハ身射ラ干戈ヲ提ケテ王師ニ抗セサルモ、

四方ニ周旋奔走シテ、嗾峻、脅迫、從軍セシメ、或ハ募金ニ從事シ、或ハ竊ニ彈藥兵仗ヲ送リテ其声焰ヲ援ケ、或ハ區戸長ノ職ニ在テ、共同ノ金穀ヲ擅用セシモノト、脅迫ノ余、已ヲ得スシテ軍ニ從ヒ官兵ニ抵抗セシ者ト、其ノ罪科ハ何レカ重ク何レカ輕キヤ、是等ノ事情ヲ能ク探偵穿鑿シテ、然ル後其罪科ヲ組織スルノ元素トナサレハ、或ハ皮相ノ濶斷ニ陥リテ罪科ノ權衡ヲ失ヒ、尔來該県人心ヲ撫綏スルノ一大障物トナルコトナキヲ必スヘカラス、然ラハ今日西陲臨時裁判所ニ赴キタル刑法委員タルモノハ、其任實ニ重且ツ大ト云可シ、

余輩固ク信ス、今日ノ刑法官タルモノハ、右ニ陳述スル如キ、皮相ノ濶斷ニ涉リテ罪科ノ權衡ヲ失ヒ、永ク囚人ヲシテ慙慙憤恚其不公平ノ感ヲ起サシムルカ如キコトナキヲ、而シテ且ツ叛徒ノ処分モ未タ全ク成濟セザレハ、如何ノ美菓ヲ結ンテ人心ヲ甘服サスルモ予メ期シ難キガ故ニ、之ニ先テ黃吻ヲ容ル、ハ、殆ント余計ナル御世話ノ如クナレトモ、其実決シテ然ラザルモノアリ、何トナレハ金言ト雖トモ事ニ先ツテ議セザレバ、少モ實際ニ補益アラザレバ也、

若シ其レ賊徒ノ罪科ヲ斷スルニ当リ、畜ニ干戈ヲ提テ王

師ニ抗シタル者ノ大小優劣ニ因テ、其ノ処分ヲ決セシメン乎、譬ハハ彼ハ小隊長故懲役何年、是ハ中隊長故何年ト定ムヘシ、成程中隊長ハ小隊長ヨリモ多兵ヲ率ヒ、大隊長ハ中隊長ヨリモ多兵ヲ以テ反逆ヲ働ケハ、其罪科モ固ヨリ宜ク等差アルベシト雖トモ、熟々今般叛徒ノ実地ニ注目セヨ、始メテ叛旗ヲ翻シ肥地ニ闖入セシ一万五千ノ私学校徒ハ、大概精選ノ者共ニシテ、予メ諸郷ニ散在シ人心ヲ喉峻シ逆焰ヲ煽動シ、或ハ人民ニ強迫シテ賦金ヲ課スル等ノ挙動ヲ働キシ者ナリ、而シテ戦地ニ臨ンテハ大率皆卒伍トナリテ戦フニ過キス、又タ邊見・別府ガ援軍ヲ募ランガ為ニ、<sup>(三度)</sup>三ヒ本土ニ走セ歸リ、強迫圧制ノ余否ミナカラモ、戦ヲ欲セザレハ死アルノミノ一言ニ恐怖シテ、其募リニ応シタル者ヲ見ヨ、此時ニ方テハ、最早千百人ノ中一人ノ、甘シテ王師ニ抗シ運命浮沈ヲ砲烟劍鏑ニ際ニ任セント欲スルモノナカリシカ如シ、然レトモ其ノ隊長タルモノハ亦タ此中ヨリ選拔セラレシ也、事情此ノ如クナレハ、其裁判ヲ為スニ当リテハ、能ク詮議ヲ尽スニ非レハ、恐ラクハ罪科ノ權衡ヲ誤フコトナキニ非ルヘシ、而シテ其俘虜ト帰順トノ間ニ就テ大差ヲ立ルモ、是レ亦タ実情ニ背馳シテ、或ハ大ニ不公ノ処措ニ陥

ルモノナキニアラシ、暫クハ巨賊鹿兒島ニ歸ルノ再變ニ當テ、賊焰復タ熾ルニ至ラント妄測セシ者ノ、遙ニ其声援ヲナサント企テタルヲ見ヨ、是等ハ帰順ノ徒ニ非リシ乎、又タ一ニ止ヲ得スシテ出兵シ、二ニ止ヲ得ズシテ隊長トナリ、三ニ止ヲ得スシテ鋒鏑ヲ王師ニ交ヘ、不幸ニシテ俘虜トナリタルモノヲ見ヨ、是等ハ晴雨ヲ見テ其方向ヲ定ルノ點士、即チ前ニ帰順シテ後ニ応援ヲ謀リシ者ト其罪何レカ重キカ、夫レ前後形跡上ノ顛倒シタル内幕ノ事情如此モノアルヲ見レハ、焉ソ皮相ニ濶断シテ其罪科ノ優劣ヲ審判スルヲ得ンヤ、然ルヲ万一其ノ探偵ヲ疎ニシ其ノ穿鑿ヲ忽ニシテ、忽卒ニ処分スルアラハ、彼ノ小巨師ノ如キ地位ヲ保テ大ニ逆焰ヲ援ケタル帰順人ハ、私宅謹慎ノ寬典ヲ蒙リ、万々止ヲ得ズ泣テ馬鞭ヲ揮ヒ、不幸ニシテ俘虜トナリタルモノハ、獄窓ノ悲風ニ吟シ懲役ノ酸辛ニ苦嘗スルニ至ルヘシ、思フテ茲ニ至レハ、余輩豈ニ予メ一言ヲ陳セザルヲ得ンヤ、然リト雖モ、余輩ハ固ヨリ真ニ罪跡ノ疾ムヘキ者アレハトテ、之ヲ嚴科ニ処センコトヲ欲スルニ非ス、唯其レ今回叛徒ノ処分タル、一ハ明治政府ノ光耀ニ関シ、一ハ鹿兒島尔来ノ綏撫ニモ渉ル者アルヲ以テ、前後実地ノ事情

ヲ能ク探鑿シテ、罪科ノ權衡ヲ誤マルコトナク、不幸者ヲシテ独リ不公ノ念ヲ懷カシムルカ如キコトナカラント欲スルニ在リ、古人云ハスヤ、処置當ヲ得テ人心服スト、信ナル哉、

## 七〇 戦地人民救恤ト民会 十月九日

乱後ニ当リテ戦地ノ人民ヲ振救スルハ、明治政府ガ後事ヲ処スルノ一大要務タリ、而シテ此ノ恩典タルヤ、漸クニ政府ノ施行スル所ニ係リ、熊本地方ノ如キ鹿児島近傍ノ如キ、何レモ不幸ノ人民ヲ振救シテ其処ヲ得セシメンコトニ着手セラレシハ、其間髪ヲ容レサルカ如ク、戦塵此ニ収マルノ後ニ継キシト雖トモ、鹿児島ノ如キハ、漸ク其ノ措置ノ端緒ニ就ントスルニ際シテ、再ヒ賊隊ノ城下ヲ遮蔽スルニ際シ、前功尽ク廢スルノ遺憾ヲ抱カシメタリ、是レ豈ニ慨嘆ニ堪ヘサル者ト言ハサルヘケンヤ、然レトモ熊本地方ニ於テハ、尔後幸ニ平寧綏<sup>(平)</sup>ヲ保テ、救恤ノ処分モ益ク不幸ノ人民ニ普及スルニ至ラントス、論者カ其ノ処措ノ如何ニ出ルト人民ノ意想如何ニ在ルトヲ伺ヒ望ムモ、亦タ時期ノ然ラシムル所ト謂フベシ、

我輩之ヲ報道ニ聞ク、熊本県官カ振恤ノ規則ヲ奉シテ、人民ノ救興ニ従事スルハ、孳々トシテ勉メサルニ非サレトモ、今回ノ災厄ニ係リシ無数ノ人民ニ就テ、逐一ニ其ノ精細ヲ勘査スルハ固ヨリ、僅少ナル県官ノ能ク及フ所ニ非サルニ由リ、勢ヒ調べ出シノ帳簿上ニ拠ラサルヲ得ス、而シテ区戸長等ガ取調べノ帳簿タルヤ、或ハ鹵莽疎率ニ涉リ、大ヒニ実地災害困難ノ多少ト相違ノ廉ナキコト能ハス、然ルニ県庁ノ振救ヲ施スヤ、其ノ帳簿ニ拠テ其ノ差等ヲ立ルカ故ニ、時アリテ不幸ノ極度ニ陥ル者モ、成規通りノ恩典ニ浴スルヲ得ス、又タ實際ハ其レ程ノ艱難ニ逢ハサルモ、或ハ最上ノ振恤ヲ蒙ル者アリ、是ニ於テカ、民間往々ニ其ノ所分ノ公平ナラサルヲ、咨嗟スル者ナキニ非スト、又タ聞ク、士族中ニハ今日トナリテモ、猶ホ順逆ヲ誤リ向背ヲ失フ者アリテ、県庁ヨリ仁慈ノ恩救ヲ施サントスルモ、或ハ寧ろ餓死スルトモ不義ノ食ヲ受ケス環ト、迷離スル不心得ノ者ナキニ非スト、又タ聞ク、県庁ニ於テハ、追々ニ力作場トデモ言フベキ者ヲ設立シテ、非常ノ困難ニ陥リシ者ヲ使役シ、目下生活ノ途ニ就カシムルノ方法ヲ案セラルカ如シ、然レトモ今日ノ状況ニテハ、果シテ其ノ特恩丈ケノ成功ヲ奏スヘキト

否トヲ予定シ難シト、

右ニ述ル所ハ、正シク其ノ然ルト然ラサルヲ確知シ能ハサルモ、今日ノ状況ヨリ推想スルニ、或ハ斯ル事情アラシモ知ルヘカラス、如何トナレハ、今回ノ戦争ニ就テハ、肥後地方ノ一部トテモ、人民ノ流離顛沛ニ陥リシ者、其數果シテ幾許ナルヲ測リ難シ、測ラレサルノ多數ニ就テ、一々ニ公平均一ヲ誤マラサルハ、蓋シ難事ト言ハサルヲ得ス、而シテ所謂力作場ノ如キハ、未タ其ノ施設ニ係ルト否ヲスラ知ルヘカラサルヲ以テ暫ク之ヲ措クモ、熊本士族ノ冥頑ナル、或ハ仁恤ノ典ヲ以テ、不義ノ食ト誤認スル者アランモ測ラレサルノ場合ナレハ也、果シテ此ノ如キコトアラシメハ、政府カ折角用度殆ント支ヘ難キノ折ヲ以テ、人民ノ怠救恤<sup>（支）</sup>ヲラス、臨時非常ノ洪費ヲ要スルモ、其ノ苦心ニ応スルノ裨益ヲ人民ニ及ボサザルコトナシトモ言フヘカラス、況ンヤ此ノ振恤ハ、特ニ肥後地方ニノミ止マラス、豊後ニ日向ニ大隅ニ薩摩ニ、宜ク其典ヲ奉行スヘキ所ナリ、而シテ其ノ措置ノ得失ハ、実ニ民心ニ影響スルノ大ナルヲ見レハ、如何ソ其宜キヲ失ハサルノ方法ヲ求メサルヘケンヤ、

我輩ノ所見ニ拠レハ、今日コソ宜ク其ノ処分ヲ地方民會

ニ謀ルヘキノ時ナリ、暫ク報道ニ係ル者ヲ以テ太過ナカルヘシト仮想セヨ、其ノ人民カ災害困難ノ多少ヲ詳悉スルハ、決シテ僅少ナル県官ニ望ムヘカラス、而シテ県官ノ依ヨリ以テ其ノ調査ヲ謀ル所ノ区吏村役人トテモ、畜ニ人員ニ限リアリテ、及フ能ハサルノ遺憾アルノミナラス、彼レ亦タ官吏ト略ホ其類ヲ同フス、其ノ官ノ為ニスルト民ノ為ニスルノ浅深ヲ問ハ、或ハ人民ノ為ニスルノ浅キヲ免カレサルヘシ、然ラハ則チ其ノ調査ニ疎漏ナキ能ハサルモ亦タ、何ソ怪ムニ足ランヤ、若シ其レ然ラハ、宜ク其ノ人民ノ為ニスルノ深キ者ヲ擇ヒ、以テ其ノ調査ヲ託セサルヘカラス、苟モ方法ヲ此点ニ傾クレハ、民會ヲ捨テ其レ誰ソヤ、而シテ彼ノ仁惠ノ典ヲ以テ不義ノ食ト誤認スルカ如キ者ヲシテ、漸ク其ノ正軌ヲ得セシムルモ、官ヨリ之ヲ論スト同儕ヨリ之ヲ論スト、其感ヲ与フルノ差等アルハ、固ヨリ言ヲ俟サル所ニシテ、是レ亦タ之ヲ民會ニ謀ルモ不可ナカルヘシ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、戦地人民ノ措置ニシテ其宜キヲ失ハサラントセハ、其レ唯タ民會ヲ設置シ以テ之ヲ謀ルニ在ラン乎、

## 七一 言論ノ自由ハナホ許スベカラザルカ

十月二十九日

鹿兒島ノ賊已ニ滅ブ、発論ノ自由ハ猶ホ之ヲ今日ニ許スベカラサル乎、若シ猶ホ許スベカラズトスルノ論者アラバ、我輩ハ之ヲ目シテ、其ノ時勢ヲ察セザルノ肉眼者タルハ固ヨリ論ナク、又タ氣運ノ進動ヲ阻礙スルノ甚ダシキ者タリト言ハンノミ、

抑々発論ノ自由ヲ鉗制スルノ不是タルハ、言ヲ俟タズシテ知ルベシト雖トモ、国勢人心ノ然ラシムル所亦タ、之ヲ抑束セザルベカラザルノ場合ナキニ非ズ、是レ文明ヲ以テ世界ニ誇負スル欧州各国ト雖トモ、亦タ一概ニ其ノ自由ニ任スヲ得ザル所ナリ、若シ夫レ其ノ自由ヲ許スモ不可ナル所ナキノ場合ニ際シテ、猶ホ未ダ其ノ鉗制ヲ解カザルガ如キアラバ、寧ロ不是タリ不可ナリト言ハザルベケンヤ、且ツ之ヲ我邦ニ徴セヨ、廢藩置県以後士族ガ文武ノ常職ヲ解レ、從テ変革ヲ祿制ニ及ボサレ、漸ク生活ノ目途ヲ失フニ至リシヨリ、其ノ不平ハ心中ニ鬱結シテ益々募リ益々長シ、事コソアレカシト冀望スル党与ハ、全国中殆ンド枚挙スルニ遑アラザルノ勢ヲ成セシニ、西

郷・江藤ヲ始メトシ、一時ノ名士ガ征韓論ヲ以テ内閣ヲ退キシヨリ、愈々一層ノ紛紜ヲ増シ、一道ノ殺氣ヲシテ明治ノ聖代ニ雲霧タラシムルニ至レリ、此時ニ当リ、江藤ハ早ク佐賀ニ滅ビシモ、西郷ハ隠然鹿兒島ニ拠テ、宛モ虎ノ嶋ヲ負フガ如キノ勢ヲ為シ、其他山陽ノ一隅ヨリ鎮西ノ各処ニ至ル迄、往々政府ニ唾叱シテ、一タビ時機ノ乘ズベキアラバ、起リテ不平ヲ干戈ニ訴ヘントスルガ如キノ党与ヲ、隱伏スルニ非ザルハナシ、時勢此ノ如キニ際シテ、文壇詞上ノ論客モ、漸ク目的ヲ政談ノ一方ニ傾ケ、動モスレバ政府ノ非違ヲ攻撃スルニ憚カラズ、其ノ之ヲ攻撃スルハ則チ可ナリト雖トモ、或ハ不満ヲ抱キ鬱結ニ沈ムノ流亞アリテ、名状スベカラザル暴言ヲ吐キ、人心ヲ教唆スルガ如キ者ナキニ非ズ、然ラバ則チ政府ガ新聞条例ヲ発行シ、其ノ違犯者ヲ処分スルヲ等閑ニセザリシモ亦タ、時機ノ止ヲ得ザル所アリト謂フベシ、

右ニ陳ズル所ニ拠テ之ヲ推論スレバ、政府ガ容易ニ発論ノ自由ヲ許サマリシハ、敢テ其自由ヲ与ヘンコトヲ欲セザルニ非ズ、之ヲ与フレバ禍毒ノ及ブ所愈々不平党与ヲ煽起シテ、国安ヲ揺撼シ民福ヲ傷害スルノ恐レアリシガ為メナリト思惟セザルヲ得ズ、若シ此ノ觀察ニシテ其当

ヲ誤ラザラシメバ、宜ク一步ヲ進メテ、今日ハ則チ前日ト其勢ヲ異ニスル所ナキカ否ヤヲ問ハザルベカラズ、昨年ニ在テ神風党ハ首トシテ熊本ニ起リ、余燄繼テ秋月ニ及ビ、前原一誠モ亦タ此時ヲ以テ叛旗ヲ萩ニ飄ヘセシト雖トモ、何レモ日ナラズシテ撲滅ニ就キ、先ヅ鎮西・山陽ノ兩道ニ在テ不平等与ノ幾分ヲ戡定シタル也、歲月斯ニ改マリ、今春西郷ガ鹿兒島ニ蹶起スルニ及ンデヤ、佐賀ハ如何アラン、久留米・柳川ハ如何アラント思ヒシモ、敢テ暴挙ヲ謀ル者ナク、福岡・萩ノ草賊ガ、忽然起リテ<sup>(忠)</sup>俟焉滅スルノ小事變アルニ過ギズ、而シテ鹿兒島ノ賊乱正ニ平ラグニ至テヤ、熊本ト言ヒ飢肥ト言ヒ延岡ト言ヒ高鍋ト言ヒ、苟モ起リテ叛党タリシ者ハ、或ハ降り或ハ戮セラレ、九州地方ヲ挙テ其不平ヲ干戈ニ訴ヘントスルガ如キノ党類ハ、今年ノ一挙ヲ以テ殆ンド剿滅シ終レリト言フモ亦タ可ナリ、

此ノ如キモ猶ホ発論ノ自由ヲ許サバ、暴言激論以テ人心ヲ教唆シ、国安ヲ揺撼スルガ如キノ恐レアルベシトセン乎、(仮令暴言ヲ吐キ激論ヲ唱へ、政府ニ睚眦スルノ甚シキモノアルモ、其ノ影響ヲ及ボスハ西郷ノ背叛ト何レカ大小アリトナスベキ乎、威名全国ニ轟キ、天下ノ人心ヲ収

攬セシ西郷ニシテ、慄悍無比ノ薩兵一万五千ヲ率ヒ、怒濤ノ山嶽ヲ捲クガ如キノ勢ヒヲ振ツテ熊本ニ乱入セシモ、其ノ之ニ応ズル者ハ僅ニ日隅肥豊等ノ數國ニ止マリ、其他全国ノ諸道ヲ挙テ帖然動ク所ナカリシニ非ズヤ、是レニ由テ觀レバ、(仮令何程激論ヲ唱へ、暴言ヲ吐クノ論者アルモ、何ゾ国安ヲ揺撼シ一世ヲ攬乱スル程ノ影響ヲ及ボスヲ憂フルニ足ラン、況ンヤ已ニ発論ノ自由ヲ許ストモ、其ノ国安ヲ妨害スルガ如キ者ハ、敢テ之ヲ不問ニ附スベキ者タラザルニ於テオヤ、而シテ彼ノ議論ヲ抑束スルノ弊タルヤ、一向ニ向ツテハ政府ノ改良ヲ妨ケ当局者ノ警戒ヲ疎ニシ、一方ニ向ツテハ社会ノ進歩ヲ塞キ人心ノ鬱結ヲ醸シ、之ヲ要スルニ氣運ノ進動ヲ害スルノ甚タ大ナル者アリト言ハザルヲ得ズ、我輩ハ更ニ他日ヲ俟テ之ヲ細論スル所アルベシト雖トモ、先ヅ其端緒ヲ開クヤ如此、

## 丁丑擾乱記 (一)

### 一 私学校徒火薬庫襲撃

(二月三日)

○本日汽船三邦丸大坂ニ向テ出港ス、火薬製造所官員郷

田某、掠奪ノ始末御届ノ為上京セリ此船ヨリ岩下竹次モ私用ヲ以テ上京ス、後ニ暴徒等擄

ト云、○二日造船所出張ノ官員佐々木某ヲ捕ヘテ、庭

前ノ池中ニ抛シ暴辱シタリト云、同氏カ掠奪ノ輩ニ向

テ大論シ、而シテ島津兵庫カ旧別荘趾倉庫ニアル火薬

ニ水ヲ注キ、不用ノモノトナセシ故暴徒之ヲ憤リ、斯

ク暴辱シタリト云、佐々木ハ同僚桐野等ノ介抱ニ逢ヒ、

池中ヨリ遁レテ山中ニ潜伏スルコト一晝夜間ニシテ宿

所ニ帰り、傷所ヲ療シ後帰京セリト云、○同氏カ火薬

ヲ水ニ抛シ或ハ水ヲ灌キタルハ、最モ能キ処分ト云フ

ヘシ、○桐野桐野英之丞ハ造船所出張ノ官員ナリハ暴徒ニ取包マレ、製造所内

ノ土蔵ニ押込ラレシコト一晝夜間、弟桐野ハ其事ヲ聞

テ走続キ土蔵ヨリ出シ、兄弟俱ニ必死ノ攪護ヲナシテ

官局ヲ守レリト云、

○十年二月三日、土曜日、雨霰終日ニシテ、夜ニ入り止

ミタリ、冷氣甚シ、○本日ハ午後四時頃ヨリ各所ニ運

ヒ置キタル彈藥ヲ、暴徒等ノ自宅、或ハ私学支校ヘ分

配運漕セリ、荷車・人力車或ハ荷馬ヲ以テ、暴徒等自

ラ運輸ス、其盛ナル実ニ言語ニ尽シ難シ、皆人縮眉交

乱判然タルヲ憂ヒ、方向ヲ定ムルニ苦ム者多シ、暴徒

等ハ傲然横行スル人ナキカ如シ、○掠奪セル彈藥ノ數

幾千ナリヤ知ルニ由ナシ、○邊見平郎也・淵邊平郎也ハ篠原・松永清之丞

等(新次郎)ト、一日ノ朝ヨリ私学校ニ於テ大論、邊見ハ大ニ

不可ナルヲ論シ、掠奪セシモ倉庫ニ復収シ、護衛ヲ置

キ、事ヲ揚クルニ臨ンテ取出スヘシ、火ノ用心懸念ナ

リト云、篠原曰ク、一理アリト雖モ、爰ニ至ツテハ、

速ニ大挙ヲ着手スヘシ、県内ノ人心我党ニ一定スト謂

ヒ難シ、煽動シテ定策ヲ用ユルヲ專要トス、然ラサレ

ハ旧知事ニ附屬シ我ニ拮抗スルモノ多カラム、或ハ臆

怯ノ県官等因循説ヲ立テ、島津家ト同心、我ニ抗スル

ハ疑ヲ容レス、今我カ曹目下ニ擲トスルハ島津家ニア

リ、如何トナレハ、旧恩ヤ何ヤト謂テ彼ニ從屬スル者、

薩隅日中ノ半バ以上ナラン、我ニ附屬スルハ三分一ニ

足ラサルヘシ、殊ニ老公云云ハ例ノ漢学論ヲ以テ、種

々異論ヲ起スハ必定ナリ、加之内田(政頭、家也)ナル頑ナルアリ、

故ニ人心ヲ一定センニハ、彈藥類悉皆取り尽シ、製造

所ノ官員ハ残ラス捕縛シ、県官異論ヲ起スモノハ悉ク

縛シ、而シテ嘯聚大挙スヘシト云フ、兩名モ後ニ同意

スト、此際西郷ハ鹿狩セント高山(肝属部)・内之浦郷(肝属部)ニ遊行セ

リ、邊見ハ一日ノ午後二時頃ヨリ晝夜兼行、西郷カ迎



ニ出行セリ、○本日<sup>(鹿兒島縣)</sup>大山綱良私学校ニ行テ篠原等ト議シテ曰ク、斯ク成立タル上ハ、時ノ至ルト到ラサルトヲ論セス、大挙スルニ外ナシ、西郷モ果シテ同意ナラント、談刻ヲ移シタリト云、

○十年二月四日、雨、冷氣甚シ、昨夜ヨリ少シク暖カナリ、○暴徒ハ各所ノ支校ニ集会シ、掠奪セシ彈藥分配等益騒然タリ、○同六日ノ夜入過キ、西郷ハ邊見等ト俱ニ帰家ス、桐野・篠原・村田<sup>(新)</sup>・淵邊・邊見・松永等其他數輩西郷カ宅ニ集会、徹夜大論激議スト云フ、○西郷ハ高山郷ノ旅宿ニ於テ、邊見掠奪ノ始末ヲ告ルニ、聞モ終ラス大息シテ曰ク、斯ル挙動ヲ為シテハ天下ニ対シテ顔ナシ、事爰ニ極レリト謂テ、其細事ヲ聞カサリシト、帰家集会議論ノ時モ、唯聞ノミニシテ口ヲ開カス、村田・池上モ同シク默然タリト云フ、

○十年二月五日、雨霰、寒氣甚シ<sup>上年二月五日夜西郷ハ歸家ス、校員數十名会聚ス、○同六日朝未明</sup>大山西郷カ宅ニ行ク、七日私学<sup>校ヘ行ト口供ニアルハ誤ナリ</sup>、大山綱良西郷カ宅會議ノ席ニ列

ス、其議スル所ノ如何ヲ知ルモノナシ、○本日午後四時ヨリ、校員壯年輩百余名ヲシテ、西郷カ宅ヲ警衛シ、門前通行ノ人ヲ驗査ス、五日ノ夜ヨリ八日十時頃ニ至迄晝夜甚タ嚴重ナリ、○警衛ノ校員ハ銃器・刀槍ヲ携

ヘタリ、○或ハ上・下・西田町其他鹿兒島中暴徒等、刀劍ヲ帶シ棒ヲ携ヘ、五六名乃至十余名伍ヲ為シテ巡邏ス、其暴威驚愕ニ余アリ、人民危懼声ヲ吞ム、○是ヨリ先キ一月ノ半バ頃ヨリ、梟情搜索ノ為メ、同県ヨリ出仕ノ巡査等數十名下原セリトノ説アリ、○本日午後二時頃大山綱良・警部中島等密議數刻ニシテ、私学校員數百名ヲ集メ、各所ニ分配シ、中原尚雄其他ノ輩捕縛ニ着手セリ、

## 二 中原尚雄其他數名捕縛

○十年二月六日、晴朗、暖、○伊集院<sup>(日置郡)</sup>郷士族中原尚雄其他同徒十余名ヲ捕縛シ來テ、鹿兒島廣小路ニアル第一分署ニ繋ク、捕手ハ巡査ニ非ラス、悉ク私学校員ノ壯年輩ナリシト、而シテ糾問問責甚シカリシト云、○市街益騒然聲目声ヲ吞ム、○道路ノ説ニ中原尚雄等カ輩、東京ニ於テ警部巡査ノ職ナリシカ、政府ノ密命ヲ奉シ、辭職ノ名ヲ以テ歸県、私学校員ニ離間ノ策ヲ容レ、西郷ヲ初桐野・篠原或ハ久光公ヲモ暗殺セントノ密謀発攪シ、斯ク捕縛セラレタル者ナリト喋々ス、○捕縛セ

ラレシ人々ニハ、中原尚雄・原田長輝・松山信吾・野間口兼一・管井誠美・末弘直方・安樂兼直・土持高・高崎親章等九名余ナリト、

○十年二月七日、雨、暖、本日ニ至テ、世上益騒然人心危懼、低声私語スルノ形勢ナリ、○中原等ノ一類就縛セラル、モノ多ク、或ハ一向宗説教師ノ僧侶鐵然(天洲)ヲ初數輩、其外他県人ハ悉ク捕縛セラレタリト云、○本日造船所或ハ火巧所・火薬製造所ノ官員ヲ放逐シ、暴徒入り代リテ大砲彈藥製造ニ着手ス、○官員ヲ放逐スルニハ、一時此局ヲ県庁ニ預ルトノ趣ヲ以テ、県令大山ヨリ官員ヘ演達セリト云、鹿児島人官員ハ悉ク賊勢ニ恐懼シ、從屬シテ製造ニ從事シ、他県ノモノハ引テ旅宿ニ潜居ス、県人ノ官員竹山正右衛門ハ賊徒汾陽五郎右衛門ニ強迫セラレ、製造ニ着手シタリ、統テ各局ノ官員ハ悉ク賊員ニ左袒シ製造ニ從事セリト、賊徒ニ降伏シタル官員ハ、竹山ヲ初メ新納軍八・法元英介・勝部某・西俣清八・川上英之介・木脇休五郎・小山田某・遠矢某・下河邊某等数名ナリ、

### 三 暴挙ニ決シ西郷宅ヲ出テ私学校ニ入ル

○十年二月八日、午前九時頃西郷隆盛ハ宅ヲ出テ、旧厩趾ニアル私学校ニ入ル、之レヨリ賊員該校ヲ本営ト唱フ、中途護衛ノ賊員凡三十余名、銃器ヲ携ヘ刀ヲ帶シタリ、西郷ハ羽織袴ノ服ニテ大小刀ヲ帶シタリト云、○当日該校ニ入りテヨリ、再ヒ帰宅セス、而シテ賊員ハ西郷大将ト唱ヘ、或ハ桐野・篠原モ少將ノ名ヲ以テセリト、賊員頭立タル者モ悉ク該所ニ屯宿スルモノ多シ、故ニ西郷カ邸宅警衛ハ本営ニ転シ、銃器ヲ携ヘ刀劍ヲ帶セル者數十名、昼夜ノ警衛軍營ニ異ナラス、或ハ市街・士族街モ辻々橋々毎ニ數十名立番シ、或ハ巡邏最モ嚴ナリ、加之横暴ノ挙動多ク、人民ノ困難言語ニ尽シ難シ、○上・下町ノ海岸ニハ六七百名ノ暴徒昼夜警備ス、或ハ西田町・水神坂・祇園洲・両吉野筋等モ多少警備ノ兵ヲ置キ、往来ノ人ヲ驗査スルコト甚暴ナリ、或郵便局ニ賊員四五名人込ミ、書翰ヲ開封シ驗閱ス、○是ヨリ先キ谷口東太・兒玉軍治ナルモノ、中原尚雄等ト同論ナリシカ、有馬藤太ニ密告セシ者アリ、此一段ハ後ニ詳記ス、○有馬東太ハ一月末淵邊・邊見

等ト謀リテ東京ニ出、警部ニ奉職シ、大久保・川路ノ  
 両名ヲ暗殺セント、此際既ニ上京セリ、○有馬カ上京センハ暗殺ノ策ノミニ非ルトコロアリント云フ、中原等ノ数十名ハ、警察第一分署ニ  
 於テ、呵責拷問ニ及ヒ、既ニ白状セリト喋々ス、

○十年二月九日、晴朗、暖、春色稍催セリ、世上益騒擾  
 人心洶々、○中原等ノ党類本日迄就縛ノ者三十余名、  
 其他政府ノ間諜ト嫌疑シ縛セラレシ者、他県人或僧侶  
 等四十余名ニ及ヘリト云フ、○各製造所ハ昼夜ノ別ナ  
 ク製造ニ従事シ、来ル十三日迄ニ悉皆全備スヘキノ令  
 ヲ下セリト云フ、○爰ニ至テ私学校ニ加入出軍セント  
 冀望スル者続々、十四五年ノ少年ヨリ五十年ノ者モ、  
 昼夜奔走シテ加入セリ、加員セサレハ中原等カ党類ト  
 唱ヘラレ、或ハ政府探訪ノ一部類ナラント、婦女子輩  
 モ私語クノ勢ナルカ故、如此懇望スルニ至レリ、○或  
 ハ少シク思慮アル者ハ擾乱ノ頭像、其暴勢ノ島津家ニ  
 波及センコトヲ憂ヒ、臨機警衛シ旧恩ニ酬シコトヲ冀  
 望シ、名簿ヲ出スモノ尠ナカラス、中ニモ私学校ヲ嫌厭  
 スル者ハ悉ク島津家ニ附従シ進退セントスルモアリ、  
 諸郷ハ殊ニ両家ニ属スル者多シ、故ニ当時県内ノ七族  
 ハ両派ニ分レ、稍仇視スルノ勢トナレリ、島津家ニ属

スル者ハ、臣道ヲ守ルノ一途ニシテ、言行共ニ温順、  
 私学校員ハ兇暴、其勢鋭当ルベカラス、実ニ氷炭月籠  
 ノ違、

#### 四 当時鹿兒島形況并汽船来港

○十年二月十日、雨、暖、○本日モ捕縛セラレシ者六七  
 名、諸郷ヨリ来レリト名詳ナラス、○午前十一時頃汽船一艘  
 入港ス、軍艦ナリト、市街騒然タリ、党員ハ旧厩趾私学  
 校ヘ走続キ、守防ノ預備ヲナセリ、○關係ナキ人ハ彈  
 藥掠奪問罪ノ為メ、渡来センナラント痛嘆ス、輕輩ニ  
 至テハ家財ヲ片付ケ、老幼ヲ携ヘ遁逃ス、実ニ戦端開  
 キタルカ如シ、○這船ハ投錨セス、徐々運航シテ磯製  
 造所冲辺、或所々砲台ノ様子ヲ窺フ形ニ見ヘタリ、午  
 後三時頃ニハ出帆ス、衆皆此挙動ヲ怪ム、全ク斥候ノ  
 為メニ渡来シ、斯ク乘リ廻リテ窺ヒ、不日大挙シテ軍  
 艦来ルヘシト人心甚々騒擾タリ、○碇泊ノ汽船鹿兒島  
 丸・太平丸・寧清丸ハ、去ル三日ヨリ暴徒乘込ミ警衛  
 シタリ、太平丸ハ神戸ヨリ来港、琉球ヘノ郵便船ナリ  
 ト云フ、乗客モ多ク野村綱モ此船ヨリ帰レリ、○這汽

船三艘ト小汽船迎陽丸ハ、不日兵隊運漕ノ見込ニテ、暴徒カ乗込シテ固メタルナリ、○太平丸ハ琉球ノ乗客モアレハ、一時航海ヲ許スベシト、大山綱良、西郷等ニ議シタリト云、○或ハ琉球ノ分官ヲ襲フテ、在金井銃器彈藥ヲ奪フノ策ヲ施シタリト云フ、○後ニ詳記スヘシ、

## 五 高雄丸來港大山綱良川村海軍大輔ニ面接

### 西郷モ乗艦セントス

○十年二月十一日、日照後雨、寒冷、○午後一時頃高雄丸入港、市街大ニ騒動シ、問罪ノ軍艦ナラント、心アル人ハ甚タ痛嘆ス、暴徒ハ小舟數十艘ニ取り乗テ、同艦ニ乗込ミ掠奪セント、然レトモ本艦ニ接近スルヲ得ス、暴客ナリト雖トモ、単兵或小銃位ニテ掠奪センノ策笑フニ堪ヘタリ、艦中之ヲ察シタルニヤ、投錨セス運動シテ形勢ヲ偵フノ様子ナリ、○高雄丸ハ脚舟ヲ御シ、官員二名ヲ乗セテ下町海岸ニ上陸ス、之ヲ見テ上陸セサル前ニ、暴徒ハ狩人ノ猪鹿ヲ見タルカ如キ勢ニテ、上陸スルヤ否ヤ直ニ捕縛セントス、二官員曰ク、

我々ハ遁逃スル事ナシ、縛ハ止メニセヨト云、故ニ縛セシテ下町海岸通林某カ宅ニ護送ス、暴徒宅ヲ囲ンテ警衛ス、二官員曰ク、此艦中川村海軍大輔・林内務少輔乗込ミタリ、西郷氏并ニ県令大山氏ニ面語セント使命ノ者ナリ、右ノ趣ヲ兩名ニ通知セムカ為メニ、上陸セリト云フ、故ニ縛セサリシト川村純義氏ヨリ聞ク処ノ説ト異多キナラム、尚十詳究スヘ、○西郷此事ヲ聞ヒテ曰ク、一面働ナルコトヲ云フモノカナ、ナゼニ切ラサリシヤト、怒色ヲ顯ハシテ謂ヘリト云フ、暴徒等モ此語ヲ聞ヒテ、今日ハ御機嫌カ悪ヒヨト私語キシト此説虚説ナラム、○西郷ハ川村・林ニ面会セントス、邊見・淵邊等停メテ曰ク、兩名甚タ奸黠且ツ昨日ヨリ我海岸ノ様子ヲ偵ヒ、而シテ今日來港シタル謀計アルヤ疑ナシ、危ニ臨ムベカラス、邊見・淵邊ノ二名面シテ論スル処アラントス、且其序ニ壯兵ヲ乗込マシメ、川村・林等ヲ縛シ或ハ誅シテ、艦ヲ我カ有トセント議ス、衆皆良策ナリトス、大山綱良其決議セル際來会、此策ヲ非トシテ曰ク、兎モ角モ自分一名面語シテ渠ノ胸中ヲ探リ、ダマシテ我ニ助力サスルニ如カス、其上渠カ挙動ニ由テ後策ヲ施スヘシト、大山一名高雄丸ニ行ク、衆皆隨行セント云フ、大

山背ンセス、一名乗艦シテ、両氏ニ面語シテ稍久シ、大山艦ヨリ帰ルヤ、程ナク同艦ハ出港ス、揚陸ノ両官吏ハ置テ去レリ、○大山ハ西郷等ニ川村・林ト面語ノ趣ヲ語テ曰ク、川村等彈藥掠奪ノ事由ヲ尋問セリ、大山曰ク、其因由タルヤ、大久保・川路ノ両名カ、刺客中原尚雄等ノ数十名ニ密命シテ、西郷・桐野・篠原ヲ暗殺シ、且私学校員ヲ離間センノ奸謀発覚シ、而シテ事爰ニ至レリト告ク、両氏愕然嘆息流涕セリト云、稍在テ川村曰ク、然ラハ暫時出発ヲ猶予スルノ取計様ハナキヤト云、然ルトキハ大山曰ク、至当ノ処分トナラハ肯ンセムト、川村・林曰ク、尚上申シテ再ヒ来港シ告ル処アラント云、大山曰ク、其儀ハ受合ヒ難シ、存シ通リノ人氣ナレハ、猶予スル甚タ難シ、殊ニ斥候隊既ニ進発セリト云フ、此時川村・林黙然タリ、大山曰ク、彈藥モ一名ニ二千発余ノ用意、大砲三十丁位、兵士モ殆ント五万ニ近シ、県内ノ士族残ルハ少カラム、軍用ノ金穀庫在合モ悉皆渡シタリト、一体事ヲ巨大ニ咄シタルニ、川村等答詞ナク唯黙聴セリト、大ニ愉快トシテ語レリト、暴徒欣然タル者多シ、(池上・村田) 二名ハ黙シテ大ニ憂色ヲ顯セリト、衆皆之ヲ怪ム、西

郷ハ手ヲ組ンテ聞クノミナリシトゾ、大山亦曰ク、川村等ハ既ニダマシタリ、決シテ戦ニハナラサルヘシ、(利通、内務卿) 帰京シテ大久保・川路ヲ罪シ、和睦ヲ謀ルヘシ、若シ(利良、大警視) 両名カ建論行ハレサルトキハ、川村ハ軍艦四五艘ヲ以テ我ニ帰スルハ、疑ヲ容レサルナリ、林モ兼テ尻子ヲ抜キ置キシ故、川村カ進退ヲ見テ左袒スルニ違ヒナシト云フ、淵邊・邊見等ハ大ニ喜色ナリシト、(大山カ言ハ當時ニシテ思ヘリ云々) ○西郷曰ク、川村ハ十二四五ハ我ニ助力スヘシ、此一名ヲ取込ムトキハ海軍ハ全ク我カモノナリ、熊本ニハ(鎮台參謀) 樺山資紀アリ、肥境ニ我軍進マハ、一ニ大隊ノ台兵ハ我ニ帰スヘシト云フ、淵邊曰ク、右外ニ熊本土族ニモ三四千ノ見込アリ、佐賀・福岡・秋月・久留米其外土・長・因・江ノ四州或ハ庄内・若松・石川県等統々蜂起スヘシ、専使カ各県ニ至リ、中原等カ口供ヲ見テ、四方ニ勃興スルハ疑ナシト云、大山又曰ク、熊本ニテハ五ツ組ノ料理ニテ待ツ位ナラム、(下関) 馬関ニテハ川村等カ迎ノ汽船アルヘシ、面白ク花ヲ詠メテ上着スヘシト、種々欣々タル快談ナリシトゾ、豈迂ト謂ハサルヲ得ンヤ(大山・側近等カ皆軍略上ノ言ナラム、今ニテハ笑フ、雖トモ、當時ノ形況ハ是ニ類シタル説多カリキ)

上リタリト、○造船所ニハ大砲ノ車架、火薬製造・火  
功製造所ニハ大小砲彈藥ノ製作、去ル五日ヨリ昼夜ニ  
掛ケテ製造セリ、職人初メハ無給ニテ加勢スヘシト、  
県庁ヨリ令シ数百名ヲ募レリ、昨七日ヨリ昼夜五度賄  
ヲ与ヘ、是迄製造所ノ給分倍高ヲ与フヘシト令シタリ、  
頑愚ノ職人等大ニ勉強ス、○製造掛ノ人ニハ竹山盛隆・  
新納軍八・西俣盛良・木脇盛香・法元英介・勝部堅介・  
下河邊行隆・谷村武右衛門等ナリ、皆三製造所官吏ノ  
輩ナリ、○竹山ハ谷山硝石丘在勤ナリシカ、三十一日  
ノ夜掠奪ノ事ヲ聞テ婦家潛匿セシニ、汾陽五郎右衛門  
ハ朋友ニテ、強迫説得セラレ遂ニ党与シ、而シテ外官  
吏ニ先達テ製造ニ尽力セリト、外官吏モ同人ニ説得セ  
ラレタルモ多シト云フ、○町田甚助ナル人ハ十日計前  
ニ廢黜セラレ、掠奪ノコトヲ傍聞シ、其後製造所、賊  
ノ有トナリテ、賊員ヨリ復役云々告来リシニ、該書ハ  
破棄セントセシヨ、書面ハ本人へ渡スヘシト議シテ遣  
シタリト、幸運トモ云フベシ、○三製造所俱ニ標札去  
ル六日ニ掲ケ替ヘタリ、○六七日頃ヨリ、日々諸郷ヨ  
リ出軍冀望入校セント続々走出ツ、実ニ雲屯露集トモ  
云フベシ、上・下・西田町或鹽屋町辺モ旅宿ナラサル

ハナシ、其他各小学校ニハ鹿兒島ノ人員昼夜宿當シ、  
県庁内・各学校モ悉ク宿陣トナレリ、○兵糧ノ焚出シ  
ハ県庁郭内ニ設ケ、此管理者ハ県官松元武雄・箕田長  
徳ナリ、故ニ全ク政府ノ事務ニ毫モ異ナルコトナシ、  
県令大山・右松等(箱永)ハ日々西郷等ノ屯所ニ会シ、軍議或  
ハ周旋ス、○米穀ハ米蔵ヨリ出納課ノ官吏カ担当シテ  
払出シ、大門口ノ精米機械ヲ以テ昼夜ノ別ナク搗セタ  
リ、味噌・醬油・魚肉ノ類ハ出納掛官員、御用達ニ令  
シテ買入レタリ、其外フランケツトノ類軍用ノ品物、  
悉ク御用ト云ツテ買入レタリ、○或ハ市中ノ豪商等ニ  
御用金御差支ナリトテ、多少ノ金員借リ上ヲ令シタリ、  
此金額凡三万余円ニ及ヒタリト云、此策タルヤ松元・  
箕田・鎌田等カ大山ニ建論セシト云フ、○人足或ハ人  
馬ハ、第二課ヨリ区戸長ニ令シテ、五日ヨリ日々一千  
余名ヲ近在近郷ニ課シ、下町海岸郵便役所或旧營繕方  
等ノ各所ニ屯集セシメタリ、或ハ種子島ヨリ兵隊ヲ集  
ムルニハ、汽船寧清丸(下町人長崎武八郎カ所)ヲ六日ヨリ十二日迄二  
回ニ運ヒタリ、○如此百事県官カ担当シ、或黨員ハ暴  
威ヲ以テスルカ故、其弁達速カナリ、○中原尚雄等ヲ  
初メ捕縛セラレシモノ、第一分署ニ於テ、中島建彦・

仁禮新左衛門・河野半藏・中山甚五兵衛・樺山休兵衛  
 等其他覚員邊見・淵邊・別府等ノ巨擘等カ呵責拷問ニ  
 及ヒ、悉ク白状伏罪セリト喋々シ、布告ニモナリタリ、  
 其口供略ス、別記ニアリ、

六 中原尚雄等カ口供書ヲ各所ニ掲ク

○十年二月十三日、日曜日、○本日ニ至テ間諜捕縛ノ騷  
 稍鎮マレリ、刺客連中ノ口供書ヲ、庁下各所ニ掲示セ  
 リ、見ルモノ群ヲナセリ、○本日巡查二百余名ヲ命シ  
 タリ、十二月末私学校員ヨリ二百余名ヲ増シタリシカ、  
 其輩今回悉ク出軍スル故、闕ヲ補ノ為ナリト云、素ヨ  
 リ冀望ノモノニ非ス、出軍セサル壯年ノモノハ悉ク命  
 シタリ、サレトモ、不服ナルハ直ニ辞表ヲ出シタルモ  
 ノ少カラス、或ハ月給ヲ貪テ冀望スルモアリ、○出軍  
 ノ用意敵且ツ急ナリ、県官モ過ル五日頃ヨリ帰家セス、  
 県庁ニ止宿シテ勉強セリ、中ニモ松元・右松・箕田・  
 鎌田ハ他事務ニ関セズ尽力セリト云フ、  
 ○十年二月十四日、雪雨、寒冷、○二月十二日ハ、旧曆  
 十二月三十日ニ当ル、当県ハ旧慣ニ依リ年首ノ式モ從

前ノ如ク執行シタリ、節季ノ取遣モ此騷ニテ敢テ顧ル  
 者ナク、門松・シメ縄ノ飾ノミ、ソコノナリ、○覚  
 軍出發來ル十五日ヨリ、大口・出水（出水市）ノ兩道ニ分テ、十  
 六日十七日迄三日間ニ悉ク出發スヘキ旨、十二日令シ  
 タリト云フ、○去ル十一日西郷等政府へ尋問ノ筋アリ  
 テ、大挙出發云々ノ趣ヲ各府県各鎮台へ、県令大山ヨ  
 リ通知ノ書面ヲ携ヘタル專使数名、出水・大口・高岡（宮崎県）  
 ノ三方ニ向テ出發ス、中原尚雄等カ口供モ携フト云フ  
大山カ口供トハ日通フ、故大山ノ誤覽ナラム。○專使人名ハ、田尻司・永吉小藤次・  
 貴島某・上原藤十郎・平山龍介・福永直之丞・上村精  
 之介・平岡八郎大夫・伊藤万次郎・相良某・川上某・  
 山本某・中村某・厚地某ナリ、県官或ハ冀望シテ命セ  
 ラレシモノ半バ以上ニ居ル、中ニモ田尻ナルモノハ全  
 ク冀望セシニ非ス、松元武雄カ人物ナリト見込シ故ニ、  
 人撰ノ第一ニシテ命シタリト云フ、果シテ然ルナラン  
 乎、○刺客連中ハ拷問ニ逢ヒシノミナラス、市街ヲ引  
 廻ラサレ暴辱セラレタル、実ニ見ルニ忍ヒス、或云、  
 地方官ノ権外ナル所為ハ、後日大ニ煩アラント、或ハ  
 県令カ上申書中ニ、捕縛ニ付テ巡查ノ数ヲ増ス云々ハ、  
 此際捕縛手ナル者ハ、悉ク私学校覚員ノ壯年輩ヲ以テ

シ、糺彈スルモ邊見・別府等ナリ、如何様後日ノ事ヲ慮テ巡查増員ト記シタルモノ乎ト唱ヘタリ、○野村綱ヲ糺彈呵責セシハ、邊見・中山ナリシト、同人ハ旧兵隊ノ時分懇交ノ者ナリシニ、糺彈席ニ引出シテ、邊見大声シテ曰ク、汝カ性質元來人ノ頭ニ立ンコトヲノミ欲シ、且奸計アリ、定メテ大奸大久保ト深く結ブ処アリシニ疑ナシ、速ニ有様ニ白状セヨト、靴ヲ以テ天窓ヲ蹴ルコト四五回、出血淋漓タリ、野村從容トシテ曰ク、勿論政府ノ為メニ深く謀ル処アリト云、邊見益怒テ又天窓ヲ蹴ル、野村氣絶スト云、豈暴トカ云ハン狂トカ云ハン、如何ニ大罪人ト雖モ、斯ル事ハ前代未聞ト云フヘシ中原等ヲ糺彈ノタルハ、仁禮新方勲門・中山甚五兵衛等相當ノ傍聴如クニ邊見・因辺等傍ニ在リテ暴ヲ加ヘタリト云フ、○真宗僧鐵然等モ呵責セラレタルコト甚シ、○嫌疑ニ由テ捕縛セラレ、或ハ御用談トテ警察課ヘ呼ヒ出シ、大久保・川路ニ云々ノコトヲ糺問セラレシモノ又少カラス、其人ミニハ上村行徴・有川矢九郎・町田某・立花某等、上村ハ各府県ヘ通知ノ專使ヲ冀望シ、出足ノ前嫌疑ニ罹リシト云フ、○如斯少シク疑ルレハ、直ニ不可ナルヲ論セン者アリト、大山怒氣沸クカ如クナリシト、此輩信スルヘキナリ捕縛、或ハ暴辱セラレタルニ由リ、皆人危懼声ヲ呑ント云クテ潛ムモアリ、或ハ暴威ニ恐レテ加入出軍ヲ冀望スル

モアリ、加之区戸長ヲ以テ煽動スルカ故、日々加入スルモノ夥シ、区戸長ハ元來県官ニ阿諛シテ出頭セル頑愚輩ナルカ故、一名ニテモ自分ノ区内ヨリ多員加入ヲ御都合ト云カ如キノ形勢ニテ、種々搖言シ煽動ス、

### 七 兵伍編制

○本日ハ雪雨烈シク寒風衝クカ如クナルニ、旧城外操練場今ハ牧牛場ナリニ屯集シテ操練ヲナセリ、田舎兵モ俄調練ハ堪ヘ難カラント見ヘタリ、○本日隊伍ヲ編制ス、一小隊兵卒二百名トシ、其中ニ下ノ兵二十五名或ハ三十名ヲ加ヘ、其他ハ皆郷兵ナリ、右二十余名許ノ内ニ、戊辰ノ役等実践ヲ経タル者八十名内外ニシテ、余ハ皆新兵ナリ、放発モ能ク心得サル輩ナリ、郷兵モ百五六十名ノ内、実場ヲ踐タルハ二十三名位ナリト云、○二百名ヲ以テ一小隊ニ造リ、十小队ヲ以テ一大隊トス、即チ一大隊ノ人員二千名、之ニ隊長其他ノ員ヲ合セテ、凡二千三百人許ナリ隊毎ニ多少アリ、平均シテ二千三百五十八人ナリ、都合五大隊其人員壹万五千人内外ナリ、之ヲ小銃隊トス、○大砲ハ四斤半砲十二門六門ヲ一隊トス此人員五百余名、○本當付



或ハ小荷駄方・病院付・医員或ハ報知役ナト、傭ル人員一千二百余名、夫卒凡五千三百余名、惣計凡二万三千余人ニ及ヘリト云兵教諸書異同アリ、恐ラク、ハ寔ニ記ス処ノ數確ナラム、○夫卒ヲ募ルニハ種々甘弁ヲ流布シ、戊辰ノ役ノ如ク、仕舞金幾千・家族養料幾千ト云ニ迷フテ冀望スル者夥シ、傭募スルニ検査所ヲ二ヶ所ニ設ケタリ、一ハ大門口ノ砲台、一ハ祇園洲砲台ナリ、大門口ハ土橋市助其長タリ、張雲隊ト大書ノ旗ヲ建タリ、祇園洲ハ其長父ナリ、冀望者多クハ無頼ノ輩ナリ、出発ノ前日ニ至テ給金等ハ肥後ニ於テ渡スヘシトテ、一銭ノ給モナキ故、大ニ失望シ進退ニ迫レル者多シ、家族ハ饑餓ニ迫ルヲ歎息シ、終ニ夫婦喧嘩トナル者多カリシト云、故ニ出発ノ日ニ至テ、遁逃セル者殆ント六百余名、輜重方ノモノ甚困却セリト、然レトモ奈何ントモ維持スルニ道ナカリシト、○一笑スヘキハ肥後ニ着スレハ、鎮台ニ数万ノ金アリ銃器アリ、少シモ差支ナシ、夫卒モ銃器ヲ与フヘシト、金ハ一名ニ五十円ヲ給スヘシト云ヒ、田舎夫卒ハハ、東京へ着ノ上士族ニ昇進サスヘシト云ヒ、或ハ此度出軍セサル者、士族ハ平民ニ下シ、平民ハ高地ヲ取揚クヘシト、種々様々流言煽動セリ、素ヨリ至愚ノ

輩之ヲ聞テ、且喜ヒ且恐レテ出軍ヲ企望スルニ至レリ、斯ク流言スルモ臆官或ハ区戸長カ行爲ニ出タリ、故ニ愚昧ノ輩之ヲ信スルモ無埒ナラス、○兵員凡ソ二万余レリト云フト雖モ、其中ニ精兵ト云フヘキハ六七千人ニ過キササルヘシ、又其中ニ実践ヲ經タルハ三千人許リナルヘシト云フ、○佐土原ノ兵百五十名島津忠寬三男町田敬二郎・区長鹿島島村人長島元吉其長タリ、餂肥兵上下五百余名・熊本兵一千余名・人吉ノ兵百五十余名彼是二万四千五人ナルヘシト云二月十日頃報、知ノ説ニ由ル、二月十二日町田敬二郎・区长島元吉百五十余名ノ兵ヲ引テ鹿兒島ニ来リ西郷党ニ加ル兼テ鯨島等ヲ以テ示シイセタルナリ、着掛ニ旧知事公ノ磯邸ヘ推參セシ家令内田政風ニ就テ言テ曰ク、今回西郷ト俱ニ義兵ヲ挙、百五十余名ヲ引テ来着セリ、然ルニ至急ノ事故、軍用金調達ニ遑アララス、甚困却セリ、願ハクハ五千円ヲ拝借致度、返納ハ徳之島砂糖商社魚住源藏・長崎要藏等ヨリ入金ノ見込アルヲ以テ、返納セムト懇談トナリ、内田曰ク、御演説ノ趣言上致スヘク、御答ハ明日当邸ニ御来向アリテ御聞アルヘシ、就テ御演説ノ趣一大重事ナリ、之ヲ御取次致スニハ、詳ニ御質問致サステハ不都合ナリ、第一二君ハ御家督ナリヤ、佐

土原ノ兵ヲ御募ナサレタルニハ旧好ヲ以テナルヘシ、  
第二御父忠寛公モ大事思食立アリテ、君ニ御委任アリ  
シナリヤ、第三御演說中ニ、西郷等ト俱ニ義兵云々、  
其義ト謂フノ事、今回西郷等ノ蜂起ノ趣意、当邸ニ伝  
聞スル処ハ、全ク刺客暗殺ノ云々ヨリシテ、大久保・  
川路ニ私憤ヲ洩サントスル者ノ如シ、然リト雖トモ外  
ニ名義ノ有無ハ素ヨリ、毫モ關係ナキ両邸ニテ存知ナ  
キ処ナリ、(政題)旁内田勘考スルニ、此金談ハ恐ラク御許諾  
ハアルマシク、左リナカラ御沙汰ノ筋モアルヘシ、明  
日参邸アルヘシト、而シテ内田ハ大義名分ヲ説キ、両  
邸ニハ、国事ニ竭サル、ニハ御一身ヲ以テシ、敢テ干  
戈ヲ用ルカ如キコトハ万アラサルヘシ、是レ正風カ保  
証スル処ナリ、正風又少シク名分ノ在ル処ヲ知レリナ  
ト、物語セリト云フ、而シテ内田ハ右ヲ忠義公・久光  
公ニ告ク、公大ニ怒リ玉ヒ、義兵トハ何事ソヤ、己レ  
末子ノ分トシテ父ノ旧誼ヲ犯シ、人民ヲ煽動シ名分ヲ  
衍リ、殊ニ金策ニ迫テ立派ヲ唱フル、悪ムヘキモノナ  
リ、勿論乱賊子ニ用金モ貸与スルコトヲ得ス、平常ナ  
レハ嫡末ノ好ヲ以テ、如何ニモ心配スヘシト雖トモ、  
此暴動ニ就テ貸与スルトキハ、島津家永世ノ不名ナリ、

殊更忠寛モ聞知セサルニ於テハ、速ニ兵ヲ引テ帰郷シ、  
謹慎スヘキ旨ヲ伝ヘヨトノ趣ナリ、旧知事公モ同シク  
御同旨ナリ、翌十三日町田・鮫島磯邸へ來ル、内田兩  
公ノ意ヲ伝演ス、兩名一言ヲ発スルコトヲ得ス、ソコ  
〳〵ニ謝シ去レリトソ内田、町田・鮫島等ハ内田カ言ヲ  
篠原ニ告ク、篠原怒テ書ヲ大山ニ送り、(國立銀行)第五銀行ノ在  
金ヲ奪ハムコトヲ以テス、大山答フルニ、別ニ調達シ  
与フベシ、奪掠スルコト勿レト答詞ヲ為シ、金二千元  
ヲ町田等ニ与ヘタリト云フ、

#### 八 當時鹿兒島人心ノ形勢

○當時人心危懼紛紜、父子兄弟ノ間モ方向ヲ異ニシ、思  
考ヲ吐露セサルトモ謂フヘキ形勢ナリ、巷説街話信ス  
ヘキコト鮮ナク、加之大久保・川路等カ刺客ヲ用ヒタ  
ル説道路ニ充チ、剩ヘ久光公ヲモ西郷等ト与ニ暗殺ノ  
企ナリト喋々ス、故ニ島津家モ西郷等ト俱ニ大拳スト  
モ巷説アリ、故ニ旧恩ヲ思フノ輩、鹿兒島ハ素ヨリ、  
諸郷ヨリ両邸ニ走來テ、護衛センコトヲ冀望スル者、  
昼夜引キモ切ラス、三十余里モ隔リタル高岡・倉岡等(宮崎縣)

ノ各郷ヨリモ、日夜兼行走来ル、両島津家ハ甚々之ヲ憂慮シ、家令等ヲシテ諭サシメテ曰ク、今回西郷等ノ挙動ハ、両家ニ於テ全ク關係ナキハ勿論、其趣意ノ如何モ知ルコトナシ、又彼等ヨリ通知セシコトナシ、唯世説ノ交々ナルヲ伝聞スルノミ、仮令巷説ノ如クナルニ於テモ、両家ノ趣意ハ、彼等ト俱ニ大挙シテ朝廷ニ拮抗スルハ、臣タルノ道ニ非ス、素ヨリ干戈ヲ動スヘキ理由ナシ、斯ル際ニ中テ人数ヲ聚メルカ如キコトアリテハ、彼輩ニ雷同左袒スルニ似タリ、是レ両公ノ本旨ニ非ラス、非常護衛ノ為メ馳参スルハ、旧好ノ厚キ頗ル感スル所ナリト、邸中ニ止ル事ヲ堅ク謝絶セラレ、少シモ動揺ノ体ナク泰然平常ニ異ナルコトナシ、如此ナルカ故、識慮アルモノハ憂ヲ解キ、両家ノ誠意ニ感シタリ、然レトモ西郷等ハ陰ニ煽動スル、其勢焰当リ難キカ故、両家ニ名簿ヲ出シ、進退ヲ与ニセンコトヲ約スルモ亦尠カラス、二月十四五日頃迄ニ名簿ヲ出ス、一万ニ余ルト云フ、○私学校員ハ刺客連中ヲ搜索捕縛シ、或ハ出軍ノ用意日夜騒々、言詞筆端ニ尽シ得サルノ形況ナリ、其中ニ島津家ニ名簿ヲ出シ、進退ヲ俱ニセント盟約セシ輩ハ、泰然トシテ年首ノ手当ナントナ

シテ、其情況氷炭相反セリ、諸郷士族ハ多クハ文盲且ツ愚ナル故、私学校員ニアラサルモ、巷説ト勢焰ニ恐懼シ、新ニ黨員加入スルモ夥シ、党軍十ノ八九ハ諸郷士族ニアリ、之レ全ク文盲ノ然ラシムル処ニシテ、名分条理ヲ弁ヘサルニ外ナシ、然レトモ中ニハ旧恩ヲ忘レス、名分ヲ弁シ、島津家ニ付属スルモ少カラス、鹿兒島ト諸郷ト比較スルトキハ、鹿兒島ハ二ニシテ、諸郷ハ八ニ居ル、

### 九 当時鹿兒島士族島津氏ノ進退ニ從ワント

#### スル者多シ

○西郷党ニ加ハラスシテ中立セル者ト、島津家ニ附屬セル者トニ種々ノ區別アリ、一ハ憂国者ニシテ名分名義ヲ弁ヘ、身ヲ致シ国ニ竭サンニハ、粗暴ノ挙動ナク、条理ヲ以テセントスル者、二ニ西郷党カ平素暴慢倨傲ヲ惡ミ、或ハ渠等近年恩義ヲ忘レ島津家ヲ疎外シ、稍敵視スルカ如キヲ憤ル者、三ニ官員ノ親族ニシテ黨員ニ仇視セラレタル者、四ニ臆心多ク安逸ノ地位ニ立ントスル者等ノ種類ナリ、第二ノ種類ハ此騒擾ノ際殊更

胸裡ニ忿リ、表ニ平素ノ形ヲ示シ、折シモ梅花ノ最中  
カナルカ故、花ヲ尋ネ詩歌ニ消光スル者アリ、同志ノ  
者ト党軍ノ縦恣暴謾ナルヲ憤談或ハ嘲笑セリ、面貌ノ  
異ナルカ如ク、其思像ノ異ナル様々ナリキ、○巷説ニ  
曰ク、西郷等ト旧知事ト久光公ハ、渠等ト屢會議アリ  
タリト、或ハ山知事西郷カ宅ニ臨マント、此際ハ勿論  
昨年春頃ヨリ種々喋々シ、或ハ熊本敬神党暴起ノ後ハ、  
殊ニ轟々タリ、或當時旧知事ノ特恩ヲ以テ軍用金ヲ与  
へ、或ハ彈藥銃器ヲ恵与シ、或ハ出軍ノ際ニハ酒肴ヲ  
贈ラレシ等ヲ喋々ス、悉ク蒙説ニシテ是ニ類似セル如  
キコトアルコトナシ、元來島津家ハ西郷等ヲ厭惡スル  
コト日久シク、渠等両家ヲ惡ムコトモ又甚シ、其因由  
ハ甚多端ナリ、○県内ノ人心十中ノ五六ハ島津家ヲ慕  
フカ故、西郷党ハ両家ヲ担キ種々ノ流語ヲ放チ煽動セ  
リ、殊ニ當時ノ区戸長ハ、悉ク私学校員ト同論一致ノ  
輩ニシテ、前キニ重役ヲモ奉仕セル者アリテ煽動スル  
コト甚シ、其区长ナル者ニ島津又七・島津多右衛門・  
川上某・名越某・島津某<sup>日市</sup>・町田某其他數十名ナリ、  
此輩ノ中ニ島津又七・同多右衛門・川上・名越等ハ藩  
政ノトキ、君側或ハ重役ニ列リタル者ナリ、剩サハ多

右衛門ハ昨年秋頃迄家令タリ、然ルニ這曹カ云フ処、  
島津家モ臆テ出軍アルヘシ、或ハ銃器彈藥ヲ与へ、或  
ハ趣意同論ナト、唱へ煽動セシ故、事情ニ迂ナル田舎  
士族輩、島津家如此ナルニ於テハ、速ニ出軍スヘシト  
迷ハサレシモノ太タ多シ、此輩ノ煽動スル言語ニ就テ、  
疑ヲ容レシモノモアリテ、動かサル者モナキニハ非ラ  
スト雖トモ、十ノ八九ハ煽動セラレ脅從シタリ、○如  
此島津家ノ名ヲ矯テ煽動シタル者ハ、島津家ニ於テ之  
ヲ憤ル少シトセス、○西郷カ久光公ニ面語セシハ、去  
ル七年ノ春佐賀暴挙ノ後一回、其後絶テ面ヲ接スルコ  
トナシ、○佐賀暴挙ノ際鎮撫ノ為下県セラレ、其刻俱  
ニ上京センコトヲ説得セラルト雖、西郷肯サリシト云、  
詳ニ後編ニ記スヘシ、

一〇 島津家ノ所有第五銀行ニ軍用金ヲ借ラン  
トス 内田正風之ヲ論斥ス

○二月十一日ノコトナリキ、大山綱良第五銀行ノ役員ニ  
論シテ曰、西郷等出軍用金乏シ、其才覚依頼セラレタ  
リ、因テ紡績機械ヲ抵当ニシテ、通貨六万円ヲ出スヘ

シト、其言勢兇猛、役員等驚懼シテ直ニ一万円ヲ出シ、残り五万円ハ不日調達スヘシ承諾ス、而シテ其趣ヲ役員市來清次郎家令内田政風ニ告ク、政風大ニ忿テ曰、此際百円以上ノ債ヲ乞者ハ、許可ヲ得ヘシト書面ヲ以テ達シタルニ非ラスヤ、僅數日前未タ舌モ乾カサルニ、專斷縦恣ト云ヘシ、加之紡績機械ハ旧知事公ノ所有ナリ、之ヲ抵当トスヘキノ語ハ何事ソヤ、銀行ナル者ハ全ク旧知事公ノ所有ナルハ無論、一時取扱ヲ大山ニ依頼セラレタルモノナリ、イツレモ兩家ノ所有ナルニ、之ヲシテ之レニ抵当トスル、実ニ笑フヘク、將タ西郷等ニ貸与スルトキハ、彼カ資ヲ助クルニ外ナシ、島津ノ不名是ヨリ大ナルナシト吃責、市來恐縮答詞ナシ、而シテ同役員其責ヲ負ヒ辞職ノ書ヲ出ス、政風又大ニ責テ曰ク、爰ニ至テ職ヲ辞シ安氣ノ地位ニ立ントハ、甚タ不体裁ナリ、一万円ヲ速ニ引戻シタル上ハ望ニ任スヘシト雖トモ、挽回ナキニ辞職ノ書面受取り難シト云、役員等恐縮シテ退ク、而此旨ヲ大山ニ告ク、大山モ默然、稍久フシテ返金スヘシトノミ云ヘリト、直ニ返償ノ運ニナリタリ、久光公モ大ニ忿ラレ内田ニ謂テ曰ク、島津家ノ瑕瑾ナルノミナラス、我等父子ノ趣意

ニ違フ、速ニ挽回セスンハ、彼ノ役員等未練ノ為ニ赤心水泡ニ歸スヘシト、後日西郷等内田カ云フ処ヲ聞ヒテ、馬鹿モノ遠カラス頭足分離セラルヘシト云ヘリトナム銀行役員ハ三原善之助・市來清十郎、有川喜左衛門・林甚左衛門等ノ輩ナリ、噫呼殆哉、此時一円金ニテモ貸与セラル、トキハ、島津家カ賊ヲ補助セルトカ、或賊ノ勢焰ニ恐怖シテ貸シタルトノ二説免レ難ハ論ナシ、役員等初メ大山カ敵達ヲ聞テ議シテ曰ク、金ヲ出サ、ルトキハ暴業ニ罹ルハ必定ナリ、官庫ヲ破毀シ彈藥ヲ掠奪セシ実跡、過日現ニ視タルカ如シ、寧ロ速ニ出シテ暴勢ヲ避クルニ如スト一万円ヲ出シタリト云、内田ナカリセハ島津家ノ瑕瑾爰ニ生、全ク島津家賊徒ニ左袒シタルノ悪名ヲ被ラル、ハ無論ナリ、是ヨリ先キ県官澁谷國安カ東京ニ出テ、種々造言流説姦策ヲ用ヒタルニ、一時暴徒ト同視ノ説ヲ受ケタルニ、重テ賊ニ資スルノ現事アルトキハ、何ヲ以テ天下ニ對セム、殆カリシコトナリキ、

一一 党軍熊本ニ向テ進発

○十年二月十五日木曜日、旧曆正月三日ニ当ル、大雪地止

八九寸モ積ル、近年稀ナル大雪ニテ、六七十年ノ老人モ五十年來如此積リシコトナシト云ヘリ、昨十四日朝ヨリ雨霰北風烈シク、薄暮ヨリ夜中今朝ニ至テ、止ミ間ナク降レリ、○本日ハ戊辰ノ役戦死招魂祭ノ例日ニテ、角力ヤ競馬ノ催アリシカトモ、大雪ニテ止ミタリ、○此日大山綱良モ参拜シタリト、大山ハ一刀ヲ帶シタルヲ親シク小倉基彦ナル者社内ニ於テ見タルヲ親話ス、○党軍一番隊大口・出水ノ兩道ヲ取テ出発ス、歩兵一大隊・砲兵一大隊ナリ、大口筋ニ向フ者ハ加治木町泊リ、出水筋ハ市來湊町泊ナリト、篠原國幹督シテ大口筋ニ出発セリ、大口・加治木・國分等各郷ノ兵一大隊加治木ニ屯集セシヲ、別府普介督シテ本日出発、大口ニ向フノ先鋒トス、出水・野田・高尾野・長島等ノ兵一大隊出水ニ屯集セシヲ、山口孝右衛門督ス、之ヲ出水筋ノ先鋒トス、○未明雪ヲ犯シテ旧厩跡ノ私学本校ニ会シ、六時過ニハ各両方ニ分レテ進発セリ、其形勢実ニ当ルヘカラサルノ勢ナリ、見物ノ男女群ヲ為シ、勝軍ヲ賀スル声街路ニ喧シ、○小倉基彦ハ朋友等カ出軍分袖ノ為メ私学校ニ行キ、形況ヲ見タリト、雪中冷氣ヲ圧フノ容子モナク各勇奮、不日捷報スヘシト、丸

吞ミノ言詞ナリシト云ヘリ、○宵ニハ各家出軍ノ酒宴盛ニシテ、戸々、鉦・太鼓・三味線ハ素ヨリ、放歌踊躍近村隣邑ニモ横行シ、出軍セサル家々ハ雪中ノ寒氣ト此勢焰ニ畏縮シテ、人類ニ非ラサルカ如ク蔑視セラレタリ、其情事言語筆端ニ尽シ難シ、○出軍ノ人々ハ招魂社ニ参詣シ、而シテ本營ニ着到ス、県令大山綱良・松元・右松等モ同シク出会、酒數十樽菓子數十箱ヲ供シテ出軍ヲ祝ス、各樽ヲ破テ快飲出発セリ、家族輩ハ立跡祝トシテ、此日ヨリ十八九日頃迄昼夜朝夕ノ別ナク謡ヒ囃シ、近村隣邑ヲ横行スル婦女女子ノ挙動、実ニ驚愕ニ余レリ、終日雪降り寒氣甚シク、出軍ノ人々困難想像セラレタリ、晚景ニ至テ地上一尺余モ積リ道路稍塞ル、夜ニ入りテ益降ル、明朝出軍ノ人々祝宴盛ナリ、間ニハ本日晩方ヨリ宅ヲ立出テ、上・下町或本營ヲ警衛シ、其儘出発スルモアリタリ、其輩ハ本日昼間祝宴ヲ催シタリトソ、

○十年二月十六日、金曜日、○大雪昨日ヨリ降り続ヒテ、地上一尺余積レリ、山手ハ殆ント二尺ニ余レリ、寒氣肌ヲ裂クカ如シ、○本日モ歩兵一大隊昨日ノ如ク兩方ニ向テ出発ス、時刻モ昨日ノ如シ、桐野利秋督シテ大

口筋ヲ取ル、○午前十一時頃暫時日光ヲ見ル、又雪降ル、夜ニ至テ止ミ間ナシ、

○十年二月十七日、土曜日、○大雪地上二尺許積ル、山手ノ処ハ三尺余モ積レリ、故ニ道路塞ル、○本日午前八時頃、西郷一大隊ヲ引テ大口筋ニ向テ出発ス、桂久武・池上・村田・淵邊・椎原等本營附ト唱ル人々一同出発ス、此本營付キト唱ル人員凡上下三百余名ナリ、

○大山綱良等ノ県官モ宵ヨリ私学校ニ会シ、酒宴盛會徹夜ナリト、此時西郷ヨリ金三百円ヲ大山ニ付シテ曰ク、多日県官等苦勞ニ預リタルニ由リ、角力見物ニテモ致シ與レ、賑々シク頼ト云テ贈レリトソ、○椎原ハ殆ント六十年、病身ニシテ殊ニ臈丸大腫ノ症アリ、何ノ見込ヲ以テ出軍セシヤト人皆嘲笑ス、椎原與右衛門ハ西郷ノ叔父ナリ、河村純義ノ舅ナリ、○本日ハ西郷出足後、県官ハ残ラス新地県庁出張所ニ集会、尉<sup>憲</sup>勞ノ酒宴ニ及ヒシト云、○出水筋ニハ輜重方ノ人員或本營付ノ人々三百余名出発セリ、○去ル十五日ヨリ本日ニ至ル迄三日間ニテ、党軍悉ク出発シ、積日ノ騷擾モ爰ニ初テ穩ニ歸シ、關係セサル人ハ少シク喜色ヲ顯シタリ、○弾藥金穀ノ運送ハ、大山綱良担当スル県官各分

掌シタリト云、○西郷ハ出発ノ刻、旧知事公ノ邸前ヲ<sup>(ママ)</sup>脚勢ト俱ニ通行スルニ、邸ノ門前ニ行キカ、リ帽ヲ脱シ敬礼シタリ、桂其外ノ輩モ同シク礼式シテ通過セリト、旧知事公ハ西郷等カ通行ヲ見物セント、態ト女中共ト塀ノ上ニ出、家令等ト見物セラレシトソ、西郷等

此回ハ初ヨリ<sup>(おとす)</sup>音信レル如キコト一回ナク、県令モ同様ニテ、世上ノ噂ヲ聞カレシノミナリシト、察スルニ西郷程ノ人物ナレハ、煩ヒヨ兩家ニ及ボサマランヲ慮リ、何ノ会釈モセス、出軍ニハ暇乞ニ參邸モセサリシナラント思ハレタリ、○午前八時頃日光ヲ見ル、積雪解テ道路泥濘、行軍ノ人困却ナルヘシ、○出軍ノ家族輩祝宴ノ盛ナルコト前日ニ異ナラス、關係ナキ人ハ避テ畏縮ス、或ハ出軍ノ家族婦女子老若、俱ニ武運勝利ヲ祈ラント、跣足雪中ニ神社ニ參詣、昼夜続々、神職大ニ利ヲ得タリト云フ、○宇知瀨宮ノ神官五月中旬暴殺セラレタル云々、○神社ニ祈念ノ婦女子昼夜間斷ナク、官軍ノ家族モ同シク參詣或通夜ナント様々ナリ、神仏モ敵味方イツレニ利勝アルヘキヤト、當時ノ笑話ナリキ、

○十年二月十八日、日曜日、雪ル、昨一日間止ミタリ、

今日ニ至テ一層積ル、寒氣甚シ、本日ニ至テ稍鎮靜、

サレトモ神社参詣益盛ナリ、○県庁ハ積日ノ慰勞ニ十二時退出セリト云、明日ヨリ招魂祭ノ角力興行ヲ令シタリ、棧鋪ハ県庁ヨリ人夫ヲ出シテ拵ヘタリト云フ、

○十年二月十九日、雪ル、寒氣甚シ、○去ル十二日朝ヨリ雪フリ、十三日・十四・十五・十六・十七日朝迄止ミ間ナク降り続キ、近代稀ナル大雪ナリ、寒氣甚シト雖トモ眺望ハ殊更ナリ、關係ナキ人或ハ党軍ニ不平ノ人ハ、雪見ノ会ト閑静ノ地ニ雪ヲ犯シテ、詩歌ノ清興ニ暮セルモ少カラス、或ハ不日当地ヘモ問罪ノ師來テ騷擾ナラント、大ニ心ヲ傷マシムル者モアリ、○此度ノ雪ハ西部ノ雪ニテ、<sup>(始良郡)</sup>霧島辺ヨリ國分迄ハ全ク降サリシト、加治木辺ヨリ鹿兒島ノ近傍、出水方面ノ大雪ナリ、出水方ハ五尺有余モ積リ、出軍ノ人も通行調ハス、中一日ハ出水ヘ滞留セリト云、弱体ノ人ハ寒氣ニ痛ミ、大病ナルハ途中曳返シタルモアリト云、○郷原某・長谷場某從軍シテ、差タル病氣ニモアラスシテ市來郷ヨリ歸家セリ、一笑談ナリキ、

## 一 二 党軍ノ軍用金ノ概金

○西郷等カ携ヘタル軍資金ノ大概ヲ聞クニ、凡二十五万  
余円ナリト、其内五万余ハ西郷等賞典祿ヲ県令預リタルモノナリ、或県内ノ金満家ニ県庁御貸上ケトテ為出タル金員三万余円、其外ハ県庁ノ在金或ハ諸会社ニ募リタル者ナリ、殊ニ地租石代金十余万円ニ余レリト云、其現員ヲ知ルモノ県官中四五名ニ止レリ、中ニモ松元・右松・簗田・鎌田<sup>(政應)</sup>等四五輩カ掌知シテ、敢テ洩サ、リシ故ニ、憶測スル処右ノ如シ、或六十余万円ヲ携ヘタリト唱フト雖トモ、僅十余日間ニ如此ノ大金調ノ理ナシ、一躰党軍ヲ巨大ニ唱ルノ際ナルカ故、甚説信シ難キナリ、

○十六日ノ夜大山綱良其他ノ県官会シ、酒宴ニ臨ンテ、西郷ハ大山ニ向テ曰ク、自分カ今日ニ至ル迄ノ事ハ貴公カ能ク知ル所ナレトモ、外ノ御方々ハ御存アルマシ、初メ微賤ヨリ順聖<sup>(高津野)</sup>公ノ眷顧ヲ蒙リ、其後水ニ入り獄ニ下リ、或嫌疑ヲ請ケテ幽閉セラレ、或戰場ニ臨、或ハ思ワサル高位高官ニ昇進シ、而シテ亦日ニ復シテ劔ヲ取り、又今日ニ至テハ賊ノ名ヲ取ルニ至ル、誠ニ不忠



議ノ進退一先ナリ、此度ハ迷度六道ノ出足ナリト謂テ、  
快ク杯ヲ周ラセリトソ、噫呼、

○本日十九日午後四時頃、春日艦ニ似タル汽船一艘入津、  
暫時ニシテ出帆、去ル処ヲ知ラス、這船入津碇泊ノ後、  
知輪島沖迄汽船一艘見ヘタリシカ、無程引返シタリ  
(倉前市)  
ト云、探偵ノ為ニ来リシナラント云、○去ル十五日頃  
巷説ニ軍艦數艘渡来スヘシト、故ニ市街何トナク動揺、  
家財ヲ片付ケ、近在ニ遁逃スル者少カラス、故ニ県令  
ヨリ諭書ヲ出セリ、「軍艦渡来モ難計、假令渡来ストモ  
異儀アルニ非ズ、決テ動揺スヘカラス云々」、此布令ア  
リテヨリ人心益動揺ス、○去ル一日大阪ヘ向テ出帆ノ  
汽船三邦丸ハ、十日ニ神戸出帆、帰県ノ予定ナリシモ、  
東京ヨリ電報ニ由テ出港ヲ止ラレタリト、全ク今回暴  
挙ニ就テ停ラレシナリ、該船ヨリ悦之介(忠封)ハ結婚ノ為メ、  
旧宇和島侯ノ姫君、乗船下県ノ賦ナリシカ、大ニ当惑ナ  
リト云、○該汽船ヨリ県官澁谷國安ハ至急上京セリ、  
彈藥掠奪之届且ツ政府ヲ謀ルノ為メナリト、果シテ然  
ラン乎、喜入嘉之介モ大阪ヘ金策ノ為走セ登レリ、此  
策略ノ如キハ後ニ詳記スヘシ、

### 一三 銃器採集ノ布令

○去ル十二日県令カ布告ニ曰ク、「当時銃器大層入用ニ  
付、秘スルコトナク可差出云々」、而シテ暴徒隊伍ヲ  
ナシ家々ニ押入り、家内ヲ搜索シテ奪タルモアリ、或  
ハ戸長行廻リテ取円メタルモアリ、地方官ノ權ニシテ  
軍官ノ指令ヲ俟タス、特權以テ銃器官収ノ權アリヤ否  
ヤ、該徒只ノ暴ハ素ヨリ論ナシト雖、県庁ノ不体感ナ  
ル言ヲ俟タス、○暴徒出軍ノ後ハ、大小砲彈藥製造ハ  
惣テ県官之ヲ担当ス、或熊本ヘ運送スルニハ県官之ヲ  
護送ス、松元武雄等ハ十八日ヨリ出水方面ヘ出張シテ、  
党軍通行ノ賄料、或人馬賃払渡シヨナサント、彼方面  
ノ官庫ニアル米ヲ以テセリ、○去ル十五日招魂祭ナル  
ニ、県令大山ハ帯刀シテ社參シタリ、見ル人職掌不体  
裁ナルヲ喋々セリ、去ル十四日ノ午後汽船一艘入津碇  
泊セス、運用シナカラ御舟一艘ヲ卸シ、磯製造所ノ海  
岸近ク乗り来リ、探偵ノ様子ナリシ故、党員ハ直ニ三  
小隊ヲ繰出シ、製造所ヲ固メタリ、下町・上町ノ海岸  
モ同シク固ヲ付ケ、上陸セハ放発ノ備ヲナセリ、剩ヘ  
小船數十艘ニ乗込ミ奪ワンカ為ニ、本船ニ近クト雖ト

モ、運用進退シテ近付ヲ得ス、当夜入時分出帆セリ、賊軍ノ挙動兇戯ニ等シク、実ニ一笑ニ堪ヘサルナリ、

#### 一四 県庁構内ニ新牢建築

○去ル十四日ヨリ県庁構内ニ新牢ヲ建築ス、夜白工作ス、之レ刺客連中ヲ旧牢ニ置テハ、盗ミ出ス者アラシコトヲ慮リテ引移スト云、十四日迄ハ黨員カ昼夜守ナリシカトモ、出発セル故、新任ノ巡查ヲ以テ衛セリ、建築ノ費用ハ捕縛セラレシ輩カ所持金ヲ以テスト云、○中原尚雄等ノ輩数名ハ、今ヨリ二十日許ノ後、党軍馬関ヲ踰ヘ、中国ニ入りタルノ報ヲ得テ護送センノ見込ナリト、護送ノ人員冀望者多シ、大山綱良モ同時上京ノ賦予定ナリシトソ、○党軍出発ノ後ハ、市中ノ賑ヒヲ警部等ヨリ説諭セリ、操練場ニ於テ角力ヲ興行ナサシム、兩日ハ見物人モ多カリシカ、兎角人心安ンセス、不日大挙シ来ルヘシト喋々シ、角力見物所ニアラスト三日ニシテ停メタリ、県官ハ頻リニ静籟ヲ唱フト雖トモ其詮ナシ、○警部巡查市街ヲ行キ廻リ、賑々シキヲ促ス、然シテ人ヲ群集セシメテ、他県人ノ潜伏セシヲ

驗査セントノ策モ施シタリト云、

#### 一五 西郷隆盛ノ挙動

○西郷隆盛ハ六年ノ冬掛冠帰県ノ後ハ、身思ヲ塵外ニ置キ、我党ノ外ハ交ヲ絶チ、風月ニ嘯キ、田上村或吉野村ニアル耕地ニ閑居シ、自ら耒耜ヲ取テ桑茶ノ植付ヲナシ、又時ニハ鹿狩ニ遊ヒ、愛スル者ハ狩狗、家ニアルハ稀ナリ、或詩ヲ作り書ヲ事トシ、容易ニ世事ヲ語ラス、在官ノ日ニ比スレハ、其品行ノ高尚ナル他郷人ニ見ルカ如シ、随テ人望モ一層セリ、懇交ノ人ニ語テ曰ク、海陸千辛苦樂榮譽ヲ極メタリ、今後皇室ノ大事或ハ外難アルニ臨ンテ斃レンノ決心ナリト語レリトナム、生計モ大ニ疲弊家財ヲ売販シテ今日ノ費ニ充ツト云、○七年ノ夏一二回小舟ニ掉シテ釣ニ遊ヘリ、七百余名ノ私学校員常ニ隆盛カ動作ニ倣ヒ、言語ヲモ学フハ衆ノ知ルカ如シ、釣ヲ垂レハ校員モ之レニ倣ヒ、桑茶ヲ植レハ直チニ之ニ倣ヒ、其他百事悉ク倣フカ故、隆盛モ近頃大ニ之ヲ憂ヘタリト、桐野ハ耕耘ヲ好ミ自ラ開拓ニ力ヲ竭シ、近頃頻リニ民権ヲ主張シ、壮年輩

ヲ説ニ民権論ヲ以テセリ、此二名ハ言行動作実ニ名望ト異ナルコトナシ、噫呼今回ノ暴動ハ、隆盛・利秋カ罪ニシテ罪ニアラス、形蹟上ヲ以テ論スレハ、七百余名ノ暴客輩カ所為ニ出タリト云フベシ、然リト雖トモ、其因源ヲ尋レハ、又其罪西郷・桐野ニ帰スト謂ワサルヲ得ンヤ、彈藥掠奪ノ暴業ハ両名ハ大ニ忿慨セシモ、其事ヲ聞テ、事爰ニ極マレリト謂ヒシト云、○元來貧生ニシテ一小吏ヨリ起テ、終ニ大将ノ貴ニ登レリ、家祿祿ニ二十有石ヲ所有セリ、賞典ハ一粒モ私ニ費セス悉ク学校ノ資ニ充タリ、即チ賞典学校ノ如キ之レナリ、是ヲ資シテ書生ノ洋行セル者四名ナリ、今外国ニアリ、驕奢ノ心毫髪ナク、酒食ヲ好マス、言行ヲ慎ミ、勤儉ヲ勉メ、利ニ走ルカ如キコトナク、実ニ稀世ノ人物ト謂フモ誣言ニアラス、○西郷履歴ハ別ニ記スヘシ、

一六 桐野利秋ノ挙動

○桐野ハ廉潔剛胆百折不撓ノ人ト謂ヘシ、最モ仁慈心ア(頭注)桐野密ニ思慮スルハ、北海道・唐太島等ノコトニシテ、營面番ニ備ヘ、大アリ、文識甚タ乏シ、自ラ文盲ヲ唱フ、然リト雖モ実務上頗ル思慮深遠、有識者ニ勝レリ、世人之ヲ武断ノ人

スト謂ヘリト謂ト雖トモ、其深キヲ知ラサルナリ、六年ノ冬掛冠

帰省ノ後ハ、居常国事ノ救フヘカラサルヲ憂嘆シ、皇威不墜ノ策ヲ講シ、国民ヲシテ文明ノ域ニ立シメンコトヲ主張シ、速ニ立憲ノ政体ニ改革シ、民権ヲ弘張セシ論ヲ外ニシ、常ニ校員カ猜疑ニ深ク、倨傲暴慢、酒食ニ消光シ、品行ノ正シカラサルヲ憂ヘ、或ハ後原・淵邊等カ如キ狡黠ノ輩、校員ヲ愚玩スルヲ歎息セリ、今回彈藥掠奪官員ヲ暴辱セシ等ノコトハ、大ニ不可トシ、其犯員ハ自首シテ罪ヲ俟タシムヘキヲ大論シタリト、西郷モ初ハ之レニ左袒セリト云、然ルニ邊見・淵邊ハ後原ト密議シ、大山綱良ニ謀リ、中原尚雄等刺客ノ云々ヲ名義トシ大挙スルトキハ、全国響應政府ノ奸ヲ除キ、政府ノ改革一挙ニアリト、西郷・桐野・池上ニ解キタリト、此仍テ一大変状ヲ顯シ、遂ニ大挙ニ一決シ、而シテ直ニ中原等捕縛ニ着手シタリ、一ツハ名分ヲ求シカ為、一ハ巢下一般ノ人心ヲ煽着セシメテ、煽動嚆聚ノ一手段トセリ、全ク四五輩ノ策謀ニ出タル者トス、噫西・桐ノ二氏ハ籠絡セラレタリト謂フベシ

職員中ニ一大変状ヲ起スノ云々ハ、刺ヘ大山ハ職務上ニ就テ、進

退維谷マレル困難アルカ故、大卒ノ論ヲ主張セリト云、  
果シテ然ラン乎、其困難ノ事件ハ後ニ詳記スヘシ、

## 一七 淵邊群平挙動

○淵邊群平ハ校點多欲事ヲ為スニ人ヲ先ニセシメ、己レ  
後ニ立ツトモ謂フヘキ性質ニシテ、私学校員ニモ容レ  
ラレサル人ナリ、殊ニ桐野ハ其性質ヲ悪ンテ、少年輩  
ニ其憎ムヘキヲ痛言シタリト云フ、○如此ノ姦人ナル  
故、衆ヲ煽動スルニモ邊見カ如キヲ先導トシ、己レハ  
傍觀シテ人ノ厭患ヲ避クルノ奸事寡カラス、殊ニ松元(県一等  
武雄ト交深ク、互ニ欲ヲ擅ニセンコト枚挙ニ違アラス、  
剩ヘ開拓地云々ノ如キハ、渠ハ松元ト謀リ大山ヲ欺キ、  
田畑ヲ庄当シテ他人ノ冀望セル良地ヲ特別ニ許可セリ  
(常秋、大書記)  
ト云フ、松元ハ當時開拓地担当職ニアリテ、窃ニ淵邊  
ト謀リ、後日中分シテ所有トセン奸策ナリシト云、

## 一八 大久保・川路等ノ家屋破毀

○三月廿四五日頃ヨリ廿八九日頃迄、少年輩或老少ノ婦

女子中ニハ種分名ヲ知ラズモ交ル伍ヲ為シ、無賴ノ平民等ヲ従ヘテ、

昼夜トナク斧鉞ヲ携ヘテ、大久保利通・川路利良・奈

良原等邸宅ヲ破毀ス、其勢焰熾ニシテ実ニ暴極マレリ、

其際淵邊ハ熊本ヨリ走婦リテ、募兵強迫最中ナリシカ、

此暴兇ノ挙動ヲ聞テ甚快トシテ曰ク、鹿兒島ノ小兒婦

女ハ鎮台兵ニ勝レリ、必定官員ノ家宅モ残ラス崩スナ

ラント云ヘリト云、○如此各所ニ破壊ノ暴業昼夜ノ別

ナキカ故、之カ為人心恟々、官員或熊本等ノ軍營ニア

ル家族ハ、今ヤ我邸宅ヲ毀ラル、ナラント恐縮措ク処

ヲ知ラス、賊徒ノ家族ハ愉快ヲ唱ヘ、今日ハ何某カ宅、

今夜ハ誰カ宅、明日ハ誰某ノ所ト謂ヒ触シテ、其兇暴

ナル譬フルニ物ナシ、故ニ田畑常秋ハ右松・松元等ト

議シテ、巡查ヲ以テ制止セントス、松元曰ク、此勢逆

モ巡查ノ力ニ及ヒ難シ、布告シテモ恐ラク無益ナル疑

ナシ、飽迄毀テ尽シタラハ止ミナント云、田畑云ク、

巡查ノ職、命令ヲ疎タス制スヘキナリ、巡查アリテ何

ノ用カアルト論ス、松元默然タリ、田畑筆ヲ取テ布告

書ヲ稿ス、右松之ヲ布告シ、巡查ニ命シテ嚴シク制止

スヘキヲ令ス、其文ニ「貼紙」布告文日昭ニ、  
如此布告スト雖トモ、其暴業益甚シク巡查モ手ニ余レ

リト云、巡査モ一ト瀕リ制スト難、十年上、五年ノ小兒輩或モ名簿ヲ携ハ、障ニ教唆ヒリ、一教賊、巡査ニ傍觀セリ、以テナルカ故、巡査出張シテ制止ノ形ヲナシ、心アルヲ知ルニ足ル

ミ、手拭ヲ以テ面部ヲ覆ヒ、股引ヲ着ケタルモアリ、或ハ奸賊大久保・川路等カ首カ落ツヘシナント、悪口大声スルモアリ、実ニ言詞ニ尽シ得サルノ挙動ニシテ、狂人隊ヲナセリトモ謂ヘキナリ、或人淵邊ト松元等ト茶談ヲ傍聞セリト、淵邊曰ク、老少ノ婦女子ニ至迄奸賊官吏ヲ惡ムコト如此、天之ヲ為サシムル者ナリ、速カラス彼等カ驕奢ヲ極メタル、東京ノ邸宅モ如此破壊セラルヘシ、其手初ナレハ小兒婦女子モ憤発スルカ良シ、強テ制止スヘキニ非ラス、制止スルハ英氣ヲ挫クヘシト、松元曰ク、連モ布告ヤ巡査ノ千ニ及ハサルヤ明カナリ、余計ナ心配ナリト云、傍聞ノ人驚愕セリト、此談末ニ淵邊又曰ク、小兒婦女子ニ至迄モ憤発セリ、他県モ各所ニ蜂起セリ、庄内・秋田・石川・高知等ノ勃興ハ、在肥中既ニ告来レリ、当地ヨリ不日ニ四五千名モ繰出ストキハ、天下ニ腕ヲ指スモノアラサルヘシト云、松元曰ク、一日モ速ニ馬関ヲ越シタル報知カ聞度シト云、淵邊曰ク、今ヨリ十四五日位ニシテ必ス吉報アルヘシト、傍聞ノ人ハ賊員ノ挙動ヲ惡ミ、人民塗

炭ノ困難ニ迫レルヲ憂慮セリ、斯ル暴慢倨傲ノ言ヲ傍聞シテ、且笑ヒ且憂嘆セリ、此レ三月廿六七日頃ノコトナリキ、○破壊セラレシ邸宅ハ、先ツ大久保利通・川路利良・奈良原幸五郎・樺山資紀・郷田某・諏方左右衛門・黒江某・山下某其外数十名悉ク官吏等ノ宅ナリ、警備ニ余レル暴行前代未聞ノコト共ナリ、右ノ如ク県官ヲ初メ、表ニ制止シテ隠ニ煽動セシ故、小兒婦女輩ハ傲倨放言罵言、巡査ノ制止ニ恐レス、巡査モ又内心賊意アル輩ナレハ強テ之ヲ制セス、喫煙傍笑シテ見物セシ如シ、

一九 貴島・折田・新納・野勢等挙動

○貴島清・折田敬之介・新納清一郎・野勢十九郎等ハ元來私学校員ニ非ス、賊員二月中旬肥地へ暴発ノ後、二三日過テ大山綱良ニ、別隊ヲ以テ出軍センコトヲ乞フ、大山曰ク、今ヨリ廿日許過テ自分上京ノ約定ヲナセリ、西郷等大坂ニ突出ノ報ヲ聞テ、中原尚雄等ヲ護送スヘシト云、折田等之ヲ聞ヒテ其報ヲ待タリ、○貴島等同盟ノ人員凡二百余名、銃器彈藥モ僅ニ備フ、如此熊本

ヲ初メトシ九州ヲ押通り、四国・中国ノ兵ヲ從ヘ大坂ニ押出シ、浪花城ニ入り之ヲ根拠トシ、西京御駐蹕中ナレハ、御蔭下ニ出テ錦旗ヲ申下シ、奸吏討伐ノ号令ヲ天下ニ下スヘシト、初終ノ計策ヲ定メタリト云、然ルニ豈科ラン、熊本鎮台左袒セス、道ヲ遮リ、官軍日々來着、馬関(下關)・鶴崎(大分原)ヘハ軍艦ヲ廻ラセル等ノ報アリテ、桐野利秋、大山綱良ヘ飛翰ヲ以テ兵ヲ募リ、銃器彈藥ヲ送り、或ハ豊後口ニ一手ヲ向クヘシト依頼ス、故ニ大山モ上京ノ見込稍相違シタル故、貴島等ニ説諭シ宮崎ニ向ワシム、○西郷等ノ見込大ニ齟齬シ、大山等甚困却又爰ニ一層セリト、窃ニ私語モノ多シ、初メ出発時分ノ見込ハ、各府県鎮台ヘ通知ノ文ヲ以テ、四国・九州ノ有志者、直ニ蜂起、鎮台分營等ハ驚怖シテ、道ヲ開ヒテ異儀ナク通スヘシ、熊本ニアル樺山資紀ハ兵ヲ曳テ附従スルニ疑ナシ、大坂ヘ押出スハ日數廿日ヲ限ルヘシト、丸呑ミノ議論ナリシト云々、○熊本人ニシテ勃起シタルハ凡五百余名、佐賀・柳川・久留米ニ四五百人、秋月・福岡・大分・延岡等三百余名、土州・長州・因州等ニハ五六百余名、此三国ノ兵ハ大坂ニ突出シテ我軍ヲ迎ルナラント、其他北国・奥羽ノ各

所、兼テ同論ノ者諸所ニ蜂起シ、政府手ヲ動スニ術ナク、貧窮見ルカ如シ、其時西京・大坂ニ雲集シタル兵ハ、二條城ヲ大本營トシ、尚四方ニ檄ヲ伝ヘ、器械彈藥兵糧ヲ充實シ、交際ノ各国ニ声援ヲナサシムルノ策ヲ用ヘシトノ議モアリト云フ、○九州ヲ風靡スルハ最モ容易ニシテ、凡五六万ノ兵ヲ得ヘシ、大坂ニ出西京ニ踐ミ人リタラハ、事成就ト思フヘシ、其トキハ五畿内・東海・北越等ニ二三万ノ兵ヲ得ヘシ、奥羽ニハ庄内・仙台・秋田辺ニ旗ヲ揚ル者鮮カラサルヘシ、茲ニ於テ政府孤立、僅々近衛兵ヤ鎮台巡查何ノ用ヲカナサン、已ムヲ得ス中和ヲ容ル者アリテ、西郷其他復職ノ命ヲ下シ、三條・岩倉ヲ初メ、木戸・大久保等ノ大奸自ラ辭職スヘシ、其時ニ乗シテ、全軍ノ半ハヲ以テ東国ニ兇シ、半ハハ西京ニ駐リ京摂兩地ヲ守リ、聖上ハ其櫛西京ニ遷都ヲ促シ奉リ、人心ヲ安堵セシメ、奸吏ハ悉ク誅戮シ、西郷ヲ君側ニ侍セシメ、立憲政躰治ニ立換ヘ、大ニ議院ヲ開クヘシ、然ルトキハ全国一般人民ノ力ヲ以テ、大小ノ奸吏ハ自ラ退キ、彈セスシテ罪ニ伏シ、座シテ天下ノ治ヲ俟ヘキナリ、然シテ士族ヲ以テ近衛ノ兵トシ戸ハ上族ヲ、用ヲト云、鎮台其他巡查ノ如キハ士族

士民ノ論ナク、編合スヘシナトノ議モアリシトナム、  
 ○一般ノ説ニ万々軍ニハナルマシ、二三ヶ月ノ後ハ嵐  
 山ノ花見ナント云ヒ合ヘリト、然シテ各頭要ノ職ニ位  
 シ、此寒冷中ノ困難ハ臆テ春暖ニ榮營ヲ極ムヘシト、  
 出軍ノ費用、高利ノ債或財産ヲ傾ケ、或ハ衣類ヲ典物  
 トシ出軍ノ粧ヲナセリ、或ハ五六十年ノ老人モ一生ノ  
 好機會、青雲ノ途此時ニアリト杖ヲ携ヘテ加人セルモ  
 アリ、煽動ノ策謀至リ尽セリト謂フヘシ、此情狀ト人  
 氣ノ震動セルハ、紙墨ノ得テ尽シ得ヘキニアラス、西  
 郷・桐野・篠原等カ声望爰ニ一層ス、○下賤ノ夫卒輩  
(明治元生)  
(前二年)  
 ハ戊辰・己巳ノ役ニ出軍、分捕掠奪セシ者ハ、身代立  
 処ニ直リシ者尠カラス、加之二人口ノ賞禄モ拝戴シ、  
 或ハ士族昇進シタル者モアリ、其先縦ヲ望ンテ、争テ  
 兵役ニ從ワンコトヲ冀望スル者夥シ、或ハ時シモ旧曆  
 ノ年末ニテ、負債ノ督促ヲ避ンカ為役卒トナリ、出軍  
 辞ヲ籍リ暴言以テ催促人ヲ罵リ、或父子兄弟不睦、生  
 計立テ難輩等、或ハ無頼放逸ノ者、十日許ノ間ニ殆ン  
 ト二万余ノ大勢ヲ募レリ、這輩カ説ヲ聞クニ、斯ク人  
 氣競争立処ニ大勢ヲ得タルハ、天幸カ將タ神明ノ加護  
 乎、奸吏頭足所ヲ異ニスルノ前兆ナラン、日ナラスシ

テ、有志ノ人頭要ノ地位ニ立テ、至明至公ノ沢万民被  
 戴ノ時至レリト傲然唱タリ、其兇焰実ニ驚クニ堪ヘタ  
 リ、折田・貴島等ノ輩モ、此勢焰ニ左袒シ出軍スルニ  
 至レリ、○前ニモ記シタルカ如ク、私学校員カ暴慢倨  
 傲ナルヲ惡ンテ加人セサル者多ク、這輩モ此際ニ至テ  
 熱焰ニ恐レ冀望シ、校員カ暴言ヲ忍ンテ加入スルモノ  
 夥シ、或父子兄弟東京等ニアリテ奉職シ、或ハ中原尚  
 雄等ノ連中或政府ノ間諜ナラント、嫌疑遭難ヲ恐レテ  
 加入出軍シタル者多シ、斯ク暴威ノ逞シキ際ニ、志ヲ  
 変セス勢焰ニ恐レス、確然志素ヲ貫ク者甚太尠シ、幾多  
 ノ鹿兒島十族中ニ、断乎ト方向ヲ變セサルハ、万中ノ一  
 二トモ謂ヘシ、考フルニ、事ニ臨ミ難ニ当ラサレハ、  
 人ノ胸裡ハ明カナラサルモノナリ、実ニ古人ノ言ノ如  
 シ、將タ加入ヲ断スト雖モ、党中拒ンテ加ヘサル者又  
 多シ、或ハ島津家ノ進退ニ從ワント、脱校シテ獨立セ  
 ルモアリ、種々様々面ノ如クニ異ナレリ、○諸郷ノ者  
 ハ文盲不智名分条理モ弁別セス、或其為メ兼テ設ケ置  
 キタル区戸長ヲ、県庁ノ名ヲ以テ徵兵ノ如ク督促募兵  
 シタルカ故、其因由条理ヲ弁セスシテ、戊辰ノ王師ニ  
 付従スルモ同様ニ思ヒ、續々競テ出軍セリ、或ハ島津

家ト同論私学校トハ一致、大ニ謀ル処アリト欺唱セリ、九年ノ春久光公帰県ノ後ハ殊更ニ喋々シ、両家ヲ担ヒテ煽動セシコト枚挙ニ遑アラス、

## 丁丑擾乱記 (二)

### 二〇 熊本開戦ノ報知

○二月廿九日春山越右衛門熊本ヨリ至急報知ニ帰レリ山春

ハ十五日鹿兒、島ヲ出発セリ、曰ク、戦勝敗アリト雖モ、熊本城ハ日ナラ

スシテ落城スヘシ、手負又ハ平病人多ク、病院七ヶ所ニ設ケタリ、凡三百余名入院セリ、平病ハ過半行軍中、霜雪ノ為メ乎熱氣強ク、或ハ手足ノ爪抜ケ其痛甚シク、或ハ吐血シテ直ニ死シタルモアリト、○或人手負・戦死ノ数ヲ問、春山曰、大低知ラサルニハ非ラサレトモ、熊本本營ニ於テ、死傷ノ数ト姓名ハ秘スヘキトノ趣ナリ、故ニ洩シ難シ、初戦ヨリ死傷随分アリタリト云ヘリ、○西郷・桐野カ懸念セルハ、鹿兒島ノ人心一致セス、政府党島津家ト合体シ、我糧道ヲ絶ンコト、第二

政府鹿兒島ニ軍艦ヲ廻サンコト、第三島津家附従ノ精

兵アリ、政府島津家ニ説テ、俱ニ我背後ヲ衝クノ患アリ、此三四月ハ注意シ報スヘシト、或ハ死傷人ハ成ヘ

ク漏サ、ル様ニスヘシ、此レ人氣ノ解散センコトヲ患

テナリ巡査ノ名ヲ以テ維持ノ策ハ松元武雄ナル者辺見・尚辺ト囑ンタリト果シテ然ラン、○廿九日有川勸介

帰県ス、事情秘シテ漏ル、コトナシ、然レトモ出軍望

ノ人ハ、誰某ヲ論セス同道スヘシト謂テ、窃ニ煽動ス

ト云、熊本開戦後見込通ノ策行ワレ難キヲ以テ、人ヲ

求ムルニ至レリト、出発ノ頃ハ、加入ヲ冀望スルモノ

多シト雖モ暴罵疎外セシニ、舌モ乾カサルニ直ニ変態

セリト私語キタリ、○本月中旬頃新ニ命シタル巡査二

百余名ノ内本日(二月)免黜ス、県庁ニ金乏シキカ故ナリ

ト云職員ト俱ニ出軍セン朝員補理シ、タルトキ二百余名増員ノ職ナリ、県官モ十五等以上ハ、此涯

月給辞退ノ談合アリ、松元武雄カ發議ナリト云フ、果

シテ然ラン、等外或雇ノ人ハ玄米ヲ以テ渡スヘシトノ

議ナリ、○党軍出発ノ刻、県庁ノ在金或石代金迄モ、

悉皆軍用ニ充テシ故、殘金僅少ナリト云、○當時米価

一石四円四十五六錢位、売り人ノミ、買人少シ、一般

ノ人氣、不日問罪ノ軍艦來テ鹿兒島ハ焼打セラル、ト

私語キ、市街ハ家財ヲ片付ケ、山手ノ近在ニ運ヒ、或



老幼病人避逃スル者少カラス、故ニ運送ノ不弁ヲ考ヘテ、金ヲ貯フルノ人情ナルカ故ナリ、○三月七日午後四時過春日艦入港、夕方又汽船二艘知輪島<sup>林</sup>辺ニ見ヘタリト、市街騒々タリ、春日ハ投錨スルヤ、直ニ碇泊ノ汽船鹿兒島丸・大平丸ニ乗込ミ、機関ノ要部ヲ解放ス、海軍ノ規則ナリト云フ、

二一 琉球分営ヲ襲ワント謀ル

○大平丸ハ琉球大島ニ郵航セント、大坂ヨリ来リ碇泊セシカ、党兵乗込ンテ押ヘ置キタルヲ允ルサレテ、本日出帆セントスルノ際ナリキ、○這汽船ニ巡査警部数名警部土岐新兵衛・川崎民左衛門等ナリ、及ヒ撫育会社員最上才ニ其他同社人足輩卅余名搭艦、琉球分営ヲ襲撃シ、銃器彈藥金穀ヲ掠取センカ為ナリト分営遺留ノ金凡四万余、春日艦ノ為ニ出港ヲ止メラレ、既ニ乗込ミタル土岐・最上ノ兩名モソコゝニ上陸シテ、大山綱良ニ告ク、大山曰、不日該艦出港スヘシ、其後渡海シテ銃器ノ分ニテモ取ルヘシ、其時宜アルヘシト云ヘリナム、○分営ヲ奪ノ策タルヤ、果シテ西郷カ意ニ快シトセサルナラン、元來西郷ハ至誠

外ナキヤ明カナリ、今回ノ挙モ彼カ真意ニ非スト云、然ルニ琉球ヲモ掠奪セントハ、大山カ独断ニ出タルモノナリト云遺事ヲ大山ニ建言シ、自ら其事ニ当ラムト請ヒタ、ル私利家ノ最上才次ナリト云フ、果シテ然ラン

二三 西郷小兵衛戰死報知

○巷説ニ不日軍艦来テ県令其他ノ賊員処分アルヘシト、頻ニ私語キタリ、日州海ニハ軍艦碇泊セリトモ巷説ス、○党軍ハ肥地ニ於テ勝敗アリ、官軍ノ生捕モ少カラサルニ、悉ク殘殺セリト、斯ク殘忍ノ挙動アリテハ、人望ヲ失フハ言ヲ俟タス、隆盛カ三弟西郷小兵衛モ戰死セリト隆盛ハ兄弟四人ナリ、長ハ隆盛、二、三、吉次郎、早世、三信吾、四小兵衛ナリ、○鹿兒島近在ノ農民二千余名ヲ募リ、六日ヨリ八日迄ニ熊本ニ向テ出発ス、今回ハ一名ニ金三円ヲ与ヘ、家族養育ノ為メニ一月米一俵三斗ヲ給スヘシト令ス、近日ノ人情出軍ヲ嫌者多シ、故ニ金ヲ与ヘ或ハ公役同様戸長カ年令ヲ以募レルナリ、

二三 淵邊群平熊本ヨリ帰り兵ヲ募

○淵邊群平ハ七日ノ朝熊本ヨリ走帰リ、公然県庁ニ出テ、金銃ヲ集メ兵ヲ募ルコト甚厳猛ナリ、○八日朝春日艦出港ス、午前八時頃知輪島<sup>(信傳也)</sup>迄迄汽船一艘入り来リシカ、春日出港ノ故カ引返シテ俱ニ出航シ去レリ、

## 二四 造船所機械ヲ毀ツ

○七日午後二時頃、春日艦ハ脚舟二艘ヲ引テ、磯造船所へ上陸シ、製鉄機械ノ要機ヲ解放シ、或ハ小銃彈製造機械ヲ収メ、其外帳簿類要品悉ク取り納メ、本艦ニ積ミ容レタリ、此時迄製造所ニハ、賊員公然ト砲器彈藥、昼夜ノ別ナク製作セリ、春日ノ脚舟海岸ニ近ツク頃、賊ノ製造長官下河邊某其他数輩アリシニ下知シテ門戸ヲ鎖サシム、然シテ職人等ト与ニ山中ヲ経テ遁逃ス、職人等ハ取ルモノモ取り敢ス背後ノ山ヲ攀テ、吉野村雀ヶ宮ヲ迂回シ遁レ去リタリト、○春日艦ノ水兵ハ門戸ヲ鎖セシ故、扉ヲ越シテ閉内ニ入り門ヲ開キ、直ニ機械ヲ破壊シ其他物品ヲ運送セシト云、此時本艦ハ製造所ノ近海ニ漂ヒ居タリ、○本日市街大ニ騒然、人民遁逃スル者雜踏、老幼ヲ携ヘ家財ヲ運漕スル、見ルニ

忍ヒサル形況ナリ、○県官右松乘艦ス、艦將伊東某<sup>(拓賢、海軍少將)</sup>曰ク、汽船ノ機関解放スルハ海軍ノ規則ナリト、且曰ク、不日 勅使下向アルヘシ、之レハ達スルニ非ラス、心得ノ為ニ物語スト云、 勅使ハ誰ナルヤト問、柳原殿ナリト、是ヨリシテ、県官ハ当夜ヨリ日夜廬宿ノ準備、

道路ノ修繕下町海岸上陸場ノ修造大騒ナリ 県官ハ例ノ天狗連中ナルカ故、勅使下向アリテ和解除休職ヲ命セラレ、西郷等御懇諭、上京ノ勅宣下ルニ擬ナント、大山ヲ初怡悦セリト云、

## 二五 勅使鹿兒島御着

○三月八日午後一時頃ヨリ汽船入港セリト、市街騒動ス、九艘一緒ニ入港シ、製造所下ヨリ下町沖ニ抛錨セシモアリ、或運用シテ漂ヒ居モアリ、蒸煙ハ海面ヲ覆ヒ白波天ニ漲リ、恰モ英国軍艦渡来ノ時ノ如シ、市中ノ騒動譬フルニ言ナク、老幼ヲ携ヘ家財ヲ担キ、或馬ニ負ヒ山手ノ在々ニ遁逃スル在様、鼎ノ沸カ如シ、巡查ハ橋々辻々ニ立塞リ遁逃ヲ制止シ、或ハ叱咤シ其形況混雜極マレリ、スワヤ問罪ノ軍艦ナリト、今宵中ニハ市街焼討アルヘシト喋々囁々、 勅使御下向ナリト論スト雖モ、耳ニモ聞入レス、午後三時頃県官乗入ラント

セシカトモ、近付ケモセサリシト云、九艘ノ内二艘ハ磯ナル旧知事邸近ク投錨シ、家令奈良原幸五郎及ヒ折田平内・有村邦彦折田ハ四五年前附從シタル者ニテ、今ハ開拓使ニ出仕ス、勅使ニ隨行セリ、先ツ上陸參邸シテ、勅使來向ノ趣ヲ告ク、次ニ旧福岡侯美濃守長薄公、島津家ヨリ、養子タリ、今六十有余ナリ、旧佐土原侯忠亮、參議黒田清高等數名着邸、勅使柳原前光殿モ御着邸、勅書ヲ渡サレ、勅意御演達滯ナシ、午後五時過本艦ヘ帰ラレタリ、折田・奈良原・有村邦彦ハ帰宅セリト、○奈良原ハ家令ナリシカ、久光公其挙動ヲ惡ミ玉ヒ、殊ニ此回ハ大久保等カ使嗾下臬シ、旧知事ニ謁シ陳弁スル旨アリシト、此時邸員渠カ挙動ヲ惡ミ、邸中ノ女迄モ惡声ヲ吐キタリトナム、○本日臬庁ヨリ布告ニ「旧知事並久光殿ヘ勅使柳原前光殿御參向、且兵隊二千余名上陸アルヘシ、動搖スヘカラス云々」ノ趣ナリ、○夜中平穩異ナシト雖モ、人心大ニ動搖シ、市街ハ夜中ニ家財ヲ運ヒ遁逃スルモノ多シ、巡查ハ稠シク制止スト雖モ耳ニ入レス、○此際掌ヲ反スカ如キノ布告アリタリ、「刀劍ヲ帶、徘徊スヘカラス、小兒等ハ父兄ヨリ稠シク可申付云々」、過日迄ハ臬官大山ヲ初、刀ヲ帶シタルニ笑ヘシ、○本日磯造船所ニ汽船ノ兵上陸、

機械要品ヲ本船ニ運送ス、○淵邊群平ハ六日ノ夜鹿兒島ニ歸リシカ、汽船入港ヲ聞テ、八日ノ午前十一時頃卒カニ熊本ヘ走帰レリ、一説ニ近在ニ潛匿スト云、同日臬官松元・右松等ハ掠奪セシ彈藥類ヲ各所ニ陰匿セリ、夜中人民遁逃ノ姿ニモテナシタリト云、○造船所・火藥製造所・火巧所等ハ本日卒ニ製造ヲ止メ、職人等遁逃スル等狼狽極リタリ、○臬官二名本日午後四時熊本ヘ報知ノ為出発ス、○九日雨、東風烈シ、本日勅使山下邸御揚陸風浪高キカ故御延引ナリ、○春日艦等ノ水夫ハ、各所ノ砲台ニ上リ砲架ヲ破潰シ火門ニ釘ス、各製造所ハ機械ヲ崩シ、或雷帽製器或大小砲彈・火藥等陰藏シアルヲ探索シテ、悉ク収メ取り、汽船ニ積容レ、或ハ火藥ハ水ニ投シタリ、稻荷川ハ火藥ノ為ニ魚死シ河水黒色ニ變ス、此挙動ニハ大山・松元等恐縮忿慨色ヲ變スト云フ、○十日、曇、午後一時ヨリ照ス、昨夜中大雨曉ニ至テ止ミ、日曜日東風穩カナリ、午前九時、勅使山下邸ヘ御揚陸、鎮台兵一大隊巡查二百名許山下邸門外ニ屯ス、旧福岡侯・旧佐土原侯ハ昨日御着邸御止宿、勅書御拜戴ノ式終テ、酒・料理等ノ御馳走アリシト云、午後三時下町長崎武八郎カ宅ニ御止宿、

○十一日照国神社ニ參詣セラレタリ聖山八郎繁内ニテ、參詣セ近習ニ任ハレタル者ナレハ、○參議黒田(痛陸)・陸軍大佐高島(船之助)・海軍少佐仁禮(大)ハ、兵隊巡查ヲ引テ本日九時上陸、重久佐次右衛門宅其他旧客屋跡等へ宿營ス、市街其外ノ警備甚々嚴ナリ、○海軍兵ハ陰藏ノ彈藥銃器ヲ探索スルコト密ナリ、○本日午後一時過県庁内新築ノ牢ニアル中原尚雄・野村綱其他数名ヲ官軍ニ受取り、巡查二百余名ニテ護衛シ、石燈籠(いざな)下ヨリ直ニ汽船ニ乗セ付ケタリ、囚人等ハ巡查ニ護セラレテ搭艦ノ有様、実ニ蘇生ノ思ヲナセシナラン、見ル人其意想像ス、彼等ハ二月五六日頃捕縛セラレ、拷問呵責ニ遭ヒ、其苦辛言語ニ尽サレス、命ハ風前ノ燈ニ等シカリシカ、今日ニ至テハ再ヒ白日ヲ拝シ、実ニ蘇生セリ、人ノ浮沈ハ定メ難キモノナリ、然レトモ真宗僧或ハ商人輩ノ同シク捕縛セラレシ人々ハ、本日出檻セサルハ如何ナル訳ナリヤ、衆皆之ヲ憂歎ス、○島津両家ヘ勅書ニ曰「鹿児島県下ノ逆徒熊本県下ニ乱入、朝憲ヲ蔑如シ、官兵ニ抗シ、悖乱ノ挙動ニ及フ、朕既ニ征討ノ令ヲ布キ、二品親王有栖川熾仁ヲ征討總督ト為シ進発ヲ令セリ、汝久光実ニ國ノ元功、朕カ素ヨリ信重スル処、今特ニ議官柳原前光

ヲ遣シ朕カ旨ヲ諭サシム、其レ能ク爾誠意ヲ致セヨ」、○右十年三月十日久光拜戴ス、柳原尚御趣意ヲ演達セラル、久光謹ンテ拝覽シ、畢テ勅使ニ向テ曰、臣久光ヲモ御嫌疑ノ意ヲ含メルカ如シ、臣カ挙動如何ニ依テ御嫌疑アリヤ、西郷等ニ面接セシコトモ近年ニナシ、況ンヤ此回ノ暴動ニ於テ毫モ關係セシコトナシ、柳原曰ク、敢テ御嫌疑ニ非ラス、誠意鎮靜シ安寧ヲ謀ラシメンノ御趣意ナリト、久光曰ク、臣不肖鎮定センニハ、政府至理至當ノ御処分アラハ、暴徒等モ服従セサル理ナシト、柳原默然タリト、○旧知事忠義ヘノ勅書モ、同文ニ久光ヲ忠義ニ作ルノミ、忠義ハ八日ニ拜戴セラレタリ、○旧福岡・佐土原ノ両侯ハ、旧好ヲ以テ、説解鎮靜ノ為ニ遣サレタルナリ、東京ニテハ島津両家モ西郷等ト俱ニ暴起、薩隅日ノ三州ハ悉ク左袒セリト喋々シ、加之県官澁谷國安カ奸計ヲ以テ、島津家モ同論ナリト流布セシ故、滿朝見ル処如此シト、○山下邸ニ勅使御參向ノ時ハ、久光ノ末子二名覺之助(忠村)門外ニ奉迎シ麻上干、座ニ案内ス、久光ハ先年来ノ脚症未タ治セサル故、中門内ニ奉迎シ官服ヲ着ス、而シテ勅書拜戴セリ、○福岡侯等ハ御説得ノ為ナリシニ、案ニ相違シタリトナ

△長濱公盛山八郎ニ爵ルニ、東京テ聞ク処トハ大ニ、佐土原侯ハ二男  
違ヒ意外ナリ、久光父子巨魁ナリト聞キタリ云ミ、  
町田敬二郎カ賊軍ニ加リ、島津家ニ金談ニ及ヒシ始末  
ヲ聞キ、驚愕痛歎セラレタリト、

二六 中原尚雄等出櫃汽船ニ搭ス

○十一日・十二日ノ両日ハ勅使御滞在、軍官高島等ハ、  
火薬或ハ軍器陰蔵ノ探索ニ着手セリ、十一日ハ囚人真  
宗僧其他悉ク出シテ宿屋ニ止メ、病ハ療シ或ハ衣服ヲ  
与ヘト嚙ノ扱ナリシト、中原等ノ如キハ巡查ヲ以護シ  
宿屋ニ預ケタリ、当日直ニ放解セシモ少カラス、中原  
等ノ一列ハ汽船ニ乗セテ、昨夜長崎ニ送レリト云、其  
姓名ハ中原尚雄・高崎親章・土持高・安樂兼直(通)・末弘  
直方・菅井誠美・野間口兼一・松山信吾・原田長輝・  
猪鹿倉保文・大山綱介・伊丹親恒・田中直哉(園田)・園手田  
長輝・宅間治亮・野村綱等二十二名ナリト云、○下町  
宿屋ニテ放免セラレシ人々ニハ、森幸左衛門・長倉祐  
利・瀬戸山伊右衛門・西彦四郎・前田素志・川上親晴・  
高橋爲清・萩原壯右衛門・長野祐道・木佐貫重・山下  
竹之助・柏田盛夫(文)・松山新吾・山崎基明・松田玄人・

黒江幸左衛門・樋脇堅介・山下登介・田尻十左衛門・  
樋脇盛種・瀬戸口某・中島敬介・西幸之丞・町田實・  
松下兼明・本村幸介・濱島敦・安樂兼道・堀与憲(興)・佐  
藤信哉・本田廣・大久保市介・大久保一郎・大川鐵藏・  
永田盛信・財部某・平田歳二・清水岩治・肝付左右・  
川畑某・真宗僧鐵然(外)三四名ナリト云、

二七 大山綱良其他糺明

○大山綱良・田畑常秋ヲ軍營ニ呼出シ種々尋問アリタリ  
ト、大山ハ遁辞ヲ用ヒタリシモ、サシテ糺弾ナク、十  
一日柳原殿ヨリ上京ヲ命セラル、異儀ナク御受ヲナセ  
リ、田畑ハ始中後明白ニ陳言スト云、○敷根郷ニアル  
海軍ノ火薬製造所ハ官軍放火燒燼セリ、加治木郷ニ陰  
蔵セル火薬弾薬モ悉ク海中ニ投シタリ、○十二日午後  
三時勅使並黒田・高島モ兵隊巡查ト俱ニ引揚タリ、午  
後二時迄ニ各艦出航ス、軍艦龍驤並運送汽船一艘番船  
ニ残ル此後日新・春日交番船トシ、四月廿六日官軍乗差送開断ナク番船セリ、○県令大山綱良ハ田畑  
常秋ヘ代理セシメ、勅使ニ從テ上京セリ、属官等ノ  
附從ナシ、僕一名ト下町人矢野作兵衛從ヘテ、少シノ

異状モナク、兼テ上京ノ如ク平氣ナリシト云下野ナル者ハ商人ナリノ故、近頃大山カ威權ノ為ニ、稍大商ノ列ニ加ワリタリ、大山モ此音ノ為メニ名ヲ隠シタルコト妙カラス、這作兵衛ナル者モ大山カ付從、神戸ニ於テ大山ヲセラレタル後、旧恩ヲ忘レ不義ノ舉動少カラス、則其後家族ニ對シ醜聞多ク人面獸心ト、○此時官軍來着、直ニ官位ヲ剝シ捕縛センノ

予定ナリシカ、黒田參議カ見込ニ、之ヲ縛スルトキハ人心ノ動搖甚シカラント慮リ、穩ニ上京ヲ命シタリト云、然レトモ何トナク此說洩レタリ、○島津家ハ少シモ動搖スル訳ナケレハ、勅使御見送等ノ礼式アリ、忠義公ハ汽船迄見送ラレタリ、久光公ハ上京アルヘキ旨、柳原殿ヨリ勸メラレシカトモ、脚氣治セサルヲ以テ謝絶セラレタリト、

## 二八 大山綱良勅使随行上京ニ付テ属官へ評議

○大山綱良ハ十日ノ夜沖村ノ別荘ニ県官ヲ會シ、種々密議シテ後、別離ノ宴ヲ開キ深更ニ及ヒタリト云、其席ニ列リシ人々ニハ、松元武雄・今淵宏(種)・右松祐永・坂本清彦・鮫島員秀・土師盛大・養田長傳・鎌田直政・鈴木壯七・川畑梓等ノ数名ニテ、田畑ハ如何ナル故ニヤ此會ニ列ラサリシト云、一説ニ、田畑ハ常ニ度外ニ

置レ、殊ニ此暴挙不服ナリシト、○此行ニ大山ハ金貨一万円ヲ携ヘタリト、鎌田直政カ此會席ニテ渡シタリトソ、上京ノ上朝官ニ啗シメテ都合スルノ用途ナリシト云、○勅使柳原殿ノ乘艦ハ十二日午後二時搭艦帰京セラレタリ、此時軍艦ハ龍驤・春日・筑波・日新ノ四艦、運送艦ハ黄龍・玄武外二艘ナリ、中原尚雄等ハ黄龍丸ニテ護送セラレタリ、○此時賊員遠見・別府ハ日夜兼行鹿兒島ニ走歸リ、官軍ノ動靜ヲ窺ンカ為伊敷村・加治木辺ニ潜伏シ、大山カ搭艦セサル前ニ沖村ナル別荘ニテ密議セシト云、○勅使ノ乘艦其他各艦出港後淵見等ハ公然県庁ニ出、右松・松元・今淵等ト募兵ノ議論ニ及ヒ、頗ル兇暴ナリシ、○県官等會議ノ時軍用金乏シキ故、松元武雄曰、承惠・撫育ノ兩社ニ命シ、諸幣製造ノコトヲ議ス其計算方法ハ好簡安費ナリ、大山曰、爰ニ至テハ、如何様ニモ軍ニ勝ノ計策第一、所謂勝テハ官、負レハ賊ナリ、宜シク取計アルヘシト、即チ撫育社員等ヲ呼ンテ製造ヲ命シタリト、○右松ハ巡查ハ士族老幼ヲ論セス募ルヘシト云、松元曰、其費用県内一般ニ課出セシムヘシト云、大山曰、各家ニ賦課スルハ人心ヲ破ルノ基ナリ、人々志ヲ以テ課出スヘキ旨布告スヘ

シト云、襄田曰ク、琉球分管ニアル金ヲ取ラムト云、  
 大山曰、汽船ナケレハ事成リ難シ、先ツ見合スヘシト、  
 ○大山曰、巡查費用ノ課出ハ、宮崎旧官ノ分ハ課出ヲ  
 止ムヘシ、兎角人心折合ワサルヘシ、然レトモ（福山）福山ヘ  
 談シテ見ヨト福山前二宮  
崎ノ県令ナリ、松元曰ク、此際ナレハ押付ケ  
 課スヘシ、大山曰、福山ヘ議スヘシト云ヒシト云福山ハ  
権令  
ヲ云

二九 大山県令各府県へ専使ヲ出ス

○西郷等政府へ尋問ノ為上京ノ趣意、各鎮台各府県へ県  
 令大山綱良ヨリ通知ノ書面ヲ携出発シタル輩ニハ、田  
 尻司・上原保介・平山龍介・福永直之丞・小森新之丞・  
 伊藤一作・上村直・永吉實・相良雄藏・平岡八郎大夫・  
 川上親郷・山本實明・貴島平八・中村兼志・上村清之  
 助・内藤佳一郎・厚地兼治・長倉諷・折田常隆・伊勢  
 汀・篠崎眞積・福島巖・上村行英・宇宿行徳・吉井叶  
 以上二十五名ナリ、二月十日各方ニ向テ出発ス、各刀  
 劍短銃ヲ携ヘタリ、○此人員ハ各冀望セシ輩ニシテ、  
 県官松元・右松等ニ見込マレ者ナリ、懇望奔走セシ者

多シト雖トモ、松元カ見込ナキ者ハ此扱ニ入ラサリキ、  
 ○其書翰ニ曰ク、

今般当県官員へ専使申付、御通知ノ事件左ニ申進候、近  
 日当県ヨリ旧警視庁へ奉職ノ警部中原尚雄其外別紙人  
 名ノ者共、名ヲ帰省等ニ託シ、潜ニ帰県ノ処、彼等窃  
 ニ国憲ヲ犯サントスルノ奸謀発覚シタルニ付、即チ御  
 規則ニ本ツキ其筋へ申付、該人名捕縛ノ上鞫問ニ及候  
 処、図ラスモ該犯ノ口供別紙之通ニ有之候、就テハ右  
 事件陸軍大将西郷隆盛・同少将桐野利秋・同少将篠原  
 國幹等カ耳聞ニモ相触レタルカ、右三名ヨリ今般政府  
 へ尋問之筋有之、不日ニ当地発程致候間、御含ノ為此  
 段届出候、尤旧兵隊ノ者共随行多数出立致候間、人民  
 動揺不致様一層御保護及御依頼候也、トノ書面ヲ以届  
 出候ニ付、県庁ニ於テ書面ノ趣聞届ノ上、朝廷へモ  
 御届申置候間、為御心得此段御通知致置候也、

明治十年二月

鹿児島県令大山綱良

各鎮台各府県

御中

松元武雄筆ヲ  
執レリト云々

右外ニ人名記並口供数通ヲ添フ、○専使出発後懇望シ  
 自費ニテ肥地へ出発セシハ、谷村孫七・上原善介・森  
 新兵衛ノ三名ナリ、専使ヲ冀望セシカトモ其撰ニ当ラ

サリシ故、別ニ出發セシト云フ、○或云、專使ノ撰任ハ右松・松元・今淵(藤)ノ三名カ為ス処ナリト、故ニ兼テ此三名カ隨氣ノ者ノミナリ、此際這ノ扱ニ當レルハ大ニ威望甚タ熾ナリ、

### 三〇 仁禮直介帰泉熊本ノ景況ヲ報ス

○賊ノ砲隊長仁禮直介二月廿七日帰泉ス、其說ニ曰、七十九日ニ出軍、熊本ニ在ルコト四五日ニシテ廿五日該地出足、廿七日朝帰着ス去ル廿二日川尻開戦互ニ死傷アリ、官軍敗走シテ籠城セリ、我軍銃氣甚熾、鉄壁モ碎クノ勢ナリ、然レトモ寒氣ニ當リ行軍中ヨリ病人多シ、○川尻ト松合トノ間ニ、東軍ノ小蒸氣船二艘來テ、我軍ニ妨ヲ為ス、或海兵ヲ揚陸シテ戦ヲ挑ム、我軍ハ加治木・國分等ノ兵ヲシテ之ニ當ラシム、我軍勝利、我小汽船東軍ニ奪ワレタリ、小笠原嘉左衛門船長ナリシカ、上陸ノ跡ニ奪ワレシ故ニ、我軍報知ノ便ヲ失ヘリ、実ニ遺憾ナリ、小笠原嘉左衛門ハ挽回ニ尽力セリ仁禮カ徳尾政高、小倉彦三親話、我軍中ニハ東京其外京撰ノ事情全ク分明ナラス、熊本士族凡七百余名左袒シ、種々報聞スト雖トモ、一々信用シ難シトテ或人ニ報告ヲ依頼ス、

○熊本城中ニハ四斤半位ノアルムストーン(アームストロング砲)五六門程モアリト見ヘ、砲発モ上手ニシテ、我軍之ニハ困却ナリ、城中ハ幡山ト云処ニテンドヲ張りタル故、四斤半ヲ數發打込ミタレトモ、敵ハ全ク居ラサリシト見ヘタリ、全ク虚声ヲ張りタルナラン、○城中ハ少シモ動揺ノ形ナク、手当モ充分ニ整ヒタルニ疑ナシ、熊本人ノ說ニ依レハ、歩兵凡五大隊・砲二大隊・騎兵五小隊、此兵員凡三千人内外ナルヘシト、東京巡查凡二百余名、之ニ加ルニ県令其他ノ属官百名内外モアルヘシト、城中彈藥ハ充分ナリ、糧米ハ乏シ、廿日分ハ覚束ナシ、市中ヲ焼払シトキ開米モ多ク焼キタリ、夫ヨリ俄ニ市中買入シカ、一石二十円値ニテ三百俵余買得タリト、肥地一体ノ人氣東軍ヲ惡ムコト讎仇ノ如シ、我軍至ルヤ実ニ兎ノ母ヲ慕カ如シ、西郷・桐野分テ愛民ニ注意セリ、今ノ勢ニテハ日々來属スル者多シ、夫卒ナトハ給金ヲ与ヘテモ決テ受取ラス、説諭シテ与ルニハ面動ナリ、又城中ニハ清正代ヨリノ塩海草類多シト、之ハ二三年モ差支ヘスト、誰カ説モ同様ナレハ、実其通ナラント、○城中ニハ谷千城・樺山資紀長官ナリ、樺山モ此方ノ見込トハ大差、我ニシテモ其職其立場ニ居テ死



ヲ以テ尽スナルヘシ、此方ノ見込ハ余リ我謾ナルコト多シ、見込ト云ハ、先生方モ我々如キモノニテ格別ナル者ニ非ラスト云ヘリ、○肥後ハ士族中ニ三党派アリ、一ハ敬神党、二ハ旧守、三ハ政府党、今回我軍ニ来属シタルハ旧守党、敬神ノ残党モ多ク来属セリ、政府党ハ八代辺ニ多シ、大田黒等カ一派ナリ、○福岡・長崎ヘモ東京ヨリ巡查加増セシトノ説アリ、巡查ハ鎮台兵ヨリ強カラント、○熊本本人七百余名来属セル、此内ヨリ謀シ合セタル人々ニテ、一々殊勝ナル人物ナリ、我々ニ行逢トキハ地ニ跪テ言詞ヲ求フル位ニテ、寔ニ恥入ルナリ、先鋒タランコトヲ強テ望タリ、殊ニ城攻ニハ地理ノ案内第一ナレハ、彼レノ一手ニテ攻入り、火ノ手ヲ相図ニ惣攻ニスヘシトノ約束ニテ、廿五日ノ夜、月山ニ入ルヲ相図ニ攻掛ルトノコトナリシ故、果シテ其通ナリナラン、○城ハ大手ノ方堅固ニシテ近付キ難シ、後ロノ方ヨリ攻ムルトキハ容易ナリトノ説ナリ、○該地ノ人民我軍ノ入りテ後ハ、百事我ニ尋テ、竹木ヲ伐ルニモ許可ヲ受クルカ如シ、存外ニ能キ人氣ナリ、○日々来属多キカ故今一七日モ経タラハ、三千名位ハ果シテ来附スヘシ、福岡・佐賀・秋月或ハ四国

ノ蜂起ハ疑ヲ容レズ、桐野カ計策ヲ立テ引合ニ出シタル者数名ナリ、高知ノ都合止カナル報知次第ニハ、城攻ニハ僅ノ人数ヲ押ヘニ置キ、駈抜ケテ速ク馬関ヲ渡ルノ計画ナリ、○城攻ニ曰ヲ重ルトキハ、我軍利アラスルノミナラス、東軍モ増スヘシ、這ノ城ハ清正カ築キタル上、今ハ大小砲ノ利器充分ニ備ヘタルカ故、力攻ニハ不利ナリ、故ニ走帰ルモ余事ニアラス、廿搦ノ白砲三四門ヲ取ニ帰レリ、

### 三一 仁禮直介大山綱良ト深談

○廿八日大山綱良ニ面接ス、同人ニ初テ深話セリ、大山曰、川村ヲ過日ダマシ置キタリ、速ク馬関ニ出ルノ丹精アルヘシ、果シテ迎ノ汽船モ来ルナルヘシト云此條諸ニ冠スト同シ、仁禮ハ此説ヲ聞テ愕然シタリ、○徳尾政高キカ故ニ略ス、仁禮ニ語テ曰ク、支那国ハ琉球事件ニ付キ使節ヲ日本ニ遣スノ趣告ケ越シタル説、或ハ魯国トトルコ土尔格ト葛藤云々ヲ語ル、仁禮嘆息シテ曰ク、我々ハ同志軍ニ曰ヲ暮シ、国難ノ迫ルニ斯ノ如クナルハ本意ニ非ラス、西郷氏之ヲ聞カハ思慮ノ一廉トナルヘシ、此回ノ拳ハ夷

ニ我國ニ虫付キタルカ如シ、私学校カ国害ヲ釀シタリト謂フヘシト涕ヲ流シタリトナム 此人ハ校員ニシテ常ニ校員ノ縦恣ヲ憂ヒ歎概スルコト少カラナリ、 ○同人ハ鹿兒島ニ在ルコト三日、又熊本ニ赴キタリ、臼砲並大小彈薬ト金五千円ヲ、県庁ヨリ受取り行キタリト、○仁禮大山ニ謂テ曰、西郷氏カ憂慮スル処ノ件々如何シノ報答アリシ、大山曰、東兵来ルトモ決シテ此地ニテ戦ハ開カセマシ、或ハ人心ノ離反ハ押ヘルノ道アリ、懸念スヘカラサルヲ伝ヨト云ヒシトナム、或ハ川村ハダマシ置キタルノ趣ヲ告クヘシトモ云ヘリト云々、此説ハ或人カ仁禮ヨリ直聞セルカ故信スヘキ説ナリ 道説徳尾政高及ヒ小倉基彦兄、弟カ仁礼ヨリ親シク聞ク処也、

### 三三 熊本攻城ノ形況ヲ偽リテ人心ヲ収攬ス

○二月廿四日熊本ノ報知ニ巷説紛紜、官軍敗走籠城シ、銃器彈薬夥シク分捕タリト、○党軍ノ闕乏ナルハ雷帽子ト大砲ナリ、故ニ昼夜製造セリ、職人ノ給分ハ三日分ヲ与ヘタリ、本日此報知ニ由テ県令初県官午後四時開庁、捷報ノ祝宴ヲ新地ノ某樓ニ開ケリ、其報知書ニ曰、二月廿日朝熊本士族二名我軍營ニ来テ告テ曰、今

宵鎮台兵必ス攻メ来ルヘシ、行路ノ諸所ニ地雷ヲ埋メタリ、御注意アルヘシト、○廿二日五百名許ノ士族来テ先鋒ヲ乞フ、追々走集ル者多シ、○鎮台ハ籠城ノ手当ナリ、地理不案内ニテハ危シ、故ニ我々先鋒タラント云、其意ニ任セタリ、○同日川尻駅ニ於テ我カ斥候四小隊 加治木、因分、帖佐等ノ兵隊ナリ、 別府晋介カ隊ナリ、鎮台ノ斥候半小隊位ト応接ス、終ニ砲発シテ追撃シ、鎮台兵十余名矢庭ニ斃ル、或ハ銃器二十余丁彈薬モ分捕セリ、其儘城中ニ曳入り籠城セリ、直ニ城下ニ兵ヲ進テ攻城ノ手配ヲナセリト 隈岡長道當時少尉ノ職ヲ以テ、一中隊ヲ率、ヒテ此舉ニアリ、後日其形況和誌別記ス、○是ヨリ先十九日頃熊本市中ヲ焼払フ、不幸ニシテ閉米蔵モ燒ケタリ、城兵天運尽キタリト云ヘシ、放火セシハ全ク籠城ノ見込ニテ、我カ軍ノ足溜リナキ様ニセシ者ト思ヘリ、○廿二日ニハ熊本士族凡七百余名ニ及ヘリ、右ノ面々云フ、此人数ニテ夜討ヲ仕掛ケ外郭丈ケハ攻抜クヘシト、如何ニモ古風ナル人々ニテ、襦手ナトノ出立ナリト、○城中大手ノ方ニハ地雷ヲ諸所ニ埋タル由、橋ノアル処ハ皆埋メアリト、守リハ手薄ナリ、搦手ノ方ハ全体不堅固ノ城ニテ攻ルニ易シ、然レトモ此節新ニ壕ヲ掘リ守兵多シ、容易ニ攻付ケ難シ、清正カ築キ

タル名城ナル上、今ハ大小砲ノ利器アリ地雷アリ、随分骨折レナルヘシ、○川尻駅ニ於テ、城兵ノ斥候隊ト我先鋒別府晋介カ隊ト応接、刻ヲ遷シ其末砲発先後ノ説アリ、城兵先キニ砲発シタリト云ヒ、或ハ我カ軍先キニ発シタリト云ヒ、イツレカ分明ナラス、一説ニ兵器ヲ携ヘ大勢通行スルハ、賊ト見做サ、ルヲ得サルナリ、法律ハ存シアルヘシ、西郷氏一両名ナラハ異儀ナシ、西郷氏ニ面談スヘシト云、別府曰、西郷大將此人數中ニ居ラス、鹿兒島出發我々ニ三日後レテ後軍ニアリ、我々ハ護衛ノ先鋒隊ナリ、是非ニ通シ與レヨト、官軍曰ク、鎮台ノ職掌ニ於テ、兇器ヲ携ヘタル大勢ヲ通行ハ許シ難シ、西郷来ル迄ハ退テ扣ユヘシト云フ、斯ク論談凡一時間許リ、終ニ別府閉口直ニ放発ノ号令ヲ下ス、故ニ台兵死傷多クシテ敗走セリト、此説稍信スヘキ者乎、○砲発ノ先後ハ論シテ益ナシ、大軍ヲ挙テ兵器ヲ携ヘ通行セムトス、無論討伐スヘキハ論ヲ俟タス、○熊本人ノ来属スル巨魁ハ西郷等ト常ニ往来シ、不輒ヲ謀リタル者ナリ、九年ノ十月敬神連カ暴発ノ後ハ、毎々来リテ桐野カ宅ニ止宿シ、或ハ汽船ニ搭シテ京撰間ニ出タルモアリト、池邊某ナル者モ一月ノ初来

(吉十郎)

テ、大山カ別荘ニ会セシコトモアリタリト、今ニシテ考フルニ、其因由ノ久シキ、一朝夕ノ事ニ非ラサルナリ、

### 三三 諸郷区戸長扱挙西郷ヨリ大山ニ依頼

○九年ノ春諸郷の区戸長ヲ更撰ス、私学校員随氣の輩ヲ用タリ、或ハ該校員ヲ任シ各郷ニ私学校ヲ建設シタリ、之ヲ煽動ノ要策トス、是ヨリシテ校員増加暴威ヲ逞クスルニ至レリ、爰ヲ以テ田舎士族ハ官設ト心得、入校セサル者ハ交際モ絶ヘル勢ナルカ故、愚夫愚婦モ校員ヲ尊重スルコト稍県庁ノ上ニアリ、○今回ノ挙ハ其因由久フシテ且ツ深シ、佐賀・萩ノ暴動ト同視スヘカサルノ勢ナリ、○巡查モ九年ノ季春鹿兒島校員ヲ登用スルニ至テ、冀望者ハ篠原・邊見・淵邊等ニ依頼シ、県官ハ其権ナキカ如シ、○西郷大山カ宅ニ来テ依頼シテ曰ク、中島健彦・野村忍介ノ二名ヲ警部ニ任スヘシ云々、大山曰ク、以来私学校員ヲ以テ警部巡查或ハ区戸長ニ任シ、該校ノ盛大ヲ謀リ、他日ノ用ニ充ン云々、等談刻ヲ移セリト、村田・邊見・淵邊モ来会、区戸長・

警部・巡查ノ人撰、此日稍治定シタリト云、○二月中旬暴発ノ時ニ方リテ、警部・巡查・区戸長モ多クハ出軍シ、其跡ニ登用セラレシ者ハ、県官等カ自己ノ意ニ適シタルヲ用ヒタリ、即チ島津又七・島津多右衛門・川上某・名越・町田等カ如キ是レナリ、今ニ至テ視ルトキハ這輩ハ田舎士族ヲ煽動セシメタル輩ナリ、○中ニモ警部ニハ中島健彦・野村忍介・仁禮新左衛門・中山甚五兵衛等稍煽動者ノ魁トモ謂フヘキ輩ニシテ、暴業ヲ為シタル多クハ這輩ニアリ、這輩出軍ノ後ハ、警部某彼等カ志ヲ継キ、煽動強迫セシハ衆ノ知ルカ如シ、三月中旬ヨリ四月末頃迄ニ兇惡ヲ働キタルハ、専ラ這人等ニアリ、官軍来着免黜セラレテ後ハ、全ク關係セサルノ姿ニテ、泰然正義ヲ守レル人ノ如シ、政府之ヲ知ラサルヤ、将タ寛大ノ御処分ナリヤ、御糾弾モナキハ、此際正義ヲ守リ困難ヲ極タル良民ノ安セサル処ナリ、

### 三四 出軍ヲ命スル事情並布告文

○私学校員ニ依頼シ、出軍ヲ冀望スルニ、兼テ校員ニ陪

シカラサリシ者ハ拒絶セラレタリ、其輩ハ県官ニ愁嘆シ、懇願スルトキハ左ノ如キ書面ヲ渡シタリ、「何野某右出軍申付候事、鹿兒島県令大山綱良」ト記シタリ、之ヲ以テ見ルトキハ愚昧ノ輩左袒セサルヲ得ンヤ、大山カ措置ノ如何ハ素ヨリ論ナシ、○前段ニ記セル銃器彈藥其他付属ノ要品、暴徒カ掠聚ノ際、県令カ布告文ニ、当時銃器類大層入用有之候間、所持ノ人ハ秘スルコトナク可差出、此旨相達候云々ナリ、而シテ賊徒十名二十名各戸ニ闖入搜索シテ持去レリ、其後 勅使御下向ノ時迄ハ、小兒輩戯レニ火繩銃等ヲ携ヘ放発セシ故、又布告ニ曰、「銃器ヲ携或放発スルハ御規則モ有之事候条、猥ニ携ヘ候カ或ハ放発致間敷云々」ナリ、○或ハ賊徒進発ノ前頃ヨリ、県令大山ヲ初県官悉ク帶刀ス、故ニ士農工商モ帶スル者多シ、而シテ間モナク、勅使御下向ニ中ツテ布告ニ曰ク、「近頃帶刀ノ者間ニハ有之哉ニ相聞得、右ハ先般御布告之趣モ有之、一同承知之通ニ候条、此際子供タリトモ帶刀一切不相成候条云々、鹿兒島県令大山綱良」、実抱腹衆皆大笑セリ、○是ヨリ先キ二月初、彈藥掠奪ノ頃ヨリ県官ハ悉ク一刀ヲ帶ス、故ニ鹿兒島士族ハ素ヨリ平民輩ニ至ル

迄、帶刀シ或棒ヲ携ヘタルモアリ、故ニ巷説ニ以來以前ノ如ク帶刀スルニ至レリト、頑固守旧ノ輩ハ大ニ怡悦シ、偏ニ私学校ノ力ニ依リテ復旧セリ、皇国ノ元氣回復セリト喋々、直ニ刀劍ノ価昔日ニ復シ、売買ノ途ヲ開キタリ、中ニモ拵屋ノ職人ハ日夜勉強仕込サリシ位ナリキ、

三五 中原尚雄等探訪云々兒玉軍治・淵邊・有馬等ニ密告ス

○中原尚雄等刺客ノ云々ハ前段ニ記シタル反告者兒玉軍治ナル者ハ、旧藩ノ足輕ニテ、近頃巡查ニ拜命シタルニ、同僚ト睦マシカラス辞職セリ、元來狡黠巧言、有馬藤太・邊見・淵邊等ニ九年ノ春頃ヨリ交深ク、政府ヲ誹謗シ官吏ヲ譏誣スル等、私学校員カ好ム処ニ雷同シ慨慷握腕、近頃該校ニ加入シ賞セラレシモノナリ、素ヨリ中原尚雄等トモ旧交故、同人等帰省該校員分離センノ氣ヲ察シ、或ハ探訪云々ヲ聞テ之ヲ有馬ニ告ク、有馬之ヲ淵邊・邊見・篠原等ニ語り、然シテ或ル日兒玉・谷口東太ト中原ニ密議ノ際、邊見、淵邊尙ニ床下

ニ匿レ其談ヲ聞カシメタル等ノコトモアリシト、而シテ中原等ヲ捕縛セントスルニ中リ、兒玉ニ書翰ヲ造ラシメテ送ル文意ハ、私学校員官庫ヲ破毀シ強奪云、此時ニ中リテ事ヲ擧ヘシ云々ナリシト、中原則出宅鹿兒島ニ行ント、使ト俱ニ伊集院郷ノ市中太鞍橋兀ニ捕縛手伏シテ之ヲ縛ス、而シテ鹿兒島警察第一分署ニ拘引シ拷問ニ及ヘリト一説ニ兒玉ナル者モ同シク縛ヲ受テ、中原ト、俱ニ執罪セラレシト云フ、虚実分明ナラス、兒玉ハ反告ノ功ヲ以テ、隊長ニ擧ケラレタルノミナラス、篠原・桐野ヨリ各百円ツ、大山綱良ヨリ三百円ヲ与ヘタリトモ云、○同人ハ鹿兒島西田ニ居住ス、元來貧生ナリシカ、卒カニ五百円金ヲ得テ家屋ノ修理ヲモナシ出軍セリト、巷説ニ政体改革ノ上ハ、大佐辺ノ軍官ニ任セラル、ハ疑ヲ容レズト、当時人皆唱ヘタリ、此説信シ難シ、○有馬ハ是ヨリ先キ篠原・淵邊・邊見等ト密議シ、東京ニ出テ大久保ニ刺客ヲ用ルカ、或ハ各県ニ連衡ノ策ヲ施サンカト計画セリト、○野村綱良与八左衛門ト云、富輪県出仕（迎駕丸）（九日着港）時中原尚雄等ノ一列捕縛セラレ、騒動中ニテ上陸ヲ許サス、剩ヘ黨員上艦警備セリ、故ニ野村モ兩日ハ上陸スルヲ得ス、而シテ口供ノ如ク初テ大久保ノ密命ヲ受タルノ発覚セシ者ナリ、○野村同郷人上村行徳ニ面シテ、大久保カ野村ニ控ケル始末ヲ語レリ、上村ハ後

日知成高島一次ニ知事ス、高島ヨリ知事ノ事ヲ別記ス、ル処ニ非ラサルヤ明カナリ、大久保・木戸・大木・伊藤等カ謀議ニ出タリト憶測ノ説喋々タリ上村ハ野村カ言ヲ聞テテ後勢ノ支ハ難キヲ察シ、専使ヲ懇請ス、大山之ヲ允シ出発シ、前日湖辺・磐原等大山ヲ責メテ之ヲ停メタリ

### 三六 中原尚雄口供

○鹿兒島県伊集院郷士正兵衛嫡子少警部中原尚雄、三十一年  
二分

一自分儀明治四年一月四日少警部拜命奉職罷在り、同年十一月末方、日ハ失念、大警視川路利良宅へ差越候処、同人ヨリ各県ノ事情等彼是ト承り候末、鹿兒島県ニ於テ近頃種々不穩向モ有之連モ、西郷陸軍大將在県ナレハ、名義不立鹿忽ノ所為ハ無之トハ申ナカラ、万一挙動ノ機ニ立至ラハ、西郷ニ対面刺違ヘルヨリ外仕様ハナイヨトノ申聞ニ随ヒ居候処、折柄是亦日ハ不取覚、同県士族大山勘介宅へ立越候処、咄ニ西郷若シ事ヲ挙ケハ、刺殺スヨリ外ナシト承候ニ付、弥々前件ノ主意包蔵罷在候内、同年十二月廿四日中警部園田長輝・末弘直方自分宅へ参り、近々帰省願出度含ト云フモ、鹿

兒島ノ動静何分世評区々ノ向キ申スニ付、此儀ニ於テハ自分ニモ共ニ帰省致シ度相答候処、兩人共其意ニ応シ候ニ付、即日其形リニテ皆共罷帰候事、

一翌廿五日警視庁内ニテ川路利良へ鳥渡面会ノ節、帰省願書可差出候間宜敷相願段申述候処、夫ハ好キ事ナリ宜敷氣張呉ヘク申聞候ニ付、前書云々ノ儀モ有之、決心罷在候、尤モ園田長輝方へ集会ノ盟約ニ付、午後三時頃ヨリ罷越候処、平田才七・野間口兼一・猪鹿倉保・大山綱介・菅井誠美・伊丹親恒・末弘直方・山崎基明・高崎親章・安樂兼道・土持高等追々来集致シ、孰レモ見込ノ論ヲ立、帰省ノ上ハ各郷ヨリ私学校入校ノ者ハ固ヨリ其外共ニ、名分ノナキ師ヲ起スハ人臣トシテ有間敷ト云儀ヲ主張シ、入校ノ面々且ツ入校志願ノ者共ヲ引離シ度トノ事ニ決議シ候事、

一翌廿六日午後川路利良旧宅、当分明キ家ノ処ニ於テ、右人数集会ヲ期シ置キ、帰省ノ願書差出候処、即刻許可相成り、皆々参会ニ及ヒ候、其節評議ノ次第ハ、第一私学校ノ人数ニ離間ノ策ヲ用ヒ、我方ニ人数ヲ引キ入レ私学校ヲ瓦解セシメ、動搖ノ機ニ投シ西郷ヲ暗殺致シ、速ニ電報ヲ以テ東京ニ告ケ、海陸軍併セテ攻撃

ニ及ヒ、私学校ノ人数ヲ鑿シニ致候儀ヲ決定シ、電報ノ役ニハ園田・野間口素ヨリ肥後境ノ者故、熊本鎮台ニ駆ケ付ケ、是ヨリ電報ニ及フベキ事、其他報知ニ於テモ悉ク暗号ヲ相定メ、都テ決議ノ上明日之発程ヲ極メ候、併シ同時ニ発程候テハ外見之畏レモ有之、面々仕舞次第ト取究メ皆共帰宿致候事、

一同廿七日東京発程横濱迄差越シ一泊、翌廿八日午後第九時玄海丸へ乗船出帆ノ処、船中殊ノ外不宜諸所滞泊ニテ、明治十年一月十一日着岸、夫ヨリ外出等モ致サス候得共、末弘・高崎等参リ呉候儀ハ有之、何モ前書探偵ノ件々モハカトラス、折柄暗殺ノ密謀発覚致シ、終ニ御捕縛ニ相成リ、右次第度御取調ニヨリ、陸軍大将西郷隆盛ヲ川路利良カ命ヲ受ケ、容易ナラサル儀ヲ差挟ミ、且人心ヲ離間スルノ始末取企候儀、今更何共奉恐入候事、

明治十年二月五日

中原尚雄拊印

三七 園田長照等十四名口供

○鹿兒島県牛山郷士族中警部園田長輝・同出水郷士族権

中警部野間口兼一・同平佐郷士族権中警部末弘直方・同喜入郷士族少警部安樂兼道・同加世田郷士族少警部土持高・東京府士族中警部菅井誠美・鹿兒島県市来郷士族権少警部高崎親章・同県下西田士族一等巡査樋脇賢介・同加治木郷士族二等巡査伊丹親恒・同谷山郷士族書生平田才七・同加世田郷士族書生大山綱介・同加世田郷士族同猪鹿倉保・同平佐郷士族同田中直哉・同高岡郷士族権少警部山崎基明

一自分共儀、明治九年一月以来、追々警視庁中警部其他拜命奉職罷在、大山綱介・猪鹿倉保・田中直哉ハ書生ニテ親敷相交リ、然ル処同年十一月頃ヨリ鹿兒島私学校ノ人員、何欵挙動是アル世評ニ付、探偵トシテ帰省可致旨、大警視川路利良ヨリ内諭致承知折柄、大山勘助ヨリモ右事件承候ニ付、同年十二月廿五日中原尚雄初メ外十四名集会シ、孰レモ見込ノ議論ヲ立テ、私学校入校ノ者ハ素ヨリ、其外入校有志ノ面々へ離間ノ策ヲ運シ、人心ヲ引放シ度決議候事、

一翌廿六日午後川路旧宅明家ニ於テ、右人数集会ヲ期シ置キ、帰省ノ願書差出候処、即刻許可相成リ、皆々参会ニ及ヒ其節ノ評議ニ、第一私学校ノ人員ニ離間ノ策

ヲ用ヒ、我方ニ人数ヲ引入レ私学校ヲ瓦解セシメ、動  
搖ノ機ニ投シ西郷ヲ暗殺シ、速ニ電報ヲ以テ東京ニ告

ケ、海陸軍併セテ攻撃シ、私学校ノ人数ヲ盡シニ致シ  
候議ヲ決定シ、電報ノ役ニハ園田・野間口素ヨリ肥後  
境ノ者故、熊本鎮台ニ駈付ケ、是ヨリ電報ニ及フヘキ  
ト、其他報知ニ於テモ、悉ク暗号相定メ、都テ決議ノ  
上明日ノ発程ヲ相究メ、尤モ同時ニ出立候テハ外見ノ  
畏モ是アリ、而シテ仕舞次第ト取究メ皆共帰宿候事、  
一同廿七日ヨリ翌廿八日迄ニ東京発程、明治十年一月  
中旬ニ至リ孰レモ鹿兒島着、前件探偵等モハカドラサル  
内、密謀発覚致シ、終ニ御捕縛ニ相成リ、右之次第川  
路利良カ命ヲ受ケ、容易ナラサル儀取企候始末、今更  
何共奉恐入候事、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年二月七日

右之十四名各拇印

### 三八 前田素志等五名口供

○鹿兒島県加治木郷士族四等巡查前田素志・同帖佐郷士  
族四等巡查高崎爲清・同平佐郷士族書生柏田盛文・同

蒲生郷士族四等巡查松下兼清・同加世田郷士族二等巡  
査西彦四郎、

一自分共儀、明治九年以來追々警視庁へ奉職罷在候処、  
同年十二月警部末弘直方始メ、其他鹿兒島私学校ノ者  
共、容易ナラサル形勢ニ因リ、探偵方トシテ帰省ノ段  
粗く承リ、同シク探偵方トシテ帰省致度存シ、同月廿  
六日川路利良ノ内命ヲ受ケ、同県士族大山勘助へ帰省  
ノ願書差出候処、即刻許可相成リ、探偵等精々心ヲ用  
ヒ、且ツ私学校人員入校志願ノ者ヲ離間致シ候様、其  
他ノ儀共ハ末弘等ノ指令ニ従フヘキ旨承知致シ、尤モ  
集会等ニハ一切關係不致候事、  
一同日ヨリ翌廿八日迄銘々発程、明治十年一月中旬ニ至  
リ鹿兒島へ着シ、前件探偵等モ不相叶内密謀発覚シ、  
終ニ御捕縛ニ逢候事、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年二月七日

右五名各拇印

### 三九 野村綱口供

○鹿兒島県第一大区二小区千番地居住士族野村好醉嫡子



野村綱、

自分儀旧宮崎県廃合ノ末宮崎学校処分ノ事モ有之、旧学校弟子九名方向取定メノ為、明治九年十二月五日方同伴当地出發、同廿八日着京、其時分紛々鹿兒島動搖ノ風聞有之、国家ノ為メ都合之儀ト思ヒ込ミ、同卅一日大久保卿へ鹿兒島ノ説、路頭ニ粉々ト有之、自ラ上等社会ニ於テハ確タル事実、御熟知ノ御事トハ乍存、路頭ノ説之様有之候テハ、甚タ不都合ノ始未故、私儀モ委シクハ不存候得共、御聞被成度候者可致出頭トノ趣、郵便ヲ以テ申遣候処、十年一月三日參リ呉候様申来リ罷越候処、前書ノ始末如何ト被相尋候ニ付、成程一時ハ壮士輩競ヒ立候得共、十一月下旬方ヨリ静定ノ向ニテ、自分出立ノ砌ハ穩ニ候、若シ路頭ノ説ニテ政府処分ヲ誤ル事有之候テハ、実ニ国家ノ為不容易次第ニ有之候旨申演候処、此末ハ如何成リ立ツヘキヤ、如何カ処分然ルヘキヤト被申候ニ付、之ハ私共ノ見ニ及ヒ間敷相答候処、先ツ鹿兒島私学校ハ一体政府ノ為ニ一大腫物ノ如シ、仍テ我輩ノ工夫ニハ盛大ナル学校ヲ設立シ、少年輩ヲシテ学問ノ方向ヲ定メシメ、同校人数ヲ離間シ、諸郷ニモ同様着手致シ、漸次腫物ヲ小ク

スルニ如スト承リ候事、

一同二十九日申来候ニ付罷越候処、三十一日ノ飛脚船ヨリ出立候、尤モ鹿兒島ノ人氣ハ、起リサメノ仕易キ国柄故、兎角二三月頃カ懸念ニ被思、且ツ陸軍省ヨリ弾薬等取寄候手都合モ有之、通例ノ事ナラ郵便又ハ電信ヨリ被申越度、而シテ動搖甚敷時分モ、乍御苦勞直ニ駈付ケ呉レ度、其節ハ郵便ハ止リ電信ハ切ル、ニ違ヒハナシ、其上陸軍等ノ用意ハ成程非常ニ備ト云フモノ、確タル報ナラテハ人民ノ騒キニモ相成ル事故、其節ハ直ニ駈付呉候様、殊ニ警視庁ヨリモ探索差出シ有之候、皆必死ノ覚悟ニテ先キ達テ出立セリ、暴発等ノ節ハ自ラ大小為ス所アルヘシト、懇々被申渡候ニ付、其意ハ畢竟主任ノ人ヲ斃スカ、又ハ火薬庫へ火差入ル等ノ事ニテ、随分仕果スヘシト汲受ケ、左様ノ事ナラ承知仕候旨相對へ候処、金百円報知ノ路費トシテ被差出候ニ付受納致シ、而シテ此度貴公ノ事ハ誰モ知ラヌコト故、其段ハ深く可差含、尤先達テ差出候探索人名ハ是ナリ、為心得トテ半切紙ニ書タル人名ヲ出サレタリ、一見スルニ何等警視或ハ何等巡查或ハ書生ノ片書ト郷名有之候、其書面ハ警視庁ヨリ廻リ来リタル者ニ

テ候事、

一 同年一月三十一日東京ヲ出立シ、神戸ヨリ迎陽丸ニ乗組ミ帰泉候処、中原尚雄等警視庁ヨリ内論(論)ノ次第発覚シ、御捕縛相成候段承リ、自分ニ於テモ前書承知致シ候件々、彼等右次第ニ付テハ今更着手ノ道無之、大書記官田畑常秋ヘ大略申出、深重ノ処ハ包藏致シ居候、再ヒ御喚出相成リ、第一分署ヘ差廻サレ、猶御取調ノ末前件形行申出候事、

右之通相違不申上候、以上、

明治十年二月十三日

野村綱母印

以上二十一名

#### 四〇 鹿兒島取締布告

(頭注)「九年秋ノ比ヨリ東京ニ於テ、追々巡査等ノ親病氣、或ハ辭職或ハ自身病ニ依テテ保養等ヲ申立、続々帰泉スルモノ多ク、スヘテ此等官ノ密旨ヲ受ケテ、鹿兒島ノ探偵ニ入ラル、ナリト、斯ノ如ク数人一時ニ帰泉スルハ非常ノコトナルヲ上、更ニ別紙之通、各府県並ニ各鎮台ヘ通知ニ及候、以テ、専ラ風説アリント、又説ニ同比ニテ西郷始九名ノ進署ヲ以テ官内省へ建言就テハ此節ニ際シ、人民保護上一層注意着手ニ及候条、書ヲ上ントリト、又説ニ木戸顧問密カニ西郷ニ通シテ、主上西京御滞在中心ニ出幸篤ク其意ヲ了知シ、益々安堵可致、此旨布告候事、ヲ促シ為ス所アラント云々、又同頃東京ニ於テ港説ニ鹿兒島ノ西郷始メ私学校但凶徒中原尚雄以下ノ口供相添候、

黨員ノ巨魁ヲ除キ、不平等ヲ伐テ、鹿兒島ヲ集士ト為スノ願望アリト、暗ニ符号  
明治十年二月十二日 鹿兒島県令 大山綱良

果シテ集士トナレリ  
右外捕縛セラレシ人々ニハ、鹿兒島西田黒江景安・串木野宮原吉五郎・馬越郷山下竹之介・頼娃樋渡五介、鹿兒島ニテ放免、喜入郷濱島敦以・加世田郷海軍少尉補本田弘・谷山郷長野祐道・古垣兼成・竹下種實・重富郷酒匂龍市・加治木郷川上親晴・市來郷萩原莊右衛門・同長野祐利・同木佐貫重節・市來郷久留景生・谷山郷山下兼一・今和泉郷佐藤信武・平佐郷吉井泰治・伊集院郷永田盛信・谷山郷瀬戸山伊兵衛・同郷堀興憲・鹿兒島肝付左右・田尻逆・川畑篤雄・中島傳藏・宅間治亮・山下住義・川上親賢・財部差・兵庫県陣峻普瑞・山口大洲鐵然以上三十一名、都合五十二名其他十有名ノ官員捕縛セラレタリ、○川上親賢・財部差ノ二名ハ陸軍大尉ニテ帰泉シタル者ナリ、

#### 四一 官軍大挙鹿兒島灣ニ來ル

○十年四月廿七日、金曜、日照後曇、午後一時過ヨリ雨、午前九時頃汽船十四艘鹿兒島海ニ來港、兵隊巡查數百名直ニ上陸、県庁ノ内外ニ列ヲ布キタリ  
兵隊巡查七百余名、軍艦八隻、春日、筑

波・丁成ノ四艘、外ニ高雄其他九艘、鹿児島海ハ蒸煙ノ為ニ咫尺ヲ弁セス、慘々タル形況ナリ、昨夜一時頃山谷七ツ島沖ヘ二三艘來テ、各艦ヲ待テ合せタリト云

マ、市街ノ騒動一方ナラス、老幼家財ヲ携ヘ四方ニ逃

逃スルモノ道路ニ充滿、スワヤ焼討ナラムト上下ノ狼

狽言語ニ尽シ難シ、其中ニハ優然海岸ニ出テ汽船ノ夥

シキヲ眺望シ、愉快ヲ唱フル者モアリタリ、之レ賊員

ニ左袒セサル輩ナラント思ハレタリ、然シテ県庁内ニ

兵隊入込或ハ外郭ヲ囲ミタリ、県官右松祐永・松元武

雄・今淵宏・蓑田長億・三浦介雄且賊員桂久武・樺山

資休兵・木原慶介・木藤武章・谷村孫六等ヲ搜索スルコ

ト甚敵ナリ、右松ハ宅ヲ探リ県庁ヲモ探索ス、而シテ

県官ハ高雄丸へ呼出糺問ノ筋アリテ、龍驤艦中ノ牢ニ

下セリト右松ハ一時通過シ潜伏スト云、或官軍、  
將校カ説ク所アリテ後ト云フ

#### 四二 桂久武遁逃

○桂久武ハ六日前熊本ヨリ深見有常・中山甚五兵衛ノ三

名ト帰県、前夜ヨリ県庁ニ出、募兵或ハ金穀彈藥ノ手

当等強迫ノ中ナリシカ、官軍上陸ヲ聞テ、直ニ裏門ヨ

リ遁逃シテ山下邸ニ走込ミ、門番所ノ奥室ニ潜伏シ居

ルコト殆ト一昼夜間、桂カ甥島津忠明日置郷、  
旧領主、之ヲ聞テ

説テ曰、這所ニ潜伏アリテハ、島津家ノ困難ヲ生スル

必定ナリ、速ニ去ルヘシト一説這所ヲ廿八日夜忍ヒ出テ吉野村ヲ經  
テ、重富ヨリ船ニ乗り福山ニ至リ、志布

志郷ニ至リ潜伏スルコト數日、後都城ニ出ノト云フ、其後山下邸門番所ニ手帳一

冊ヲ見出セリ、桂カ手帳ナリノト云、深見蒲生郷ニ入り潛ミタリト云フ、○桂カ

左衛門末子、妾腹ナリ、母トハ志布志ノ平民某ノ女ナリ、桂・深見ハ四月

中旬熊本ヨリ帰り、日々県庁ニ出頭シ、県官等ト金穀

彈藥ノ準備着手セリ、其形況稍県令ニ等シ西郷カ命スル処  
ナリトテ、大山

シタル故、如何ニモシテ長崎ニ出テ、洋人ニ謀テ銃器

彈藥或汽船ヲ買ワシメンコトヲ謀ル、三四商賈深見ト

共ニ尽力セントス、然レトモ長崎ニ出ルニハ、官軍ノ

警備敵ナルノミナラス、金策ニ日ヲ費シタリト、或曰

桂・深見等県庁ニ於テ県官右松等ニ謂テ曰、今鹿児島

ニ新募ノ巡查一千名ニ余レリ、此兵ヲ以テ碇泊ノ軍艦

ヲ襲ハシメント、其策略ノ如キハ、各砲台ニ在ル巨砲

四五門ノ車架ヲ修復シ、或ハ土俵等ニ架シ、夜中卒ニ

砲発セシメ、或ハ小舟ヨリ兵ヲ乗寄セ奪ハシムヘシ、

速ニ砲架ノ修造ニ着手アラムト衆皆默然タリ、右松曰、

此策逆モ行ハルヘカラス、如何トナレハ砲架ノ修造モ

二三日ニシテ調フヘカラス、軍艦ハ目前ニ碇泊ス、怪

曰、夜中窃ニ修造スヘシ、右松曰、火光ヲ見テハ直ニ  
来ルヘシ、白昼モ同然ナリ、桂曰、土俵ニ架シテ可ナ  
リ、右松曰ク、土俵ニ架シテ一ニ発ハ打タルヘシト雖  
トモ、軍艦ヲ打破ルハ万々難シ、軍艦ハ巨砲數門彈藥  
充滿セリ、殊ニ不練ノ巡查ヲ以テ其効覚東ナシ、桂・  
深見大ニ怒リ暴論烈シ、松元武雄傍ニ在リ口ヲ入レテ  
鎮メシト、実ニ無暗ノ兇論小兒ノ戲談ト云フヘキナリ、  
○深見ハ七月初阿久根ニ縛セラル、長崎ニ行テ彈藥ヲ  
買ワンコトヲ計リ、金三千余円ヲ携ヘタリト云、○此  
際百事恭順論ヲ主張セシハ、僅ニ有馬新介・土師吉兵  
衛ノ二名ナリシト云、其他県官ハ悉ク賊論ニ左袒セリ  
ト云、○因ニ云、桂久武ハ大山綱良カ代理ヲナシ、県  
務兼任スヘキ旨、西郷ヨリ書面ヲ与ヘタリト云、故ニ  
其威權ノ強暴ナル甚シキヲ極メタリ、西郷カ令書云々  
信シ難シ、○上陸ノ官軍ハ一小隊位桂カ邸宅ニ押入り  
搜索ス、桂カ邸ハ荒田村ニ在リ、隣邸樺山主計カ邸ニ誤テ立入り家内ヲ、桂  
搜索ス、樺山大ニ狼狽ス、後チ兵士ハ誤レルヲ謝シタリト云フ、桂  
ハ右ニ記シタル如ク不在ナルカ故、兵卒等ハ空シク去  
レリ、其他賊ノ隊長木原慶助手負帰県シタルヲ探知シ  
家内ヲ搜索ス、官軍来着ヲ聞テ谷山ヘ遁逃ス、故ニ得  
ス、長持ニ潜入担カレテ避ケタリト云、

#### 四三 鹿兒島巡視免黜

○官軍ハ本日午前十時頃迄ニ悉ク上陸シ、各所ニ營ヲ設  
ケ諸所ニ番兵ヲ置ク、其迅速ナル皆驚キタリ、而シテ  
警部巡查ヲ廢スルノ令、総督本營ヨリ達セラレタリ、  
新任ノ巡查二千余名千余名ハ諸郷ニ派出セリ、直ニ  
引取ルヘキヲ令セラレタリ、警部數百名此  
令ヲ聞テ、各力ヲ落シ愁々トシテ家ニ帰ルモノアリ、  
或ハ怡悦シテ今コソ籠中ノ鳥ニアラス、軍ノ埋草ヲ免  
レ命ヲ拾ヒタリ、帰家シテ誕生祝ニ焼酎呑ムノ嗜サヨ(德)  
ト、取ルモノモ取り敢ス、(Mad)否ヤ駈出シテ帰家スルモア  
リ斯ク則チ兼ハ天倉押ニ任シ、一日暮スモ否ヤガ、  
リテ如何ニモンテ免カレント思ヒタル輩ナリ、或ハ大工ヤ砂官・  
諸工人等士族ノ名アル者ハ、何ノ所以モ弁ヘス、続々  
冀望シタルモノ、或ハ生計ノ立テ難キ者、一月五円ノ  
給金ヲ貪リ拜命シタルモノモ少カラス、此等ノ輩ハ愁  
々トシテ帰家スル有様ハ、寔ニ一笑ニ堪ヘサリキ折シモ  
午後一  
時頃雨烈シク降レリ、故ニ巡查等カ雨ニ濡  
テ帰リ行ク、露ノ如ク、濡氣ニ等シカリキ  
三四名ツ、立番セシカ、俄ニ曳取りタルニハ人皆怪ミ  
タリ、三月廿八日頃ヨリ巡查ヲ募リ諸郷ニ派出セシ  
メ、或ハ郡元・中村・上下町ノ海岸或ハ橋々々々、昼夜  
立番シテ、往来ノ人ヲ検査スル甚嚴ナリ、中ニモ郡元・

中村ニハ六十余名ヲ派出シ、海辺ニハ上陸ヲ警ムルコト最嚴ナリ、此辺ニハ碓泊軍艦ヨリ、夜中窃ニ上陸シテ探訪スト云ノ説アリシ故ナリ、賊員淵邊群平ハ熊本ヨリ帰りテ、巡查募集ニ専ラ指揮スル所ナリ、中村辺ニハ夜中巡視シテ、勤惰ヲ督セリトソ、斯ク巡查ヲ募ルハ、桂、瀨辺、右松、松元等カ所為ニシテ、党軍ニ左袒セサル輩多ク、中ニモ島津家へ付從シテ拮抗スルモノアランコトヲ慮リ、奥付ノ威ヲ以テ誰某ヲ論セス、悉ク出兵ニ供セントノ策謀ナリ、且碓泊ノ軍艦ニ往來シテ密告セシ者ヲ戒ム、爾等、種々彼等カ最モ務メタル所ナリキ、○午後一二時頃ニハ官軍一二小隊諸所巡邏、巡查ハ各所ニ徘徊シ、纔時ノ間ニ大ニ異状ヲ顯シタリ、市街ハ家財ヲ携へ四方ニ遁逃スル者、道路ニ充滿直行スルヲ得サリキ、

#### 四四 当時鹿兒島形況

○如此官軍ノ警備嚴ニシテ、賊ノ勢焰立処ニ滅縮セリ、正義ノ輩ハ大ニ喜色ヲ顯シ、躍踊シテ蘇生ノ思ヲナシ、稍祝宴ヲ催シタルモアリ、勅使御帰京後殆ト五十余日兇暴ニ圧当セラレ、凶ラスモ警部巡查ニ命セラレ、困苦ニ堪ヘサリシカ、今日ノ喜ヒ言詞ニ尽シ難シト歎声ヲ發シタリ、○県官ハ本日午前九時人吉ニ向テ報知數名ヲ出ス、其姓名ヲ失ス、別府晋介ハ加治木迄帰り來

リシカ、汽船來港ヲ聞テ同郷小山田村ニ潛匿シ、廿八日窃ニ人吉ニ歸レリト云、○賊員二月中旬出發、熊本開戦後官軍敗走我軍勝利、熊本城ノ陥ル旦夕ニ在リトノ捷報ノミヲ唱ヘテ、不利敗報ハ首テナシ、適ク手負人等帰り來テ、其実ヲ語ル者ハ県官之ヲ嚴責シ、夫卒輩ハ巡查ヲ以テ戒ムルカ故、表ニ捷報ヲ談シ敗説ハ語ルコトヲ得ス、是ヲ以テ一般勝利々々ノ説ナリキ、識アルモノハ其実ヲ知ラスト雖トモ、量知スルニ艦倉ニアル者ヲ擅ニ出シテ、兵隊ニ編合シ、或ハ上下町・西田・鹽屋町等無頼ノ平民輩、諸郷ノ百姓原ヲモ、暴威ヲ以テ募リ、刀銃ヲ授ケ出軍セシメタル等ノコトヲ以テ、敗兆顯然ナルヲ量知スト雖トモ、父子兄弟ノ間モ語ヲ交ヘ難シトモ謂フヘキノ勢ナリシカ、今日ニ至テ初テ不利人吉ニ潰走セシヲ語り、或ハ初テ知ルモノモアリ、剩ヘ西郷・桐野・篠原・大山等カ官位剽奪セラレ、或ハ岩村通俊カ県令拜任ノ説ヲモ初テ知ルモノ多シ是等ノ説聞キ知ル人モアリシカトモ、一般ノ形ニ勢語ルヲ憚リタリ、其情狀筆紙ニ尽シ難タシ、然ルヲ今日ニ至テ人皆知レリト雖トモ、潰走ノ説ハ信スルモノ寡ク、策略アリテ一時曳上ケタリトカ、或ハ官軍カ欺説ナリトカ、種々捷説ノミ唱ヘタリ、

#### 四五 官軍鹿兒島各所哨兵ヲ張ル

○十年四月廿八日、晴朗、暖、土曜日旧曆三月十日、五日ニ当ル、本日官軍ハ未明ヨリ、照国神社下ノ土堤ヲ崩シ胸壁ヲ築ク、工作ノ速ナルコト驚クヘシ、或ハ天神馬場・高見馬場・山ノ口馬場・鹽屋棺屋橋辺或ハ旧新橋・吉野橋・滑川橋辺ニ、土俵ヲ以テ胸壁ヲ築キ、或ハ城ノ山大手口藤田・兒玉・濱島・税所ノ四氏カ邸宅、一時備り上ケトナリ、兵營トナル、家主ハ本日十二時限り、曳移ルヘシトノ令ナリシト、或ハ鹿兒島中各所ノ巡邏嚴ナリ、○昨日西郷等官位剝奪ノ布告各所ニ揭示セリ、或ハ賊徒潰走人吉ニ入りタル趣モ布告アリ、鹿兒島ニ乱入セシモノ量リ難シ、故ニ官軍来着ノ趣ヲモ示告セラレタリ賊徒カ人吉ニ潰走ノ布告ヲ聞テ、官軍ノ許諾ナルヲ懐ルモノ多シ、○官軍ノ將校ニハ川村參軍・大山少將・高島少將・仁禮大佐等ノ名聞ヘタリ、○不日賊徒襲来ノ説藹々、避乱ノ人民動揺甚シ、○新任ノ県官十有余名昨日来レリト、○此日モ桂・深見・中山・樺山・木原等ヲ搜索スルコト稠シ樺山休兵衛ハ昨日ヨリ搜索スルコト桂ト同シ、同人ハ熱病ヲ煩ヒ療セン為メ病臥シ、妻妾ヲ携ヘテ病院ニアリシカ、官軍探知ノ来レルニ當リ、屏ヲ飛越シテ遁、行ク如ク知ラズ、(遁レ出テ、西ニ吉田・清生ノ間ニ走レリト云フ)、○官軍ハ這曹一名モ縛スルコトヲ得ス、県官右松等ノ

四五名ヲ得タルノミ、這ノ四五輩ハ軍艦ニ牢セラレタリト、○賊ノ間諜ハ追々入り来テ官軍ノ挙動ヲ窺フモノ多シ、淵邊群平モ市來・伊集院ノ間ニ在リシカ、夜々帰宅シ平服シテ上下町辺ヲ徘徊シ窺ヒタリト、官軍ハ賊員ヲ探偵スル稠シト雖トモ、一般賊心ナルカ故、之ヲ密告スル者ナシ、○市街騒然、不日賊員來襲ノ説喋々、官軍ヲ仇視蔑如スル甚シ、故ニ賊情ノ深キヲ探偵スルハ容易ニアラサリシト云フ、

○十年四月廿九日、卅日官軍ハ日々胸壁ノ築造ニ從事シ、諸所ニ番兵ヲ置キ往来ヲ改メ、怪シキ者ハ捕縛セラレ、人民益騒擾遁逃ス、然レトモ仁禮大佐県令心得ノ名ヲ以テ、遁逃ヲ制止スト雖トモ其詮ナシ、

拙者儀、今般当分鹿兒島県令心得ヲ以テ、事務取扱被仰付候条、此旨布達候事、

明治十年五月一日 鹿兒島県令心得海軍大佐仁禮景範

#### 四六 賊軍熊本ヨリ走り歸リテ兵ヲ募ル

○五月一日、二日ニ至テ人心益穩ナラス、賊徒襲来之節驚々、人民ノ遁逃スル制スルニ道ナシ、○三日ニ至テ

賊徒栗野・横川ニ迫マレリト唱へ、或ハ都城ニ来レリ(鶴岡)

ト喋ク、二日ノ夜賊ノ間諜各処ニ入込ミ、公然徘徊恐ル、形ナシ、土人ハ却テ尊重シ手足トナリテ、官軍

ノ挙動ヲ告ル者多シ、伊敷村辺ニハ賊員五六十名来テ宿宮ノ手当ヲ為シ、或ハ各郷ニ分遣募兵ニ着手セリ、

○四日ニ至テ、官軍ハ胸壁ノ築造大抵調ヒシト見ヘタリ、城山内信正院(新照院)和泉崎ノ山上・草牟田村夏陰ノ上・

岩崎城ヶ谷上辺ニモ砲台ヲ築キ、大砲ヲ備ヘ番兵ヲ置キタリ、或甲突川筋川尻迄ノ胸壁ハ尤モ嚴重ナリ、上

方ハ滑川筋ヨリ琉球館辺、向築地・孝行橋ノ堀筋・永安橋ニ至迄同シク堅固ニ築キ、逆茂木ヲ引キ或ハ竹ノ

串ヲ樹テタリ、或多賀山ヨリ風月亭・愛宕山・磯天神ノ上迄各所ニ砲台ヲ築キタリ、之ヲ官軍ノ地トス、其

区域ハ僅カニ一里方内外ニシテ、其他ハ賊地トモ謂ヘキナリ、○汽船日々来層、十八艘碇泊セリ、○三日、

天氣晴明穩ナリ、賊ノ襲来今日ニ有リト、人民遁逃避去スルモノ夥シ、島津家二公モ櫻島横山村ニ本日午後

一時頃避亂セラレタリ、○午後四時頃各所哨兵線通行ヲ止メラレタリ、男子十才以上七十才以下ハ通ルコト

ヲ得ス、○島津家付従ノ人員凡五百余名島津家ニ付従ノ人ハ賊徒ニ相セズ

向ヲ誤マシメテ、諸郷士族ニ多ク點兵人ニ少シ、賊ノ襲来ヲ聞、諸郷

人ハ三四日前ヨリ走セ来リテ、邸中ヲ護セリ、追々走来ルモアリ、惣計千五百人許リ、悉ク壯年ノ人ニシテ○

賊徒ハ昨夜蒲生・横川辺ニ三千余名来着セリト、探偵ノモノ二百余名吉野・伊敷・谷山辺ニ入り込タリト、

○官軍ハ哨兵ヲ張り胸壁ヲ固フシ、防守ノ手当嚴重ナリ、

四七 貴島清等伊敷村ニ来テ攻撃ノ手配ヲ為ス

○賊軍ノ隊長貴島清・仁禮某カ伊敷村ニ来リ、後或人ニ

語テ曰ク(或人名詳ナラス)、我軍川尻・八代ニ破レ入吉ニ退テ

ヨリ、加世田辺官所ノ集勢一千余、何多願ヒ、山本寛右衛門、その子、小島敷介

頭取ナリ、吉野村ニハ相良左衛門、七礼貞介、友野弥市頭取ニテ、千人計、惣

中ニモ二心ヲ懷ク者多シ、西郷ハ潔ク死セムト他意ナシ、目的ヲ達スル能ワサルニナンノタル故、桐野ト

議シテ、彼ハ豊後ニ衝キ出テ、我曹ハ一時走帰リテ再ヒ勢ヲ挽回シ、人数ヲ増シ再挙ノ目的ナリ、兎角鹿兒島ノ根本ヲ敵ニ渡シテハ、彈藥金穀ノ手当ニ差支ヘタリ、四五日間ニシテ追払フヘシト云、又曰ク、島津家カ櫻島ニ遁レタルハ、官賊ト同意セシカ、將タ然ラサルヤノ探索ヲ或人ニ依頼セリト、或人曰、全ク官賊ニ

合体セシ形状ナシ、中立ニ疑ナシ、賊曰、正カニ其通ナレハ事ヲ為シ易シ、島津家モ再ヒ島津家タルニ至ルヘシト云、或人曰、其訳如何ン、賊曰ク、旧知事公ト新之介君ノ両公ヲ引出シ、將トシ、三州ノ兵ヲ募ルヘシ、櫻島ニ付從セシ曹モ四千余ノ名簿ナリト聞ク、之ヲ引テ將タラシムルトキハ、一万ニ余ル兵ヲ得ル疑ナシ、又聞ク、島津家ニ迫テ引キ出シ將タラシムルトキハ、薩隅日ノ兵応セサルハナカラム、金穀モアリ、幸ニ島津珍彦及ヒ頑固ノ内田(政風)上京セリ、此二名ハ我ニ妨ヲナセシコト少カラサリキ、此二名ヲ除カスンハ妨ヲナスヘシ、又外ニ島津家ニ属シタル者ノ中ニ、除カスンハ我ニ害アルモノ二三名アリ、二三名ハ予カ日記ヲ見テ知ルヘシ、此策タルヤ、中島健彦・貴島清・邊見・淵邊・別府等人吉ニ於テ議シタリト、西郷ハ此議意ニ合ハサリシカトモ、渠等走出テタルヲ西郷之ヲ聞テ嘆息シ、逆モ目的ヲ達セサルノミナラス、勝算ナシト大息セリト、其後捷報アリト雖喜色ナク、尋ネ問フコトサヘナカリシト云フ、○村田新八五月中旬人吉ヨリ鹿兒島ニ歸リ、中島・貴島等ニ謂テ曰、島津家ヲ引キ出スノ策ヲ止メ、一筋ニ金穀彈藥ヲ集メ兵ヲ募リ、速

ニ人吉ニ会シ、再ヒ熊本ヲ衝クヘシ、桐野ハ豊後ニ都合能キ報アリタリ、鹿兒島ニ碌々タランヨリ速ニ衝出ルニアリト云、中島等ノ答辭ハ詳カナラスト雖、官軍ノ破リ難キヲ以テ、村田カ説ニ服シタラント云フ、○一説ニ曰、賊員等カ島津家ヲ強迫シ、旧知事公ト新之介君トヲ新之介トハ旧事ノ第五節ニテ久光公ノ家嫡トナルヘキ人ニシテ、人望アリ或ハ島津家ハ貯金多ク、或ハ付從ノモノ五千余名ノ壮兵アリ、或薩隅日ハ悉ク兵トナシ得ヘシ、或島津珍彦ト内田政風等ヲ除ムト、或ハ不日帰京ノ時長崎ニ於テ誅スヘシト、既ニ熊本人ヲシテ密謀カラシムルノ議モアリト、此説ノ虚実如何ンヲ知ラスト雖モ、賊員カ漏シタルニ疑ナシ、

#### 四八 島津家ヨリ鹿兒島中ニ恭順ヲ諭達

○島津家ハ党员ヲ厭惡スル日久シ、加之此回ノ挙ハ殊更惡ム所ニシテ、県下ノ人民之カ為ニ困難ヲ極メタルヲ憂ヒ、且ツ暴業甚シキカ故左ノ書面ヲ出サレタリ、今般熊本県下ニ於テ、戦争ニ付テハ自然前ノ濱ニ軍艦多數渡来モ難計、其節ハ県下一統恭順ヲ主トシ、方向ヲ誤ラサル様、未然ニ諭告相成度、拙者共聊見込ノ趣



モ有之、且於身上ハ職務無之候故、是迄致沈黙候得共、  
数多ノ人民ヲ困難ニ陥ラシメ候儀不忍傍観、非常ノ時  
機不得巳、此段申入候也、

四月廿二日

從二位島津久光印

從三位 忠義印

鹿兒島県庁

此書面県内ニ示シ給度旨ヲ、(原本書記)田畑常秋ニ依頼セラル、

田畑之ヲ右松・松元ニ示シテ布告セントス、県官ノ中

賊魁トモ云ヘキ松元、此書面ヲ見テ大ニ笑テ曰ク、今

ニ初又因循説ナリ、事茲ニ到リテ恭順トハ何事ソヤ、

見込アリトハ何事ソヤ、家令輩臆病者共ノ説ヲ立タル

モノナリ、遠カラス雲ヲ見ルヘシト罵詈セリ、田畑・

右松ハ布告セサレハ、彼是差支アルヘシト云、松元云、

不日淵邊等カ歸リタル上ニ談シテ遅カラシト、故ニ這

書面ハ松元カ手ニ収メタリト、松元カ平常ノ言語挙動

ヲ以推考スルニ、見ルカ如シ、当時之ヲ漏聞ヒテ、松

元カ傲慢無礼ヲ憤ル者少カラス、

四九 田畑常秋自颯

○田畑・右松ハ松元カ倨傲ナルヲ憂ヒ且恐懼シテ、窃ニ

嘆息セリト、中ニモ田畑ハ松元ト積年睦シカラス、剩

へ賊員ニ蔑視セラレ、県令大山カ左祖セルヲ憂ヒ、切

迫シテ自颯(別カ)ニ及ヒシト云、○自颯ニ臨ンテ県官等ニ遣

書アリ、家族之ヲ右松ニ示ス、右松之ヲ松元ニ伝フ、

松元一見シテ直ニ裂キ捨テタリト、其文意ヲ聞クニ、

不肖ノ身素ヨリ其任ニ堪ヘス、此際ニ臨ンテ進止ヲ知

ラス、後日ノ責ヲ塞クノ道ヲ知ラスナリシト、衆之ヲ

聞テ懼措ス、○同人ハ春山文平ト窃ニ論ヲ同フシ、恭

順ヲ主張シ、賊員ノ暴謾、県官ノ縦恣賊徒ニ左祖ノ始

末ヲ具伸セント議シタルコトモアリシト云、

五〇 春山文平邊見十郎太ト激論

○是ヨリ先キ三月廿一日頃、春山文平ハ邊見・淵邊ト、県庁郭内

雇洋人カ居住セシ所ニ於テ、大論ニ及ヒ、終ニ春山カ

論ニ詰リ、邊見短刀ヲ抜キ持チテ、春山カ面ヲ蹴ル、

春山モ邊見ニ組ミ掛テ上ヲ下ヘト揉ミ合フ、淵邊中ニ

入テ春山ヲ組伏セ、邊見モ同シク春山ヲ取押ヘタリ、

邊見小仕ニ命シテ、田畑ニ御用アリ、列レ来レト云、

程ナク田畑・右松・松元等走来ル、邊見、田畑ニ向テ  
大声シテ曰、此春山ナル者不審アル者ナリ、縛シテ獄  
ニ下セヨト、右松巡查ヲ呼テ縛ス、斯ル兇暴ノ所為驚  
愕極ル、○此時松元ハ、春山カ面部ヲ蹴ラレ出血淋漓  
タルヲ見テ大ニ笑テ曰、議論家ノ春山容子カ替レリト  
笑ヒタリトナム、○春山ハ當時市來・串木野辺ノ区長  
タリ、募兵命ス、春山曰、我受持ノ郷々早ヤ出スヘキ  
者ナシト、而シテ終ニ大論ニ及ヘリト、○同人カ区戸  
長ニ登用セラレ、私学校ノ建設或ハ該校ニ加入煽動ヲ  
要トス、然ルニ春山ハ之レニ関セス、区长ノ職ヲ尽シ  
タルカ故、区内ノ壮年輩該校ニ加入シ、或区内ニ建築  
センコトヲ議ス、曰ク、私学校ハ名義ノ如ク、私立共  
同ノ学校ナリ、加ワルト加ワラサルハ各見込次第ナル  
ヘシト、取合ワサルカ故、愚昧ノ郷士族輩雷同シテ春  
山ヲ讒謗ス、邊見・松元等ハ之ヲ憤リ区长ヲ免セント  
スト云フ、松元ハ第二課長ニテ、九年ノ季春頃開拓地  
調査ノ事件ニ付、大ニ論スル処アリ、私憤モナキニハ  
アラサルヘシト、當時巷説ニモ涉レリ、

## 五一 城山開戦

○十年五月五日、土曜日、立夏、旧曆三月廿三日ニ当ル、  
暁二時頃ヨリ城山開戦、野勢矢九郎等数名戦死ス、○  
賊ハ去ル二日頃ヨリ蒲生・吉田ヲ経テ、吉野村・坂本  
村・川上村・伊敷村・永吉村・原良村・西田村・武村・  
田上村・宇宿村・谷山等江入り込ム、其人員凡三千余  
名ナリト、○賊將ニハ中島健彦・貴島清・仁禮直介・  
相良五左衛門・阿多源七・有川勘介・有川宗八等ナリ、  
○賊ノ根拠トシタルハ蒲生・吉田・横川ニテ、火薬製  
造彈薬ノ製作モ此所ニ於テス、

## 丁丑擾乱記 (三)

### 五二 鹿児島県令大山綱良布達 三月十二日

先般布達ニ及ヒ置候中原尚雄等口供之趣ハ、上申ニ及  
御裁決ヲ待候処、其際ニ当リ西郷隆盛以下ノ者共、上  
京ノ途中已ニ征討被仰出候、然レトモ中原尚雄口供之

趣ハ、尚其筋ニ於テ糾彈ヲ經、至当之御処分可有之為、  
今般 勅使護衛ノ巡查ヲ以テ上國ニ護送セラレ候条、  
管下人民深ク此旨ヲ了知シ、流言浮説ニ惑ワス、各々  
安堵可致、此旨相達候事、

明治十年三月十二日

鹿兒島県令大山綱良

右各所ニ揭示、或廻達アリタリ、

### 五三 英医ウイリス動靜

○二月中旬西郷等暴発ノ際、鹿兒島病院雇英人「ウルユ  
ス」モ出軍シ、療養尽力スヘキヲ依頼ス、「ウルユス」  
異儀ナク受合ヒ、門生モ悉ク引き連レテ従軍セント云  
ヘリト、故ニ病院ハ一時閉局、出軍準備ヲモ粗ナシテ、  
在院患者ヲモ散シタリ、然シテ后「ウルユス」大山綱  
良ニ謂テ曰、不快ナリ、快氣ノ上後ヨリ出立スヘシト  
謝ス、実病ニ非ラサルハ明ナリト雖、強ヒテ促スコト  
能ワス、故ニ門人三田村某ヲ初、門生ノ医員ハ悉ク出  
軍セシメタリ〔出軍ノ医洋法家ニハ、足立梅溪・三田  
村某・上村某・是枝某等ノ数輩、漢法ノ医モ多ク出発  
セリ〕、「ウルユス」足立等ハ西郷・大山等ヨリ懇々依

頼シタリト云、○「ウルユス」ナル者ハ病氣ト詐リテ  
従軍セス、日々外出ヲ止テ引籠リタル凡十余日、而シ  
テ西郷等出發後五六日ニシテ、散歩ト名付ケ外出セリ、  
○二月末<sup>日ヲ</sup>失<sup>マ</sup>英國軍艦一艘渡來ス、「ウルユス」此際一  
時避亂スヘキヲ、横濱在留公使ヨリ謂越シタリ、此軍  
艦ニ搭セシト云、大山百方手ヲ尽シテ引き止ント説諭  
セリト雖トモ、「ウルユス」曰ク、公使適迎ニ軍艦ヲ  
遣ス程ノコトナレハ、已ムヲ得サルヲ以テ懇謝ス、大  
山奈何スルコト能ワサリシトツ、而シテ大山カ宅ニ<sup>村神</sup>  
別<sup>ニアル</sup>別離ノ宴ヲ開ク、此時大山懇談シテ曰ク、今回西  
郷ノ挙タルヤ、奸吏政ヲ恣ニシ、万人ノ惡ム所ナリ、  
然ルニ奸吏窃ニ刺客ヲ用テ、西郷等ヲ暗殺セントセリ、  
其奸謀發覺シ大挙上京シテ其罪ヲ政府ニ問ヒ、而シテ  
奸吏ヲ除キ、万民ノ望ヲ遂シメンカ為ナリ、実ニ天  
皇ノ困艱、奸吏四五輩ノ為ニ事爰ニ立至レリト説キ、  
而シテ西郷等カ無辜ナルヲ記シタル書ヲ、總督宮ハ伝  
達センコトヲ依頼ス、「ウルユス」曰、其事由ノ大概ハ  
聞クヲ得タリ、伝達スヘシト領掌セリト、大山又曰、既  
ニ出發ノ兵殆ント三万ニ余レリ、不日出軍ヲ冀望者夥  
シ、薩隅日三州悉ク蜂起セリ、県令ノ職ナルモ、政府

ノ所置其当ヲ失ス、故ニ之ヲ鎮静スル能ワス、或ハ西郷等何ノ罪カアル、足下モ西郷トハ厚誼アリ、故ニ閣下横濱ニ出テ、各国公使ト深く謀リ厚ク議シテ、天皇ノ為メ且人民ノ為メ、西郷等カ罪ナキヲ具陳シ、中裁和解ヲ容レ、速ニ休戦ヲ令シ、西郷等其他ノ兵士ヲ呼出シ、而シテ至公至当理非曲直ヲ審判シ、奸吏ヲ退ケ公正ノ人ヲ選用スルノ事、人民ノ為尽力アラシムコトヲ懇談ス、「ウルユス」ハ公使ニ告テ、必ス周旋スヘシト領掌セリト云、故ニ総督有栖川宮ヘ捧クルノ書ト、中原尚雄等カ口供書ヲ託ス中原等カ口供書ハ活字版ニ、大山曰ク、摺リタルヲ教冊送レリト。、大山曰ク、足下横濱ニ出テ窃ニ我曹ニ深く謀ル処アラシク依頼スルコト如此シト、一片ノ端書ヲ渡シタリト、其文中、スナイドル銃一万丁・野戦砲十門・右彈藥幾千ヲ買入ノ周旋、曰ク、汽船二艘此涯借用セン等ノ数件ナリシト、「ウルユス」ハ曰ク、兎角横濱ニ行テ各国公使ニ西郷等ノ罪ナキヲ明弁シ、政府ニ忠告スル処アラムト、果シテ宜シキ取計アラムニ、若シ行ワレサルトキハ、右ノ品物必ス尽力スルヘシト、大山曰ク、若シ右品物周旋出来たらハ、直ニ加世田郷片浦ニ乗届クヘシ、其手配ナシ置クヘシト、大山曰ク、手付金受取り呉ヘシ

ト云、「ウルユス」曰ク、兎角其時宜ニ掛合スヘシト、而シテ大ニ宴ヲ張リ、深更ニ及ヒタリトナム、○此席ニ列リシ属官ハ松元・右松・今淵・川畑等ノ四五輩ナリト云、別離ノ餞ニ金二千円ヲ与ヘタリト、○此説當時窃ニ甚説ニモ涉リ、「ウルユス」カ銃器彈藥ヲ受合タリ、汽船モ受合タリ、中裁和解モ速カラサルヘシナント、私語キテ屈指セシモノアリ、然リト雖トモ、惣督宮ヘ捧文ハ如何ノ趣意ナルヤ知ル者ナシ、後其稿ナリト流布セリ、○論者曰、「ウルユス」カ胸中ヲ推量スルニ、全ク一時其場ヲ遁レント承託セシハ智ト云ヘシ、汽船銃器ノ如キハ公法アリ、豈妄ニ手付金ヲ受取ラムヤ、惣督宮ヘ伝達ノ書ハ素ヨリ伝達スルノミナリ、或各国公使ヘ談話ノ如キハ、鹿児島ノ事情ヲ告ケ、或依頼ノ趣ヲ告ルハ何ノ妨アラム、「ウルユス」カ機智応接最モ巧ナリト云ヘシ、○鹿児島人ハ文盲殊更外国ノ事情ニ疎ク、万国公法ノ如キハ書名知ル者サヘ少ク、大山モ元來武断ノ人ニシテ文盲、書ヲ能クスルノミ、素ヨリ万国公法ヲ読タルコトモアラサルヘシ、故ニ妄リニ如此ノ談セリ、○或人曰ク、鹿児島人ハ文盲ナル多シ、鹿児島アルヲ知テ他アルヲ知ラス、日本アルヲ知

テ外国アルヲ知ラス、他県ノ人ハ臆病者ト蔑視シ、剛情暴慢ヲ英雄豪傑ト尊ヒ、西郷・桐野等アルヲ知テ、他ニ人物アルヲ知ラス、今回続々出軍シタル者多キハ強迫ニアリト雖モ、其源凶ハ蓋シ文盲不識ノ然ラシムルニ出テ、名分条理ノ如何ヲ知ラサルカ故ナリ、冀クハ今後学校ヲ盛ニシ知識ヲ磨クニアリ、○或人曰、元來鹿兒島人ハ暴慢不遜礼讓ヲ知ラス、学識アル者ヲ嫌厭シ、不弁ニシテ熾(熾カ)ナク、智ナク愚直ナルヲ愛スルノ風、昔時ヨリ今ニ至テ異ナルコトナシ、故ニ官途ニ人選セラレタルモ多クハ如此ノ人ヲ用ユ、中ニモ私学校員ハ暴慢倨傲ヲ良シトスルニ至レリ、校員カ行状ノ暴慢ナル、謂ニ忍ヒサルナリ、酒食ニ消光シ、無礼乱醉ヲ事トシ、互ニ毆鬪阻傷シ、之ヲ愉快壯勇トシ、弱ヲ凌キ強ニ諛ルノ奸ナルモアリ、噫、

五四 鹿兒島裁判所出張官員建白

○二月廿日頃鹿兒島裁判所出張ノ官員、連署シテ建言書ヲ政府ニ出セリト、其文ニ曰、(以下空白)  
○或人此文ヲ読テ曰ク、其官員等ノ議スル処、其見ル

処其情意ノアル処ヲ知ラスト雖モ、臆測スルニ、果シテ大山綱良カ該官員ニ依頼セシカ、将々強迫シテ建言セシメタルナラムト、或ハ該官員等中原等カ口供ヲ信シテ、政府ノ不体裁ヲ憂歎シ建言シタル者乎、或ハ私学校員カ兇暴彈藥掠奪、或ハ官員ヲ暴辱シ或ハ無辜ノ僧侶ヲ捕縛シ、或ハ他県ヨリ出張ノ官員ハ悉ク捕縛セントスルノ説モ紛紜、皆人臨淵踏氷措ク処ヲ知ラサルカ如キ際ナルカ故、該官員等モ恐懼シ、其禍害ノ兇鋒ヲ避ンカ為建言セシ者乎、何レカ外ナラサルヘシト、該官員ハ無論法律ニ照ラシテ、地方官ノ權外ナル拷問呵責ノ不体裁ナルハ、識弁シタル言ヲ俟タス、然ルニ其文意ヲ以テ考フルニ大ニ疑ヲ存ス、果シテ一時ノ暴勢ヲ避ケンカ為ニ、暴徒或県官等カ一向ヲ刺客ノ一事ヲ以テ、大挙暴発ノ名トスルカ故、其情意ヲ鈞量シテ建言シタル者ト信ス、実ニ一時兇鋒ヲ避テノ策ト云フヘシ、県官其他ノ賊員ハ、諺ニ云フ笑壺ニ入りタリト云フ、該官員等ノ進退言行動作ニ至テ探偵注意セシモ、這ノ建言書ヲ見テ直ニ氷解シ、渠等ハ我ニ左袒セリト心ヲ安ンシテ、上京セシメタリシト云フ、恐ラクハ推考ノ如クナラム、概言スレハ、官員ハ大山等ヲ謀リテ

危害ヲ避ントシ、大山等ハ渠等ヲシテ中原等カ口供ヲ天下ニ流布セシメ、政府ノ失闕ヲ曝クセシメ、天下ノ人ヲシテ政府ヲ憎マシメ、目的ヲ遂ント謀リシ者ナルヘシ、互ニ相謀ル者ニシテ、所謂謀ラレテ謀リ、致サレテ致ストモ謂ヘキナリ、該官員等ハ一時謀ラレテ危場ヲ遁レント、憂歎ノ文ヲ作りテ建言シ、一旦危害ノ地ヲ避脱スルトキハ、建言ノ採ラルルト採ラレサルハ、素ヨリ顧慮スル処ニ非ラサリシナム、該官員等ハ大山等ニ全クニ謀ラレタル者ナルトキハ、忸倖ト云フヘシ、或ハ大山等ヲ謀リタル者ナレハ、智慮アリト謂フヘシ、但シ裁判官ニシテ、中原等ノ口供ヲ妄信セシニハ果シテ非ラサルヘシ、如何ントナレハ、私学校員カ九年秋頃ヨリ刀劍ヲ修繕シ銃器ヲ贖求シ、各所ニ於テ操練ニ等シキコトヲ催シ、加之彈藥掠奪ノ暴行親シク見聞スル処ニシテ、法律ニ照ストキハ、政府カ寛大ニ過キタリト謂ワサルヲ得ス、之ニ由リテ之ヲ觀レハ、該官ハ智慮アリト謂ワサルヲ得ンヤ、左モナクンハ、恐ラクハ暴辱ノ苦界ニ陥ランハ鏡ニ掛ケタルカ如シ、

○出張裁判官ハ三月ノ始、一時閉局ヲ布告シテ帰京セリ卷二曰、大山カ謀ル処アリテ帰京セシメクリト云、○二月始中原尚雄等捕縛セラレ

(シ脱カ)  
際ハ、他員人ハ誰某ヲ論セス、中ニモ官員ハ悉ク捕縛スヘシト、私学校員己ニ手ヲ下サントシ、裁判官員ニハ殊更目的トセシカ、大山ハ頻ニ論シテ、見込ノ一策アリ、姑ク我ニ委ヘシト謂ヘリト、二月四五日頃大門口ノ旅寓ニ押掛ントセシヲ、大山ハ中島健彦・中山甚五兵衛ヲシテ止メタリト云フ、殆カリシ事トモナリ、

○真宗僧侶ヲ縛シタル後、大山ハ之ヲ聞テ大ニ憂ヒ論シテ曰ク、一小僧侶何ノ憂トスル事カアル、僧ハ医ト同シク撞ニ手ヲ下スコト勿レト警察ニ令シタリ、假令嫌疑アルモ、大山カ許下(前可)ヲ經ス捕縛スヘカラサルヲ校員ニ示シタリトナム、

### 五五 邊見別府等帰県左袒セサル者ヲ捕縛ス

○三月廿日頃邊見・淵邊等熊本ヨリ帰県、士農工商ノ別ナク兵ニ募リ、或ハ檻中ノ囚人ヲ放テ兵トシ、或ハ巡查ヲ募リ、或ハ金穀ヲ掠奪シ、或渠等ニ左袒セサル者ヲ捕縛セシ等、其兇暴甚シキヲ極メリ、捕縛セラレタル

人々ニハ春山文平市米・串木野・伊集院等区長・徳永某六十人位・高島少行父ニテ、舛使下向ノ際ニ支辨ノ間ナレハ高・池田周平少尉・島ノ宿ニ至リテ賊員探知シタリ云、平凡ノ人ナリ、

今ハ非役、肺病ニ由テ勅使御下向ノ時ニ  
出頭スルコトヲ得ス、識慮アリ人望アリ。徳尾政高剛直ニシテ百折不撓ノ人物ナリ。戊辰ノ役鳥  
羽街道ニ於テ賊ト力戦、賊ヲ斃シ自ラモ左手ニ傷キ、而シテ奥羽日川口ニ出軍センナリ。徳尾政高カ実弟ナリ。戊辰ノ役伏見ニ戦ヒ後越後ロニ賞祿ヲ賜ル。

輔・山口一齊・中村兼武・高山一角・帖佐郷士族岩爪某・吉田郷河内某・北原某這十二三名、三月廿四日頃淵邊・邊見等カ憎ム処ナルヲ以テ捕縛シ、直ニ大口へ護送シ後一七日許ニシテ、同所ニ於テ悉ク暴殺シタリト云、○此際鹿兒島海ニ軍艦龍驤碇泊警備セリ、故ニ賊員等ハ窃ニ兵ヲ募リ、出軍スル者多クハ夜中ニ鹿兒島ヲ出ツ、故ニ捕縛セラレタル輩モ、夜中大口へ護送セリト云フ、兇暴ノ徒ト雖トモ、白昼事ヲ為スコト能ワサリシト見ヘタリ、然シテ這ノ人々大口郷ニ於テ、邊見自ラ面シテ出軍スヘキヲ強迫説得スト雖、堅ク取テ志ヲ変セス、中ニモ徳尾政高・池田周平・有馬ハ旧好ナルカ故、大ニ論シテ曰ク、父暴ナリト雖モ子トシテ之ニ抗スヘカラス、君暴ナリト雖臣トシテ抗スルハ臣道ヲ失フナリ、況ヤ今回ノ挙ハ、西郷等ノ大久保・川路ノ二名ヘ私憤ヲ洩サントスル者ノ如シ、加之上ヲ煩シ奉リ、人民ノ困難ヲ顧ミサルハ、過ノ大ナル者ト謂フヘシト大ニ論シタリト云フ、噫々幾多士民ノ中ニ

猛然奮從セス、死目前ニアルヲ恐レス、兇暴ナル邊見ニ向テ論シタル、実ニ剛欠字ノ人ト謂フヘシ、幾多ノ士族渠カ兇暴ノ勢焰ニ恐レ、奮從セル者ノ中ニ、僅々十余名屹然正義ヲ守リテ斃レタルハ、後世ノ龜鑑トスヘシ、○別府・山口・高山・中村等カ捕縛暴害セラレシ因由ハ、九年ノ冬頃重富郷ニ私学校建築セムト、邊見ナル者該郷士族酒匂某ナル者ニ説得ス、酒匂ハ邊見カ説ヲ別府等ニ議ス、別府等ハ該校ヲ不好、種々論スル旨アリ、終ニ邊見ニ面シテ論セントスルニ至レリト、而シテ遂ニ建設スルコト能ワス、一郷内邊見等ヲ好マサル者多ク、酒匂ナルモノモ稍交者ナキニ至ル、然シテ彈藥掠奪暴発ノ際、隣郷競テ加入出軍スルニ当テ、重富郷ハ出軍者少ク、或別府等カ同論ノ者多ク、区戸長等カ強迫煽動ニ当テ、掠奪ノ暴業大挙ノ道ニ背ケルヲ論スル者少カラス、故ニ邊見等ニ讒誣セシト、渠等ハ以前学校建設ヲ拒ミタルヲ憎ミタル故、三月廿四日頃邊見等、強迫募兵ノ妨碍ヲ為サムヲ恐レ捕縛シ、終ニ残殺シタリト云、○這ノ五六名ハ久光重富ノ領主タリシ時、親シク仕ワレ、其後今ニ至ル迄島津珍彦ニ親仕スル者ナリ、慷慨激烈テ正義ニ斃レンコトヲ常ニ

友人等ニ誓ヒ、共和政談等アルヲ聞テハ、声ヲ揚シテ握腕セシ慨士ナリシト云、

## 五六 暴徒進発後区戸長ニ旧門閥ヲ登用ス

○二月中旬暴徒進発ノ後、諸郷区戸長ノ出軍セル闕ヲ補ヒ、或黜陟ス、多クハ旧門閥ヲ登庸ス、当時ノ勢此扱ニ遇フ者ハ人才ノ如ク、大ニ跋扈ノ姿ニテ威權ヲ保タルカ如シ、一笑スヘキナリ、其扱ニ当レルハ島津久彰旧日置ノ領主又六郎ト云ヘリ、即日辞表ヲ出ス氣胆アル人ナリ・島津隼人旧黒木ノ領主、黒岡某ヲシテ代・島津又七旧永吉ノ領主ニシテ日藩ノ時大目付御役等ナリ、甘・島津多右衛門旧藩ノ時ヨリ昨九年ノ夏、迄旧知事ノ御役或家令・川上勘解由時藩ノ町田内膳藩・名越左源太日藩ノ老ノ時・島津良馬日藩ノ番頭・島津式部日藩ノ番頭・種子島六郎・宮里某等數十名、警部巡查等門葉ヲ用ル多シ、○此輩区長ノ名ヲ与ヘテ専ラ募兵ニ尽力セシメタリ、諸郷士族多クハ島津家ノ進退ニ従ワンコトヲ約シタル故、其実ヲ告テ出軍ヲ拒ムト雖トモ、種々口実ヲ設ケ脅迫出軍セシ者多シ、中ニモ島津又七・島津多右衛門・川上勘解由等ノ三名ハ、黨員ニ阿諛シ煽動最モ甚シ、島津多右衛門カ謂処ヲ聞クニ、余ハ旧知事ニ

奉仕スルコト数年、御深意ヲ知レリ、既ニ銃器彈藥或ハ軍資ノ金モ出サレタリ、故ニ其意タルヤ謂スシテ明ナリ、此際互ニ竭サ、レハ再ヒ時アルヘカラス、旧知事ノ出発ナキ内ニ、各奮起シテ我県ヲ保タスンハ、悔トモ及マシナト、煽動セリト、島津又七曰ク、両島津家ハ予カ宗家ナリ、浮沈ヲ俱ニスヘキ家係ナリ、殊ニ予ハ多年君側ニ勤仕シ、其深意ヲ知レリ、今ヤ本県ノ存亡ノ分ル、所ナリ、県亡レハ島津家モ亡フヘシ、県ト与ニ存シ県ト与ニ亡ント覺護シ、竭スヘキノ時ニ非ラスヤ、加之久光公ハ政府ノ奸ヲ憎ンテ辭職帰県セラレシ、其感情今日ニ存ス云々、仮令名簿ヲ出シタトモ、之ヲ取消スコトハ、予引受ケ取計フヘシト云ヘリト、川上カ謂フ処モ稍同シ、諸郷士族輩事情ニ疎ク、区长カ説ク処ヲ信シ出軍シタルモノ又多シ、少シク慮アルモノハ、名分ヲ論シタルモアリシト、或ハ島津家カ西郷等ト方向異別ナルヲ知ル者ハ、敢テ動かサルモアリ、交マナリキ、這ノ輩カ煽動セシニハ大人人心ヲ害シタリ、四月下旬官軍大挙着県ノ後モ、三四区長カ催促ニ由テ出軍シタルモアリ、鹿兒島開戦後ハ此二三ノ輩ハ面貌ヲ変シ、島津家ノ避所櫻島ニ来レリ、然ルニ島津



家付従ノ人ハ大ニ忿恚シ、放逐セント沸騰セリ、或ハ前ニ煽動セラレシ諸郷士族ノ島津家従属ノ輩ハ、殊更憤懣面責シテ放逐セントス、然ト雖此際ニ僅一千余人ノ中ニ於テ、過去ノ細事ヲ以テ論責放逐スルモ面勵ナリト、老成ノ輩カ制止シタルニ依リ漸クシテ止ミタリキ、○島津又七・同多右衛門・名越・町田ノ三四名ハ区長奉命後十余日ニシテ、久光公訓諭セラレシ旨アリシト、其詳旨ハ詳ニセスト雖モ、聞ク処ニ由レハ、家流ニ居テ何ソ区长如キニ奉仕セシヤ、賊員ニ仕役セラ、ニ等シキニ非ラスヤ云々ナリシトソ、然レトモ県官ノ勢焰ニ恐レテ辞スルコト能ワス、官軍来港賊ノ勢縮ルニ中テ、乱ヲ避テ島津家ニ付従スルハ何ノ面目アリテヤ、咸人罵詈極レリ、諸郷士族カ前キニ煽動セラレタルモ確然志ヲ変セス、島津家ニ属シ正義ヲ守レルノ輩カ憤怒罵詈セルモ理ナシトセス、○右三四輩ヲ区长ニ選挙シタルハ、松元武雄カ所為ナリシト云フ、

五七 島津久光西郷隆盛トノ面語ハ明治七年以

来ナシ

○西郷等熊本ニ向テ進発セントスル際、一般ノ巷説ニ、

西郷・桐野・篠原・大山等ハ屢久光公ニ謁シ議スル旨アリシト、或ハ旧知事公私学校ノ軍議席ニ臨マレシト、或ハ家令内田政風・伊集院九郎等ト議セシムル処アリシト、或ハ西郷ハ日々久光公ニ面語セリト、或旧知事公モ後軍ニ出張セラル、トカ、或銃器ヲ与へ或ハ軍資金六万円ヲ与ラレシトカ、或ハ内田政風ハ石川県ニ急使ヲ遣シテ、俱ニ大挙ヲ促シタリト、種々様々無根ノ説一時紛々タリ、是レ全ク私学校員ト県官区戸長等カ煽動ノ口実ニシテ、県内一般ニ脅從セシメンカ為ナリ、鹿児島人ハ元来文盲頑愚、七百年来島津家ノ積恩ヲ忘レス、殊ニ島津家ノ進退ニ従ワントスル者半ハ以上ニ居ル、爰ヲ以テ煽動センニハ、島津家ノ名ヲ借ルヲ以テ捷徑トス、故ニ斯ク流言セシメタル者ナラム、其謀其奸至リ尽セリト謂フヘシ、素ヨリ島津家ハ私学校ニ毫髪ノ關係ナケレハ、久光公ヲ初旧知事公モ同シク、戊辰ノ役後西郷等カ暴慢ノ挙動ヲ憎ミ、親シク面語モナキ程ナリ、西郷カ親シク久光公ニ面語セシハ、去ル明治七年ノ佐賀県江藤等暴挙ノ際、西郷モ同類ナル説紛紜ナルカ故、久光公自ラ乞テ鎮撫ノ為下県セラレ、

其時西郷ハ鹿兒島ニアリテ、久光公親シク西郷ニ諭スニ、俱ニ上京シテ竭ス処アラント、西郷官途ヲ踏ンテ国事ニ竭スノ意ヲ断チタリ、在官ノ日ヨリ度外ニ置レ、言聞レス策用ラレス、在官何ノ用カアル、然リト雖皇室ノ危急外夷ノ變ニ臨ンテハ、自ラ進ンテ竭ス決心ナリト、訓諭ノ忝ヲ謝シタリト、久光公ニ動スヘカラサルヲ知り、再ヒセサリシト云フ、其後面語セラレシコトナク、九年ノ春久光公下県ノ後一兩日ヲ過キテ邸ニ來リ、家令伊集院九郎ニ面シ帰県ヲ賀シ去レリト、其後ハ断シテ安否ヲ問コトモナク、今春二月十七日出軍ノ時モ、声息ヲ通スルコトサヘナカリシト云、大山綱良モ廢藩後面謁セシハ稀ニシテ、国事ノ談ニ涉リシハ曾テナカリシト、二月七八日頃中原尚雄等カ口供案ヲ、田畑常秋ヲシテ斯ル次第ナルヲ告ケタルノミナリシト、然ルニ前段ノ如キ説ヲ為シタルハ、全ク煽動ノ口実トセシモノナリ、

## 五八 私学校徒兩島津家ヲ憎ム

○私学校員カ兩島津家ヲ憎ミ稍敵視セリ、暴発ノ際ニ至

リテハ殊ニ甚シク、県官モ同様常ニ固陋因循ヲ蔑笑セリ、兩家ハ亦校員カ暴慢無礼ヲ憎ミ、県官カ縦恣多欲ナルヲ嘲リ、人視セサルカ如シ、加之惡ムヘキノ甚シキハ、肥後川尻ニ破レ人吉ニ走り、鹿兒島ニ暴婦シタルトキハ、兩家ハ中立シテ付従ノ人数千余名ト俱ニ櫻島ニ避在シ、官軍ニ通スル処アリトノ説アリ、其説ノ起レルハ、島津学校ヲ廢シ強迫シ温古筆ト云、島津学校ト唱ルハ島初九年ノ春築地ノ別邸内ニ、家門幼年ノ曹教育ノ為ニ設ケ、同夏山下邸ノ旧式中ニ遷セリ、生徒二百余名ニ及ヒタリ、官軍ノ背後ヲ衝カシメント議セシコト屢々ナリト雖、西郷之ヲ肯ンセサリシト云、○鹿兒島ニ暴婦ノ後ハ全ク敵視シテ、付従ノ輩ヲ誅戮セント、既ニ手下サントセシコト度々ナリシカトモ、渠等カ聞ク処ハ五千人ニ余レル壮子アリ、目前ニハ官軍アリ汽船アリ、防守ニ暇ナクシテ遂ニ果サ、リシト云、○八代・川尻敗走ノ後、邊見・淵邊・別府・中島・貴島ノ輩ハ島津家ヲ脅迫シ、旧知事公初悉ク引キ出シ、三州ノ兵ヲ募リ、再ヒ熊本ニ突出シ目的ヲ達スヘシト議ス、西郷堅ク取テ不可ナリトスト雖トモ、暴ニ走出シテ帰県セシト云、此説ハ信ヲ置クニ近シ、○賊徒カ煽動強迫ノ言語ハ、斯ル国難ニ當テハ、男女共ニ憤発シテ斃レ尽スヲ以テ義務トス、

或ハ島津家モ政府ノ惡ム処、西郷等ト異ナルコトナケレハ、果シテ討伐スヘシト、流言シテ煽動ス、爰ヲ以テ頑愚ノ輩雷同スルニ至レリ、

### 五九 両島津家ノ窮境

○両島津家モ此際美ニ内外ノ困難ニ迫レリ、元来竭忠報國ニ他ナク、西郷等カ暴慢倨傲ヲ憎ムハ普ク知ルカ如シ、然ルニ五月中旬頃ニ至テ、賊党諸郷各所ニ闖入シ、金穀ヲ掠奪シ強迫募兵スルニ中テ、官軍ハ島津家カ二心ナキヲ知り、賊軍ハ官軍ニ合体セシト同視シ、櫻島ニ在ル者ハ島津家ト俱ニ敵ト見做シ、誅戮スヘシ云々ノ檄文ヲ作り、諸所ニ布告シタリ、剩谷山ニ在ル賊党ハ櫻島ニ闖入シ、内田ヲ初付従五六輩ヲ誅シ、而シテ旧知事ヲ脅迫セント、大ニ謀ル所アリ、故ニ谷山・喜入・今和泉・指宿・川邊或ハ加治木・國分・福山・牛根等ノ兵ヲ以テ島津家ニ当ラシメ、中島・貴島之レニ將タラント探偵ヲ出シ、或賊徒モ姿ヲ替ヘテ入り込タル者少カラス、然レトモ既ニ官軍ノ警備ニ島津家ハ動揺セス、付従ノ精兵千名アリ、或ハ官軍ノ軍艦目前ニ

アリ、鹿兒島ノ方ハ官軍何ツ進撃センモ量リ難キカ故果サ、リシトナム、殆カリシコトナリキ、○賊徒カ人吉ヨリ暴掃ノ目的ハ、官軍ヲ撃破ルハ難シトセス、第二第三ノ目的ニシテ、上下町ヲ放火シ、軍艦ヲ追ヒ退ルハ一夜討ニアリ、第一ハ島津家ヲ従ヘ旧知事公其外新之介公子ヲ將タラシムルトキハ、是迄我ニ異論ナリシ島津ニ属セシ者四五千ニ近シ、然ルトキハ三州ノ兵ハ悉ク募リ得ヘシ、次ニハ金穀ヲ集メ彈藥ヲ製スル等ノ弁ヲ得ト中島・貴島カ各所ニ走周リ、謀ル処アリシト云フ、官軍モ此ノ謀策ヲ探知セリヤ否ヤ、然レトモ官軍カ初ヨリ島津家ニ疑ヲ容レタルハ勦カラサリシト云、実ニ島津家モ一旦ハ賊ト同視セラレタルモ、久光公父子其他家令内田等、政府カ憎ムヲ以テ志ノ在ル処ヲ知ラサルニヤ、進退ニ困シタリ、賊徒ハ如斯目的ヲ以テ謀ル処アリ、官軍ハ賊心アルヤ否ニ嫌疑シ、其困難謂フヘカラス、將タ賊徒暴発ノ頃少シク虚隙アルカ、或ハ渠等ヲ恐懼スルトキハ、強迫セラレサルヲ得サルノ危キ場合ナリキ、久光公ト内田或ハ一二百ノ付従ノ人ナカリセハ、恐ラク賊臭ニ触レサルヲ得サルヘシ、殆カリシコトコソ、○島津家カ若シ賊臭ニ触ル、トキ

ハ、官軍モ亦一層ノ力ヲ用スンハ平定シ難カラシ、島津家カ干戈ヲ動ストキハ、付從ノ精兵数千アリ、三州中悉ク兵トナルヘシ、人心亦固結シテ多少為ス処アラシ、久光公在アリテ人心一致進退ニ從ヘリ、或ハ久光公ナカリセハ、鹿兒島ノ人民幾千カ賊徒ノ残暴ニ罹ルヘキヤ知ルヘカラス、○官軍中ニモ久光公ノ志ス処ヲ知ラス、其形ヲ以テ輕蔑シ、或稍賊視シタルモアリト、曰ク、容貌ノ今様敗髪ニ變セサル、或ハ封<sup>(種)</sup>原論或ハ旧慣墨守、或ハ以前久光公建白ノ趣意頑固ナル、或ハ昨年ノ建言ニ各大臣ヲ譏誣セシト、或ハ此際櫻島ニ避居ト名ツケ、数千ノ士族ヲ從ヘ中立シテ、勝敗ノ機ヲ見為ス処アラントスル者ノ如シト、爰ヲ以テ在<sup>(種)</sup>県セシムルトキハ、県内賊心消滅ノ期アルヘカラス、速ニ帰京ヲ促スヘシ云々ヲ謀リタルモアリシト云、虚実分明ナラサル説ト雖トモ、形ヲ以テ論スル者果シテナキニ非ラサルヘシ、然リト雖トモ久光公父子ト内田等カ深意ヲ知ラサルノ論ニシテ、島津家ノ所論全国ノ元氣ヲ養ヒテ、人民ノ困苦ヲ救ヒ、万国並立皇系動カサルニ在リ、豈ニ史想ノ得テ知ル<sup>(種)</sup>処ニアラサルナリ<sup>(此論、)</sup>○四月末勅使御札ノ為、島津珍彦・同悦之介、家令内田政風

等上京ス、其トキ久光父子ノ建言アリ、曲直ヲ明ニシ休戦云々ナリ、朝意暗合云々ヲ以テ御採用ナシ、後ニ詳記スヘシ、○島津家ニ從屬ノ者一千二百名ノ内ニモ種類アリ、之ヲ區別スルニ、一ハ政府假令暴ナリト雖モ、臣トシテ抗スヘカラス、久光公父子ノ方向ニ從ヒ進退スヘシト、二三西郷等カ徒暴慢無礼、恩義ヲ忘レ剩ヘ稍仇視ス、俱ニ立ツヘカラスト、三ニ黨員ハ賊<sup>(種)</sup>匪官ト同心縦恣ナルヲ憎ム者アリ、四ニ黨員カ彈藥掠奪等ノ兇暴大挙ノ無道ナルヲ憤ル者アリ、五ニ温古堂<sup>(種)</sup>即チ島津<sup>(種)</sup>ノ人員多クハ旧門閥ノ輩ニシテ、差シテ議論モナキ輩ナリ、六ニ七百年來ノ旧恩報酬ハ此時ナリト、所謂封<sup>(種)</sup>原<sup>(種)</sup>旧守党トモ謂フヘキ頑固ノ輩、七ニ賊徒カ煽動強迫ニ恐怖シ、來属シ名ヲ警衛ニ籍リ、内心保護ヲ受クル者、八ニ卑屈怯懦或ハ賊<sup>(種)</sup>匪官ニ仕役セラレ、或ハ一時警部巡查或ハ区戸長等ニ役セラレ、官軍大挙來着ノ刻、放免セラレシ輩、賊軍ニ加ルハ命惜シク、故ニ面貌ヲ替ヘ言詞ヲ巧ニシ、島津家ノ跡ヲ追テ遁逃シ來リ、名ヲ借り難ヲ避ケ命ヲ全フセントスル者<sup>(此輩ハ他ノ黨セラレタリ)</sup>大ニ憎マレ<sup>(種)</sup>、如此種類混淆一ナラス、○鹿兒島士族ニシテ党軍ニ加ワラサル者ヲ區別スルニ、一ハ政府ノ処置

ヲ憤リタル者這輩甚、二ニ黨員ノ兇惡奸黠ナルヲ憤ル者、  
 三ニ何ノ議論思考モナク、一向ヲ島津家ノ進退ヲ見ル  
 者、四ニ國ヲ思フノ情モナク、身ヲ安佚ノ地位ニ置ント  
 縮匿セシ者等ナリ此等ノ輩ノ中ニ賊ノ爲ニ強迫セラレ、已ムラ得ス一時  
 ラサリシ察ヲ示シタルモアリ、或ハ少シク奸智アル者ハ賊員ニ加ワラサリシヲ  
 言シ、阿順シテ與官雇員等ニ出頭シタルモ少シトセス、此輩多クハ谷山辺ニアリ  
 ラ名ケテ阿順倉保格情ノ輩トモ云フヘシ、如此許多ノ區別アリタリ、之、○中ニ  
 ン振武隊、一名逃ケ隊トモ稱セラルレ、賊員ニ加リタル者ナリ、之、○中ニ  
 全ク賊臭ニ触レズ、義氣アリ議論アリ、義理ヲ弁シ正  
 義ヲ守リ、方向ヲ愆ラサリシ者モナシトセス、之ヲ算  
 スレハ千中ノ一トモ云フヘシ、

六〇 島津久光西郷隆盛ヲ道ヲ誤ルヲ談ズ

○久光公西郷等カ暴挙ハ道ヲ謬レルヲ或ル人ニ語テ曰ク  
二月五六日頃、 刺客ヲ用ヒテ暗殺云々、若シ真ニ然ルニ  
コトナリト云 於テハ、政府ノ失策実言ナシ、全国人心ノ離反ハ素ヨ  
 リ、加之万国ノ誹リヲ受ケ、遂ニハ政府ノ瓦解モ爰ニ  
 生シ、誰カ之ヲ悲マサラン、誰カ之ヲ嘆セサランヤ、  
 然リト雖トモ、真ニ國ヲ憂フル者ハ、西郷等カ如キ干  
 戈動シテ政府ニ之ヲ糾スハ不可ナリ、若シ我ニシテ西  
 郷タラシメハ、之ヲハ幾万ノ壮士カ如何ニ憤起勃興ス

トモ、身ヲ挺シ死ヲ致シテ鎮靜シ、而シテ県令ニ託シ、  
 二三ノ黨員ヲシテ、穩ニ上京セシメ、糾スニ政府ノ失  
 体ヲ鳴サス、己カ罪ノ在ル処ヲ正カニシ、而シテ後二  
 三ノ奸吏ヲ黜付スル難キニ非ラサルヘシ、從テ政体改  
 革等ノ建言ニ涉ルトキハ、政府ハ如何ントモスルコト  
 能ワサルヘシ、然ルトキハ全国ノ有志統々建議大論、  
 幾万ノ兵ヲ挙タルヨリモ強ク、遂ニ一彈丸ヲ耗サスシ  
 テ目的ヲ達シ、望ヲ得、百事意ノ如クナラム、尤モ名  
 正シク國家ノ幸トナルヘシ、暴動大舉人民ヲ困メ、加  
 之臣タルノ道ヲ失フノ兇動ヲナスヤ、假令一時目的ヲ  
 達スト雖トモ、一時ノ愉快ニ止ルノミ、渠等元來驕慢  
 ニシテ、動モスレハ腕力ヲ以テシ、敢テ穩然至誠ヲ致  
 スヲ知ラス、殊ニ戊辰以來天下ニ人ナキカ如ク、一タ  
 ヒ足ヲ揚クレハ天下心底スヘシト思ヘリ、今日ノ世ニ於  
 テ豈然ランヤ、刺客云々ハ私憤ヲ洩スト云者ニシテ、  
 名義トスルコトニ足ラス、余カ見ル処目的ヲ達スルコ  
 ト能ワス、千載ニ逆賊ノ名ヲ殘スノミナラン、全体ハ  
 ワナヲ掛ルニ長所ノ輩ナリ、刺客云々モ疑ナキニ非ラ  
 スト謂ヘリトナム、

○或ル日又曰ク、斯ル擾亂ニ際シ忠義ヘモ既ニ戒話セリ、

予ハ楠公ノ轍ヲ学ハンノミ、汝等モ予カ意ヲ体セヨト、右新田・足利ノ確執ニ際シ、坊門清忠ノ奸アリ、楠公大勲アリト雖、僅々タル封土ヲ余レリトシ、人望兵威悉ク備ワリ、王政ノ復タ救フヘカラサルヲ前知シ、湊川ノ鬼トナレリ、然レトモ芳名ハ今日ニ輝キタリ、其時清忠如キヲ除クニ何ノ難キコトアラシヤ、然レトモ臣タルノ道ヲ失ワサルヲ以テ楠公タル処ナリ、余素ヨリ学ヒ得サル勿論ナリト雖モ、努テ学ハント欲ス、汝等モ勉メテ此意ヲ体セヨ云々、又曰、西郷等臭名ヲ干載ニ残スヤ必セリ、古武内大臣讒者ノ為ニ嫌疑ヲ受ケタルモ、単騎闕下ニ出テ哀訴セシカ如キハ如何ン、渠等文盲驕慢ニシテ、大功モ水泡ニ帰シタリト歎措セラレシトソ、○此言ヲ聞テ島津家ニ属シ進退セントスル者多ク、感嘆憤発意益固シ此語ハ二月七八日領山下邸ニ於テ、旧知リト云、忠義公ヘ語ラレ、シハ、其前日ナリント、此語ハ二月七八日領山下邸ニ於テ、旧知リト云、忠義公ヘ語ラレ、シハ、其前日ナリント

## 六一 奈良原繁島津家令就任ノ事情

○奈良原繁幸五郎カ両島津家ノ家令トナリシハ、一種稀有ノコトタリ、其文ニ「両島津家家令申付候事、鹿兒島県

令大山綱良」トアリ、当時聞ク人其異体ナルヲ怪マサルハナシ、島津家ハ有功アリ、奈良原ハ有名胆略アル人ナリ、爰ヲ以テ一種特別朝官ニ等シキ官給ナリヤ、将タ島津家ノ給スル処乎ト喋セリ、一説ニ大山綱良カ大久保利通等ト謀ル処ニシテ、甚深密ノ策ナリシト云フ別ニ詳、記ス、○奈良原カ性質ハ勇アリ智アリ、奸ニシテ黠、利ニ走り酒色ニ沈リ、人ヲ欺クニ妙ヲ得タリ、進退モ速カナリ、文盲不才ナリト雖トモ、弁口ニ巧ナリ、兄喜左衛門ト雲泥氷炭相違セリト、○勅使ニ從ヒ帰県、又随行上京セントスルノ際、久光公カ汝カ在県シテハ大ニ妨アリトノ命アリシ故、帰京スト云フ、

## 六二 石井武之介等出發

○桐野カ吉田郷ニアル開墾地ニ潛居セシ石井武之介・徳久秀次郎ノ二名ハ、二月始熊本ニ向テ出發セリ、長土或福岡・佐賀等ノ同志ニ謀処アリシト云、此二名ハ佐賀暴動後鹿兒島ニ逃レ、桐野ニ寄食シ開拓シ従事シタリ、西郷・篠原・大山モ重ンシテ交レリト云、○九年ノ春頃福岡ノ人七八名來テ、桐野等カ宅ニ往來最モ

繁シ、其姓名詳ナラス、

六三 江藤新平敗走シテ鹿兒島ニ至ル話

○七年ノ春、佐賀ニ江藤新平ノ暴挙アリ、敗走シテ十八名西郷カ宅ニ来ル、西郷不在ト唱シテ面接セス、家族ニ面シテ所在ヲ審問ス、家族其行ク処ヲ知ラスト云、已ヲ得ス、軫シテ大山綱良カ宅ニ到ル、又不存在ヲ告ク、又桐野ニ至ル又面セス、故ニ上町旅寓ニ投ス、此際西郷ハ直ニ篠原・桐野等ニ江藤等カ来レルヲ告テ、面接スルコト勿レト戒ム、而シテ大山ハ属官松元・右松ヲシテ私ニ旅店ノ主ニ謀ラシメ、十八名ヲ分散セシメテ二トナシ、江藤等ハ志布志ニ導カシメ、一ハ鹿兒島ニ於テ捕縛セントシテ、他ニ逐フ、之レ全ク西郷カ大山ト密議シテ謀ル処ナリ、江藤等ハ松元等ニ面シテ大ニ怒リ、且ツ歎シテ曰、我曹ノ佐賀ニ起ルヤ、西郷・桐野等ト深ク謀ル処アリテ、佐賀ニ起ルノ一報ヲ以テ鹿兒島ニ興リ、海陸双進シ東京ニ突出シ、陸ハ熊本ニ進ンテ佐賀ニ応援シ、而シテ臨機為ス処アルヘキヲ約セリ、然ルトキハ長・土其他ノ同志、各所ニ勃興スヘキ

ノ軍略ナリシヲ以テ、約ノ如クニ先魁セリト雖モ、応援スル者モナク、終ニ敗潰今日ニ立到レリ、故ニ再挙ヲ議センカ為ニ走り来ルト雖トモ、不幸ニシテ面語ヲダニ允サレサルハ不信ト云フヘシト、種々怨言ヲ吐キ、同志ニ不信ヲ明言スヘシト云テ去レリト云フ、此説虚実如何ン知ルニ由ナシト雖トモ、當時之ヲ信スル者多シ、○川畑伊右衛ハ島義勇ト懇交ナリシ故、久光公ニ島等カ思想所論ヲ救ハムト謂ヒタル事実別記ス此事前本記スノ話アリ、別ニ二編ヲ稿ス

六四 横川本營達

○諸路駅所寄人馬之儀ハ、兵隊通行軍用品運輸軍事急用ニ備有之候処、間ニハ輕瘡平病人ハ勿論、其他不急ノ通行人等、勝手ニ人馬為差出候向モ有之、当時態汲受薄候処ヨリ右次第ニ候条、当季折角田地仕付等農家寸隙ヲ不得時節ニ候得ハ、可成丈ケ不急ノ人馬ハ致勘弁、於駅場一層嚴重取調、余計ノ人馬立不相重様致注意、通行ノ事実聞届ノ上可差立候、此旨屹度相達候事、但此達書駅所へ揭示候事、

十年丁丑五月二十九日

横川本營

別紙順々次渡可得其意者也、

五月廿九日

横川本營

牛根・高隈・垂水・市成・恒吉・百引・大始良・始

良其外諸所

戸長

御中

## 丁丑擾乱記 (四)

丁丑擾乱実記十年三月十五日起稿

### 六五 私学校創建之事

○西郷隆盛・桐野利秋・篠原國幹等県令大山綱良ト議シテ、鹿兒島旧城内厩趾ニ学校ヲ創建シタルハ、実ニ明治七年ノ春ニアリ、而シテ県下小学校毎ニ支校ヲ設ケタリ、其数凡十八ニ及ヘリ、世人呼ンテ私学校ト唱フ、建築費用ハ校員ノ負担ニ非ラス、県令大山庁費ヲ以テ火防方ノ工夫ヲ以スト云火防方トハ旧警備局ヲ改メ、県令ノ土木又ハ火防ヲ掌ル一局アリ、員十四五等、或ハ等外

或雇員ヲシテ之ヲ管理セシム、名ハ私学校ト唱フト雖其實官費、校員ハ征  
 ニンテ、県令カ指揮担当建築シタルカ故、一般官立ト同視セリ

韓ノ儀破裂シテ、西郷・桐野・篠原等ト俱ニ帰県シタル  
 旧近衛隊中ノ将校及下士兵卒ノ輩ナリ、○建校ノ頃

ハ人員凡七百名ニハ足ラサリシカ、追々嘯聚シテ九年

ノ夏頃ニ至リテハ、殆ント一千名ニ余レリ初ト余名ニテ既強  
 ニ集会シ騒動魁強

ス、後西郷等、学校ノ名アリト雖モ、其実集会所ト云フベ  
 口ヲ容レタリ

シ、教員ノ設モナク、校員日々集会シテ時事ヲ談スル  
 ニ止マレリト云フ、○諸郷ニ私学校ヲ設ケタルハ、八

年ノ春初メテ加治木・國分ノ二郷ニ設ケタリ、韓頭則

私学校ノ頭立チタル輩ヲ区戸長ニ命シ西郷等大山綱良ト謀リテ  
 員ヲ募集シタルニ依リ、九

年ノ春頃ニ至テハ百、○諸郷ニ初テ設ケタルハ、前記ノ如ク  
 三十余校ニ及ヘリ

加治木・國分・蒲生等ニシテ、区长ハ別府晋介・邊見

十郎太、其他ノ各郷悉ク該校員ヲ置キタリ、之レ西郷

等大山綱良深ク議スル旨アリシト云区戸長ノ人、  
 名ハ後ニ詳、○加治木

郷ニハ尤モ党員多キ処ニシテ、十四五年ノ少年ヨリ五

六十年ノ輩モ雷同加入セリ、加入セサル者ハ交ヲ絶ツ

ノ暴勢ナルカ故、止ムコトヲ得ス、士族ハ老少拳テ入

授シタリ、然シテ一月六七回出校集会スルコト、ナレ

リ、○学校ノ名アリト雖モ其実アルコトナシ、壮年ノ

輩ハ日々出校スト雖モ、勤学ノ課程モナク、空談雜説

説



茶烟ヲ喫スルノミナリキ、○校員等黨員募集ニ力ヲ竭シテ煽動囂聚ス、故ニ反对者ノ諺ニ、私学校ハ真宗ト同様、西郷ハ祖師、布教者ハ邊見・別府・淵邊・篠原等ナリト嘲唱スルモアリタリ之レ該校員ヲ敬視ス、ル輩ノ唱フル所ナリ、一説ニ該校建築ノ費用ハ、県庁定額ノ内ヨリ充タリト云ヒ、或旧知事島津家ヘノ賞典録(録)十萬石ヲ、全ク県下各学校ノ費用ニ惠与セラレ、其出納県令大山ヘ委任セラレタル金額五ヶ年、平均一ヶ年ノ額凡七萬円(五カ)ニ及ヘリト、此内現ニ各学校ノ費用ニ充タルハ漸ク三萬円ニ足ラス、残り三萬余円(二カ)ハ其用耗スル処ヲ知ル者寡ク、県官四五輩カ秘掌スル処ナリト云、果シテ然ルヤ否ヤ、此残余金ヲ以テ私学校建築ノ用ニ充テタリトモ云フ、○該校建築ニ専ラ尽力セシハ、第二課長松元武雄ナリト云、松元ハ篠原カ親族ニシテ、校員ニ稍仕役セラレ、或ハ県庁ニ関スル該校ノ事務ハ悉ク同人カ尽力ニ罹レリ、中ニモ県内士族兩京其他県外ニ出ルトキハ、区戸長ノ奥印ヲ受ケ、其願文ヲ県庁ニ提出シ、而シテ尚ホ該校ヘ廻シ、校員ノ承認ヲ經テ県庁ニ提出許可ヲ得、一種奇怪ノ方法タリ、此手順ヲ初タルハ、篠原・淵邊・邊見等松元カ策ニ出タリト云フ、大山ハ不服ナリシカト

モ、校員ニ稍庄セラレタリト云フ、是敢テ誣言ニアラサルナリ、

○因ニ云、此残余金年々若干アリ、大山綱良ハ屬官淵

谷國安・横山彌兵衛・鎌田市兵衛・喜入嘉次郎・園

田彦左衛門等ト謀リテ撫育・承惠兩社或第五銀行ニ

渡シ、商法ヲナサシメタリト、或諸島砂糖商社ノ連

中ニ、安価ノ利朱ヲ以テ貸与セリノ云々ニ、砂糖商

社ニ対シ島民沸騰ノ説アリ、後ニ記スヘシ、○第五

銀行ハ横山・澁谷ノ兩屬カ胸中ニ出テ、重久佐平太・

長崎用藏・林甚左衛門等ヲシテ、旧知事所有ニ屬ス

ヘキ旧藩庁ノ金ヲ以テシ、或ハ鉾山ヲ抵当トシテ創

立セシ者ナリ昔説ニ初ノ見込ハ深キ訳アリト、然、レトモ其目的ヲ達セザリト云フ

○私学ノ内規、第一官員ニ出ルヲ禁ス、第二区长・巡查

等ノ輕官タリト雖出仕ヲ禁ス、第三校用アルニ非ラサ

レハ、他府県ニ出ルヲ禁ス、第四校員患難生死ヲ俱ニ

スヘシ、第五他県人ト私ニ交通ヲ禁ス、以上五目ナリ

ト云、然レトモ校員ノ中不服ノモノアリテ、罵詈惡声

スル者多シ、○校員ノ中ニモ校則、或ハ風俗ノ正カラ

サルヲ憂ヒ、脱校シテ東京或他府県ニ出テ勉学セント

欲スト雖、校員拒ンテ許サ、ルカ故、止ムコトヲ得ス

シテ汽船ノ出港ニ臨ミ、父母兄弟ニ密告シ、脱出セシ  
モ艱シトセス、如此ノ輩往々少カラサルカ故、校員ニ  
アラサルモ、県内ノ士族県外ニ出ントスルモノハ、願  
文ノ末ニ私学校加入不仕候ト記シ、戸長ノ奥印ヲ受ケ  
テ、前ニ記スカ如ク許可ヲ得ルコトトナリタリ、如此  
ナルカ故、該校ニ関セサル者ハ嘲罵スルニ至レリ校員ノ  
中ニモ概論スル、或ハ県官ノ不体裁ヲ忿慨スルモノ甚多シ、斯ク  
校員ノ威權、稍県庁ノ上ニアリト云フモ誣言ニアラス、  
○如此県令カ校員ニ任セラレタルハ、属官六七輩カ所  
為ニ罹リ、校外ノ者ハ稍奴隸視セラレ、トモ云フヘキ  
ナリ、故ニ校外ノモノハ之レヲ憤怒スルモ理ナキニア  
ラス、少年輩ニ至テハ稍敵視スル少カラス、○諸郷ニ  
アル該校建築ノ費用ハ、悉ク其郷内ノ醸金或官林ヲ扨  
下ケ、之ヲ販売シ費用ニ充ルモノ多シ、甚シキニ至テ  
ハ、先キニ許可シタルモノヲモ取消シ与ヘタルモ少カ  
ラス、○如此暴威暴行アルカ故ニ、元來文盲頑愚ノ郷  
士族輩、何ノ思慮モナク雷同シテ人校スルモノ多シ、  
少シク識見アル者ハ、縮眉憂嘆シテ擾乱ヲ前知スルモ  
アリ、実ニ勢ヒノ止ムヲ得サル者ト云ヘシ、或ハ校員  
ノ中ニモ思慮アル者ハ退校シテ遊学シ、或ハ事ヲ左右

ニ託シテ他府県ニ出ル者モアリ、○属官六七輩トハ松  
元松元専事・右松・横山・養田・澁谷・鎌田・鮫島等ニシ  
テ、田畑ハ度外ニ置レ、耳聞ニ触レサル事多カリシト  
謂フ、適々退校セントスル者ハ、校員ニ悪言暴罵セラ  
レ、或ハ臆病未練者或ハ暴辱セラレタルモ寡カラス(該  
校員日、出校シテ事ヲ執ルハ、篠原・淵邊、別府・邊見・山  
口孝右・蒲生・松永・堀等僅廿名位ナリト)、

○因ニ云、該校ヲ好マサル輩曰ク、人生ノ第一ハ生死  
ヨリ貴重ナルナシ、然ルニ偕ニスヘシト盟約シタル  
上ハ、貧富モ俱ニスルノ一目ヲ加ヘタラハ遺漏ナカ  
ラント蔑笑セリ、

## 六六 旧近衛兵等非役給ヲ賜フノ始末

○亦因ニ云、該員等カ非役給ヲ熊本鎮台ヨリ渡サレ、  
軍吏奥山藤九郎護送シテ配与セリ、然ルヲ如何ンノ議論  
ナリシヤ、返還スヘシト云ニ至リ、三日間ニ悉皆該  
校ニ出シ、互ニ検査シテ、而シテ県令ニ託シ返還ス  
ヘシト演達ス、然ルニ不服者六七名アリ不服者折田敬之  
介・伊瀬地某  
謂テ曰、我輩貧困極ル、且夕ノ炊烟モ立難シ、加之

負債モ又少カラス、故ニ金ヲ握テ兩三日間既ニ仕ヒ

果セリ、今更如何ントモスルコト能ワス、剩ヘ賞典

録(録)モ借財ノ抵当トセリ、之ヲ受ケ戻シテ生計ヲ立テ

サレハ活路ナシ、嘆談ス、其時篠原國幹上座ニアリ

テ大声シテ曰ク、斯ク欲言ヲ吐ク、土ヲ喰テ居ルヘ

シト、衆皆驚愕シテ默然タリ、而シテ各非常ニ才覚

シテ返還セリト云、

○此金ヲ県庁ニ託シ返還セリト謂ト雖モ、長ク県官ノ手

ニ収メタリト云フ赤谷國安・喜入某・鏑田某等三四名カ私ニタリト云、篠原ハ此暴言ヨ

リシテ校員等蚯蚓先生ト蔑唱ス、蚯蚓ハ土ヲ食フナレ

ハナリ、此際征韓論ノ為メ、募兵ニ会シ、此金員ヲ軍

資ニ供セムコトヲ冀望セリトモ云フ、或ハ当政府ノ給

ヲ受クルハ義ニ背ケリト、篠原・邊見・淵邊等カ論ヲ

立テタリトモ云フ、○或篠原ハ疝癪先生ト蔑名アリ、

元來疝癪ノ持病アリテ、発シタルトキハ狂人ニ異ナラ

ス、何ノ談話モ調ワサルヲ以テ、之ヲ知ル人ハ持病ノ

起ルヤ否ヲ探リ、而シテ後談話セリト云フ、一奇怪少

将ナラス唱ヘタリ、

### 六七 私学校々則

○該校ノ揭示ニ臣道篤而知自志明者也ト、或曰、敬天愛

人ト記セリ、之レ西郷隆盛カ筆ナリ(今日ニ至リ、此掲

示ニ就テ論説アリ略ス)、該校ニ於テ月ニ六回靖献遺言或

ハ七書ヲ講ス、今淵宏ヲ講師トセリ、此他日々出校シ、

茶烟ヲ喫シ、人ノ長短ヲ論シ、或ハ午睡シテ消光スト

云フ、○如此ノ体裁ナルカ故ニ、校員ノ中ニモ大ニ慨

歎シ、勤学ノ課目ヲ設ケンコトヲ企望スト雖、頭立タ

ル輩ハ、此ノ切迫ノ世態ニ至テ、学問ハ柔弱ニ流ルノ

弊アリト、却テ蔑如セリト、故ニ智慮アル者ハ悪言暴

罵セラル、モ、一時忍ンテ退校シ、他府県ニ遊学セシ

モノ尠カラサリキ、

### 六八 諸郷区長私学校員ヲ登用ス

○校員ノ中ヨリ諸郷ノ区戸長ニ撰用スルコト、ナリタル

ハ、九年ノ春頃ヨリス、之レ西郷・篠原ノ兩名カ大山

綱良ト議スル旨アリシト云フ、○西郷カ政府改革ノ所(折カ)

奸吏ヲ黜ケ、質朴儉素武備擴張政度簡易、或ハ聖意下

達言路洞開等、常ニ唱フル処ナリシト云フ、○桐野ハ民権論ヲ主張シ、外国交際ヲ広フシ、国威拡張云々ニアリテ、西郷カ論ヨリ少シク異ル処モアリ、加治木・國分等ノ五六ヶ郷ニハ、別府晋介、重富・蒲生等ノ四五ヶ郷ニハ邊見十郎太、出水・長島等ノ四五ヶ郷ニハ山口孝右衛門、川内方ノ四五ヶ郷ニハ汾陽五郎右衛門、加世出辺ノ三四ヶ郷ニハ西郷小兵衛・八木某、川邊方ニハ池之上四郎等、其他近衛隊大少尉ナリシ輩ヲ悉ク任シタリ、○池上ハ温厚篤実、識見弘ク衆望アル人物ナリ、元来私学校ニ加ワラサリシカ、西郷ト交深ク西郷モ大ニ敬愛セリ、故ニ区长ニ任センコトヲ大山カ依頼セシモ、再三辞セシト雖モ、大山等堅ク乞ニ由テ、已ムヲ得シテ就職セリト云フ、○或人校員ニ問テ曰ク、該校ノ規則ハ、区戸長ノ如キ輕官タリト雖、奉職ヲ禁シタリト聞ケリ、今ヤ何ノ議論アリテ、校員カ警部・巡查・区戸長等ニ就職セシムルコト、ナリタルヤ、校員答フルニ、官費・民費ノ別アリ、爰ヲ以テ民費ノ職ニハ就職ヲ允シタリト、聞ク人舌ヲ吐ム、而シテ其人撰ハ県官ノ掌ル処ニ非ラス、校員撰フ処タリ、故ニ校外ノ人ハ大ニ忿怒シテ、大山ヲ罵ルコト甚シ、之此

策タルヤ、他日為スコトアラムトスルノ一策ニシテ、各郷ヲ煽動シ、黨員嘯聚ノ要点タリ、○当時校員外ノ輩、或ハ校員ノ中ニモ異議紛紜タリ、中ニモ校員篠原・淵邊等カ縦恣ヲ慣ルモノ多シ、大山ハ属官松元武雄カ愚弄セルヲ以テス、松元ハ篠原カ縁続ナレハ、俱ニ事ヲ謀レリトナム(松元カ妻ハ篠原カ姉ナリ)、○該校員ノ挙動名状スヘカラス、暴慢無礼酒食ニ消光シ、醉乱暴行以テ事トストモ謂フヘキナリ、或ハ互ニ吹鬪咬傷、実ニ犬猫ノ挙動ニ等シ、或ハ白昼ニ放歌横行シ、人民ヲ防害スル如キノ挙動モアリ、之レ普ク知ル処ナルカ故略記ス、中ニモ驚愕ニ堪ヘサルハ、少将ノ地位ニ在リシ篠原ノ如キハ、稍暴業ニ等シキ挙動ナキニシモ非ラサリシト云フ、謹慎篤行ナルハ、西郷・桐野・村田・池上等ノ六七輩ニ止レリ、此人々ハ常ニ之ヲ憂ヒ督責數回ニ及ヘリト云フ、○校員酒乱暴行喋々スト雖モ、西郷ハ之ヲ聞クコト少ク、之ヲ聞クトキハ吃責嚴ナルカ故、告知スルモノナカリシト、校外ノ人ハ如此ノ暴業ハ、該校員ノ名義ニ関スルカ故、西郷ハ如何ナレハ之ヲ制止セサルヤト喋々ス、或人曰ク、西郷ハ全ク知ルコトナシ、篠原・邊見等カ校員ノ立派ヲノミ告ケル

ニアリト、果シテ然ラン、然ラスンバ督責セサル西郷ニ非ラス、其例証トスルハ、八年ノ九月頃、淵邊群平ナルモノ酒乱、或人ノ鼻頭ヲ咬傷セシコトアリタリ、西郷之ヲ聞テ大ニ怒リ退校セシメタリ、同人ハ其後校外ナリシカ、暴発ノ際再ヒ入校セシト云フ、○山口孝右衛門ナル者カ一笑話アリ、九年ノ春頃、同村ノ校員ノ少年輩ト、友野矢一郎ト云ヘル一狂客ト言論ノ末、同郷千田某カ宅ニ於テ、酔論ノ尖ニ山口乱酔帰家ノ際、千田某カ宅ニ於テ少年等カ友野某トノ酔論ヲ聞キ、突然其席ニ闖入シ、直ニ友野ナルモノ、天窓ヲ拳打數十ス、友野ハ耐忍俯伏シテ欧撃ヲ受ケ、而シテ傍ニアル人々ニ云テ曰ク、斯ル暴働ニ逢ヒ、実ニ己ムヲ得サルナリ、親覽ヲ乞フト謂モ果サス、直ニ山口ノ擧丸ニ咬付シテ少シモ動カサ、リシカ、山口ハ急所ヲ咬マレ進退動作為スコト能ワス、艱難窮レリ、其際校員ノ少年、棒ヲ以テ友野ヲ歐ツコト数回、友野モ此時咬部ヲ緩メシニ、山口ハ早クモ遁レント擧丸ハ其争ノ間ニ咬部破裂シタリト云、山口ハ危キヲ免レ、医者ヨ葉ヨト大騒トナレリ、傷口多日ニシテ創タリト云、之レ當時ノ一大笑話ニシテ、校外ノ者ハ此一笑話ノ為メ茶烟ヲ費ヤセ

シト云フ、山口ハ出水郷ノ区长ニテ、威權赫々タルノ時ナリキ、此挙動西郷モ聞知セサリシニヤ、該校放逐ノ嚴譴モ、淵邊カ如キニハナカリシヲ以テ見ルトキハ、果シテ壅閉シテ告ケサリシナラム、○西郷・桐野ハ農事ヲ好ミ、該校ノ少年輩モ是ニ倣ヒ団結従事セリ、九年ノ春ヨリ吉野村寺山ヲ開墾シ、野稻ヲ植ヘ二拾余石ヲ収獲セリト、此取得ヲ以テ、九年十一月、同所ニ鹿狩ト名ツケタル操練ノ糧ニ用ヒタリト云、此開拓団結ノ連中ハ、校員ノ内八十余名、永山休清<sup>休</sup>等其率トモ云ヘキナリ、西郷・桐野モ稀ニハ其場ニ臨ミタルコトアリシト云、今ニシテ考フルニ、暴挙ノ時日稍見込アリシニヤ、昨年九月ノ末頃篠原・淵邊等ハ開拓連中ニ謂テ曰ク、野稻ノ跡地麦作ハ止メニセヨト、ソコ処ノ世ニ非ラス云ヒタリト、校員ハ之ヲ聞テ大ニ怡ヒ、発動近キニアラムト準備ニ他事ナカリシト云フ、○這開拓地ハ吉野村牧場内ニシテ、知識七之丞ナル者カ開墾ノ許下地<sup>可</sup>所ナリシカ、校員之ヲ望ミ、県官奪テ該校員ニ与ヘタリ、之レ大スカ所為ニシテ、校員ニ圧セラレ奪ヒタルモノト云フ、果シテ然ラン、○九年ノ初頃各所原野<sup>大山野地ト通稱ス</sup>開墾望ノ者ハ、出願スヘキ旨ヲ布達セリ、

(官林或侵替地等ノ類ニシテ地主ナキヲ惣呼ス) 而シテ県庁第二課員各所ヲ派出シテ、開墾ニ充ツヘキヤ否ヤヲ調査シ、而シテ願ノ者ヘ許下スルノ規則ナリシカ、布告ノアルヤ、直ニ争テ出願シ、一所ノ地ニ数十名ノ願人アリ、実ニ如何ントモスヘカヲサルノ雜踏ニ立至レリ、私学校員ハ兼テ県官ヲ奴隸視スルカ故ニ、県官ト竊ニ調査シ、良地或ハ樹木アル箇所、他人ノ願文ハ破棄シテ、悉ク校員ニ許可スル処トナレリ、剩ヘ淵邊ナル者ハ、県令ニ謀リ、或ハ第二課長松元武雄ニ謀リ、或ル広大ノ良地ノ許下ヲ得タリ、加之派出官吏ノ調査モナキ地ヲ、特別ノ許可ナルカ故、人々之ヲ伝聞シテ、特別許可ヲ謀ルニ至レリ、不当ノ所為アリテヨリ、一時第二課ノ雜踏警フルニ市場ノ如ク、吏員ニ向テ罵言請責甚シク、言語ニ尽シ得サルノ挙動ナルカ故、県官ハ厝ヲ避クルニ至レリト、加之一暴容八木某ナル者飲酒乱酔シテ、第二課ニ闖入シ、暴言シテ県官ヲ罵ルコト甚シ、松元松元開拓地請願事務ヲ担当ス等制止スト雖モ耳ニモ聞入レス、席上ニ横臥シテ憚ル処ナキカ故、遂ニ警吏ヲシテ捕縛シ、獄ニ下セリ、素ヨリ狂人ニ等シト雖トモ、其因由全ク県官ノ縦恣ト校員ノ暴欲ナルヲ忿慨ノ余ニ出タリ

ト、皆人嘆息セシコトナリキ、

## 六九 鹿兒島分營燒燼

○過去既往事ヲ今ニシテ之ヲ挙ルハ、甚々煩シト雖、今回ノ因元ナルカ故ニ爰ニ録ス、明治六年ノ冬十一月十八日夜、鹿兒島當所日城郡ニアリノ燒亡セシ原因ハ、甚々多端ナリト雖トモ、其概略ヲ記センニ、西郷等征韓論破裂ノ後、卒然帰県シテ黨員等ハ頻ニ營兵ヲ惡ミ、壯年輩ハ路頭ニ口論シ、或ハ甚シキニ至テハ罵言毆打スルニ至レリ、而シテ兵營解散ヲ謀ルニ至レリ、本県出仕ノ尉官等ニ迫リ、遂ニ焼掃解營ノ策ヲ為セリト雖トモ、或ル二三ノ尉官確トシテ動カサル故ニ、手ヲ空フセシカトモ、倍々謀ル処アリテ、其二三ノ尉官ハ熊本又ハ東京ニ出タルノ其機ニ乘シ、大ニ暴意ヲ逞フシ、遂ニ十一月十八日焼燹罹レリ、加之營兵ハ直ニ解隊セシメ、兵卒ハ咸ナ散送セリ、放火ノ説一七日計リ前ヨリ營所焼燼云々、窃ニ巷説ニモ涉リ、聞知ノ人ハ今ヤ火光ノ上ルヲ待タリト云フ、或ハ火ヲ放テタルハ三四回目ニアリト、其際ヨリ思慮アル人ハ大ニ憂慮セシコトナリ

シト云フ、○二三ノ尉官ハ其時ヨリシテ校員ノ憎悪スル実ニ甚シク、其中ノ一名則チ池田徳四郎ナルモノニテ、今回暴殺セラレタリ、一名ハ今回官軍ニアリテ大ニ努力セシ人ナリ、一名ハ賊員ノ有名ナル一将ニシテ、先キニハ三名志ヲ同フシ、校員ノ奸謀ヲ惡ミ、僅三四年ノ屢籍ヲ経テ、方向異ニシタルハ実ニ思ワサルノコトナリキ、○斯ク奸謀ヲ用ヒテ放火シタルハ、西郷・桐野・村田・池ノ上等カ知ル処ニ非ラサリシト、其後ニ聞知セシ否ヤ、○窃ニ聞ク、全ク篠原・淵邊・別府・邊見等カ謀策脅迫ニ出タリト、或ハ在營二三尉官カ左袒シ放火セシメタリト、果シテ然ラン乎、○分営焼亡ノ原因ハ、種々ノ風説アリシト雖モ詳ナラス、一説ニ私学校員等カ、営員ニ脅迫シタリトモ云フ、或ハ營中ノ炊所ノ出火トモ云ヒ、或ハ週番所ノ茶湯所ノ失火トモ云ヒ、交マナリキ、然ルニ怪ムヘキ説ハ、一週間計前頃ヨリ分営ニ必ス変ナラムト、私語キタリ、或ハ出火ト聞ヒテ或部分ノ人ハ驚カサリシト、或ハ一笑シテ子弟ト俱ニ火事見物ニ出懸ケ、愉快ヲ唱ヘタルモアリト云フ、或ハ分営兵ハ翌日ニ至リ、解散ヲ命ジ、兵卒等ハ各我カ郡村ニ帰レリ、彼是ノ始末ヲ考合スルニ、

恐ク失火ニアラサリシナラム、

七〇 貴島清・折田啓之介等事

○貴島清ハ元來私学校員ニ非ラス、一ツノ党派ヲ建タリ、其員折田某・野勢某・山本某・新納某・伊世地某・和田某等ノ數輩ニシテ、私学校ト互ニ好悪スル処アリテ、九年ノ春邊見・淵邊・篠原等彼輩カ特派ヲ立タルハ、大ニ校員ノ妨害アルカ故ニ、貴島ヲ説、該校員少年輩ノ取締ヲ依囑シ、遂ニ校員ニ列ラシメタリ、其時貴島云ク、予ハ日々出校スルコトヲ得ス、閑アルトキニ出校スヘシト約シ、而シテ九年ノ冬ニ至リ、校員カ銃器刀剣ヲ購求スル等ノ騒キニ際シ、大ニ論シ終ニ暴論ニ涉リ退校シテ獨立セリ、是ヨリ先キ同論ナリシ山本・伊世知・和田等ノ數輩ハ熊本ニ出、尋テ東京ニ出、今回官軍ノ尉官ニテ出軍セリト云フ、○二月中旬校員暴発ノ際、貴島ハ校員ニ敵視セラレ、中原尚雄等俱ニ捕縛セント、淵邊・邊見等手ヲ下サントセシカ、西郷・桐野肯セスシテ其禍ヲ免レタリ（世上ニハ既ニ捕縛セラレタリト喋々セリ、之ヲ縛セムトセシハ、貴島ハ官吏ト内通

セリトノ諷誼ニ罹レリト云フ、詳ナルハ貴島カ城山ニ於テ死  
後ノ部ニ記シ、而シテ大山綱良ハ其冤ヲ知りタル故、貴  
島ト議シテ一軍ヲ引テ日州ヲ経、豊後ニ出テ四国ヲ略  
シ、高知ノ同志ト合シテ撰・泉ヲ衝カシメンコトヲ謀  
リ、五百余名ヲ引テ、都之城ヨリ佐土原ニ出テ兵ヲ募  
リ、金穀器械ヲ集メ、大ニ豊後地ニ為ス処アラントセ  
シニ、西郷ハ熊本ニ在テ、貴島カ日州ニ出軍シタルヲ  
聞キ、且ツ憂ヒ且驚キ、中島健彦ヲ遣シ、高瀬・南ノ  
關・田原等危キカ故、来援スヘキ旨ヲ告ケシメタリ、  
依テ軫シテ熊本ニ迂回シ、田原ニ当レリトソ、○当時  
一笑話ニ、貴島ハ校党员ニ悪マル、コト甚シク、政府  
党ノ名アリ、故ニ間諜ヲ放テ挙動ニ注意セシメ、居宅  
ニモ密入シテ、来人ノ談話ヲ探聞セシメルコトモ屢々  
ナリシト、或ル夜大山綱良ハ別邸ノ帰路、貴島宅前通  
行ノ際、校員探偵者ニ行逢ヒシニ、大山ヲ怪ミ袖ヲ捕  
ヘタルニ、大山頭巾ヲ取り、何者ソト言フ懸ケ、校員  
ハ人違ヒニ驚キ失礼ヲ謝シタリト、互ニ笑ヒタリト、  
如此ノ情状ニテ軋轢シ、随テ物情囂々タリ、○貴島カ  
城山籠居中、西郷カ居營ニ数十名ヲ会シテ、衆人ノ中  
ニ於テ積日ノ鬱情、西郷ニ向テ痛述罵詈シタルニ、西

郷モ黙然タリシト、当夜貴島ハ米倉ニ進撃シテ斃レタ  
リ、詳ニ別記ス、○同人カ鹿兒島ヲ出発スルトキ、軍  
資金纔ニ二千円ヲ大山綱良ヨリ渡シタリ、尚ホ足サル  
カ故五千円ニ充ンコトヲ乞フト雖トモ、其際県庁ニ在  
金乏シク、止ムコトヲ得ス二千円ヲ以テ出発セリト云  
フ、○折田・野勢ハ、大山カ不日上京護衛ノ積ナリシ  
カ、貴島出軍ノ一列ニ合併シタルモ、大山カ説ク処、  
貴島ト俱ニ日州ヲ経、九州各所ヲ衝キ、四国ヲ略シ、  
高知ノ同志ト大坂へ出ツルノ策ヲ示シタリト云フ、

#### 七一 熊本県神風党蜂起ニ付私学校員動搖

○九年十月廿四日ノ夜、熊本県下神風党一名敬神党暴起  
ノ説、廿七日朝ヨリ喋々タリ、私学校員愉快トシテ各  
所ニ集会勃起セムトス、○同廿八日、大口・出水郷ノ  
校員細報ス、曰ク、熊本鎮台潰散或燒燼スト、○同日  
夕方ヨリ私学校員四名探偵ノ為、熊本ニ向テ発ス、大  
口・出水郷ノ校員数名、肥後・肥前ニ向テ出発ス、同  
所ノ報知ハ廿七日ヨリ日夜數回、篠原カ宅へ来報スト  
云、校員ノ少年輩今ヤ出発セント騒然タリ、○卅日校



員野村忍介・澁谷精一ノ二名大坂ニ向テ出発ス、京撰  
 間ノ探偵或江州彦根大東義徴(徴)カ所論動靜ヲ探ランカ為  
 ニシテ、西郷カ書翰ヲ携ヘタリト云フ、○十一月一日  
 ニ至テ熊本ノ暴徒潰走鎮定ノ説ニ変ス、校員頗ル喜色  
 ヲ失ヒ、或ハ種子田少将カ横死ノ確タルヲ聞テ拍掌シ  
 テ怡悦ス、○神風党ノ残徒四五名大口ヲ経テ鹿児島ニ  
 来リ、桐野・篠原カ邸ニ抛ス、(後)四五日ハ公然各所ニ来  
 往シ、後去ル処ヲ知ラス、蓋シ桐野・淵邊カ開拓地ニ  
 潛匿スト云、○廿八九日頃ニハ校員ノ少年輩勃起シ、  
 応援セント甚動揺ス、桐野・西郷百方説諭鎮靜ス、此  
 際校員ノ謂フ処、長州ノ前原・彦根ノ大東其他福岡・  
 秋月・佐賀・鳥取・岡山・石川・高知・庄内等勃興ス  
 ル疑ヲ容レスト、西郷・桐野等日夜報知ヲ俟ツト云々、  
 壮年輩ハ既ニ出発ノ用意セルモ鈔カラス、○大口辺ノ  
 副区長木原某家村十郎右衛門カ実弟ナリ・出水郷ノ山口孝右衛門・川内辺  
 ノ汾陽五郎右衛門探訪ノ為メ熊本ニ向テ窃ニ出発ス、  
 木原ハ大口ヨリシ、山口ハ出水ヨリ、汾陽ハ天草ヨリ  
 スト云、

七二 私学校員吉野山狩ト名付ケテ操練

○従是先十月廿二日校員百余名吉野山鹿狩リト名付ケ、  
 銃器ヲ携テ出張ス、其挙動太々非常ナリ、○十二月十  
 日頃ニ至リ、又鹿狩ノ催アリ、人員二百余名ニ及リト  
 云、牧場内寺山辺ニ於テ放発操練セリ、是ヨリシテ日  
 々四五十名・百名・二百名各所ニ銃ヲ担ヒテ出張スル  
 コト連日ナリ、公然憚ル処ナシ、如何ナルコト十余日  
 ニシテ、何トナク銃器彈藥ヲ購求シ、或刀剣ヲ修繕ス  
 ル等今ヤ出軍センノ勢ナリ、商賈ハ利ヲ得ンカ為、四  
 方ニ奔走シテ買ヒ求メ、或長崎・馬關等ニ走セテ買求  
 スルモアリ、此際七連銃一個、彈七十個ヲ添テ、三十  
 五六円、ミニーヘルハ二十余円、七連銃彈一個十四五  
 錢迄ノ価ニ騰貴セリ、其騒動実ニ驚愕ニ余レリ、諸郷  
 ヨリモ我先ニト走来テ争テ購求シ、或胴乱類ヲ製造シ、  
 或軍服ヲ拵ルナト雑踏極リタリ、或該校員數十名連合  
 シテ、銃器ヲ携ヘ刀剣ヲ帶シ、或重キ品物ヲ背負ヒ、  
 或忤ノ類ヲモ担キ遠足修行ト唱ヘ、神社ノ参詣等モア  
 リ、如此騒カシキコト、十一月中旬頃ヨリ十年一月ノ  
 初二至レリ、○一月ノ中旬頃ニ至テ少シク鎮リタリ、

○如此ノ騒動知ラサル者ナキハ勿論、他県ニモ響キタルハ素ヨリ、殊ニ熊本暴動ノ末ナレハ、假令勃興ノ目論見アルニモセヨ、西郷等之ヲ制止セサルハ、策ノ得タルモノニハ非ラサルヘシト云ミス、○諸郷ノ校員ハ十一月初ヨリ鹿兒島ニ来テ、日々私学校ニ出頭シ、出発ノ期限ヲ俟ツ、其人員数千ニ到ル、西郷・桐野モ日々出席スト云、之ヲ以テ考レハ、少年輩カ一時ノ挙動ニアラサルカ如シ、○十二月初、大坂へ差遣シタル野村・澁谷ノ二名帰り来レリ、其説ニ曰ク、高知モ勃興ノ勢ニアラス、神風党ハ全ク鎮定シ、前原党モ縛ニ就キタリト、或彦根ノ大東カ所論ハ全ク相反シ頼トシ難シ、今ニシテハ事ヲ挙クルニ道ナシト、是ヨリシテ諸郷ヨリ出テ期限ヲ窺ヒ居タルモ、一同帰郷ヲ命シ、一郷二名ツ、ヲ報知役トシテ残シ置クヘシト命シタリ、之レ十二月中旬頃ノコトナリキ、然レトモ刀劍ノ修飾、銃器ノ準備ハ依然前ノ如ク益々盛ナリ、○当時校員公然謂フ処ヲ聞クニ、一月ノ初ニハ必ス大挙スベシト、或ハ県令大山カ帰県ノ上、東国ノ情実報知ノ訳アリ、其後事ヲ揚クヘシト、或二月中旬ニハ是非出発ノ運卜ナルヘシト、或二三月頃ニ至ラサレハ、金穀ノ手当調

ワス、右代金ノ納ルヲ待テ用途ニ充ルノ積ナリトモ云、或弾薬ハ大小共ニ夥ク各所ノ蔵ニアリ、或ハ大小砲モ製造所ニアリ、不足ナルハ金穀ノミナリ、二三月頃ニハ充分ニ調ヘシト憚ル処ナク唱ヘタリ、考ルニ此等ノ説、少年輩ノ議ノミニ非ラスシテ、恐ラクハ頭立タル輩ノ密議漏泄セシ者ナラン乎(大山ハ為スコトアラムトノ意ハ大ニ懐ケリ、予モ屢々聞ク旨アリ、別記ニ詳ナリ)、

### 七三 私学校員大挙ノ目的

○或ハ大挙ノ目的如何ヲ問ヘハ曰ク、政府ノ奸吏ヲ除キ、政体改革或魯西亜ノ覬覦ニ備ルノ三目的ナリト云、奸吏トハ誰某ナルヤ、曰ク、両大臣ヲ初メ木戸・大久保・川路・伊藤・井上・山縣・松方・徳能・野津兄弟・黒田等ヲ誅シ、其他ノ奸吏ハ悉ク黜罰スルニアリ云々、○斯ノ如キノ暴説喋々憚ル処モナキカ故、心アル者ハ日ナラス一大事ノ起ルヲ前知シ、憂慮セルモノ少カラス、或ハ裁判官モアリ、何方故ニ法ヲ以テ之ヲ制セサルヤト、政府着手ノ遅々タルヲ怪ムモノモ亦多シ、○

十一月初ヨリ、鹿兒島ヲ初メ諸郷ヨリ、校員加入ノモ  
ノ続々、日々二三百名乃至千余名ニ及ヒタルモアリ、  
僅十四五日間ニ殆ント一万余名ニ及ヒタリト云、十月  
末頃迄ハ漸ク三千余名ニ足ラス、其中ニ鹿兒島士族ハ  
七百余名ナリシト、○該校員カ事情ニ迂ナル、之一事  
ヲ以テ知ルヘシ、前原一誠等カ石州路ニ於テ捕縛セラ  
レタル説、或長崎県令カ布達書新聞ニ掲載セシヨ、該  
校員ハ決シテ捕縛セラレシニ非ス、新聞ニ掲ケタルハ  
政府ノ奸策ニシテ、各県同志ノ蜂起ヲ鎮メンカ為ナリ  
ト信シテ疑ヲ容レサリキ、或一壮士校員ト大ニ論シテ  
曰、今ヤ政府假令衰ヘタリト雖モ、一小前原党ヲ鎮圧  
スルニ難シトスヘカラス、各県不平連ヲ圧スルニ欺詐  
ヲ以テスヘケンヤ、若シ欺文ノ布告ナルトキハ、以來  
万機ノ布令悉ク信ヲ失ヒ、政府ノ失策ナルヘシ、今ヤ  
滿朝至愚ノ人ノミニ非ラサルヘシ、敢テ欺詐ノ布告ニ  
非ラサルヲ信スト云、校員曰ク、西郷氏モ恐ラクハ偽  
詐ノ布告ナラント謂ワレシト云、此等ノ説果シテ西郷  
カ説ニ非ラスシテ、論者ノ杜撰ナラン、若シ彼等ノ説  
ノ如ク、西郷カ真ニ言ヘルモノトセハ、壮年輩ノ心ヲ  
取ランカ為ニ斯ク謂ヘルモノ乎、一笑スヘシ、

七四 大山綱良東京ヨリ帰県

○九年十二月廿八日、県令大山綱良東京ヨリ帰着ス（八  
月初上京セリ）、内務少輔林友幸モ下県セリト云、同氏  
カ下県セシハ、禄券発行ニ付テ、鹿兒島県ノ禄高ハ一  
種ノ性質ナル者ヲ訴へ、特別ノ許可ヲ得テ实地検査ノ  
為出張アリタリト云々、

○十年一月一日ヨリ県令大山綱良ハ、内務少輔林友幸ト  
俱ニ帖佐・加治木郷新築ノ田地見分ニ出張セリ、○私  
学校員カ林友幸ヲ悪ムコト甚シ、曰ク、大久保等カ腰  
付キノ者ナル故、我輩カ挙動視察ノ為メナリト、或ハ  
大山カ渠ニ瞞着セラレシナラムト、壮年輩ハ林ニ無礼  
ヲ加ヘムトモ企テタリト云フ、大山之ヲ聞ヒテ百方弁  
解シタリト云フ、○巷説ニ曰ク、此出張ハ県庁定額出  
納ノ調査ニ付テ、至急帳簿ヲ改メサレハ、検査ニ供シ  
難キ廉アルカ故ニ、田地見分ニ名付ケテ出張シ、其跡  
ニテ県官ハ昼夜帳簿改記セリト云、出納ノ不正粗洩錯  
雑ハ世上ニ喋々スルカ如シ、其実否ハ知ラサルナリ、

## 七五 鹿兒島ニアル彈藥汽船ヲ以テ大坂江運送

○一月ノ初大坂鎮台ヨリ汽船一艘ヲ廻ラシ、製造所ニア  
ル彈藥或大小砲器ノ類ヲ積入レタリ（船名詳ナラス）、  
考フルニ、此内ヨリ私學校員カ鹿狩ト名付ケテ操練シ、  
或銃器彈藥ヲ購求シ、或ハ刀槍ヲ携帶スル等ノ挙動ヲ  
聞知シテ、斯ク至急ニ引取ルモノナラン乎、校員ハ甚  
タ不平ヲ鳴ラシタリ、中ニ一笑話アリ、校員十余名製  
造所官員木尾某カ宅ニ至リ、謂テ曰ク、彈藥類ヲ何故  
至急運漕スルヤ、其仔細ヲ聞カント、或今回ハ少シク  
積込ンテ多ク残シ置クヘシト、暴謾ニ迫マレリト、木  
尾答テ曰ク、我輩ハ輕官ニシテ、何ノ用アリテ引取ル  
モ知ルコトナシ、積入レノ多少モ本省ノ命令ニ由テ、  
増減モ預リ知ルヲ得スト答ヘタリト云、校員等至慮ノ  
少年輩ト雖モ、一笑スヘキノ挙動ニ非ラスヤ、之レ當  
時ノ笑談ナリキ、○一月中旬頃熊本・福岡又ハ高知ノ  
人多ク來テ、桐野・篠原・邊見・淵邊・有馬藤太ハ往  
來シ、多日滞在セリ、○校員等ハ茂木・三重等ノ諸員  
蜂起ノ説ヲ聞テ大ニ喜ヒ、○地租稅額減少ノ勅書ヲ讀  
テモ、感戴ノ言色アルコトナシ、一時人心ヲ取ランカ

為ニシテ、大久保・木戸・大隈等カ例ノ奸謀ナリト誹  
謗スルコト甚シ、校外ノ者ハ近代ノ一美政ナリト涕泣  
感戴セリ、中ニモ久光公ハ当今ノ美事ナリト賞セラレ  
シト云、○禄券發行ニ付テハ、動搖セシカ如キノコト  
ハ毫モアルコトナシ、大山カ專断ヲ以テ価格云々ヲ訴  
ヘタルヲ、不服ナルノミナリキ、○参事田畑常秋カ宅  
へ、一月ノ初頃林内務少輔并ニ県令大山其他県官集会、  
田畑酩酊暴行ス、故ニ其次日辞表ヲ出セリト云、○大  
山ハ當時困難ノ事件甚タ多シ、第一、出納ノ錯雜金穀  
不足ヲ生シテ補ノ道ナシ、第二、旧知事ト廢藩置県ノ  
際ヨリシテ、金穀出入ノ事件ニ付テ、旧知事ヨリ控訴  
ニ及ハント切迫スルノ一事内田政風カ、書別記、第三、學校費用ニ  
惠与セラレタル五万石、本年一月ヨリ出納ノ一切旧知  
事方ニ於テ取計ノ云々、第四、川々浚渫或ハ肝付郡運  
河開通ノ為ニ雇入タル洋人ノコト、其他数件ノ困事ア  
リト云、

## 七六 真宗説教ヲ開ク

○當時鹿兒島ニ於テ盛ナルハ一向宗ノ説教ト、西郷党カ

酒乱暴行銃器刀剣ノ修繕ナリト云、実ニ該党ノ暴威ト  
 県官ノ縦恣多欲ハ衆ノ悪ム処ナリ、○一向宗ノ寺宇庁  
 下新地ニ創建ス、鐵然ト云知識来テ、説教日ニ群ヲナ  
 ス、○一月廿八日県官悉ク廢免アリ、今回大節檢ニ由  
 テナリ、県令一名ヲ存シ用掛ノ属官十余名殘レルノミ、  
 火巧所・火薬製造所・造船所ノ官員モ過半廢免セラレ  
 タリ、

○一月廿九日汽船赤龍丸来港ス、火薬並大小砲彈藥各所  
 ノ庫倉ニ在ル者ヲ積入レ、或小銃彈製造器械火巧所ニ  
 アルヲ解放シテ大坂ニ遷サムト、器械ノ解毀ニ卅日ヨ  
 リ着手セリト云、或草牟田村旧龍泉院廻ノ倉庫ヨリ、  
 小銃彈藥、犬廻村<sup>(通)</sup>ノ庫倉ヨリハ樽詰ノ火薬ヲ、卅日、  
 三十一日兩日ハ凡百五六十頭ノ馬ヲ以、兼テ規則通り  
 ニ運漕シテ赤龍丸ニ積込タリ、

七七 明治十年一月三十一日暴徒彈藥掠奪並中

原尚雄等捕縛暴辱之事

○十年一月卅一日、水曜日、曇、南風暖春色稍催ス、今  
 宵十時頃、草牟田村旧龍泉院ノ隣地ナル彈藥庫倉へ、

私学校員五十余名卒然押来リテ、番人ヲ脅迫シ倉庫ニ  
 押入り、小銃彈藥五十余函ヲ掠奪シ去レリ〔針打銃彈一  
 函五百個入ナリ〕、校員ノ宅或私学支校へ運漕セリ、予カ  
 近隣愛甲嘉右衛門カ宅へモ、数十個ヲ運ヒ来レルヲ親  
 シク見タリ、○此ノ巨魁ハ松永高美・堀新十郎ノ兩名  
 ニシテ、其外少年輩ナリシト云、当夜ハ公然掠奪シタ  
 リト云フ、○翌日二月一日掠奪ノ説喋マス、聞ク人驚  
 愕痛嘆セサルハナシ、校員モ之ヲ聞テ屹驚、私学本校  
 ニ集会シテ、大論激議割ヲ遷ス、松永・堀等曰、赤龍  
 丸へ悉皆積入ルニ疑ナシ、然ルトキハ他日事ヲ揚ルニ  
 臨ンテ差支ント、卒然談合シテ奪ヒシナリ、配分シテ  
 他日ノ用ニ充ツヘシト謝ス、衆皆曰ク、此上ハ少シク  
 取ルモ多ク取ルモ多少ノ論ナシ、或云、各処ノ倉庫局  
 々悉ク焼キ払フヘシト、異論紛紜タリ、篠原曰ク、焼  
 燼シテ何ノ益カアル、事ヲ揚ルノ用ニ充ツヘシト云、  
 衆之レニ同意シ、同日夕刻ヨリ各所ニ集合シ、二三百  
 名乃至七八十名思ヒ々ニ諸所ノ倉庫ニ押寄セ、公然  
 掠奪シタリ、○邊見ハ大ニ憂ヒ事破レタリト、歎息シ  
 タリト云フ、

○二月一日、雨霰、冷氣甚シ、午後三時頃ヨリ照ス、薄

暮ヨリ各所ノ私学支校へ集会シ、各倉庫へ押寄せ倉庫ニ押入り掠奪セリ、草牟田村ノ倉庫ニアル弾薬ハ残ナク掠奪ヒ、隣所ノ私学支校へ運漕シ、或ハ西田村島津又七カ倉庫ニ入レタルモノ多シト、皆人力車・大八車・荷馬ヲ用意シテ、少シモ憚ル処ナク運ヒタリトソ、

○二月二日、雨、冷気甚シ、北風烈シ、○未明ヨリ磯村ノ製造所又ハ火薬製造所・火巧所或各所ノ倉庫へ大勢乱入シ、銃器・弾薬類ヲ奪掠ス、國分・加治木其外隣郷ノ校員モ一日ノ夜ヨリ走セラテ、其人員数百人ニ及ヘリ、実ニ兇暴ヲ極リタリ、○敷根郷ニアル海軍ノ火薬製造会社ニハ、國分辺ノ校員闖入シテ悉ク掠奪セリ（同所ノ製造会社ハ、伊勢仲左衛門社主ナリ、敷根郷ニアル火薬製造所ハ、慶応元年頃創設シタルヲ、廃藩後製造局員私下ケ会社トシ、製薬ハ陸海軍ニ売上ヲナセリ、社主伊勢仲左衛門其他四五名カ合資社ナリ）、昨夜十時前坂元村火薬庫燃発ス、十二時頃迄ニ大小燃発ノ響七回、火光熾ナリト雖、皆人縮眉低声戸外ニ出ル者ナシ、是レ暴徒カ掠奪セント提灯ヲ携ヘテ庫内ニ入りシニ、軋火燃発セリト、即死二名燃傷五六名ナリシト云、○二日朝未明、火巧所官員新納軍八、県令大山綱良カ宅ニ行テ、掠奪暴行ノ

始末ヲ告ケテ、処分アラントヲ訴フ、大山曰ク、我カ預リ知ル処ニ非ラス、其筋へ訴フヘシト対フ、新納ハ如何ントモスルニ道ナク、哀訴再三ニ及フ、大山曰ク、製造所ヲ初弾薬ニ至ル迄、悉ク鹿児島士族ノ衆力ヲ以テ成リ立テタル者ナリ、爰ニ至テハ勝手ニスルモ理ナキニ非ラスト云、新納呆然論スルニ道ナク、口ヲ閉テ去レリト云フ、○一日ノ昼頃草牟田村・坂元村火薬庫ノ番人ヲ、警察第一分署へ呼ヒ出シ、掠奪ノ次第ヲ一ト通糺問シタリト云、番人曰ク、大勢軍ノ如クニ押シ来ル故恐ロシク、二日ノ夜ニハ案内ヲモ致セリト云、官員等同音ニ大笑セリト番人ヲ呼ヒ出糺問シタル、形ヲ狂ヒ、タルノミナリト云、果シテ然ラム、○一日ノ昼暴徒カ火巧所其他ノ官局へ闖入シテ、官員等ニ向テ大声シテ曰、我々ハ西郷大将ノ命ヲ受テ弾薬類ヲ取りニ来レリ、不日ニ大挙シテ、政府ノ奸吏誅伐ノ用ニ供スル者ナリト謂モ果サス、倉庫ニ押入り或ハ官吏ニ命シテ開カシメ掠奪セリト、其兇暴実ニ言語ニ尽シ難シト、○汽船赤龍丸ハ犬廻村（通）ニアル火薬五百余個程積入レタルノミニテ、一日ノ夜出港セリ、同日ノ昼暴徒二十余名乗込ミ、船中ノ有様ヲ見テ、同夜襲テ船ト俱ニ掠奪セント議シ、乗込ノモノハ捕縛或誅戮ス

ルノ賦ナリシト云、其機ヲ察シタルニヤ、速クモ抜鉛スルヲ見テ、暴徒ハ握腕セシト云フ、危カリシ事トモナリ、○岩下方平ハ持事<sup>持</sup>施政上不平辭職シタルヲ、校員ハ政府ノ探訪ナラムト妄想シ、挙動ニ注目スルノ折、彈藥掠奪離間者捕縛ヲ初メタルニ依リ、岩下ハ速クモ其機ヲ察シ、赤龍ニ搭シ帰京セリ、校員ハ其事ヲ聞ヒテ、果シテ間諜ナリシト、捕ハサリシヲ遺憾トシタリトナム、岩下ハ大久保等カ近年ノ挙動ヲ怪ミ、辭職帰県シ、故山ニ老ヲ養ムトノ意ナリシニ、豈料ラン校員ノ嫌疑ヲ受ケタルナリト、後ニ一笑ニ付シタリ(岩下ハ崇神家ナルハ皆人知ルカ如シ、此時予テ信仰セル川上某ト云フ霧島神宮ノ豫女ナル者、神托ナリトテ速ニ帰京ヲ促シタリ、故ニ危ヲ免レタリト、後日ノ親話)、○本日汽船三邦丸ハ大坂ニ向テ出港ス、製造所官吏郷田源右衛門ハ陸軍省へ届ノ為メ、三邦丸ヨリ上京セリ、校員之ヲ悪ンテ後家屋モ破却セラレタリ、

七八 賊徒出陣壯兵ヲ煽動募集ス

○一月卅一日賊徒彈藥ヲ掠奪シ、次テ中原尚雄・園田長

輝等数十名ヲ捕縛シ、剩ハ拷問ニ及ヒ、其口供ヲ各所ニ揭示シ、或ハ印刷シテ普ク売弘メサセタリ、其間ニ大挙進發ノ手当ニ着手シ、日夜銃砲ヲ製造或ハ修繕シ、或ハ兵ヲ闔県ニ募リ、種子島ノ如キハ汽船ヲ廻ラシテ募リ、或ハ各郷ヨリ招集スル等、其騒カシキ実ニ舌ヲ吞ムニ至レリ、其間ノ巷説街話ノ如キハ、中原・園田等ノ輩ヨシテ、西郷・桐野等ヲ暗殺セシメント奸謀ヲ用ヒ、大久保・川路ヲシテ謀ラシメタリト、斯ル卑劣ノ奸策ヲ以テ、戊辰復古ノ元勳ナル国家ノ柱礎タル西郷等ヲ暗殺セントスルハ桀紂ノ惡ト云フヘシ、之ヲ除カスンハ、国家ノ大事之ヨリ大ナルナシ、加之詐謀惡計ヲ以テ政ヲ擅ニシ、忠良ノ人ヲ退ケ奸邪朝ニ充チ、奢侈驕惰己ヲ利センコトヲノミ之レ謀リ、聖上ヲ愚弄シ奉リ、人民ヲシテ土芥塵泥ノ如クニ処置シ、人民ノ困苦ヲ顧ミス、或ハ国体ヲ輕瀆シ、外人ヲ跋扈セシメ、或ハ外人ヲ親ムコト兄弟ノ如クシ、国人ノ忠直実潔ナルヲ疎外シ、皮想ノ觀ヲ以テ文明トシ、高樓美闈ヲ以テ開化トシ、戊辰ノ大勲アル功臣士族ヲシテ、全く徒食遊迭ノ人トナシ、剩ハ祿制ヲ改革シ、無用ニ浪費セルヲ償却セントス、或ハ擅ニ紙幣ヲ發シ、内外債日ニ

重り、国権月二年ニ墜失シ、外国ノ輕侮ヲ受クコト、  
枚挙ニ遑アラス、故ニ温懷政府ト人民蔑唱スルニ至レ  
リ、殊ニ臺灣ノ役朝鮮ノ師、支那ノ談判償金ノ欺詐(おぼ)  
良太交換、悉ク国辱ノ至重ナル、言ヲ竣タサルナリ、  
斯ク国民ヲ欺キタルコト枚挙ニ遑アラス、或政令日ニ  
月ニ繁縷、人民ノ困ミ甚タシク、從テ国民憂国ニ踈ク、  
愛君心ニ遠サカリ、耶蘇ノ教門ニ這入り、終ニ皇統モ  
殆キニ垂ミタリ、是ノ時ニ当テ速ニ奸吏ヲ退ケ、忠亮  
ノ人ヲ挙ケ政体ヲ改革シ、外国ニ国権ヲ振ヒ、人民ノ  
苦ヲ除キ、富強ノ大日本帝国ニ回復センノ時ナリト罵  
リ廻リ、私学校ニ加ワラサリシ人ヲ煽動シ、或ハ陰ニ  
陽ニ強迫シ、二月十日頃ニ至リテ、殆ント二万員ニ余  
レリ〔此内夫卒八千余名〕、而シテ十五日大雪ヲ踏ンテ、  
堂々揚々鉄壁モ粉碎センノ猛威ヲ振ヒ、肥地ニ進發セ  
リ、実ニ其勢焰当ルヘカラストモ謂フヘキナリ、斯ル  
暴焰ヲ以招集セシ故、少年輩或ハ名分条理ニ闇キ者ハ  
其言論ニ感シ、或ハ強迫ニ恐怖シ、続々争テ加入、出  
軍ヲ冀望スルコト、闔県残リナシトモ謂フヘシ、畜島  
津家付従ノ人僅ニ千余名、西郷等ノ為ニ竭スヘキノ義  
務ナク、暗殺云々ノ名義ヲ以テ政府ニ訊問スルハ、臣

道ニ背ケルヲ論シテ脅從セス、然リト雖トモ時勢已ム  
ヲ得ス、或ハ政府ノ所為厭フノ意アル者ニシテ、方向  
ヲ定ルニ道ナク、其困難実ニ極マレリ、島津家ハ独リ  
中立關係セサル、実久光公深慮ト謂フヘシ〔後ニ詳記ス  
ヘシ〕、故ニ少シク名分ヲ知り条理ヲ弁ヘタル者ハ、旧  
恩ヲ思ヒ、進退ニ從ワント随属スル者少カラス、二月  
初迄ニ名簿ヲ出シタル者殆ント二万ニ余レリ、然ルカ  
故ニ賊徒ハ頻ニ流言煽動セシニ依リ、同十五日賊徒發  
軍ノ頃ニハ、五千人ニ足ラサル程ニ、名簿ヲ引取り加  
入出軍セリ、然レトモ諸郷ノ士族ハ依然タル者多シ、  
○二月末頃ニ至テハ、肥地戦争ノ報知追々来レリ、二  
月廿二日ノ開戦以來毎戦勝利、東兵ハ不日ニ悉滅、熊  
本城ノ没落ハ旦夕ニアリト、或ハ熊本ノ士族幾干、佐  
賀・福岡幾千蜂起、応援向フ処枯葉ノ散ルカ如シト、或  
金穀彈藥ノ如キハ熊本県士来加スル者ノ運漕セリト、  
或ハ戦毎ニ分捕スル者夥シク、該県人民ハ我軍ヲ見テ、  
父母ヲ慕カ如ク来テ、役仕セラレンコトヲ望メリト、  
其勢実ニ雷ノ如シ、東軍ハ僅ニ五千ニ足ラス、一孤城  
ニ籠リ、剩ヘ糧食乏シク、十日許ノ用ナリト、或佐賀  
或ハ福岡、或ハ秋月或ハ大分ニ起レリト、或ハ四国ハ



大挙スヘシ、中国ニモ長州ヤ、石川県・庄内・静岡・會津・青森県ニ勃興スヘシト嘯々シ、一モ敗報アルコトナシ、人咸之ヲ信ス、中ニ識慮アル人ハ、大ニ疑ヲ懷キタルモアリ、後報ヲ聞カンコトヲ欲シ、或ハ銃砲彈藥ヲ送り、或ハ兵ヲ募リ、或ハ檻中ノ罪人ヲ出シテ出軍セシムルニ至テ、捷説ノ嘘ナルヲ知り、或ハ県下人民保護ノ為ト唱へ、巡查數千ヲ募リ諸郷ニ派遣シ、或ハ庁下ニ置テ非常ニ備へ、或碓泊ノ軍艦乗付人ノ上陸ヲ戒ムル等、種々ノ暴策ヲ施スカ故、人心益々疑危恐懼スル者多シ、然レトモ誰モ之ヲ人ニ話スルコト能ワス、捷説ヲ賀シ心ニ思ワサルヲ唱へ、禍ヲ免レンコトヲ謀ルモノノミナリキ、是ニ就テ一笑話アリ、或一卑女市街ニ出買物スルニ、四方山ノ茶談中、近日川路ナル人大勢ヲ引テ鹿児島ニ來ル説アリト語リシニ、其店主ノ婦人之ヲ聞テ、後隣家ノ女ニ語ル、而シテ連々傳ヘテ遂ニ警察署ニ聞へ、該署之ヲ県官松元武雄ニ告ク、武雄直ニ警察ニ令シテ、其説ノ出所ヲ搜索スルコト甚嚴ナリシト、伝聞セシ輩ニハ無根ノ説ナルヲ謂ハシメ、東兵ヲ向ル処ニ非ラス、敗潰散々、不日我兵馬関ヲ踰ヘテ浪花ニ出ルノ勢ナリト云ワシメタリ、如此

ノ類枚挙ニ遑アラス、故ニ一般ノ人心恐懼、官軍ト云コトサヘ口ニ出サス、兄弟親族ノ間モ言詞ヲ謹ムトモ云フヘキノ形況ナリ、是レ四月中旬頃ノコトナリキ、或ハ平民輩ノ婦女ニ探偵ヲ命シ、士族ノ家ニ売品ヲ持來リ、婦女ノ茶談ヲモ探ラシメ、中ニモ賊軍ニ加ワラサル人ニハ、其探訪最モ密ナリシト、是全ク松元カ淵邊ト議シテナセシコトナリト云、而シテ三月末ニハ、邊見・淵邊募兵ノ為メ帰県、該党ニ左袒セサル者ノ、公然名義ヲ守リタル曹ヲ故ナク捕縛シ、或ハ残害セラレシ者十四五名ニ余レリ、這ノ人々ハ名分ニ違ハス正義ヲ守リタルカ故ニ、渠等カ詐謀ヲ以テ募兵ニ妨害アルカ故ニ殘殺セリト云、或ハ夫卒等カ負傷帰県シタル者ハ、警察署ニ呼ヒ出シ、肥地ノ戦況勝敗ヲ語ルヲ禁シ、或ハ語レル者四五名アリシヲ、嚴シク呵責入檻セシメタリ、斯ク兇暴ナルカ故人皆恐縮声ヲ吞ムニ至レリ、或ハ士族中ニ出軍セス正義ヲ守リシ者ハ、誰某ハ政府ノ間諜ナリトカ、種々様々流言ヲナサシメ、捕縛セラレタリトカ、或不日殺サルヘキトカ唱ヘシメ、煽動畏懼セシメタル故ニ、咸恐レテ従軍セシメンコトヲ謀レリ、斯ク奸謀ヲ施シタルハ、松元・右松等カ策ニ

出タリト云、果シテ然ラン乎、或ハ県官等ハ此二三名ノ暴焰ニ恐怖シ、佞媚ノ為ニ、正義ノ人ヲ見立聞キ立譏誣シ、禍ニ罹レル者尠カラス、世人咸其挙動ヲ察知セリト雖モ、奈何ントモスルコト能フス、或ハ雇員等少給ノ輩ハ、正義家ヲ譏謗シ、其レヲ功トシテ多給ノ警部等ニ昇進セシモ又少カラス、県官ノ中ニ就テ殊更ニ佞媚シタルハ、坂元清彦・鈴木莊七・土師盛大・鎌田直政・青山良啓・養田長徳・土岐元長・山本實明・上村直・松元時直・伊集院中二・東郷榮之助・田中・奈良原喜格(マ)鼎輔・木脇盛清・田中金平・東郷實安・川畑梓・宇都宮喜藏・長崎某其他雇員ニ多ク、悉ク貪婪昇進ノ卑劣心ヨリ出タル者ナリ、憎ムヘキモノナリ、

### 七九 賊徒ニ諛ヒ更ニ新県令ニ詔フノ徒

○這輩ハ元來臆病未練貪欲ナルカ故ニ、新県令入県ノ後直ニ面貌ヲ替へ、巧言令色阿媚佞諛シテ、県官ニ出仕シ、全ク正義ヲ守リ如此卑劣非義ヲ働キシハ露程モ知ラサル顔ヲ以テ、意気揚々タルハ恥ヲ知ラサルノ甚シト謂フヘシ、或ハ区戸長等ニシテ佞媚立廻リタル者多

シ、中ニ就テ松元・右松等ニ詔諛シ、正義家ヲ譏誣シ、募兵煽動ノ奸謀詐術ヲ用ヒ、強迫スルニ島津家ノ名ヲ唱シタルハ、島津多右衛門・川上勘解由・名越左源太・島津又七・木脇啓四郎・種子島中介・宮里伸之丞・島津良馬・町田平、以上ヲ諸郷ノ区戸長トス、鹿兒島戸長ニハ左近充某・石神某・平瀬某・伊東某・伊集院某・町田某等ニシテ其外枚挙スヘカラス、諸郷ハ尚多シ、戸長ノ如キハ論ナク、県官ノ暴威ニ畏縮シ、唯命之レ従フモ又無理トモ謂ヒ難シ、然雖トモ、区長ノ如キハ多クハ旧門閥ニシテ、家老・若年寄・大目付・番頭等ノ職ニアリシナリ、剩ヘ島津多右衛門・名越左源太・島津又七ハ、旧知事公又ハ久光公ノ近習ニ仕ワレシ者ナル故、二月初区長奉命ノ時、久光公家令ヲ以テ、懇諭セラレタリ、各三名ハ以前親シク交ヲナセリ云々ノ趣ナリシヲ、敬承シタリト雖、元來松元武雄等ニ威赫セラレ、自ラ懇願シ奉命セシ訳ナルヲ以テ、教訓(訓カ)ニ服シ辭職スルコトヲ得スシテ、却テ馴諭ノ趣ヲ松元武雄・右松祐永ニ語ル、右松ハ默然タリシカ、大ニ笑テ曰ク、老公ノ今ニ初ス頑固ナル哉、此際ニ臨ンテ、以前親シク召仕ヒタルナントノ事ヲ以テ、辭職ナサシメントハ、

久光老一名ノ意ニアラサルヘシ、其出処ハ顯然、付從二三名カ胸中ニ出テタル者ナリ、然レトモ其説ニ從ヒ、辞シ度ハ勝手ニスヘシト暴言ス、三名モ却テ松元カ説ヲ恐レ、久光ノ固陋ト付從二三名ヲ笑罵セリト、而シテ倍々尽力シ、煽動スルコト甚シク、諸郷ニ於テハ島津ノ旧恩ヲ思ヒ、進退ニ從ワント盟約セシ者尠カラサリシカ故ニ、彼輩カ煽動スルニ付テ、其事由ヲ告クルニ曰ク、島津家モ不日ニ出軍セラルヘシ、或ハ軍用金ヲモ出サレタリ、或ハ彈藥銃器モ惠与セラレタリ、或ハ今回ノ挙タルヤ、久光父子ト西郷等ト深ク議スル処ニシテ、爰ニ至レリト、妄説擅喙シテ盟約ノ処ハ、我カ宜シク取計ワント、或ハ斯ル困難ニ当テハ一般力ヲ竭スヘキノ時ナリ、旧知事公モ不日ニ出発アルヘシ、唯先後アルノミナリト、種々様々説得シテ募レリト、諸郷ノ頑愚中ニモ一概シテ欺クヘキニ非ラサレハ、承服ノ姿ヲ為シテ窃ニ島津家ニ來テ、其事由ヲ告テ欺詐ノ謀言ナルヲ認メ、而シテ該輩ト激論ニ涉リシモ少カラサリシトソ、○或ハ島津又七ハ松元武雄ニ欺カレ、二月初メ掠奪ノ彈藥ヲ土蔵ニ陰藏シアルヲ、勅使隨下ノ兵隊ノ為ニ搜索セラレタリ、或ハ邸内ニ埋ミ置キタ

ルハ探シ得サル故、其後肥地へ運送セリト、或ハ自費ヲ以テ銃器被服ヲ贖求シ、渠カ隣近ノ壯年輩十有名ヲ出軍セシメタリト、或ハ出軍ノ者ニ金ヲ与ヘタルモ尠カラサリシト云、考ルニ全ク松元等ノ暴威ニ恐レ、或ハ欺カレタル者ナラン、元來慮モナク勢ニ走ルノ人ナルカ故、大ニ名義ヲ失ヒ、今ニシテハ諸郷士族輩ニ罵詈譏笑セラレ、剩へ警視ノ手ニ拘引セラレ、縛ヲ受ケ入檻一生ノ汚辱ヲ蒙リ、荷恩ノ島津家ニ忿意ヲ懷カシメタルハ、豈之ヲ如何トカ云ハン乎、如此ノ輩又多キニ居ル賊員ニ服シ、文武糾ヲ伐ノ義戰、漢高恭ヲ討タルト同視シタルノ輩カ、四月末官軍大挙來港、新県官入県、勢ノ月籠ノ異ナレリト、立所ロニ言語貌姿ヲ相反シ低頭平身、賊ヲ大賊ト唱へ、前県官ヲ誹謗譏誣シ、不体裁ヲ挙告シ、前ニハ容ラレサルカ如ク阿媚セサルカ如クニ語り、探訪細策ヲナサント謾リ、乞フテ各所ニ奔走シ賊情ヲ探索シ、新県官ニ諂告スル等ノ挙動、實ニ人面獸心卑劣ナル、聞ニ忍ヒス、見ルニ断腸スト謂ヘキ曹ハ、悉ク県官ノ雇役ニ列リ、今ヤ意氣揚々官員ノ体ヲナシ、虎威ヲ仮リテ跋扈ストモ云フヘキナリ、豈廉恥ヲ知ラサルノ徒ト云ワンカ、將タ禽獸ニ等シト

モ云ワン平、故ニ当時ノ諺ニ、鹿兒島一県内ノ卑劣ト  
下等ヲ扱羅セシハ新県官ノ思考ナリヤ、悉ク賊員ニ欺  
カレタル者ニシテ、実ニ耳目ナキ人ナラント喋々ス、  
○又廉恥ヲ知ラサルノ甚シキハ、賊員ニシテ降伏帰順  
シ、放免ノ後直ニ県官ニ諛リ、雇員ヲ冀望スルアリ、  
寔ニ喙ヲ容ルニ道ナシト云フヘシ、如此ヲ直ニ登用ス  
ルモ又評ヲ容レサルヲ得ス、豈ニ鹿兒島ニハ人ナキ哉、  
国事犯ハ元愛国心ニ出ツ、其挙動ヲ謬レルノミナリト  
雖、人民ニ妨害シ国安ヲ妨ケタル罪アルカ故、此際ハ  
謹慎セシメ、而シテ後ニ登用スル尤妨ケナシ、今ヤ県  
庁挙テ賊臭アラサルナシ、之レ大ニ人心ノ安ンセサル  
処ニシテ、正邪ノ區別ナク玉石混淆ト謂フヘシ、○今  
ヤ鹿兒島ノ人情ハ所謂亡国ノ臣トモ云フヘクシテ、天  
下ニ顔ヲ向クヘキナシ、正義ヲ守リ賊中ニ孕リシ故、  
他ニ見ルトキハ闖県賊視セラレ、正義家ハ憂鬱ニ沈伏  
謹慎シ、艱難辛苦ノ間ニ在テ、名義ノ為ニハ命ヲ抛チ、  
彈丸雨注ノ間ニ在ルヨリモ難カリシト雖トモ、其區別  
ナク混同セルハ、窃ニ歎クニ余リアリ、加之賊員ニ倭  
媚シ、賊ヲ助シタル者翻テ亦阿諛シ、雇等ニ奉職セル  
ハ、良策民ニ対シ、善凶ト謂ヒ難シ、噫々今ヤ鹿兒島

県ハ、正氣ヲ守リ方向ヲ過ラサリシ曹ノ中ニ、人ナシ  
トスルヤ、因ニ云、今ヤ鹿兒島ニ人才ナシト見ル乎、  
將タ憂国ノ人ナシトスル乎、謂ク、此際奉職ノ人二三  
種類アリ、一ニ品行正シク識慮アリト雖トモ、耐忍雇  
員ノ職ニ勉強スルアリ、二ニ識慮才幹アリト雖、廉恥  
心ナク貪憚ノ卑屈者ナリ、三ニ識ナク慮ナク廉恥ヲ知  
ラス、給ヲ貪ルノ卑劣連中頗ル多シ、凡ソ道ノ三種ニ  
過キサルナリ、又別種憎ムヘキ一種類アリ、前県官ニ  
阿媚諂佞シ、賊中ノ賊タル者、忽チ勢ヲ見テ翻タル者  
ハ、一種禽獸視スヘキノ輩ニシテ、輕雇ノ員列多クハ  
之レナリ、豈人民保護ノ員中ニ置ヘケンヤ、山野ニ陰  
レ頭ヲ顯サスシテ潜メル者ト、雇員等ノ為ニ誹議セラ  
ル、中ニ求メサルヤ、今ヤ少シク思慮アルカ或ハ道義  
知レル者ハ、必ス潜ンテ山野ニ身ヲ潜メ、敢テ道路ニ  
賈ヲ求メサル者ナシトセス、況ンヤ廉恥ヲ知り名義ヲ  
守ル者、雇員ノ汚穢連中ニ交リ、膝ヲ屈メンヤ、

### 八〇 明治十年十二月頃鹿兒島県人心

○十年ノ冬十二月頃、鹿兒島人心ヲ概記センニ、元來無

識文盲頑固ノ風習、殊ニ狹隘嫉妬ニ深く、人ノ価ヲ知ラス、識慮ノ分ヲ量リ知ルコト能ワス、貴紳ニ媚諛シ利ヲ見テハ進ミニ疾ク、暴謾倨傲弁口禿弁、実ニ名状シ得サルノ風ナリ、又反テ其美ヲ挙テ謂ワンニ、文盲不識ナリト雖、勤ト云ヘハ身命ヲ惜マス、雖キヲ研キ強キニ当リ善ニ移ル速ニ、却テ走り過ストモ云フヘシ、宰タル人能ク指揮スルトキハ猛ナリ、美悪ヲ判スルトキハ如此、然ルニ兵燹ニ罹リ家屋財具悉ク焼亡、資産ナク生計ノ途ナシト雖トモ、僅々一坪一円五十銭ノ償ヲ下賜セラレタルヲ足ラストセス、甘ンシテ拝受シタルハ朝廷ノ重キヲ知ルカ故ナリ、何百坪ノ多キモ百円ヲ以テ極トシ償下セラレタリ、其他木屋掛料ト唱ヘ、坪數ノ多少ヲ論セス一戸八円五十銭ヲ与ラレタリ、合算シテモ実ニ僅々十分一ノ償トモ云ヒ難シ、或ハ六七月ノ際一戸一名日ニ五合ノ現米ヲ賜テ救助セラレタル、凡十五日間ニシテ、一人別ニ七舛位ヲ給与セラレタル者ナリ、然ルニ不平ヲ唱ルモナキニ非ラスト雖モ、熊本県ノ如ク返還シテ増賜ヲ迫ルカ如キヲナス、或ハ区戸長ノ如キハ素ヨリ、庸劣ノ凡夫ニシテ新聞紙サヘ通読シ得サルノ輩、或ハ賊員ニ左袒シ、或ハ仕役セラ

レタル鼠輩モ上命ト重ンシ、放擲シ置キ、或ハ県官ニ賊員アリト雖モ顧ルコトナク、或ハ新任下県ノ県官多クハ諸省諸局ノ放逐輩ニシテ、糊口ニ術ナク來職シタル曹、其他悉ク庸凡ノ輩ナリ、聞知スト雖敢テ頓着セス、之モ又上ヲ重ンスルノ一事ナリ、概論スレハ卑屋心トモ謂フサルヲ得サルナリ、○或ハ賊員ナリシ者ハ再ヒ恥ヲ雪カント、切齒耐忍セント云モアリ、勤王ノ為ト云ヘハ必ス後日大ニ竭ス処アルヘシ、願クハ朝廷ニ於テハ至仁辱ヲ与ヘス、困難ヲ受ケシメス、他日尽サシムルコトアランコトヲ冀望スト云々、

○十年十二月頃ニ至リ、鹿児島県一般ノ人氣少シク物議アリ、曰ク、朝廷ノ至仁素ヨリ寛典ニ出テ、国事犯ノ所刑寛大宜シク、感戴スル処ナリト雖モ、鹿児島県士族ハ戊辰ニ尽ス処ヲ以テ、少シク償フ処アラン乎、素無事ノ人民ニ於テハ家屋ヲ焼カレ、財具ヲ失ヒ、寒中身ヲ蔽フノ衣ナク、家祿賞典ノ如キハ、一粒モ下与セラレス、避乱中徒食シテ、既ニ七八月ヲ過セリ、其困却挙テ謂ヒ難シ、然ルニ県官ハ如何ナル思慮在テ、家祿ノ払ヲ遅クスルヤ、耳目アリヤ、将タナキニ似リトモ謂フヘシ、僅々十四五日間ノ救助米ト、木屋料、家

作料ヲ渡シタルモ、償ノ言アリト雖トモ、仁恤ト云ニ足ランヤト、沸々其説路頭ニ充チタリ、○或曰、雇官員等カ阿媚倭諛ノ言ヲ信シ、下与ノ遅々タリト、之ヨリシテ雇員ヲ恨ムルコト甚太シ、雇員ハ悉ク倭諛ノ鼠輩採用シタルカ如キ曹ナレハ、一般ノ謂フ処モ又無理トモ謂ヒ難シ、

## 八一 私学校暴慢之説

○九年ノ初秋ヨリ私学校党カ刀劍ヲ修造シ、或ハ銃砲ヲ購求シ彈藥ヲ製造シ、上京ノ説喋々、今ヤ発動ノ形勢ナリシカ、九月中旬頃ニ至リ、少シク鎮靜セリ、而シテ熊本敬神党蜂起ノ際一時騒然タリ、十一月中旬ニ至テ鎮靜ス、夫ヨリシテ十年一月卅一日彈藥掠奪迄ノ間、動靜數回ナリ、其トキ傍觀者ハ大ニ疑團ヲ懷キ、西郷等如何ナレハ、少年輩ノ挙動ヲ鎮メサルヤト私語キタリ、前段記セシカ如シ、然ルニ二月中旬肥地へ暴発ノ際、淵邊群平ナル者或人ニ語テ曰、前年来種々策略ヲ用テ官吏ノ動靜ヲ窺シニ、少年輩ヲシテ態ト勃興ノ形ヲ為サシメタルコト數回、西郷等之ヲ鎮靜ノ名ヲ以テ

シタルハ、全ク官吏ニ安心セシメンカ為ナリシカ、果テ川村其他モ、西郷ハ今回ノ挙ニ加ワラサリシト安心ナサシムルニ至レリト、

○真宗東派ノ説教僧（天想）鐵然ナル者、二月七八日頃私学校員ノ為ニ捕縛セラレ、警察第一分署ニ引レ、拷問暴辱セラレタル其因由ヲ聞クニ、私学校員ノ見ル処ハ、中原尚雄・園田長輝ト同穴ノ探偵者ニシテ、中原等カ鹿兒島ニ事ヲ挙ルノ際、鐵然等同宗ノ輩ト報知ヲ司レリト見据へ、殊ニ鐵然ナル者ハ元来長州産ニシテ、戊辰ノ役ニハ軍事ニ加リ、越後へ出軍セシ者ナレハ、木戸ナル人ト謀リ、鹿兒島ニ出張セリト種々ノ説アリテ、捕縛セラレタル者ナリ、或中原・園田等ノ數十名ヲ捕縛セシ頃ノ説ニ、旧城下新地ニ真宗ノ寺宇創建ノ央ナルニ、中原等カ西郷等ヲ刺殺シタルトキ、直ニ該寺ニ放火シ、帰依ノ徒ヲシテ新地ニ集ラシメ、其紛レニ汽船ニ搭シ遁レ去ルノ計謀モアリタリト誠シヤカニ喋々セリ、

## 八二 田中直哉真宗ヲ開クノ論

○或ハ鹿兒島ニ真宗説教ヲ開クハ九年ノ春頃ナリ、夫迄

ハ旧藩時ノ如ク禁スル処ニシテ、警察課ヨリ嚴ニ該僧ノ入県ヲ禁シ、適別用ヲ以テ入り來ル者ハ捕縛シ、札問スル等ノ一種奇異ノ処分アリタリ、然ルニ平佐郷ノ士族田中直哉ナル者東京ニ遊學シ、九年ノ春帰県、斯ク時世ニ適セサル禁止ノ不体裁ナルヲ嘆慨シ、県令大山綱良ニ論スル、維新以降今日ニ至テ、宗教自由民意ニ委ス、政府之ヲ束縛スヘカラサル者ナリ、洋教モ既ニ默許セラレタリ、然ルニ鹿児島ノ真宗ニ於ル島津家ノ嫌フ処ニシテ、朝廷ニ関セサルハ論ナシ、然ルニ藩制ヲ墨守セシカ如ク、今日ニ至テ之ヲ禁スル、不体裁ヲ極ムト謂フヘシ、人々所好ニ委スヘキナリト論シ、大山モ其論ニ服シ、遂ニ所好ニ委スヘキヲ布告シタリ、是ヨリシテ県内一般平民輩ハ直ニ信奉ノ色ヲ發表シ、市中ハ殊ニ続々信者夥シク、鐵然カ如キ采県、説教ヲ各所ニ開キタリ、是故ニ田中ナル者ハ、一向宗ノ開導者ナリト、喃喃々誹譏スルコト稍道路ニ充テタリ、中ニモ私学校員ハ甚之ヲ惡ミ、士族一般モ又大ニ之ヲ憎メリ、而シテ田中ナル者ハ、私学校員カ暴護ノ挙動ヲ憂ヒ、遂ニ壮年慨心ヨリシテ大ニ罵詈セシコトモアリシト云フ、中ニモ平佐郷派出ノ巡查ヲ愚弄セシコトモアリ、

巡查ハ多ク私学校員ナルカ故、田中ヲ憎ムコト太クシ、田中ハ遊學中新聞記者トナリ、評論新聞社ニ加ワリ、海老原穆等ト交リ大ニ論客ノ名アリ、斯ク校員ニ惡マル、カ故、園田・中原等ト同視シ、捕縛暴辱シタル者ナリ、真宗論ノ如キハ田中説ク、時世適當、喙ヲ容ル、ニ所ナシ、○警部巡查等田中カ論客ナルニハ頗ル困却シ、屢々論破セラレシコトアリシト云フ、

### 八三 當時鹿児島ノ形勢

○私学校員カ諏訪左右衛門ヲ憎ムコト甚シク、大久保カ探訪者ナリトテ、中原等カ就縛ノ際ハ実ニ危カリシニ、辛フシテ免カレタリ、故ニシテ勅使御帰京ノ汽船ヨリ上京シタリ、然ルヲ以テ憎ムコト尚ホ甚シク、遂ニ三月末彼カ宅家モ暴婦女ノ為メニ破毀セラレタリ、大久保・川路・奈良原・郷田源右衛門等カ居宅モ同時ニ毀タレタリ、○各郷ニ於テモ、同時家屋ヲ破毀セラレシ者許多アリ、他日匡シ記スヘシ、

○三月廿日頃賊員造船所ニ在ル十八斤ノ大砲ヲ盜ンテ、水神坂筋ヲ肥地ニ向テ運送セリ、其人夫凡五十余名ニ

テ担キタリト、親シク見シ人ノ説ナリ、西田町辺ヲ通  
リシハ、午後(前カ)ノ一時頃ナリトソ、○前(鹿兒島灣)ノ濱ニハ軍艦碇  
泊シアルカ故、白昼ニ為スコト能ワス、夜ニ入りテ忍  
ヒ入り、庭前ノ池中ニ埋メ置キシヲ取出シタリト、磯  
道ハ灯挑(提灯)ヲモ用ヒス、暗闇ニ担キタリト、軍艦ハ龍驤  
ナリ、○這砲ハ二月初、春日艦渡来シ、局中ノ器械・  
要具ヲ取り占タルノ前頃、池中ニ抛シ塵芥ヲ覆ヒ隠藏  
シ置キタルヲ、勅使御下向ノ際官軍見出サ、リシ者ナ  
リト(十八斤筋立テノ「ナポレオン・カノン」ナリ)、熊本  
城攻用ニ運送スル者ナリ、○三月初ニハ砲隊長仁禮直  
介帰巢、二十拇ノ白砲四門ヲ運搬セリ、之モ熊本城容  
易ク拔ケサル故、走婦リテ持チ行キシ者ナリ、○這ノ  
十八斤砲ヲ盗ミ出スニ、夜中ノ事ナレハ軍艦ニハ全ク  
氣注カス、異議ナク磯道ヲ通過セリ、故ニ巷説ニ、磯  
道ノ目前ヲ四五十名ノ人夫ニテ担キ通ルニ、氣付カサ  
ルニハ非ラサルヘシ、全クハ氣付カサル形ヲナシタル  
ナラント、軍艦乗付ノ官員モ政府ヲ憎ム者ナルヲ以テ  
如此ナルヘシ、或ハ臆病故氣付テモ制セサリシナラン  
ト嘲談嘯々タリ、

#### 八四 三月初頃各所ニテ彈藥製造或ハ隠藏

○永吉村玉江橋涯ニ在ル水車場内ニ於テ、勅使御下向  
ヨリ雷管製造器械ヲ建設シ、頻ニ製造セリ、該所ハ第  
二課出仕川畑梓ナル者ノ担当ナルカ故、松元武雄ト謀  
リ製造セリト云、果シテ然ラン乎、三月十一日勅使隨  
行之官軍之ヲ探知シ、兵卒ヲ派シ取占メ、牛馬等ニテ  
悉ク運搬シ汽船ニ積入レタリ、兵隊凡三十名許来テ調  
査シタリト云フ、○製造ノ央ニ兵隊来ルヲ報知スル者  
アリテ、川畑ハ直ニ伊敷村ノ方ニ遁逃シ、工人等ハ織  
物所床下ノ板ヲ外シ、地金類ヲ陰匿シタリト云フ、○  
或ハ吉野村ニ陰藏シタル者、地中ニ埋メ掘リ帛ノ形ニ  
シテ、上ニ菜類ヲ植タリ、故ニ官兵モ搜索シ得サリシ  
カ、一名賢キ人アリテ近地ヲ徘徊シ、女ノ子カ集リ遊  
ヒ居リシ者ニ金ヲ与へ、火藥ハイツレニ在リヤト問ニ、  
彼所ニ在リト示ス、果シテ示スカ如クナリシ故、直ニ  
掘リ出シテ取り占メタリト、是所ニ陰藏シタルハ旧養  
蚕方ノ地所ニシテ、当時川畑カ所有地ナリトソ、○犬  
廻村(近)ノ火藥庫ニ在ル火藥モ、官軍来テ取占メンコトヲ  
慮リ、其近地ノ人家各所へ分陰シタリ、庫内ニモ未タ



多クアリシニ、官軍二三日間人馬ヲ催シ、汽船ニ運送スルコト夥シ、陰蔵シ在ルヲ搜索スト雖モ告ル者ナシ、故ニ搜索ニ来リシ官員、一奇策ヲ以庫内ニアル火薬箱纒ニ六七十个ニ運ヒ残リタル時、令シテ曰、一個金一円賃ヲ以テスヘシト令ス、人馬ノ輩大ニ喜ヒ、四個ヲ負トキハ四円、三個ヲ負フ時ハ三円、其利大ナルカ故數百人馬共争テ運搬セントスレトモ、僅々六七十个ニ過サルカ故ニ、夫卒輩ハ是所ニモ陰シアリ、彼所ニモアリト、悉ク争テ謂ヒ出セリ、故ニ令セシカ如ク、暫時間ニシテ陰蔵ノ數百樽勞セスシテ搜索シ得タリト、良策ト謂フヘシ、這ノ令ヲ下セシ人ノ姓名ヲ得ス、勅使隨行官員中ノ人ナリト云、

○五月中旬頃、賊徒カ谷山中ノ塩屋ノ硝石丘ニ在ル硝石ヲ、蒲生ノ方ニ運送セリ、日々人馬數百ヲ催シ、天神ヶ瀬戸通りニ晝夜ノ別ナク一七日間許ノ間運ヒタリ、人馬ハ谷山ノ近郷ハ勿論、加世田・川邊等ヨリモ男女ノ別ナク催シタリ、或下瀉各郷ノ米穀モ引続キニ運ヒタリト、犬廻村火薬庫ノ明キニモ夥シク囲ヒタリトツ、○這米ハ各郷官庫ニアル貢納米ナリ、○運送ノ路ハ谷山郷山田村ヨリ宇宿越、田上村天神ヶ瀬戸通り、水上坂

ヲ上リ、サツマ廻通ニテ伊敷村等へ通レリト、海辺本道ハ、軍艦郡元村沖ニ碇泊シタルカ故通行セサリシナリ、○谷山町辺へハ日々賊軍ノ人馬一千匹位ツ、五月七八日頃ヨリ六月中旬迄、各郷ヨリ募リ集タリ、加世田辺ノ遠方ヨリモ来レリト、実ニ人民ノ困窮セリ、

八五 賊徒ノ妻子面会ハ兵氣ヲ挫ク

○五月初賊肥地ヨリ鹿兒島ニ襲来、伊敷村・吉野村・武村・西田村・谷山郷等ニ屯集セシ故、賊員ノ父母妻子衣服食物類ヲ携へ、面会ニ行者少カラス、或ハ賊營ノ焚出握飯ノ加勢ヲナシ、或ハ官軍ノ探偵ヲナス等種々尽力セリト、然ルニ人情ノ常トシテ、久々父母妻子ニ面会シ、大ニ氣力ヲ脱シ、家ヲ思フノ情起リ、兵氣甚々衰タリト、間ニハ遁逃行方知レサルモ多カリシト、是レ賊員カ大失計ト謂フヘシ、実ニ古人ノ言ニ主地ニ戦フコト勿レト、宜ナル哉、

八六 振武隊募集

○五月賊員襲来ノ際、(鹿兒島市)谷山郷ニハ振武隊ト唱へ、下瀨各

郷ノ新兵ヲ強迫募集シ、谷山町ヨリ脇田村・郡元村辺ニ備タリ、中ニモ南方郷ノ輩多シト、十四五年ノ少年ヨリ五六十年迄ノ者モ募ラレ、其人員凡七百名ニ及ヒシト云、其募集ニ尽力セシハ、阿多敬二・有川宗八郎・有川勘介・小倉敬介・千田七右衛門等ヲ初トシテ、隊長ニハ木脇次郎・川畑粹其他数名ナリ、斯ク強迫シテ募レル鳥合ノ兵ナレハ、官軍ヲ見我先ニト逃出シ、何ノ用モ為サ、リシト、故ニ土人等之ヲ谷山ノ逃隊ト唱ヘシト云フ、○募兵ニ尽力セシハ、南方郷ノ末野玄榮ト云医者巨魁ナリ、這人ハ三月初ヨリ肥地へ出軍シ、五月初募兵ノ為走帰リ、各郷ニ奔走シテ募リ、己ハ夫ヨリ帰郷出軍セサリシトソ、一笑スヘシ、○名高キ猪賀倉源四郎モ振武隊長タリシトソ、五月初賊徒田上村ニ襲来、武村ノ庄屋所賊宮ナリシニ、這人ハ兼テ武術得道ノ人ナレハ、得道具數々ヲ携ヘテ賊宮ニ走セ行キタリト、其携ル所ノ器械ニハ「ミニーヘル」、胴乱ハ素ヨリ、大小刀ヲ帶シ朱柄ノ鎗ヲ持チ、背負ニハ所謂カ、リニ品々入付ケタリト云、実ニ奇代ノ出立ナリシトソ、當時ノ笑談ナリキ、

○郡山ニテモ、強迫セラレテ否ヤナカラモ出軍スル者多

(日置郡)シ、鹿兒島ノ人某ナル者其隊長タリ、火薬ヲ渡スニ付テ、兵士カ各受取りニ来ルニ、容レ物モ携ヘテ来レル故、茶碗ニテ量リ渡シ、或ハ容器ニハ里芋ノ葉ニ受ケタリト、素ヨリ砲ハ獵ニ用ル火繩銃ニテ、彈丸ハ三ツカ四ツニ止レリトソ、而シテ(隼良郡)蒲生郷ニ百名位出軍セシカ、兵糧続キ兼、一二日ハ無食ナリシ故、一ト先帰家シテ指令ヲ俟ントテ帰リ、夫形ニ出軍セサリシモノ多シト、田舎者ニモ魂アル者ナリト唱へ、其時分ノ笑談ナリキ、

○(肝屬郡)串良・(同)高山・(齋於郡)志布志郷等ニテハ、伊東權平・蘆谷六郎

兩名ニテ兵ヲ募リ、金穀ヲ掠集シ兵隊ヲ編制シ、向何方ノ各郷ニ備ヘタリト、其兇暴太タシク、中ニモ彈藥製造用ニ、人々ノ所有ノ燒酎蒸餾器・錫瓶・錫鍋迄モ出サセタリト、伊東ハ七月中旬大崎菱田川ノ戦ニ股ヲ打タレ歩行叶ワス、駕籠ニテ漸ク都ノ城へ逃ケ行キタリト、元来戊辰ノ役ニ足ヲ打ラレ片輪ノ人ナルニ、双足ヲ傷キタルハ哀ムヘシ、

八七 樺山相馬横死

○五月七八日頃、賊軍鹿兒島ニ入込ミシ際、谷山其他ハ官軍往來セル故ニ、樺山相馬・東正之進・肥後某等鹿兒島ノ巡查服ヲ着シ刀ヲ帶シ、荒田廣小路辺ニ胸壁ヲ築キ、少年ノ平民等ヲ催シ官軍ヲ防ントシ、東某・肥後某等ハ樺山カ家ニ屯集シ居タリシニ、官軍彼巡邏スルヲ見テ銃ヲ打掛タリ、故ニ官軍モ烈シク打掛ケ、賊兵ハ樺山ノ邸ニ逃入タリ、官兵追躡邸内ヲ搜索スルニ、樺山ナル者ハ異様ノ服ヲ着、帯刀スルヲ認メ、庭前ニ銃殺シ、東ナル者ト肥後ナル者ハ縛シタリト、愚ト云ワン、痴ト云ワン乎、樺山ハ五十四年、東ハ殆ント六十ニ近キ人ナリ、兩人ナカラ半ハ酒興ナリト云、果シテ然ラン、

八八 ナポレオンカノン砲

○六月頃賊軍カ武ノ丘(鹿兒島市)ニ据ヘタル大砲ハ、十八斤ノナポレオンカノンニテ、弾力モ強ク下町辺ニ烈シク打掛タルハ是砲ナリ、○桂山(鹿兒島市)ノ二本松ト武ノ丘ニアル砲ハ、

大ニ官軍ヲ妨ケタリ、上下町ノ各所、或ハ県庁、或ハ旧小松邸ノ官軍本營等ニ討込、妨タルコト少カラス、○這ノ十八斤砲ハ三月廿日頃造船所ヨリ夜中ニ盗出シタルヲ、市來港迄運送、肥地ヘ持届ルコト能ワサリシヲ、又武ノ丘ニ持来リシナリトゾ、

○賊軍カ浦生・吉田又ハ襲山・大久保村、或ハ都ノ城、日州ノ吉田郷等ニ於テ火薬ヲ製造セリ、硝石ハ谷山ヨリ運送シ、硫黄ハ南方郷ノ鹿籠浦ニ貯アル硫黄島産ヲ運送セリ、木炭用ニハ各郷ニ命シテ川柳ヲ伐出サシメタリトゾ、

八九 火薬製造ノ為硫黄ヲ奪ヒ或ハ県官雷管製造ニ尽力

○硫黄島ヨリ鹿籠浦ニ運ハシムルニ、同浦ノ者ニ命シテ運送セシメタリ、下町商人丹下某・小山某・山田某ナル者ノ所有品ナリト云十三万斤余ヲ賊ニ奪ワレ吉田郷ニ運ヒ、タルヲ、八月頃官ヨリ返下サル、ト云

○雷管製造ハ四月末頃迄ハ、鹿兒島ノ諸所ニ製造セリ、第一ニハ旧二丸近地賞典学校内、是所ハ県官担当ニシテ、松元武雄・川畑梓等主任タリ、第二旧大龍寺趾ノ

学校、第三旧福昌寺内惠燈院趾ノ学校、第四谷山中ノ

塩屋鍋屋某ノ邸〔桂久武カ旧家来ナリ〕、第五谷山錫山、

第六鹿兒島永吉村織物水車場、以上六ヶ所ヲ以テ、県

官担当シテ昼夜ノ別ナク製造シタリ、○私ニ製造シテ

県庁ニ買入レタルハ、第一ニ鹿兒島大門口ニ在ル精米

蒸氣機械泊次郎太、第二塩屋村ノ某カ連中、第三西田

町ニ於テ士族町田萬カ連中、第四下町ニ三四社ノ連中、

上町ニ二三社アリテ、日夜製造シ県庁ニ買入レ、肥地

ヘ運送セリ〔這買入レタルハ全ク私ワスト云〕、○三

月中旬勅使御帰京後ハ、軍艦一艘前ノ濱ニ碇泊警衛セ

リ、故ニ彈藥運送兵士出発等モ、夜中ニ出立スルコト

トナレリ、

○夫卒ハ鹿兒島中或ハ諸郷ヨリ募リ、草牟田村私学校旧

隆泉院趾ヲ屯所トシ、焚出シモ同所ニアリ、県官出納

掛主任セリ、出発スルニハ夫卒モ刀ヲ持タシメタリ、

笑フヘキハ其刀ヲ帶セシメス、茅ナントヲ以テ棒ノ如

クニ包マシメタリ、道筋モ鹿兒島ヲ通行セス、伊敷村

鷹野ノ瀬戸通りニテ、吉田郷ニ出、大口筋ニ向ヒタリト

ソ、○這ノ焚出所ニ一夜一怪事アリテ、數百ノ人夫一

時ニ飛出セリト、何ノ故ヲ知ラス、數百ノ人夫夜半頃

同音ニ声ヲ立飛出シタリト、

○鹿兒島ノ火藥製造所ニ於テモ五月中旬頃迄製造セリ、

官軍ハ愛宕山東福ヶ城ニアルニモ公然製シタリ、五月

〔次〕日頃官庫火箭ノ為メニ燃発セリ、其鳴動山岳ヲ動か

セリ、

○本田休治ナル者ハ二月初賊軍進発ノ時報知役トナリテ

出軍、熊本等ヨリ度々報知ニ往来セリ、勅使御下向ノ

際官軍ニ呼ヒ出サレ御糺彈アリ悔悟謝罪、其後又肥地

ニ出タリト、例ノ表裏反復ノ人ナレハ、斯ク見苦シキ

挙動アリタリト蔑笑ス、

○六月中旬頃旧都之城主人<sup>北郷元</sup>〔鹿兒島旧大乘院趾ヲ邸宅ト

ス〕、旧種子島ノ領主<sup>種子</sup>島某モ、這ノ二名ハ放火ノ為ニ家

宅土蔵悉ク焼亡、累代ノ家宝夥シク焼亡シ、家族モ着

ノ儘トナレリト哀ムヘキ事ナリキ、

### 九〇 吉野村ノ賊造船所ノ大砲ヲ盗ム

○五月中旬賊兵カ磯ノ造船所ヲ焼キタリ、其時吉野村ニ

在ル賊ハ造船所ノ後ロノ山ヲ攀チ下リ、四斤半砲二門

ヲ盗ミ取り、夜ニ乘シテ川筋ノ細道ヲ窃ニ担キヒケタ

リ、這ノ人夫ハ造船所ニ仕役セラレタル輩ナリト、或ハ地金類ヲモ多ク掠奪シテ、後ニ火ヲ放チタリト、紡績会社ニハ吉野村ノ婦女或ハ賊軍ノ妻女等ヲ探訪ニ遣シ、木綿カセ反布類ヲ奪ワシメタリ、軍艦目前ニ碇泊シ、絶ヘス大砲ヲ打チ掛ルニハ賊軍モ苦ミタリト、或賊將農兵ヲ率シテ鳥越坂ニ夜討ヲ掛ント、胸壁近ク忍ヒ入りタルコト数回ナリシカトモ、警備敵ナルニ由リ空シク引取レルコト屢ナリシト、官軍ノ注意ナキヲ賊ナカラモ感シタリト云フ、○予カ親仕シタル田口敬助ト云ヘル者モ、校員ニ從ヒ出軍シ、熊本各所ノ戦地ノ実況ヲ後日聞タリ、或ハ此時製造所ニ在ル大砲ヲ盗ミ、吉野村ニ引キ行カムトセシキモ、其盗員中ニアリシヲ聞ケリ、別記ニ詳ナリ、

九一 天保山夜討ニ掛リタル賊

○五月四日ノ朝、賊軍吉田ヨリ伊敷村ヲ通り鹿兒島ニ入り、新上橋川端通り・肥田川原・上ノ園・武村通武村ニ繰込ム、其人員凡三百余人、武村ノ町中焼耐屋某カ宅ヲ本營トス、其兵員多クハ下方面居住ノ人ニテ、途

中ヨリ抜ケテ帰宅シ、妻子ニ面会シ、或ハ衣服ヲ改メナトシテ再ヒ出軍セリト、夫ヨリシテ日々妻子カ弁当酒焼耐ヲ携ヘ、陣營ニ至ル者夥シク、或ハ握飯結ヒ等ニ加勢シ、或ハ米搗キニ行クモアリ、賊ノ妻女家族ハ官軍ヲ恐レス、賊ノ勢ヒアルヲ喜ヒ、婦女子ニ至迄大ニ尽力セリト、○天保山夜討ニ掛リタルハ此兵ニテ、(宮崎縣)小林・飯野・須木・高原・高崎等ノ者多カリシト、鳥丸英太郎ニモ爰ニ在リテ、夜討ニ掛リ這々ノ辛キ命ヲ拾ヒシトソ、官軍カ鎮リ返リテ河岸ニ迫ルヲ俟テ砲発シタル故、將基倒シニ例レシト、鳥丸ハ兼テ水練ニ達セシ故、水中ヲク、リテ天保山ノ方ニ逃タリトソ、後日ノ親話ナリ、

九二 勝山某出軍ノ噂

○二月初党员出軍ノ頃ハ、老若拳テ争テ出軍ヲ冀望スルノ風習ニテ、婦女子ニ至テ兄弟子共ニ勸メテ出軍ナサシメタリ、中ニ笑フヘキハ、勝山某ト云ヘル人ハ〔旧島津刑部ノ嫡子ナリ〕宗家島津珍彦ハ正義ヲ守リ動搖セサルノミナラス、久光公ノ二子ナレハ、所論大ニ異ナ

リテ加党セサルニ依リ、勝山ナル者出軍ヲ勸メタリト雖モ肯セサルカ故、嫡末家ノ交ヲ絶チ出軍セリト、其後延岡ニ於テ降伏シ、官軍ノ夫卒トナリテ歸家セリ、恥ヲ知ラサル甚シト評判セリ、或ハ鹿兒島士族友野某ハ兄弟五名勇マシク出軍セリ、一人ノ者(矢一郎)ハ、戊辰ノ役ニ手ニ重傷ヲ受ケ切斷シ癡人トナレリ、這ノ人ハ賊ノ病院課ニテ出軍セリ、元來私学校ニモ加ワラサリシカ、一般出軍スルニ至リ、隣家淵邊或ハ邊見等ニ出軍ヲ望ム、淵邊等曰ク、末家友野六郎兵衛ナル者ハ官ノ探訪家ナリ、尤モ悪ムヘキ者ナリ、故ニ嫡末家ノ交ヲ絶チタラハ、加入出軍セシムヘシト謂ヘリ、故ニ直ニ交ヲ絶テ尚冀望セシカハ、淵邊等悦テ加ヘテ出軍セシメタリ、而シテ兄弟三名ハ肥地ニ戦死シ二名ハ降伏セリ、実ニ笑フヘキノ挙動ナリキ、淵邊等カ謂フ処奇ナル哉、如此ノ類少カラス、或妻ヲ離縁シ養子ヲ離別シ、或ハ親族ノ交ヲ絶タシタル者モ許多アリタリ、

### 九三 官軍哨兵ノ敵

○鹿兒島ヲ守レル官軍ノ哨兵ハ、胸壁ニ垣ヲ結ヒ、或ハ

掘ヲ掘リ、或ハ戸板・板類ニ釘ヲ打チ賊ノ来襲ニ備ヘタリ、賊軍モ之レニハ大ニ攻撃ノ術ヲ失ヒタリト、新上橋辺ヲ打破ラント、貴島清・中島健彦種々心ヲ配リ、毎々夜ニ乘シ自ラ硝兵近ク潜行シ、胸壁ヲ窺ヒシガ、容易ナラサルヲ覺リ、大ニ力ヲ墜シ策ヲ替ヘテ攻撃セント、夫ヨリ後櫻島・垂水或ハ谷山ヨリシテ、漁夫ノ姿ニ潜ミ上下町ニ襲ヒ入ラントス、中島ハ櫻島ニ、貴島ハ谷山ニ潜行シ、魚舟ニ乘テ鹿兒島海岸ヲ窺ワントセシカ、軍船ノ警備敵ナル故、又大ニ力ヲ落シ空シク引取タリト、其時中島ハ花倉(ハナクラ)ヨリ櫻島ノ武村ニ渡リ、二三日間潜居シタリト云、

### 九四 樺山休左衛門ノ譚

○賊員ノ中ニ(靜々)タル樺山休左衛門ハ、落政中糺明奉行ニ名高ク、後チ旧知事ノ側役登庸セラレ、而シテ司法中判官ニ任セラレシカ、横村京都府知事カ云々ニ付テ、有馬藤太・海老原良平等ト俱ニ辭職閑散ノ身トナリ、西郷等ト交ヲ結ヒ謀叛ノ意日久シ、佐賀ノ江藤等カ暴挙ノ際ニハ東京ニ在リシカ、旧會津ノ長岡敬次郎等ト

与ニ佐賀ニ走セ下リシニ、既ニ破レタルニ由リ小忌ニ出、下ノ関ニ渡リ後鹿兒島ニ歸レリ、其後商法ト名付テ京阪・東京ニ往来スルコト數回、淵邊・邊見等ニ劣ラサル者ナリ、然ルニ其名声ト大ニ反セルハ、卑劣貪浬欲深ク、金銀ト云ヘハ親戚ノ情モナキ人物ニテ、其臭名枚挙ニ遑アラス、衆ノ知ルカ如シ、渠カ從弟樺山某肺病ヲ煩ヒ死タルノ咄ハ、実ニ残念聞クニモ腸ヲ破ルカ如キナリ、七月ノ末坂元村ノ別荘ニ潜伏捕縛セラレタルノ時モ、名声トハ大ニ反セル挙動ナリ、其時貯ル処ノ金モ少カラサリシト云、或ハ警視出張所ニ於テ糾問セララル、ニ、遁辭ヲ用ルコト少カラス、其挙動ノ卑劣ナル、名声ト雲泥ナリ、噫々人タル者ハ、蓋棺ノ後ニ非ラサレハ、其名全キヲ得難シト、或事ニ当テ後剛臆判スト、実ニ然リ、

○賊軍カ、官軍ノ戰場ニ臨ンテ、規則ヲ以テ平生操練ノ如ク、ラツパノ相図ニテ進退スルニハ、大ニ困メリト、実ニ戦ハ衆ヲ以テ一ナラシムルヲ以テ要トスルハ、宜ナル哉ト、賊ノ或ル降將カ話ナリ辺見カ説ナ、リトモ云フ

九五 官軍八代ニ出タルニ賊ハ大イニ困却ヲ生ス

○三月中旬勅使御帰京ノ後、官軍ハ肥後八代ニ進軍シ、軍艦ハ出水・米之津・長島・水俣・八代辺ヲ巡邏ス、故ニ賊軍モ鹿兒島ヨリ肥地往来ノ道ヲ失ヒ、大口筋ニノミ往来セリ、此際淵邊ハ鹿兒島ヨリ肥後ニ歸ラント阿久根ニ至リ、八代ニ探偵ヲ出シ、通り得ヘカラサルヲ聞キ、路ヲ転シテ大口ニ越ヘ肥地ニ出タリト、然シテ県官松元武雄ハ、出水其他ノ官庫ノ米穀ヲ官軍ニ占メラレントヲ慮リ、松元次右衛門其外ノ官員ヲ至急派遣シ、鹿兒島ニ運轉ノ策ヲ用ヒタリ、

九六 賊軍彈藥闕乏

○賊軍カ彈藥ノ乏シキハ川尻ノ敗軍ヨリナリト、殊ニ人吉潰走ノ後ハ尚乏シク、錫又ハ銃彈ヲ鑄造シ、或ハ鉄ノ切り玉ヲモ用ヒタリ、銃モ猟銃・火繩銃或弓槍・長刀ヲモ携ヘタリト、錫鉄ノ地金ハ、皆鹿兒島ノ諸郷ニ強迫シテ出サシメタル者ナリ、

○賊徒カ二三月頃鹿兒島ニテ、渠等ヲ誹譏スル者或ハ官ノ内通者等其外、探偵者ニ用ヒタルハ、西田町中ノ丁仙田善次郎ト謂者、元來松元武雄・中島健彦等ノ懇意ニテ、兩氏カ密意ヲ受ケ、大ニ良民ヲ害シタル者ナリ、或ハ西田水上坂ニ居住ノ常盤山ト云角力者、呼名仲之助ト云、此者モ同シク探訪者ニテ、許多ノ人民這ノ者ノ讒口ニ罹リシ者少カラストソ、

#### 九七 加世田郷本田弘捕縛サル

○中原尚雄等ト同時ニ捕縛セラレタル加世田郷士族本田弘ハ、元來海軍生徒ニテ、母ノ病氣ニ依テ一月初歸県シ家ニ在リシカ、中原等ノ同類ナリトテ捕縛、鹿兒島ニ拘引シ拷問呵責ヲ受ケ檻中ニ在リシカ、中原等ト俱ニ出檻シ、後チ龍驤艦ノ少尉試補ニ任セラレシト云、該人ヲ捕縛ニ來レルハ、大河平武介ヲ初トシテ十三四名ナリシトソ、

#### 九八 官軍百引郷敗走

○官軍カ百引・市成郷ニ敗走シタルハ、全ク勝誇リタル油断ニアリシト、初ヨリ官軍ノ様子ヲ窺ニ入り來ル者六七名、中ニモ賊員十名許、人夫ノ体ニ忍ヒテ宿陣ヲ窺フモノアリ、土人ハ其事ヲ知レリト雖モ、未賊氣ノミノ時分ナレハ、官ニ告ルヲ却テ恐レ、賊ニ通スルヲ喜フノ際ナル故ニ、今日ヤ明日ヤト土人ハ賊ノ襲來ヲ俟居タリトソ、然シテ官軍敗走、銃器・彈藥・金穀諸品夥シク奪ヒタル故、土人モ大ニ賀賞シタリト、其時紙幣六万余円ハ全ク分捕セリト云、実ニ然ルヤ否ヤ、

#### 九九 賊軍ノ探訪婦人ヲ用ユ

○賊ハ五月中旬頃ヨリ、鹿兒島ニ探偵ヲ入レタリト、多クハ婦人ニアリ、官兵ハ色ヲ好ムカ故、或ル賊將ノ娘ト妻ハ、夫ノ説得ヲ受ケ、假令官兵カ妾トナルトモ國ノ為ナレハ、我カ死ヲ以テスルニ對シテ忍ヘト謂ヒ含メ、入レ置キタルモアリシトソ、

#### 一〇〇 庄内ノ蜂起ヲ俟ツ



○西郷ヲ初賊軍中頭立チタル輩カ屈指シテ俟ツハ、旧庄内松平等カ該地ニ勃起スルニ在リシトソ、然レトモ其説ヲ聞クニ由ナキ故、新聞ヲ買ワントスレトモ道ナク、肥地ニ在ルトキハ、高価ニ買入レタリト、之レ土人ニ依頼セシ由ナリ、人吉ニテモ頻ニ求メタレトモ、手ニ入ラサリシト、桐野カ日州ニ出シ後ハ、追々送リ来シカトモ、本營ニ見終ルト直ニ焼キタリト云、新聞紙上ハ官軍ノ捷利ノミ記シアルカ故ニ、兵卒ニ之ヲ説マシムルトキハ兵氣衰ルカ故ニ、秘シテ見セサリシナラム、○有栖川宮御進発或ハ討征令ノ下リシコトハ、速ク聞知セリト、官軍對壘ノトキ、其コトヲ呼ワタシヲ以テ人皆知レリトソ、

一〇一 阿多源七遁逃鬚ヲソリ落シ容ヲ変ス

○賊ノ參謀阿多敬二(旧名源七)ハ五月初ヨリ、谷山其外彼ノ近郷ニ来テ募兵ニ強迫シ、振武隊下瀉兵ヲ以テ谷山口・田上口ノ二三ヶ所ヨリ鹿兒島ヲ攻撃セムト、避乱ノ人ヲ募ルニ、其強迫太タ兇暴ナリ、然ルニ六月廿五日谷山へ海陸ノ官軍双進、其勢当リ難キニ依リ、阿

多ハ直ニ上福本村知己ナル人ノ宅ニ走入リ、剃刀ヲ借リ口ノ辺ノ長髯ヲ剃リ落シ、百姓ノ着物ヲ着シ、雨中故蓑笠ノ出立ニテ知覽郷ヲ指シテ遁逃セリ、而シテ鹿籠浦ノ輕舟ヲ雇ヒ、種子島ニ渡ラントセシカトモ、其事ヲ果サス、転シテ山川郷ニ来リ小船ニ乗テ大根占ニ渡リ、志布志ヲ経テ福島ニ暫時潜居シ、日州ニ出テ賊軍ニ加リタリト、其時益滿與右衛門モ谷山ヨリ俱ニ遁逃セリト云フ、

○小倉敬介ハ阿多ト同シク、谷山・川邊・伊作辺其外彼隣郷ニ、募兵或ハ金穀其他物品ヲ強迫掠聚スルコト甚太シク、剩へ其物品或ハ金銭ヲ私セリト、其時賊中ニ高名ナル人物ナリシト、元來這ノ人ハ不行狀父母ニ不孝兄弟ニ不睦ノ名アリ、或ハ窃盜ノ名モアリ、色ニ迷ノ名モアリ、藩政ノトキ遠流セラレ、廢藩後放免トナリタル人物ナリ、然ルニ桐野・貴島カ用ルコトノ重キ何ソヤ、賊中人ニ乏シキ、之ヲ以テ知ルヘシ、殊ニ谷山ニ在ルトキハ、妻妾ヲ携テ大ニ酒食ニ耽リシト云、

# 丁丑擾乱實記 (五)

共六冊

## 一〇二 鹿兒島県布達第一号 五月二日

○十年五月二日県内布告

### 第一号

拙者儀三月廿一日鹿兒島県令ニ宣下相成、則大書記官渡邊千秋始官員一同今二日着候条、此旨布達候事、

明治十年五月二日

鹿兒島県令岩村通俊

## 一〇三 鹿兒島県布達第二号 五月二日

### 第二号

先般西郷隆盛等旧兵隊ヲ率ヒ出京之儀ニ付、前県令大山綱良ヨリ中原尚雄等ノ口供相添布達セシ趣モ有之候処、元来臣子ノ分ニ於テ兵力ヲ要シ、天兵ニ抵抗候者、其罪固ヨリ誅ヲ容レス、加フルニ右口供ノ如キモ拷問ノ上出来候者ニテ、全ク以テ信拠スヘカラサル儀ニ有之候、然レトモ尚東京ニ於テ裁判所ヲ開カレ、大

山綱良ハ勿論、其他夫々糺問ヲ遂ケラレ候ニ付、遠カラス至理至当ノ御所置可相成ハ必然ノ儀ト存候条、万一曩ニ大山綱良ヨリ布達セシ趣旨ヲ妄信シ、方向ヲ誤リ、他日悔ヲ取り候儀有之候テハ、実ニ不相濟候間心得違無之様可致、此旨諭達候事、

明治十年五月二日

鹿兒島県令岩村通俊

## 一〇四 鹿兒島県布達第三号 五月二日

### 第三号

今般暴挙之際賊ノ脅迫ヲ受ケ、不得已米金ヲ出シ、或雜役ニ使用セラレ候者共ニ於テハ、寛典ヲ以テ其罪ヲ問ハセラレス候条可致安堵、此旨布達候事、

明治十年五月二日

鹿兒島県令岩村通俊

## 一〇五 鹿兒島県布達第四号 五月二日

### 第四号

今般暴挙之際士民間々方向ヲ誤リ、或ハ脅迫セラレ、戦地ニ臨ミ傷痍ヲ受ケシ者可有之、依テ今般赴任ニ際

シ、熟練ノ医員且藥品等相提携シ、新ニ病院ヲ設置シ、一切官費ヲ以テ療養為致候条、朝廷至仁ノ御趣意ヲ厚ク体認可致、万一等閑ニ打捨置、非命ノ死ニ陥リ候テハ遺憾不少候間、都テ傷痍ノ軽重ニ拘ワラス、至急申出治療ヲ受ヘク、此旨布達候事、

明治十年五月二日

鹿兒島県令岩村通俊

一〇六 鹿兒島県布達第五号 五月二日

第五号

曩ニ西郷降盛等旧兵隊ヲ率ヒ肥州ニ乱入シ、其勢猖獗ヲ極候ニ付、已ヲ得サセラレス御征討被仰出候末賊軍大敗、一ハ人吉ニ遁逃シ、一ハ日向路ニ潰走候趣ニ付、之ヲ要スルニ、不日鎮定ニ立到候間、孰レモ安堵致シ、聊動揺致ス間敷候、此旨布達候事、

明治十年五月二日

鹿兒島県令岩村通俊

一〇七 鹿兒島県布達第六号 五月二日

第六号

今般拙者初当県官員一同入県、尚海陸軍追々被差向候御趣意ハ、全ク当県下鎮静ヲ被為要候深キ御仁惠ノ朝旨ニ有之、然ル処此際人民ニ於テ狐疑ヲ抱キ、漸次ニ産ヲ捨テ他方ヘ立退候者モ有之趣ニ相聞ヘ、以ノ外ニ候、此後縦令残賊再帰ノ形勢有之候トモ、海陸軍ヲ以テ充分御所置可相成候ニ付、何レモ安堵營業、決シテ散乱不致様可相心掛、尚己ニ散乱候者ハ、前件ノ趣意、区戸長又ハ其親族共ヨリ精々可申諭候、此旨諭達候事、

明治十年五月二日

鹿兒島県令岩村通俊

一〇八 鹿兒島県布達第七号 五月三日

第七号

鹿兒島裁判所三月十一日開庁候処、本月四日ヨリ開庁事務取扱相成候条、訴状等都テ該裁判所長六等判事寛元忠名宛ニテ同庁ヘ差出可申候、此旨布達候事、

但宮崎支庁ノ儀ハ、追テ開庁相達候迄ハ訴状等本庁ヘ差出可申事、

明治十年五月三日

鹿兒島県令岩村通俊

第八号(欠)

明治十年五月三日

鹿兒島県令岩村通俊

一〇九 鹿兒島県布達第九号 五月三日

第十一号(欠)

第九号

一一一 鹿兒島県布達第十二号 五月三日

鹿兒島港出入ノ船舶ハ、目今非常警備ノ際ニ付、出帆積荷乗客等巨細ニ相記シ、当直軍艦へ此度可届出、此段布達候事、

第十二号

今般只庁構内第四課中ニ婦順掛ヲ置候間、反止悔悟ノ者自首ノ節ハ、戸長ノ奥印ヲ受ケ、直ニ右四課へ申出候様可致、此旨布達候事、

但当直軍艦へハ左ノ標旗相掲ケ有之候ニ付、此段モ可相心得候事、雛形略ス、

明治十年五月三日 鹿兒島県令岩村通俊

明治十年五月三日

鹿兒島県令岩村通俊

一一〇 鹿兒島県布達第十号 五月三日

行在所達第一号(欠)

第十号

行在所達第二号(欠)

今般暴挙ノ際、一時方向ヲ誤リ及ヒ賊徒ニ脅迫セラレ、

行在所達第三号(欠)

不得已付和従軍セシ者、更ニ反正婦順前非ヲ悔悟シ、

謝罪自首スルニ於テハ、速ニ征討総督宮へ具上シ、寛

典ノ御処置ヲ可仰候条、此段相心得、反正婦順ノ者ハ

速ニ可申出、此旨布達候事、

一一二 行在所達第四号 二月廿五日

行在所達第四号

各官庁鹿兒島県へ左之通相達候条、為心得此旨相達候事、

明治十年二月廿五日

太政大臣三條實美

鹿兒島県其県士族陸軍大將正三位西郷隆盛・陸軍少將正五位桐野利秋・陸軍少將篠原國幹徒党ヲ集合シ、悖乱ノ挙動ニ及候ニ付、官位被褫候条、此旨相達候事、

一一三 明治天皇綸旨 二月十九日

有栖川熾仁親王

朕卿ヲ以テ、鹿兒島県逆徒征討總督ニ任シ、陸海一切ノ軍事並將官以下之黜陟賞罰挙テ以テ卿ニ委ス、卿臨勉從事、速ニ平定ノ功ヲ奏セヨ、

明治十年二月十九日

奉勅太政大臣三條實美花押

一一四 行在所達第五号 二月廿八日

行在所達第五号

曩ニ鹿兒島県ノ暴徒数百人嘯聚シ、去ル一月卅一日夜ヨリ二月二日ニ至ル迄、連夜ニ其県下ニ有之陸海軍ノ

弾藥ヲ掠奪シ、同県下人心甚穩カナラス、是ニ於テ河村海軍太輔及ヒ林内務少輔ヲ差遣シ、其情状ヲ訊問セシメントスルニ、暴徒等兵器ヲ以テ其上陸ヲ拒ミ、剩へ其乗ル処ノ官船ヲモ奪ハントシタリ、仍テ空シク鹿兒島灣ヨリ船ヲ廻セリ、天皇尚或ハ其覚悟センコトヲ欲シ、從二位島津久光父子及ヒ西郷隆盛等ハ、深ク國家ノ為ニ力ヲ尽ス者タルヲ以テ、此時ニ際シ身ヲ挺テ以テ人心ヲ鎮撫セシメンコトヲ思ヒ、勅使ヲ差遣セラレントスルニ、豈図ランヤ、是ヨリ先キ彼等自ラ其名ナキヲ惡ミ、東京巡查其他帰県セル者数十名ヲ縛シ、負ワシムルニ無根ノ偽名ヲ以テシ、強テ名義ヲ設ケ、檄ヲ全国ニ伝へ、恣ニ兵器ヲ携帯シ国境ヲ鎖シ、已ニシテ闔國ノ兵挙テ熊本県下ニ闖入シ、官兵ニ抗敵シ其兇威ヲ逞クセントハ、天皇慈仁固ヨリ無事ノ生靈ヲシテ、鋒鏑ノ禍ニ罹ラシムルヲ欲セスト雖モ、如此ノ形勢万已ムヲ得サルニ付、遂ニ本月十九日ヲ以テ征討ノ令ヲ発シ、余ヲ以テ征討總督ニ任セラレ、陸海軍ノ兵ヲ進退スルヲ許サレ、尋テ隆盛以下ノ官位ヲ剝脱セラレタリ、乃チ天兵ヲ挙ゲ急ニ大旆ヲ西シ、速ニ其巨魁ヲ殲シ、脅從ハ治スルコトナク、以テ 天皇ノ慈

仁蒼生ヲ愛育スル恩覆載ニ同シキヲ知ラシメントス、  
茲ニ今本營ヲ筑前ノ州ニ置キ、兵ヲ勒シ馬ニ秣カフノ  
初ニ当テ、王師ヲ動カス所以ノ理ヲ詳説スルコト斯ノ  
如シ、夫レ海内ノ臣民タル者大義名分ノ所在ヲ弁知シ、  
確然自守シ、決シテ其方向ヲ誤ルヘカラス、苟モ反人  
ノ為ニ蠱惑セラル、アラハ、蓋シ悔トモ及フナキノミ、  
明治十年二月廿八日 征討總督二品親王有栖川熾仁

一一五 行在所達第六号 三月十七日

行在所達第六号

各官庁鹿兒島県令從五位大山綱良儀官位被褫候条、為  
心得此段相達候事、

明治十年三月十七日

太政大臣三條實美

一一六 鹿兒島県布達第三十三号 五月廿日

鹿兒島県布達

第三十三号

本月四日第十七号ヲ以テ、從軍ノ者帰順願等之儀布達

致置候処、右願書々式之内、尚左ノ廉々ヲ區別シ可差  
出、其他療養願文及願書ヘ戸長奥印等之儀ハ、総テ同  
号布達ノ通可相心得、此旨重テ布達候事、

但本文ノ通戸長奥書ヲ要シ候儀当然ニ候得共、此節

戸長不居合場所ハ、当分ノ内奥印無シニ指出シ候  
テモ不苦、最モ右等ノ分ニ限り保証ノ為本人又ハ

親族等呼出シ、願意一応取調可致事、

一 方向ヲ誤リ、或脅迫セラレ出軍セシ區別

一 私学校ニ入り或入ラサル區別

一 海陸軍製造局火薬強奪ニ関係ノ有無

一 士官或ハ卒伍ノ區別

一 入隊ノ名号及ヒ隊長等ノ氏名

一 戦争ヲ為スト、為サ、ルノ區別

明治十年五月廿三日

(同日)

鹿兒島県令岩村通俊

一一七 征討總督諭達 五月廿七日

○鹿兒島県

其県下嘯集ノ暴徒、曩ニ熊本県下ニ乱入以來、県下ノ  
人心不穩、追々兇徒ニ応シ終ニ非命ノ死ニ就ク者不少、

天皇深ク之ヲ憂慮シ給ヒ、親シク反正帰順ノ道ヲ開カセラレン為、勅使ヲ被差立候処、彼等毫モ之ヲ悟ラス、弥暴威ヲ逞セント欲スト雖トモ、遂ニ挫折シテ今日ノ敗衄ニ及フ、於是熊本県下ヨ去リ日州ヲ経テ、其県下ニ帰り、再ヒ良民ヲ害スルノ憂アラシコトモ難計ニ付、今般更ニ陸海軍ノ兵員ヲ派遣シ、以テ人民ノ安寧ヲ保護シ、正路ニ帰セシムルノ御趣意ニ候条、一般ノ人民無疑念、各職業ヲ営ミ決シテ動揺セサル様、至急管下へ無洩諭達可致候事、

明治十年五月廿七日 征討総督二品親王有栖川熾仁

一一八 鹿児島県告諭 四月廿七日

○各区戸長

郷ニ県下ノ人民賊徒ニ党与スル者モ、帰順自首スル者ハ寛大ノ御処分モ可有之、且又負傷ノ者療養ノ為帰郷シ、先非ヲ悔悟スル分ハ治療被遣候ニ付、押陰シ充分ノ治療届兼候テハ、惘然之至ニ付、致告諭置候儀モ有之ニ付テハ、精々細密ニ取調候様可致、若シ潜伏シ自首セス、又容隠シテ不告者有之テハ、不容易儀ニ付、篤

ト御趣意ヲ弁明シ、各区鄉村ニ至ル迄、懇々説諭可致候也、

明治十年四月廿七日

鹿児島県令岩村通俊代理  
御用掛 眞田庵  
柿澤義則

一一九 鹿児島県告諭 四月廿八日

○各区戸長

先般来県下之人民暴徒ニ脅迫セラレ終ニ越境、賊軍ニ党与セシ者不尠哉ニ候得ハ、速ニ帰順自首スルニ於テハ寛大ノ御処分モ可有之候条、御趣意徹底候様精々注意可致ハ勿論、且戦地ニ於テ負傷療養ノ為、或ハ帰郷潜伏ノ者モ有之哉ニ候処、右等ノ内タリトモ前非ヲ悔悟帰順ノ者有之候テ、即今御趣意ノ程ヲ不相弁、自然押隠シ、充分ノ治療届兼遂ニ死亡モ難計、惘然之至ニ付、右等ノ者ハ治療被遣候条、無疑念自首善良ニ基キ候様、旁説諭可致候也、

明治十年四月廿八日

鹿児島県令岩村通俊代理  
御用掛 眞田庵

二〇 賊軍募兵強制

○三月廿日頃別府・遠見・淵邊等熊本ヨリ帰り、日夜原  
 庁ニ座シ、県官松元・石松・今淵・蓑田・鎌田等ト俱  
 ニ金穀ヲ集メ、彈藥銃器製造シ、或士農工商ヲ論セス  
 兵ヲ募リ、剩ヘ繫獄ノ罪人ヲモ恣ニ放解シ兵隊ニ編合  
 シ、廿一二日頃ヨリ日々二三百名ツ、大口筋ニ向テ出  
 軍セシメタリ、之レ廿五六日ノ両日ニアリ(勅使御滞留  
 中モ諸郷兵出軍ス、伊作川邊・加世田辺ハ廿六七日一千名余  
 出軍セリト)、○当時士農工商ノ別ナク、強迫セラレ、  
 已ムヨ得ス出軍スル者夥シ、出軍シ得サル者ハ金ヲ出  
 シテ代人ヲ出ス、其価一時百円位ニ騰貴セリ、故ニ貧  
 困ニ迫レル平民輩ハ争テ代人ニ出テタリ、中ニ狡黠ナ  
 ル者ハ田舎者ノ代人百余円ニ受合ヒ、然シテ鹿兒島ノ  
 無頼者ニ五六十円位ニ売リ、出軍セシモ少カラス、一  
 ツノ商売トナレリ、○県庁構内ニアル洋人住居所ヲ募  
 兵所ト名付ケ、恣ニ御用ト呼ワリ、或出軍申付候トノ  
 書面ヲ以テシ、加之県庁ノ印章ヲモ捺シタリ、当時ノ

説ハ捷報ノミニシテ、敗報ナク、熊本城ノ水責、高瀬・  
 南ノ關ノ毎戰勝利、官軍敗潰、不日馬關ヲ越スナラン  
 ト唱ヘ、皆人信用セリ、故ニ愚昧ノ輩ハ素ヨリ田舎士  
 族ハ勿論、少シク識慮アル者モ捷報ヲ賀シ、出軍ヲ冀  
 望スルモノ尠カラス、或強迫ノ勢焰ニ恐レテ、懇願出  
 軍スル者モ又多シ、此際一般ノ人情出軍セサル者ハ、  
 官軍ニ内通間諜ナリトカ、或ハ臆病者トカ、或ハ島津  
 家付従ノ因循者トカ、種々様々惡説ヲ受ケ、婦女子ニ  
 至テハ隣交モ絶テ親戚ノ好モ断スルノ勢、実ニ筆端紙  
 墨ニ尽シ得サルノ形勢ナリキ、識見アル者ハ口ヲ噤シ  
 声ヲ吞ンテ憂嘆シ、耳ヲ蔽フモノモアリ、或ハ日ナラ  
 スシテ、目前ニ大事頭ムコトヲ慮リ、方向ヲ定ムルニ  
 苦ミ、賊徒ニ脅從シテ後世ニ名ヲ穢サンヲ厭ヒ、島津  
 家ニ付属シ積恩ヲ酬ント、名簿ヲ出シテ、誓テ賊員ニ  
 左袒セサルヲ表スル者モアリ(當時島津家ニ属スル者ハ、  
 過日県官ニ依頼セラレタル恭順云々ヲ主張シテ、名簿ヲ出ス  
 者多シ)、○前ニ記シタルカ如ク、煽動強迫太タシキノ  
 ミナラス、捷報ノミヲ唱ヘタルカ故、愚昧ノ輩ハ勇ミ  
 進ンテ出軍ヲ冀望シ、父母妻子カ目下饑餓ニ臨メルモ  
 放擲シテ出軍シ、或分捕ヲ目的トシ、或士族ニ登用セ



ラルナト、ノ妄説ヲ信シテ、出軍スルモノ多シ〔鹿兒島人ノ下賤ハ、古ヨリ士族ヲ冀望スル習風今ニ至テモ同様ナルハ、暴威ヲ逞フシ農商ヲ压制スルノ陋風習アリ、今ヨリ廿年前迄ハ商売等多クノ金ヲ官納シ、士族ニ昇進セシモ少カラズ、之ヲ成リ上リト羨唱ス、或之ヲシテ銅臭士ト唱ヘタリ、其余声稍存シテ士族冀望ノ者アリ、故ニ黨員等流言シテ賤愚ノ輩ヲ煽動セリ〕、○出軍ノ冀望者ハ区戸長ナル者引キ連レテ募兵所〔則チ臬庁構内ニアル洋人居住所〕ニ出頭シ、邊見・淵邊等ニ面接ス、其時渠等ハ其人ヲ見テ、汝ハ<sup>ワイ</sup>体軀健壯ニ見ヘタリ、鎮台ノ一二匹ハ殺シ得ヘキナリ、直クニ出軍申付ルト云ヘハ、再拜頓首喜悅シテ出軍ス、或ハ五六十年ノ老人ニハ、汝ハ<sup>ワイ</sup>鎮台ノ一匹ハ迎モ殺シ得ヘカラス、軍中ノ邪摩トナルヘシ、巡查トナリテ、番船〔即官軍ノ軍艦ヲ云〕ノ見締相当ナルヘシト、直ニ巡查申付ケタリト、如此ノ形勢実ニ笑ニ堪ヘタリ、○斯ノ如ク脅迫セラレシ出軍者或ハ二月中旬惣軍暴発ノ時ヨリ、士族ハ勿論夫卒ニ至迄、一円金ヲ与ルコトナク、士族ハ初ヨリ自費ト定メ、夫卒輩ハ十円宛与フト云ヒ触シ、出発ノ前日ニ至テ熊本着ノ上与フヘシトモ云ヒ渡シタリト、爰ニ於テ見込大ニ相違シ如何トモスル

コト能ワス、十五日先鋒出発ニ當テ遁逃セシ者凡三百余名ニ及ヒタリト云フ、出発当朝ニ至テ屯所ニ着到セサルカ故、見込大ニ相違因却セリト云フ、○士族ハ初ヨリ自費ト定メタルカ故、困窮ノ者ハ家族ノ衣服或家財ヲ売脚シ、或質入ナント、種々才覚シテ費ニ携ヘタル者半ハ以上ニ居ル、諸郷モ同然田島ヲ売販シ、或抵当トシテ借金シタルモノ多シト、爰ヲ以テ売品ノ価ハ大ニ下落シ、凡ソ十分一二減シタリ、質店モ本金絶ヘタリトナム、出軍者ノ家族ハ敢テ意ニ介セス、今ハ斯ル心配シテモ、三四ヶ月ノ後八十倍ノ良品ヲ得ルノミナラス、青雲官途ノ本入レナリト日夜奔走才覚セリ、傍觀者ハ茶烟ノ談トシテ大笑セルモアリ、寔ニ交ミナル形情ナリキ、○諸郷ノ出軍者ハ其郷中ノ人民ニ課シ、或ハ強迫シテ多少ヲ出サシメ、或ハ五月中旬ノ黨員鹿兒島潰走ノ頃ニ至リテモ、強迫シテ其得ル処勘カラス、中ニハ強迫者カ私シタルモ多カリシト云、川邊方面ノ強迫者小倉敬介カ如キハ、其私シタル数少ミナラス、渠カ強迫手段ハ頗ル兇暴卑劣ニシテ、指輪・簪等ノ類ヲモ出タサセタリト云フ、這ノ小倉ナル者ハ元來品行正シカラス、今ヨリ十年許前行状不正、依テ遠流セラレ

シ者ナリ、斯ル輩輻重方ノ員ナリシ故、人民ノ困苦思フヘシ、

○三月末ヨリ四五六月ノ末都城ニ潰走迄凡百二十(日脱カ)十間、

覚員諸郷ニ奔走シ、強迫煽動スル実ニ兇暴ヲ極メタリ、各所異同アリト雖トモ、金穀ヲ初メ刀剣銃器(火繩銃ナリ)ノ類、或ハ彈丸製造ノ用トシテ銅錫器・鉛物・鍋・半釜ニ至迄奪ヒタリ、中ニモ焼酎蒸餾鐘・投ケ網ノ重リ鉛ニ至迄モ掠メタリ、五月末六月ノ中旬頃ニハ家々ニ押入り、米麦雜穀ヲモ取出シタリ、少シク否ミ或ハ苦情ヲ唱フル者ハ殘殺セント劫シ、或ハ捕縛シテ暴辱セリ、故ニ皆人恐怖シテ、尊重敬服ノ姿ヲ為シ、捧呈スヘシト謂ハシムルニ至レリ、独リ櫻島一郷ハ此際頭ニ賊徒カ入り来ルコトナク、掠奪セラレタルモノ一物モナク、平穩ナリキ、是レ偏ニ官軍目前ニ在ルト、島津家カ避乱地ナレハナリ、○二月初暴発ノ際ニハ課出セシモアリシト、該郷ノ賊員二百七八十名ナリ、

## 一三二 賊軍巡查募集

○三月十八九日頃ヨリ多クノ巡查ヲ募レリ、士族・平民

ヲ論セス、老若ノ別ナク、懇望セルハ素ヨリ、望マサルモ日々二三百名モ命シタリ、十三年ノ少年ヨリ五十六年ノ輩モ競テ懇願セリ、多クハ月給ヲ貪リ、長ク奉仕ト思ヒ、生計ノ胸算シテ志願セシ者十ノ八九、主愚ノ輩憫笑スヘシ、少シク識慮アル者ハ永続スヘカサルヲ前知シ、或ハ出軍ノ預備ナルヲ察シテ遁レントスル者モアリ、廿七八日頃鹿兒島ニ募ル処凡二千名ニ近シト云、○大工(左)・砂官・石工等ノ輩、旧門葉ノ二三千石モ領シタ輩迄モ悉ク募タリ、中ニモ嘆息スヘキハ、島津ノ称号アルモ、或島津家ニ離ルヘカラサル家係ノ者迄モ、天窓ヨリ押命シ仕役セラレシ者モ多シ、如何ニ卑屈ナル、如何ニ蒙愚ノ輩ト云ヒナカラ、歎カシキ限リト云フヘシ、一時兇暴ノ勢焰ヲ耐忍シ、思考モアルヘキニ、嗚呼、○県庁役員十等以上ハ一月末ヨリ月給ヲ払ワス、十一等以下等外雇ハ現米ヲ以テ払渡セリ、之レ定額金ヲ西郷等カ軍用ニ奪ヒタルカ故ナリ、或ハ少シク智慮アリト謂フヘキ輩ハ、松元・右松等ニ阿媚シ、直ニ警部ニ転任セルモ多シ、是等ノ輩ハ日夜奔走シテ、党勢ヲ助ケ、或黨員ヲ誹謗罵詈セル人ヲ調査シ、拘引捕縛スルシ、一時其員ノ多キヲ以テ功トセリ、此

等ノ事ヲナセシモ又少シトセス、而シテ廿六七日頃ヨリ隊伍ヲ編シ、鹿兒島中ノ巡邏ヲナセリ、其人員二三百名乃至四五百名、悉ク捧ヲ携ヘタリ、服ハ異様ニシテ巡查被服ニ類似セルモアリ、○諸郷ニハ各郷大小ニ随テ、廿名十四五名或七八名ヲ派遣ス、非常ノ際ナレハ刀一本ハ携ヘシト令シタリ、而シテ諸郷士族ハ巡查心得ト名付テ、壮健ノ者ヲ択ンテ命シ、一隊伍ヲナセリ、臨時出軍モ計リ難キヲ密ニ示タリト云フ、沿海ノ諸郷ハ日夜海上ノ見張りヲナサシメ、汽船ノ通航ヲ見ルトキハ、早馬ヲ飛シテ鹿兒島ニ報知スヘキヲ命シタリ、○勅使御帰京ノ後、軍艦一艘絶ヘス碇泊シ、乗員日々上陸ス、之探偵ノ為上陸セシナリ、或ハ鹿兒島ノ人ニシテ黨員ノ事情ヲ密告スル者アリト喋々ス、故ニ廿日頃ヨリ上下町・磯村・鶴江崎等ノ海岸ハ昼夜警備セリ、廿五六日頃ニハ辻々橋々市街ハ中ニモ嚴ニ行廻リ、或ハ立番セリ、或郡元村中村ノ海浜ニ、夜中軍艦ヨリ上陸スル者アリトテ、巡查六十余名ヲ分遣シ、警備太々嚴ナリ（巷説ニ大久保ノ親族某氏ノ母官軍ノ間喋ナリト、郡元村ニ別荘アリ、這所ニ軍艦ノ官吏夜々上陸、事情ヲ探偵ストモ云、此ハ巷説ナレトモ類似セルコトモア

リシニヤ、○此策ハ、淵邊・松元・右松ノ三名カ議ニ出、陽ニハ人民保護ノ名ヲ以テシ、隠ニ肥地ニ向ワンノ募兵ナリ、皆人其策ヲ量知シ、不日出軍スヘシト謂ヒ嘩セリ、淵邊ハ官員ニモ非ラス、尤モ警視ニ関スヘキニ非ラサルハ無論、然ルニ毎々各分署ニ出頭、擅ニ警部ニ指揮ヲ加ヘ、或各郷派遣ノ人撰ヲ議シ、或ハ夜中窃ニ行キ廻リテ勤惰ヲ驗査シ、或ハ探訪人ノ形ニ出立チ、海岸或ハ市中ヲ徘徊シ、人心ヲ伺等ノコトモアリシト云フ、其挙動威權ノ暴且ツ熾ナル、県官モ恐怖スルニ至ル、県官中一人抗スル者ナク、阿諛スル輩ノミナリキ、

### 一一三 巡查費用課出ヲ命ス

○三月廿九日、巡查費用各志ヲ以テ課出スヘキヲ布告セリ、其文ニ曰ク、（以下空白）

此布令ヲ聞テ人心同一ナラス、甚タ苦情ヲ囑フルモアリ、或ハ黙スルモアリ、或ハ恐懼シテ出スモアリ、賊員ニ荷担スルモノ、或ハ賊員ノ部類ニアル者ハ甘ンシテ課出ス、或少シク議論アルモノハ、家禄高二掛ル出

米縦恣ナルヲ憤談スルモアリ、然レトモ勢止ムコトヲ得スシテ一般出スコトトナレリ、天保錢一二穴、或十錢廿錢、或一二円、或五六円十円廿円位ニ止レリト云、或農商ニハ県官行廻リテ説諭強迫シ、一二百円乃至四五百円又ハ千円二三千円ノ多キヲモ出サセタリ、其數殆ント四万余円ニ及ヒタリト云、而シテ戦地ニ贈レルハ二万円程ナリシトソ、○此策ヲ施シタルハ養田・鎌田・松元ノ三名カ謀ニ出タリト、果シテ然ラン乎、○四月廿七日官軍来着ノ当夜、県庁ニアル処金十二三箱ヲ窃ニ何レヘカ隠遣セリト云、其所ヲ詳ニセスト雖トモ、上方面ノ或人ノ土蔵ニ納メタリト云フ、其後如何ナリシヤ知ル人ナシ、此金貨幣ナリヤ通貨ナリシヤ詳ナラス、果シテ肥地ニ送ランカ為ニ荷作りシタル者ナリト云ヲ以テ考フレハ、正貨ナルヘシ、○当時専ラ唱ヘタルハ、道金門・喜入喜次郎・鎌田市長衛等各我カ宅ニ格籠ン水ク留メタリト、或金額ヲモ幾千ト唱ヘタリ、國正正貨四万円、喜入八三万円、鎌田八六万円ナリ云々、虚実雖モ聞クカ儘ニ記シヌ、○承惠・撫育ノ両社カ発行ノ許可ヲ得タル布告ノ文ニ（以下空白）

## 丁丑擾亂記 (六)

### 一三三 福山本営回達

今般不容易世態ニ会到、已ニ此際ニ望ミ姦賊共於諸所暴動ニ相及、故ニ人民困難ニ差迫候儀ハ眼前ノ事ニ候、依テ此地ヲ父母ノ地ト思ヘハ、土着ノ土族一心ノ義務ヲ竭スハ当然ノ事ニ付、此節土族ノ外農工商ニ至ル迄可成壯年ノ輩ヲ召集シ、姦賊ヲ打払ヒ人民ノ苦難ヲ救助シ、人心ヲ安堵ナサシムヘシ、依リテ各郷ニ於テ只管注意イタシ、人民ヘ其意ヲ深ク諭告シ、至急兵員相募リ可被差出、万一及違背候者ハ断然敵ト見放シ、夫々軍制ノ処分ニ可行候条、各区戸長注意御尽力有之度候也、

但シ各郷承知ノ上、名前引札ヲ以テ御順々ニ至急廻達、留ヨリ返納可有之候、

十年五月三十日

福山本営

牛根・垂水・新城・花岡・始良・大始良・大根占・小根占・佐多・田代・田ノ浦